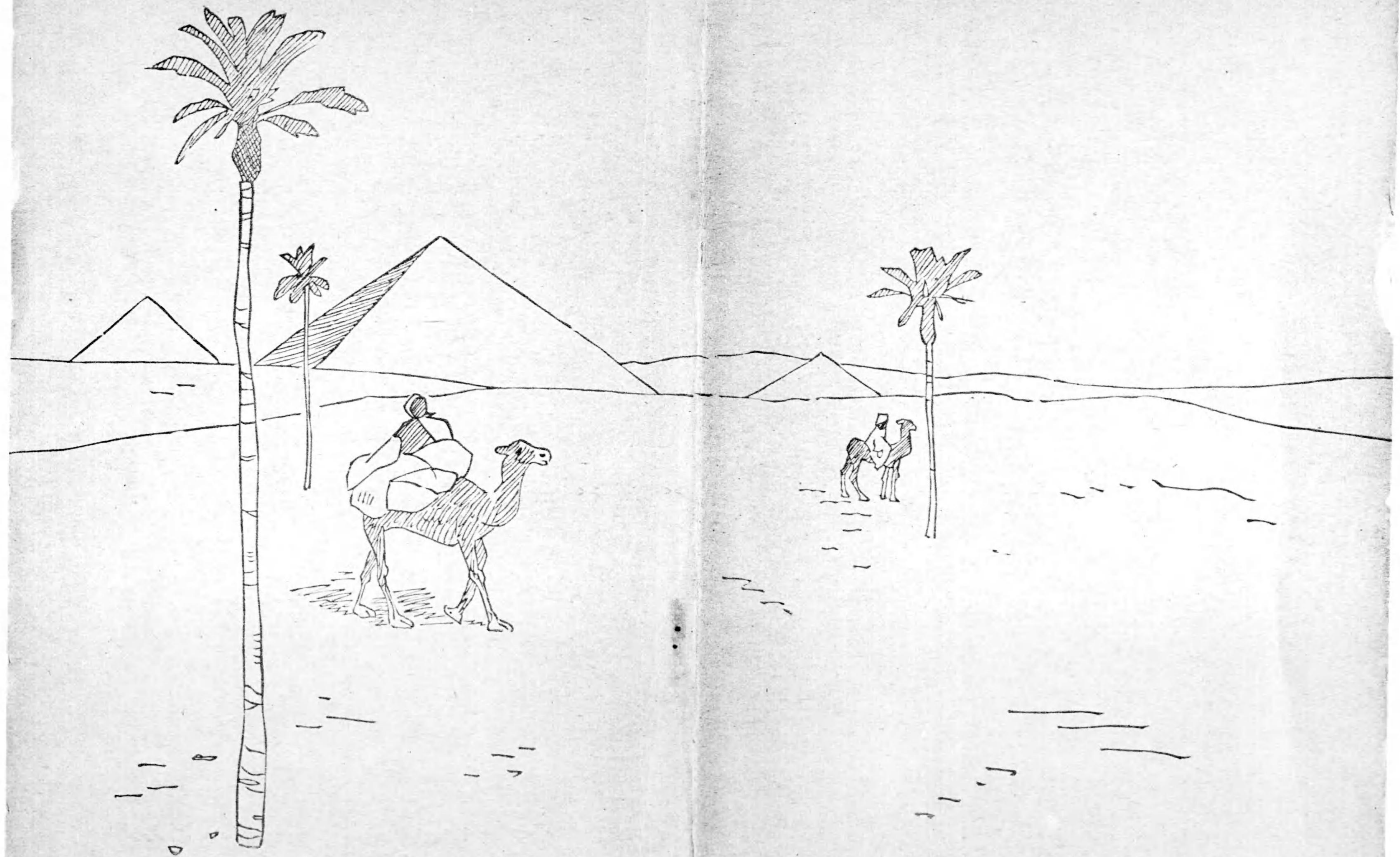


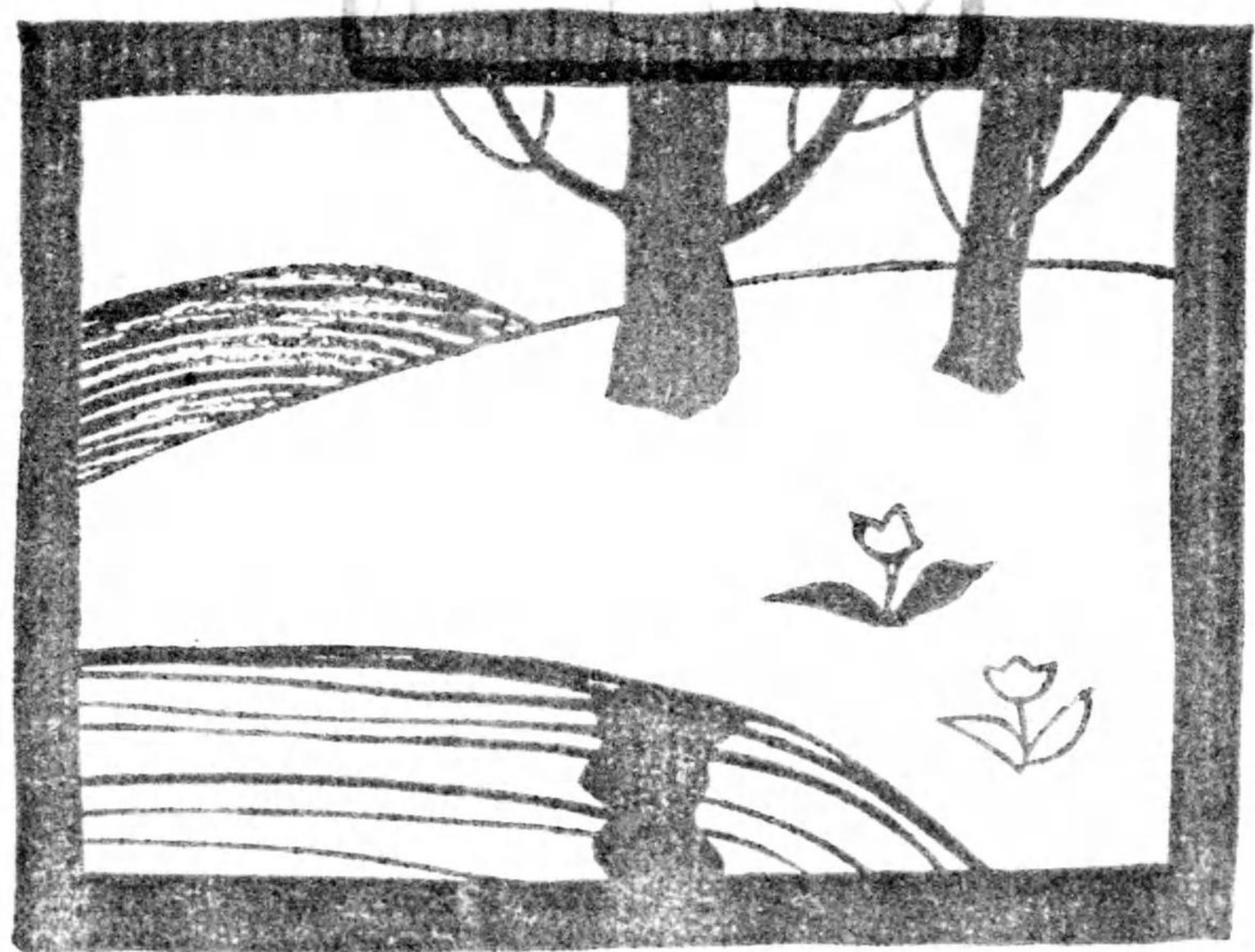
0<sup>m</sup> 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10<sup>m</sup> 1 2 3 4 5

始





45103  
999



新 畫 の 手 引

ミヨシ 作

大正  
4. 8. 6  
内交

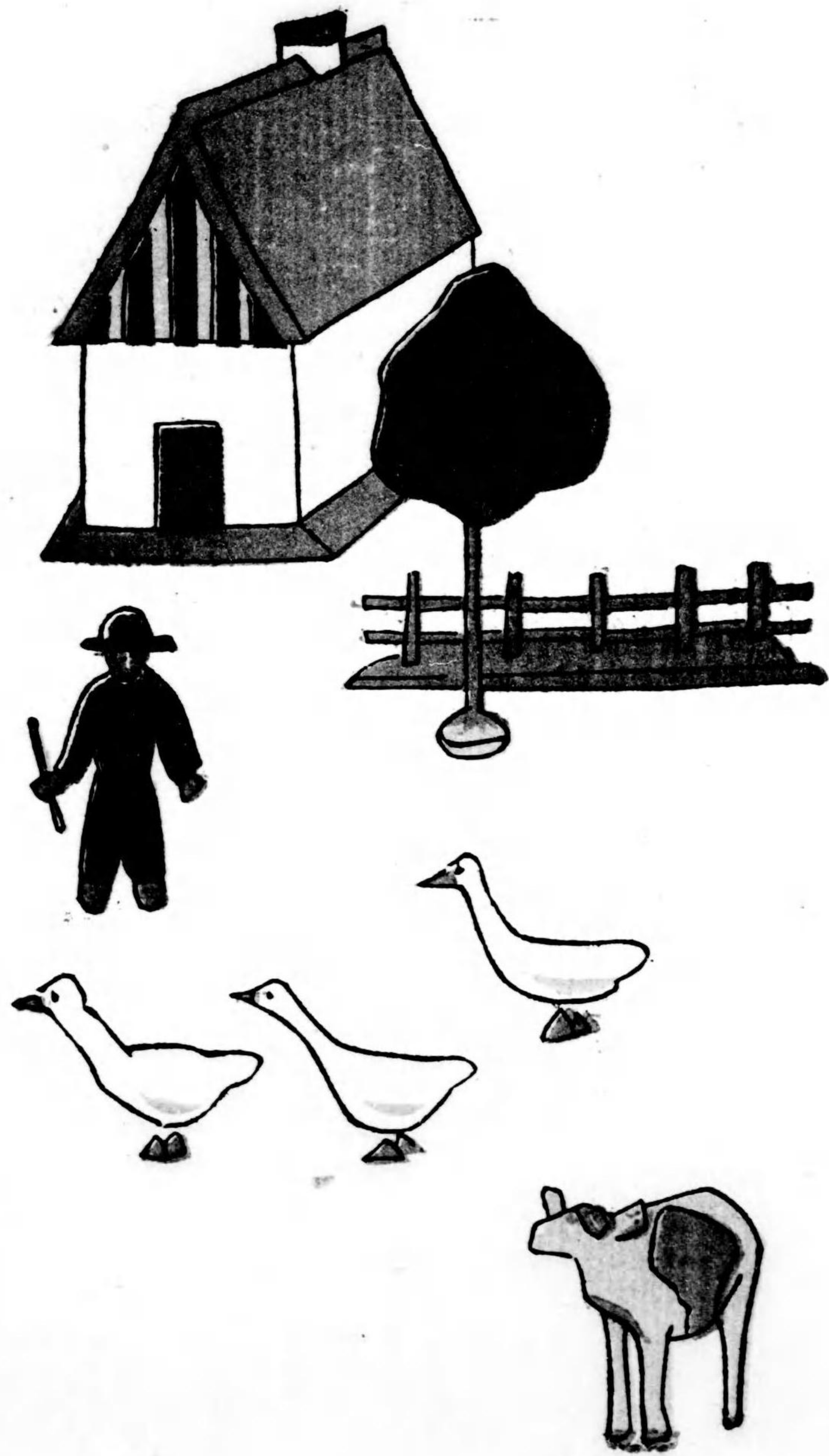
無器用な描き振り——ひよろ／＼と震れた線——こうしたものは簡易な描法によつてなつた畫の上において或る情趣を語るものである、これの判つてゐない初歩の人は何れもかも態々震れた線で無器用に描かれればあらまいものだと誤解して内面を考へずに極く上つ面を習つて進みつゝある、こゝういふ人々は一日も早く眞面目の方面に進んで戴きたいと思ひます。

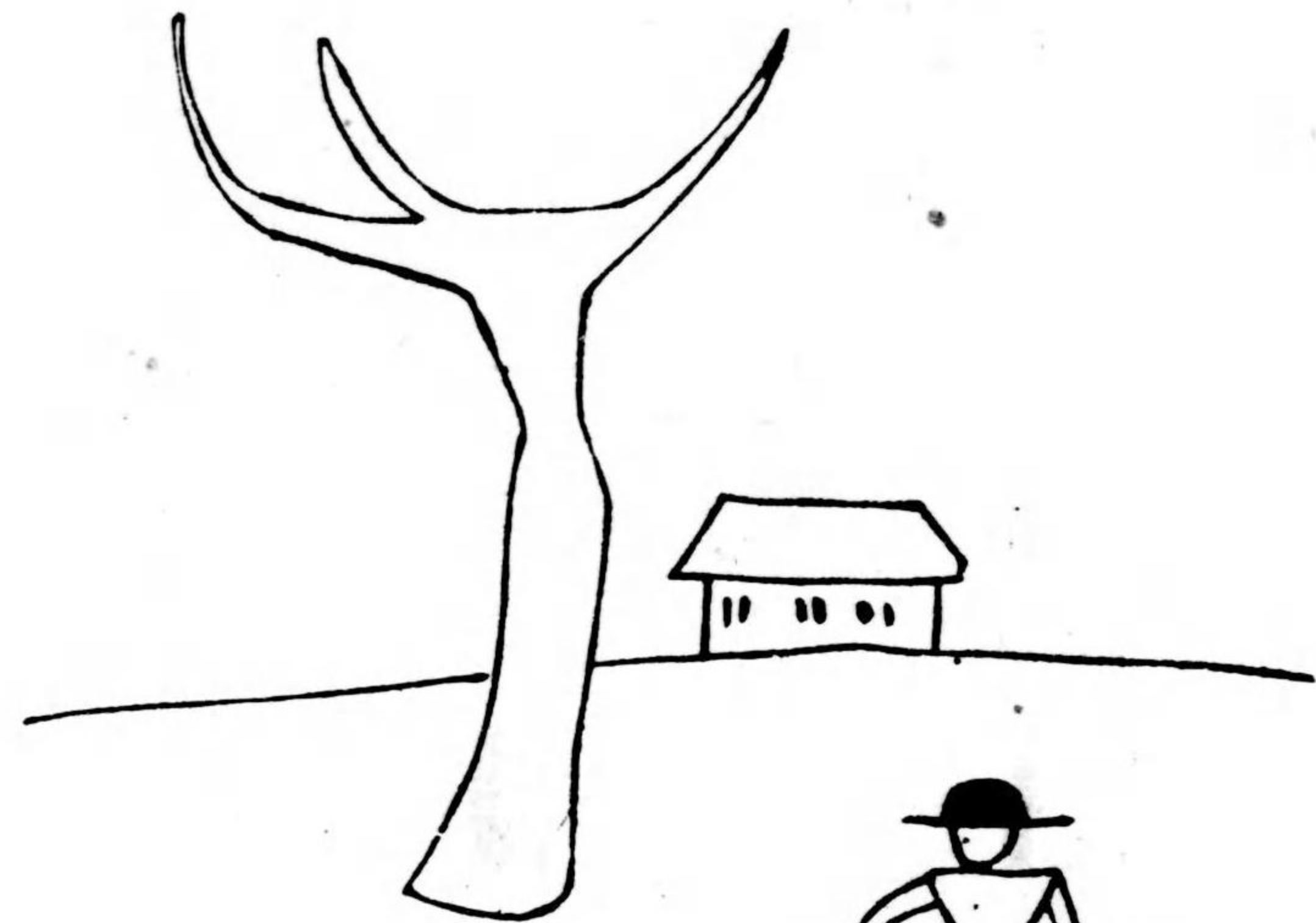
故に今度私の著しました手引は情趣を缺かぬ程度で形に注意をし、線も複雑した線をさける可く簡易い様に努力しました。頁中の直線美に富んだの、圖案的に畫いたの、寫實的に畫いたの、こゝうした種々異つた描き振りは自然及物体極めてあらゆるものゝ描き現し法の自由であるといふ事を教へたのです。この本全体に通じての評は恩師松原先生の序に於て云ひ盡されてゐますからこゝには略します。

松原先生の序文

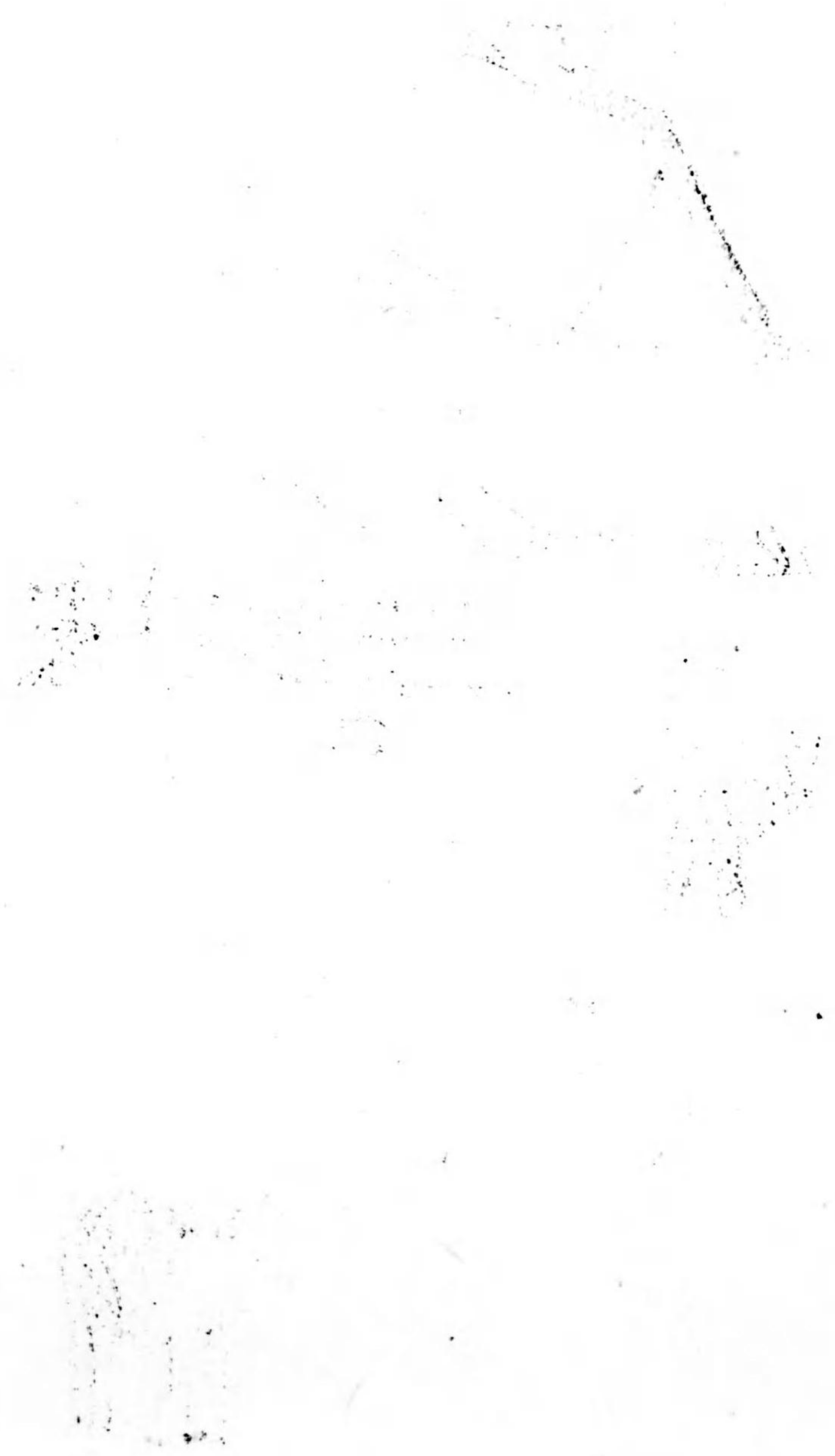
此頃一般の家<sup>族</sup>は餘蘊<sup>餘</sup>趣味<sup>者</sup>人  
なきに<sup>世</sup>に<sup>は</sup>時<sup>の</sup>材<sup>の</sup>乏<sup>乏</sup>と<sup>し</sup>て  
簡<sup>易</sup>な<sup>書</sup>を<sup>書</sup>く<sup>事</sup>の<sup>上</sup>様<sup>子</sup>を<sup>考</sup>へ<sup>て</sup>  
喜<sup>び</sup>に<sup>ま</sup>さ<sup>に</sup>往<sup>て</sup>材<sup>の</sup>採<sup>擇</sup>等<sup>を</sup>  
誤<sup>り</sup>進<sup>に</sup>新<sup>し</sup>く<sup>と</sup>身<sup>分</sup>に<sup>の</sup>み<sup>權</sup>に<sup>て</sup>  
甚<sup>し</sup>きは<sup>時</sup>有<sup>り</sup>材<sup>の</sup>採<sup>擇</sup>に<sup>當</sup>り<sup>て</sup>利<sup>便</sup>  
學校<sup>又</sup>は<sup>為</sup>同<sup>等</sup>な<sup>材</sup>を<sup>採</sup>擇<sup>す</sup>  
も<sup>も</sup>憂<sup>を</sup>感<sup>ず</sup>る<sup>に</sup>今<sup>に</sup>ヨ<sup>シ</sup>  
女<sup>の</sup>編<sup>纂</sup>等<sup>は</sup>甚<sup>し</sup>く<sup>も</sup>利<sup>便</sup>な<sup>る</sup>  
見<sup>ら</sup>る<sup>に</sup>甚<sup>し</sup>く<sup>も</sup>此<sup>の</sup>一<sup>考</sup>を<sup>要</sup>  
其<sup>の</sup>材<sup>が</sup>甚<sup>し</sup>く<sup>も</sup>上<sup>等</sup>な<sup>る</sup>  
之<sup>を</sup>學校<sup>に</sup>採<sup>擇</sup>す<sup>る</sup>に<sup>當</sup>り<sup>て</sup>  
材<sup>の</sup>採<sup>擇</sup>す<sup>る</sup>に<sup>當</sup>り<sup>て</sup>自<sup>分</sup>の<sup>材</sup>に<sup>對</sup>し<sup>て</sup>  
た<sup>る</sup>も<sup>も</sup>材<sup>の</sup>採<sup>擇</sup>に<sup>當</sup>り<sup>て</sup>一<sup>考</sup>を<sup>要</sup>  
す

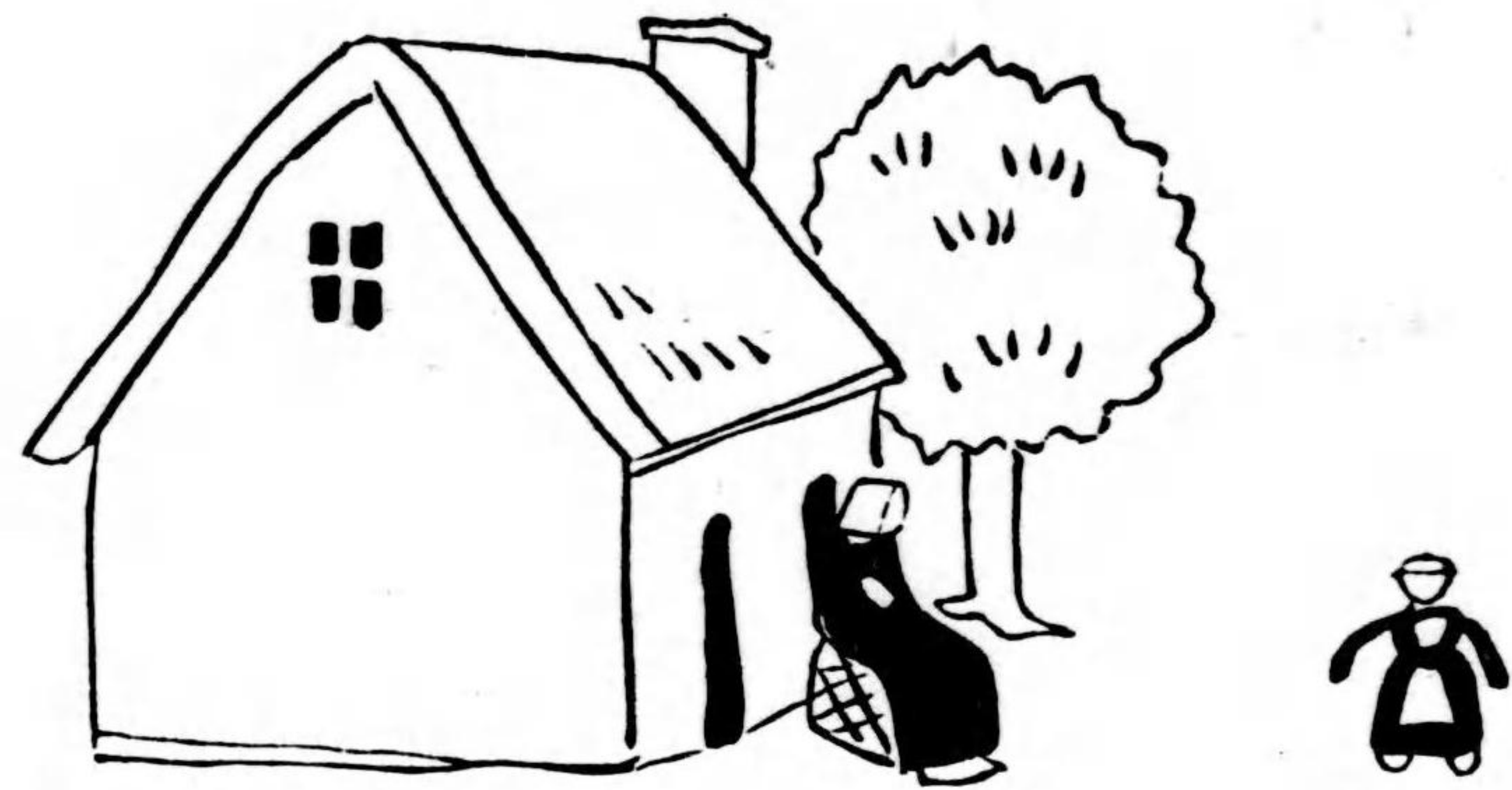
松原先生



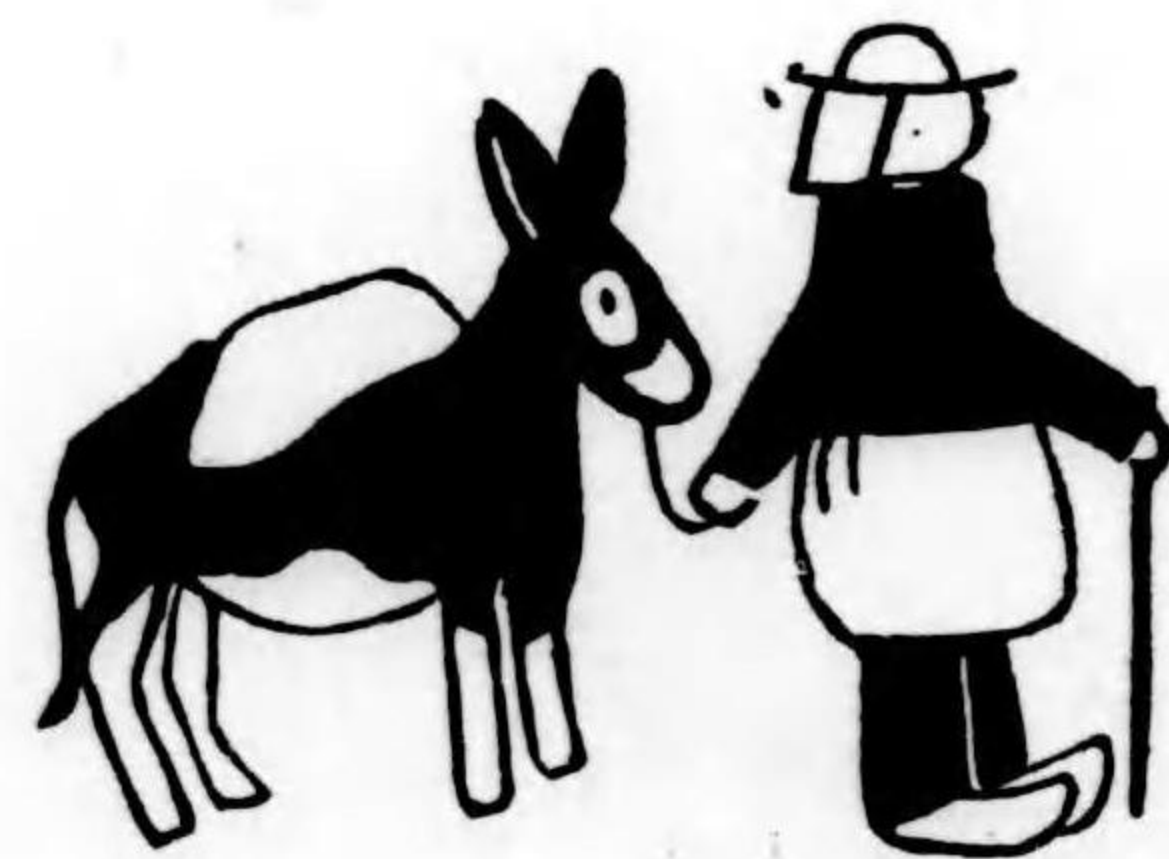
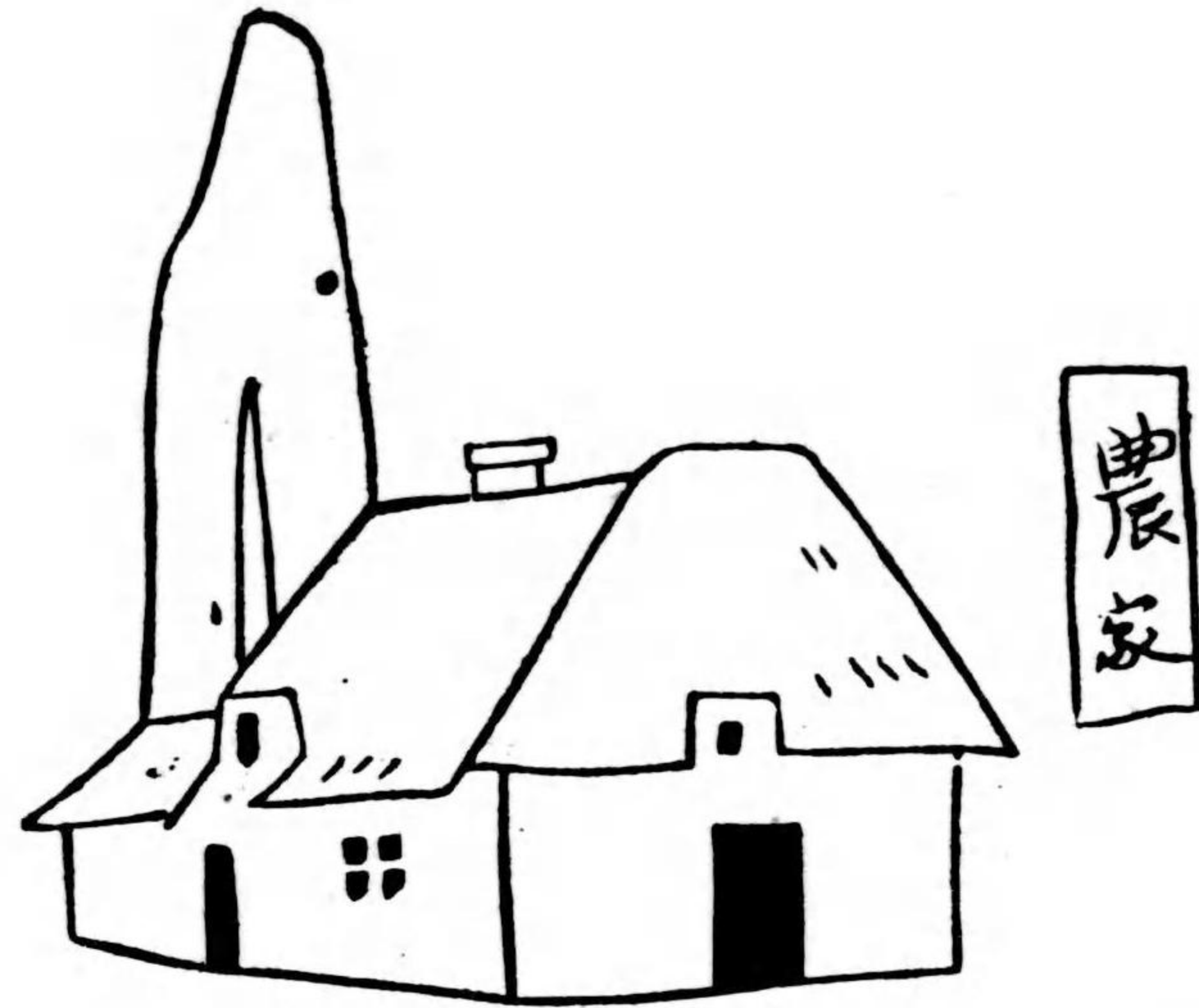
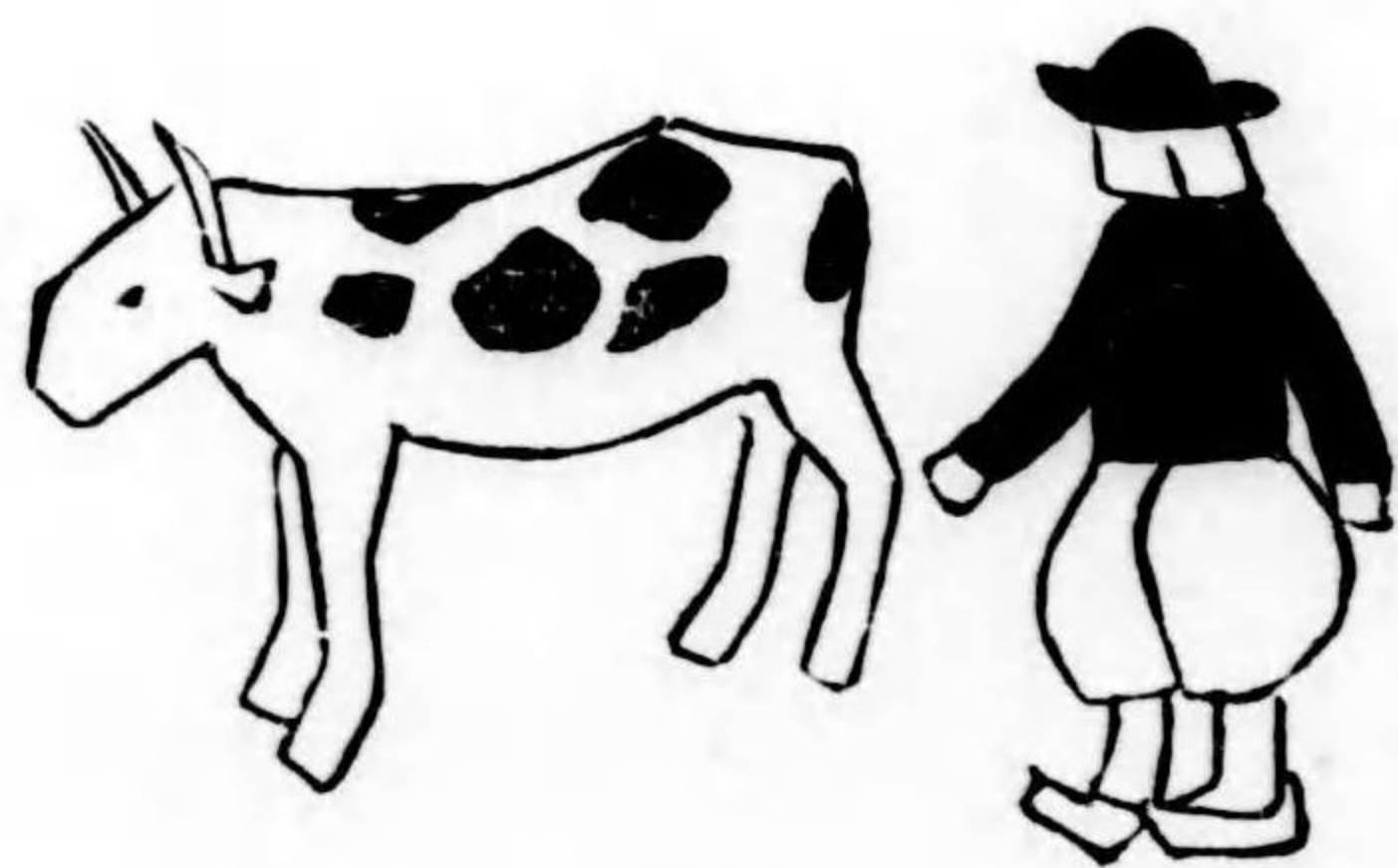


農家の人々



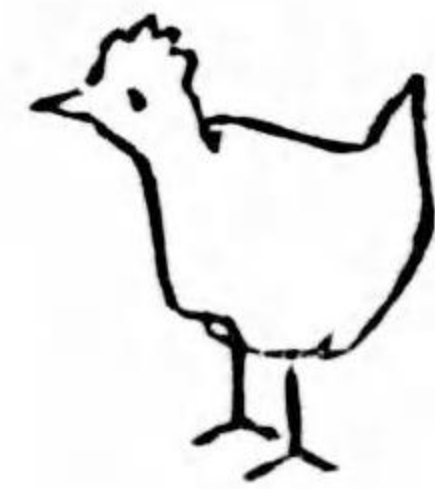
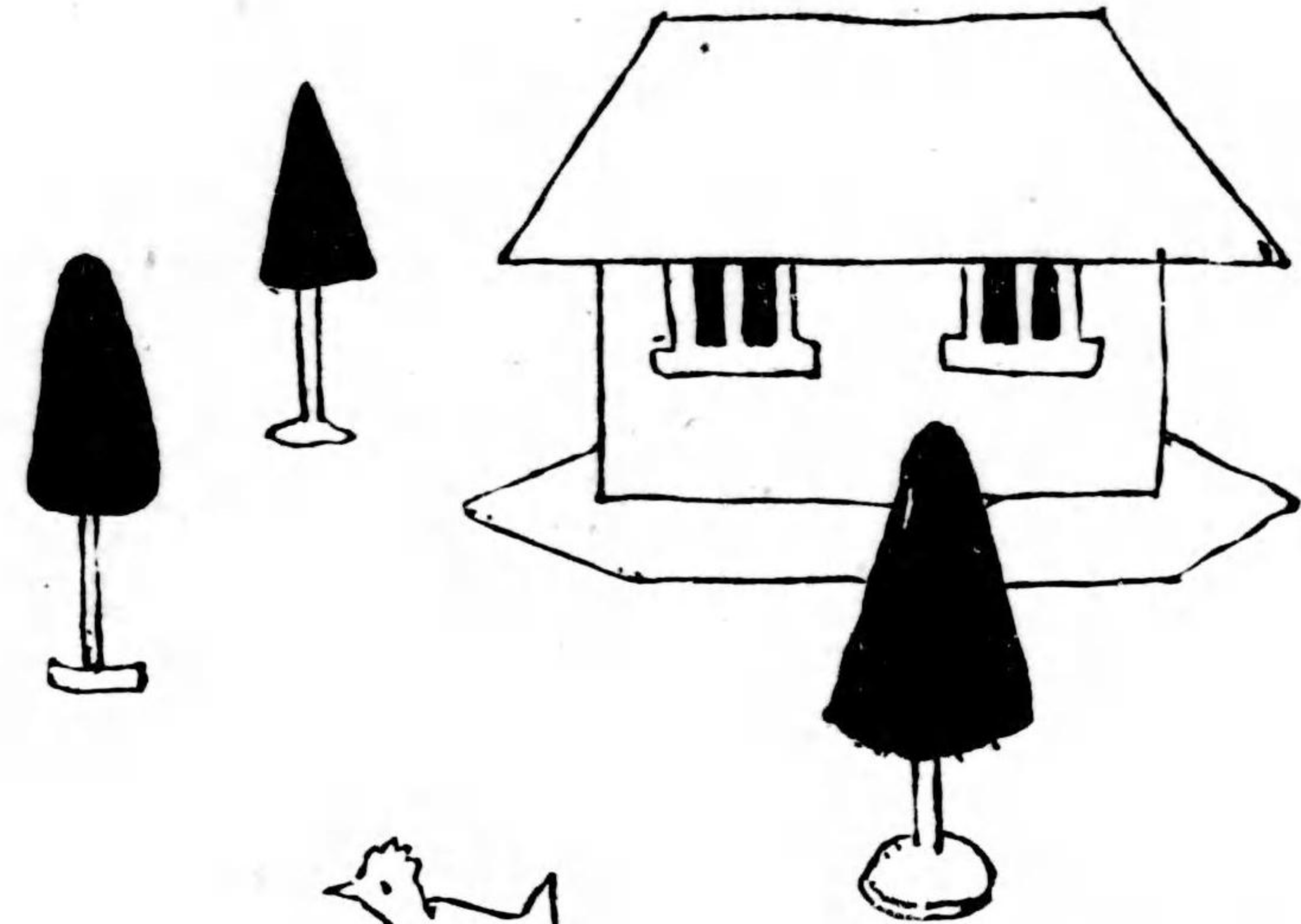
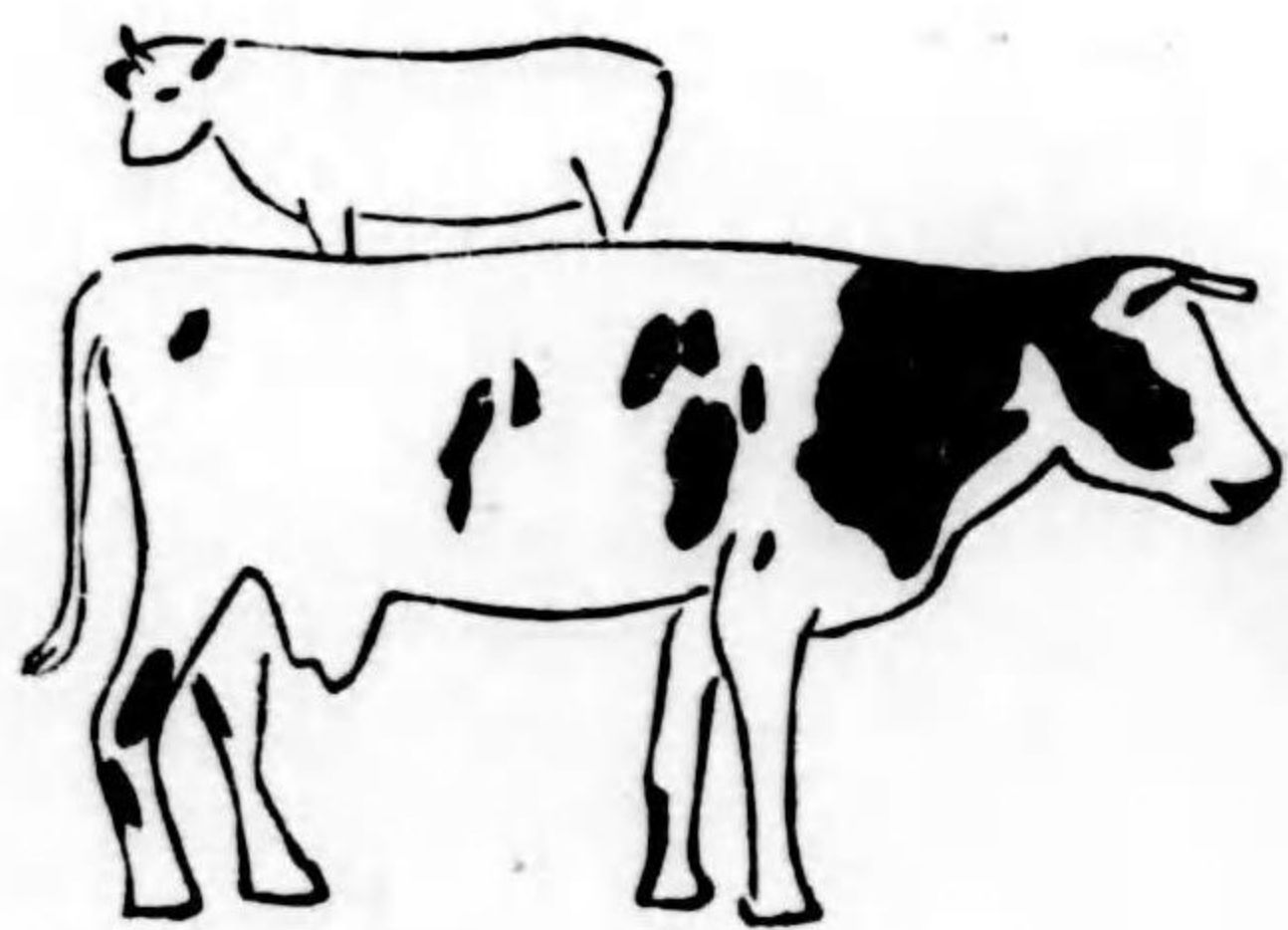
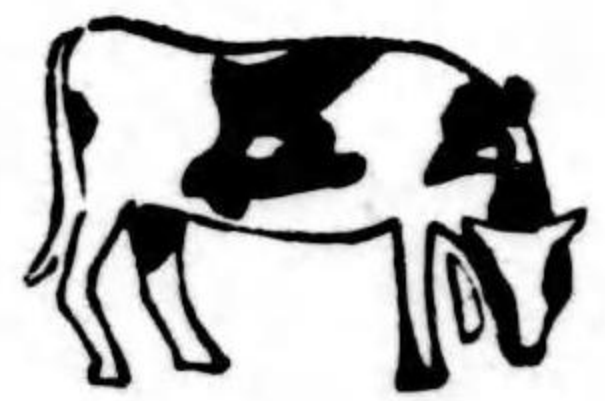
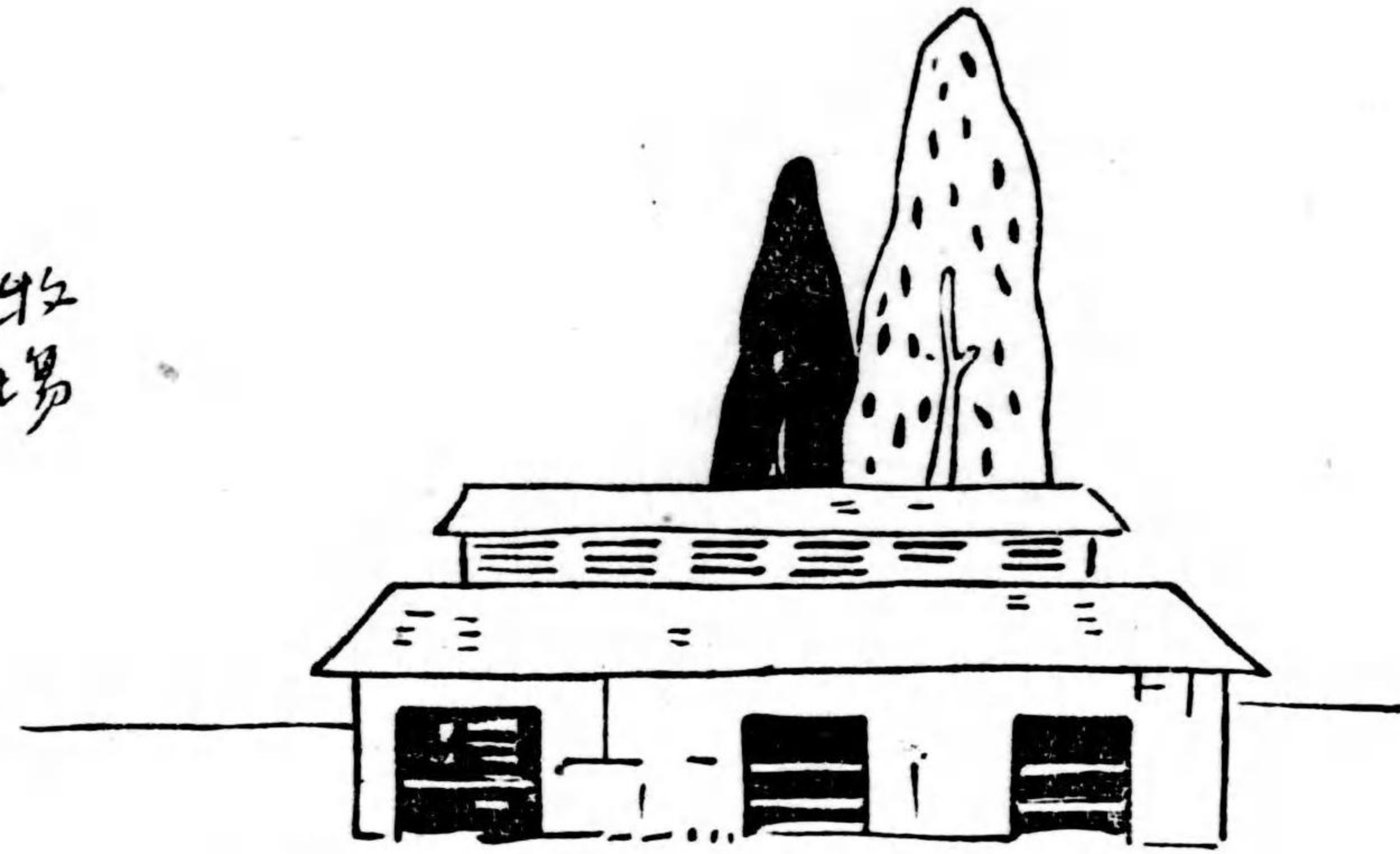


農家の風景

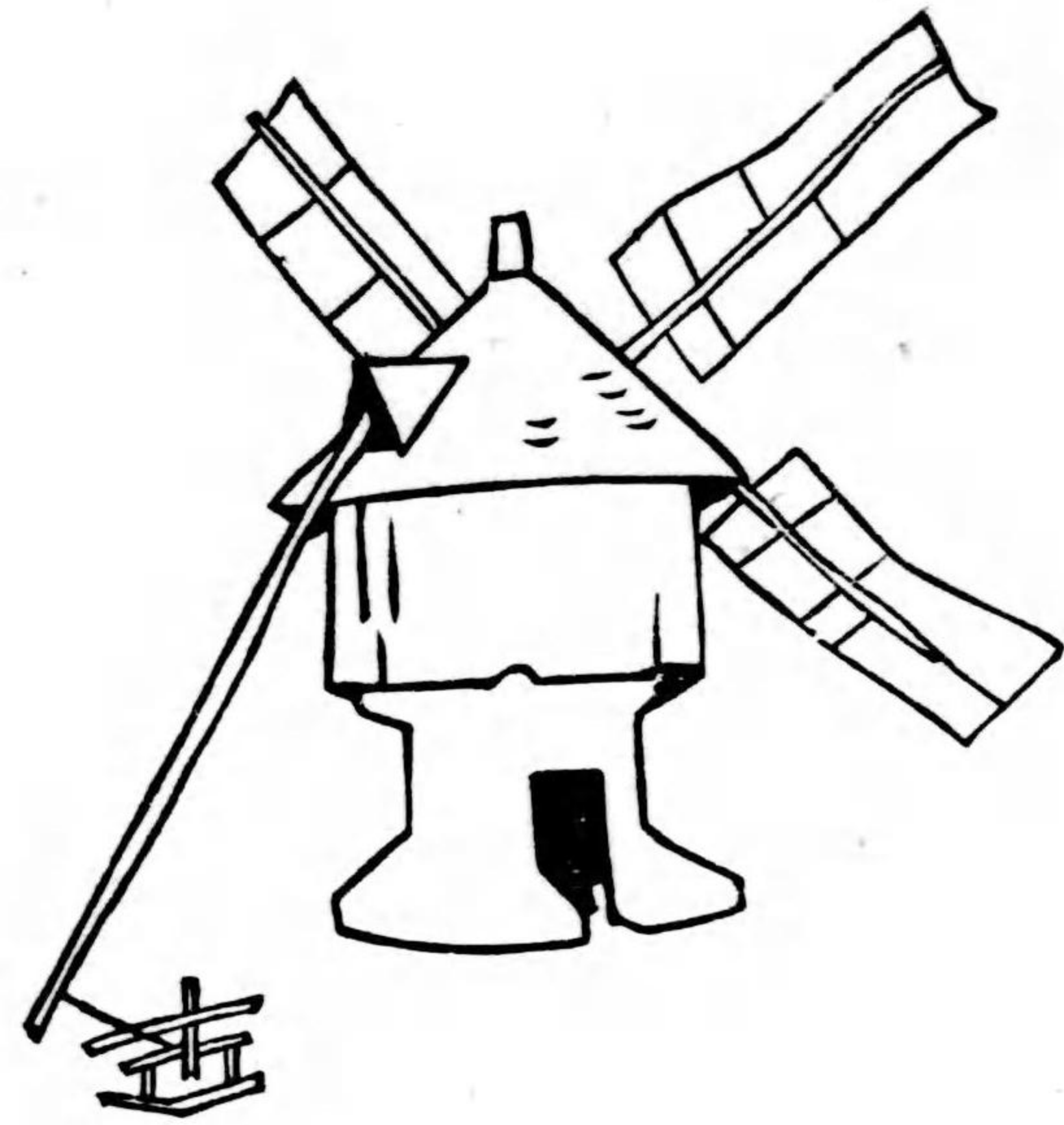
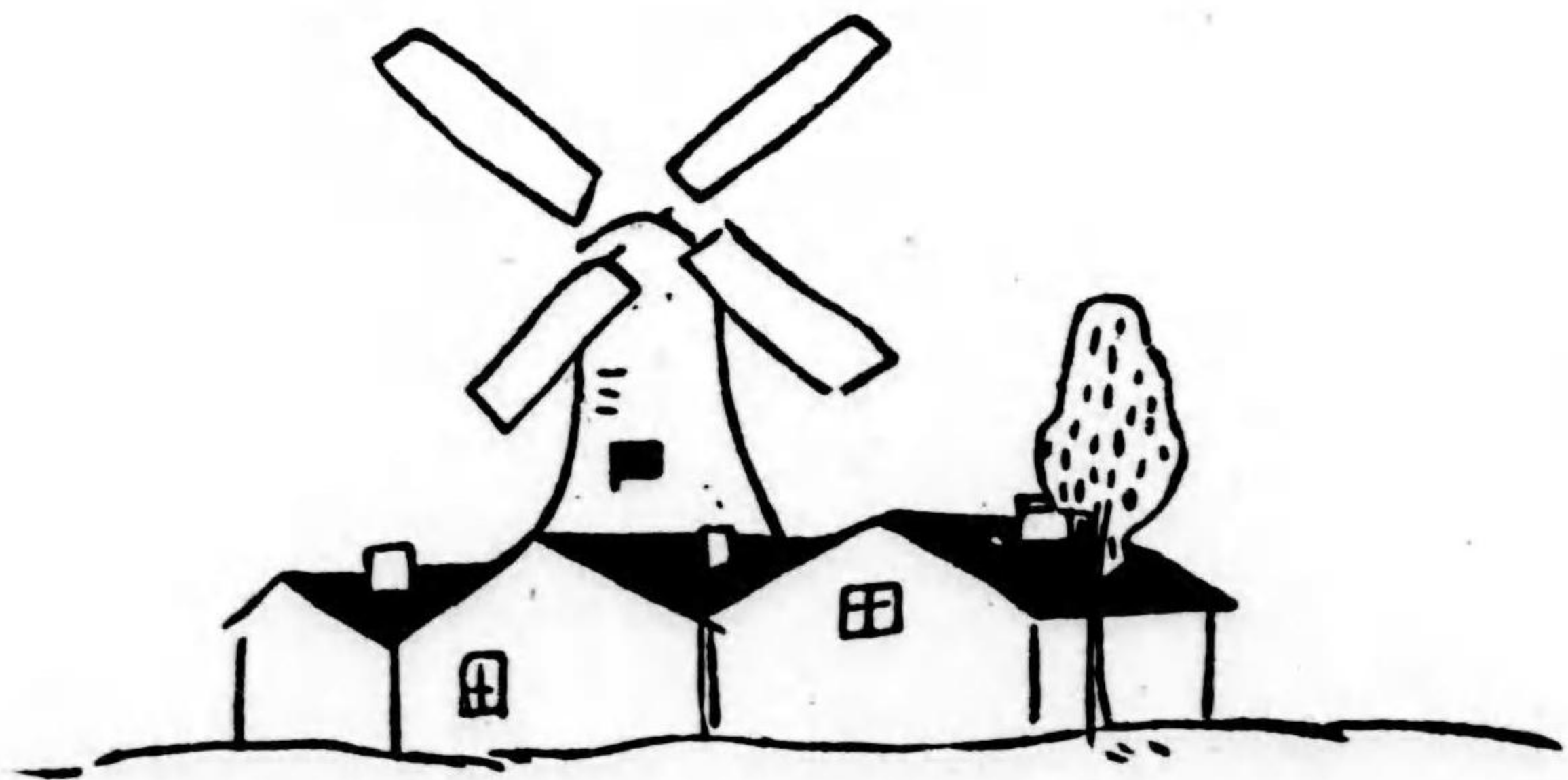
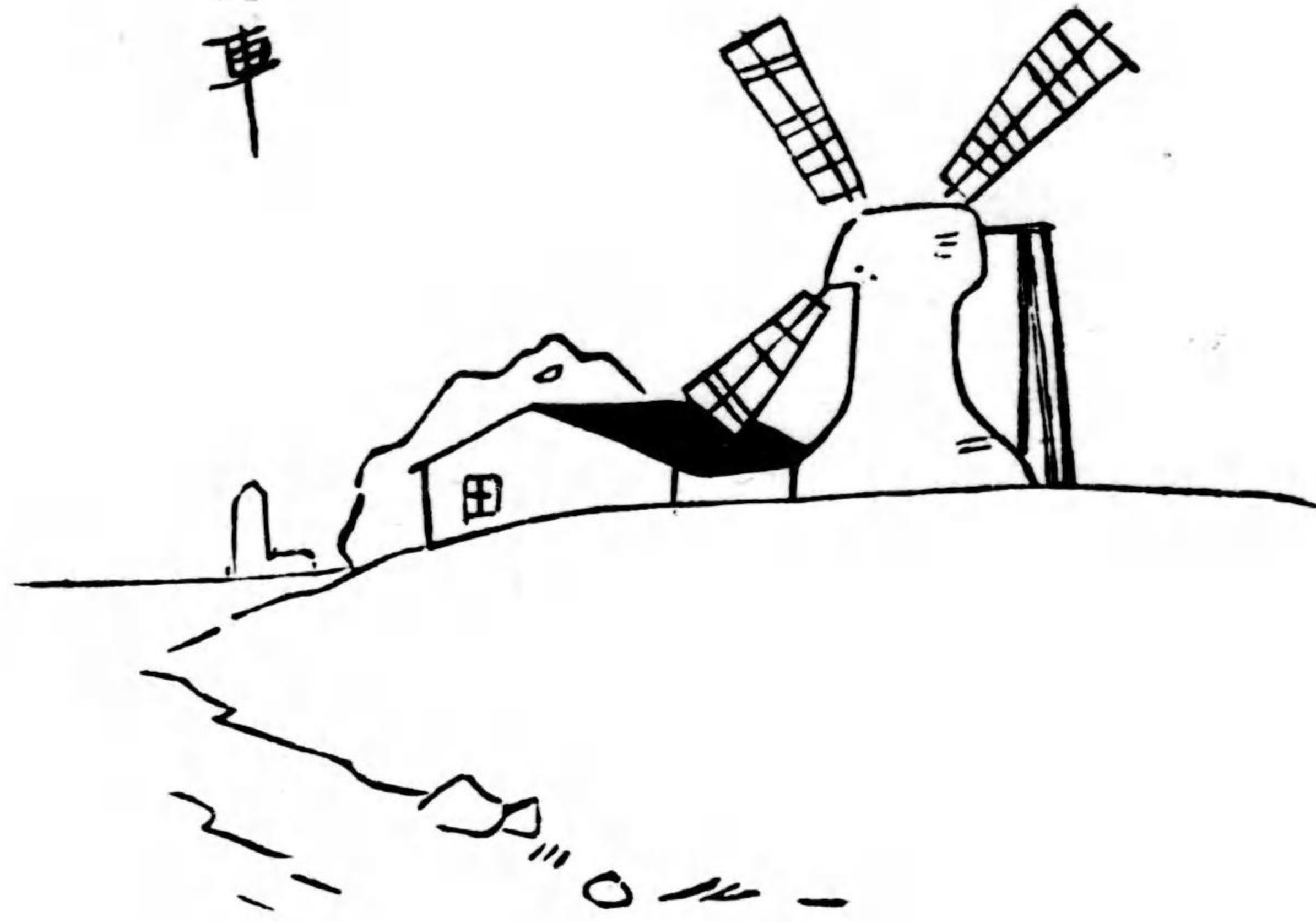




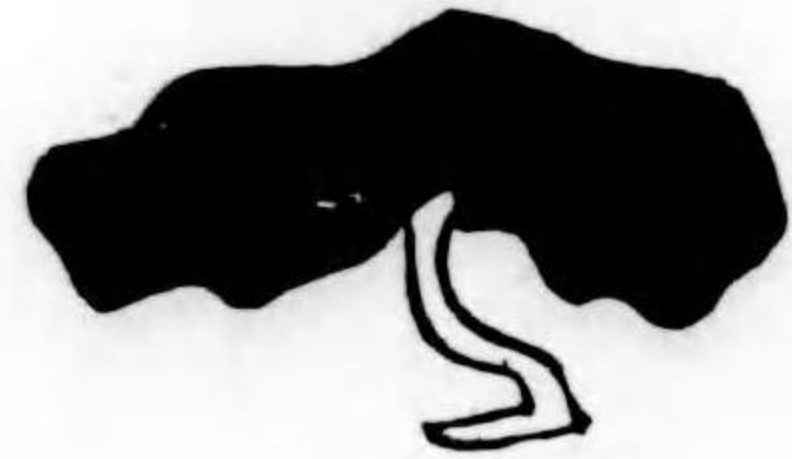
牧場

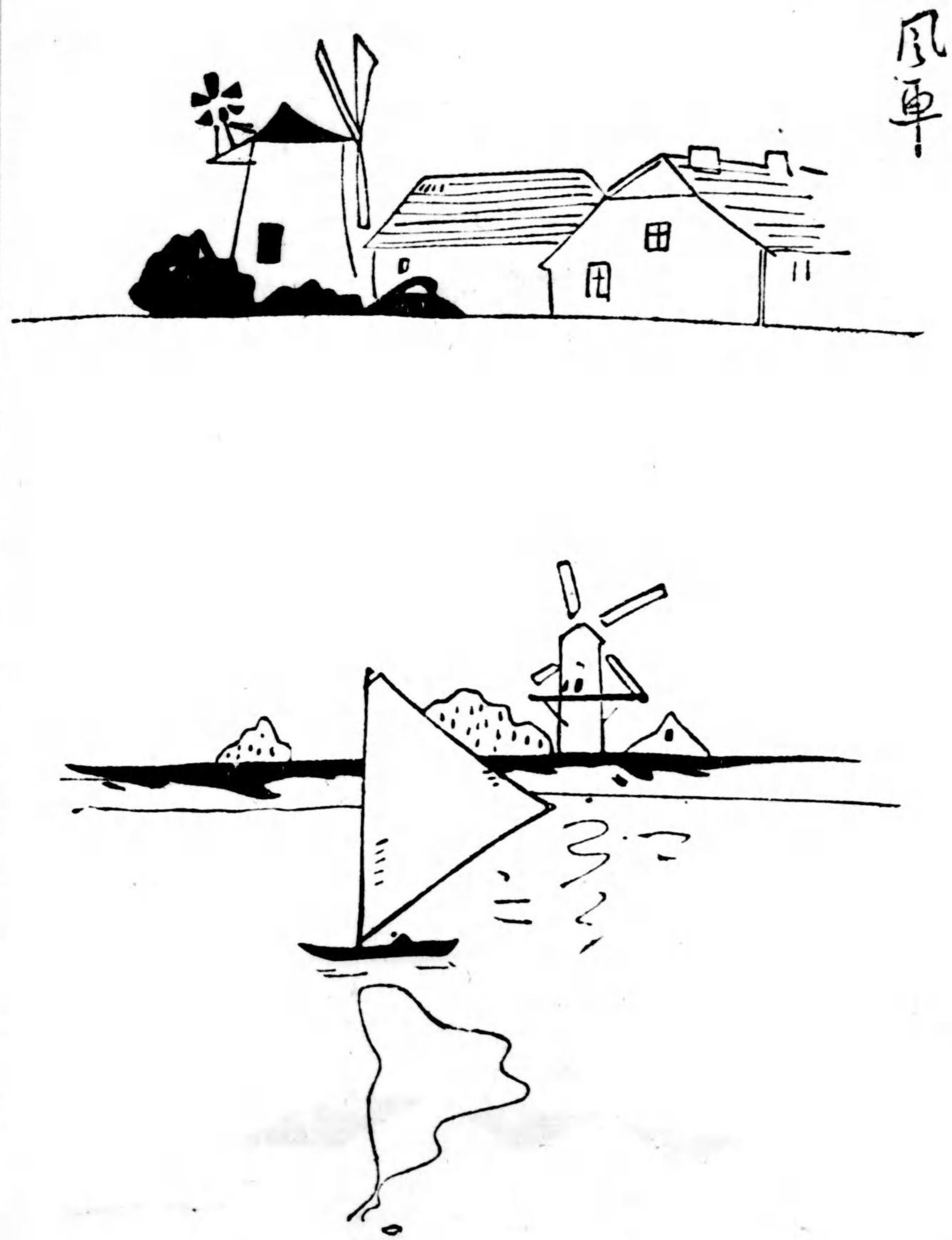
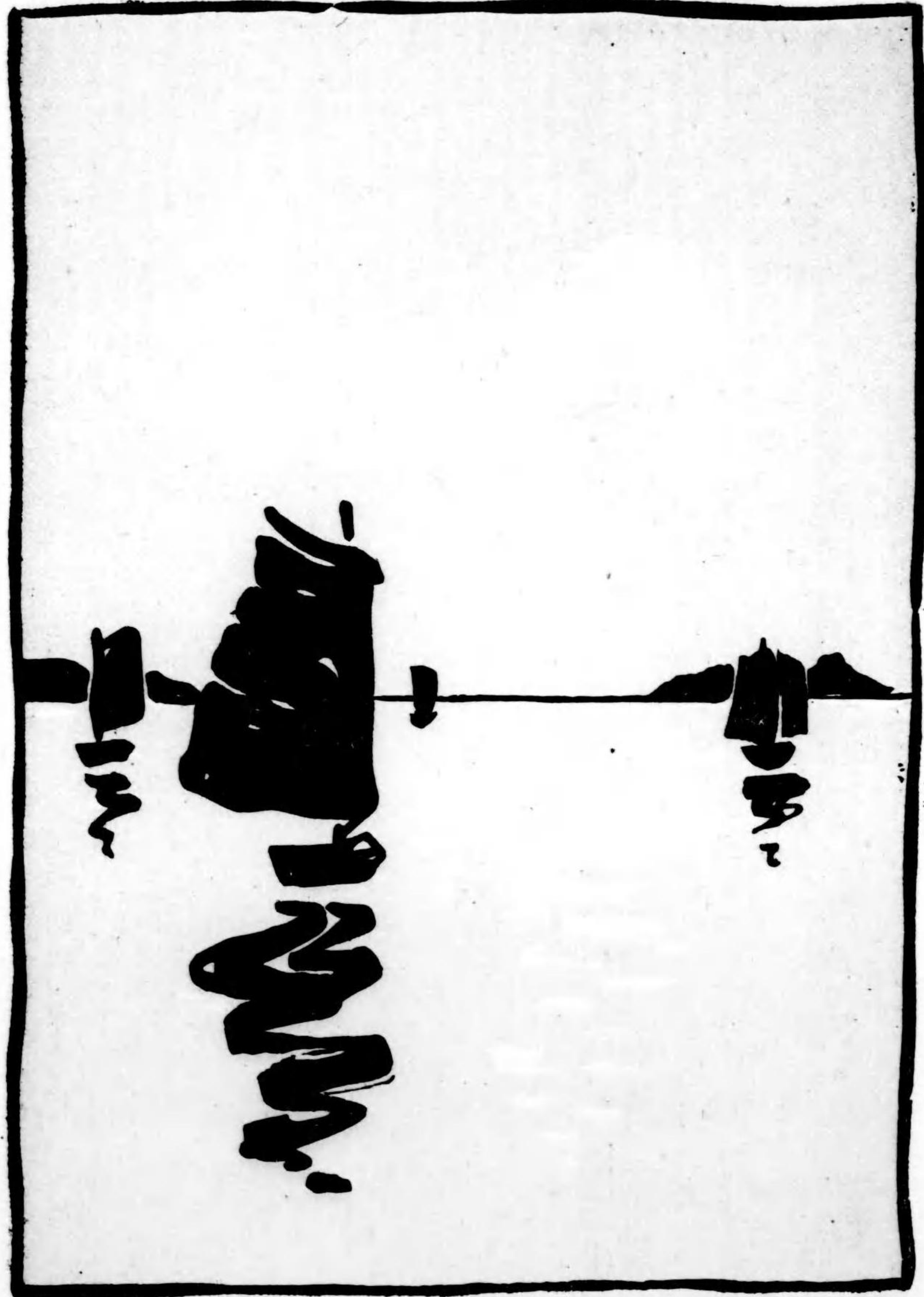


風車



風車と農家

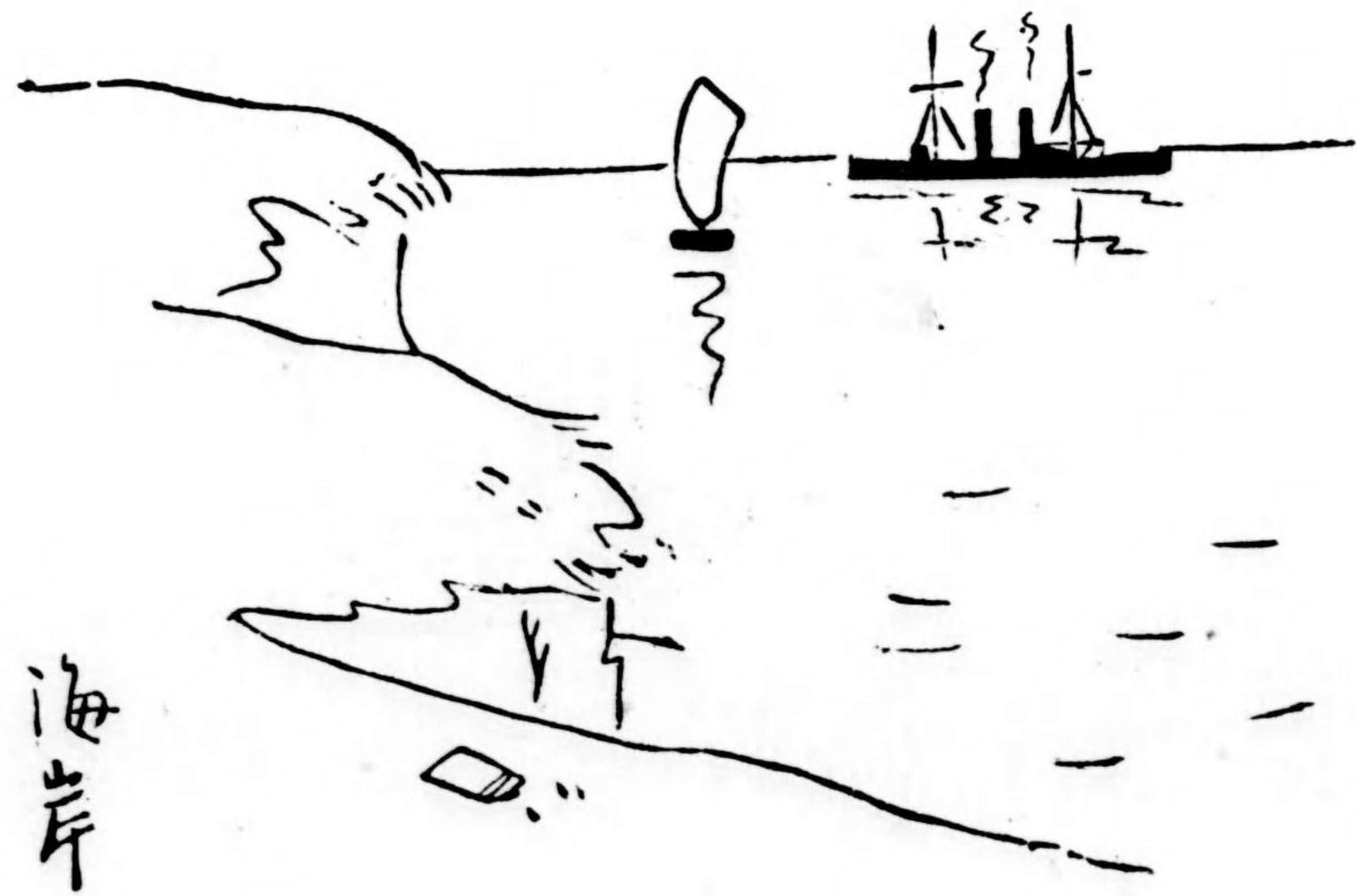




風車



三友台

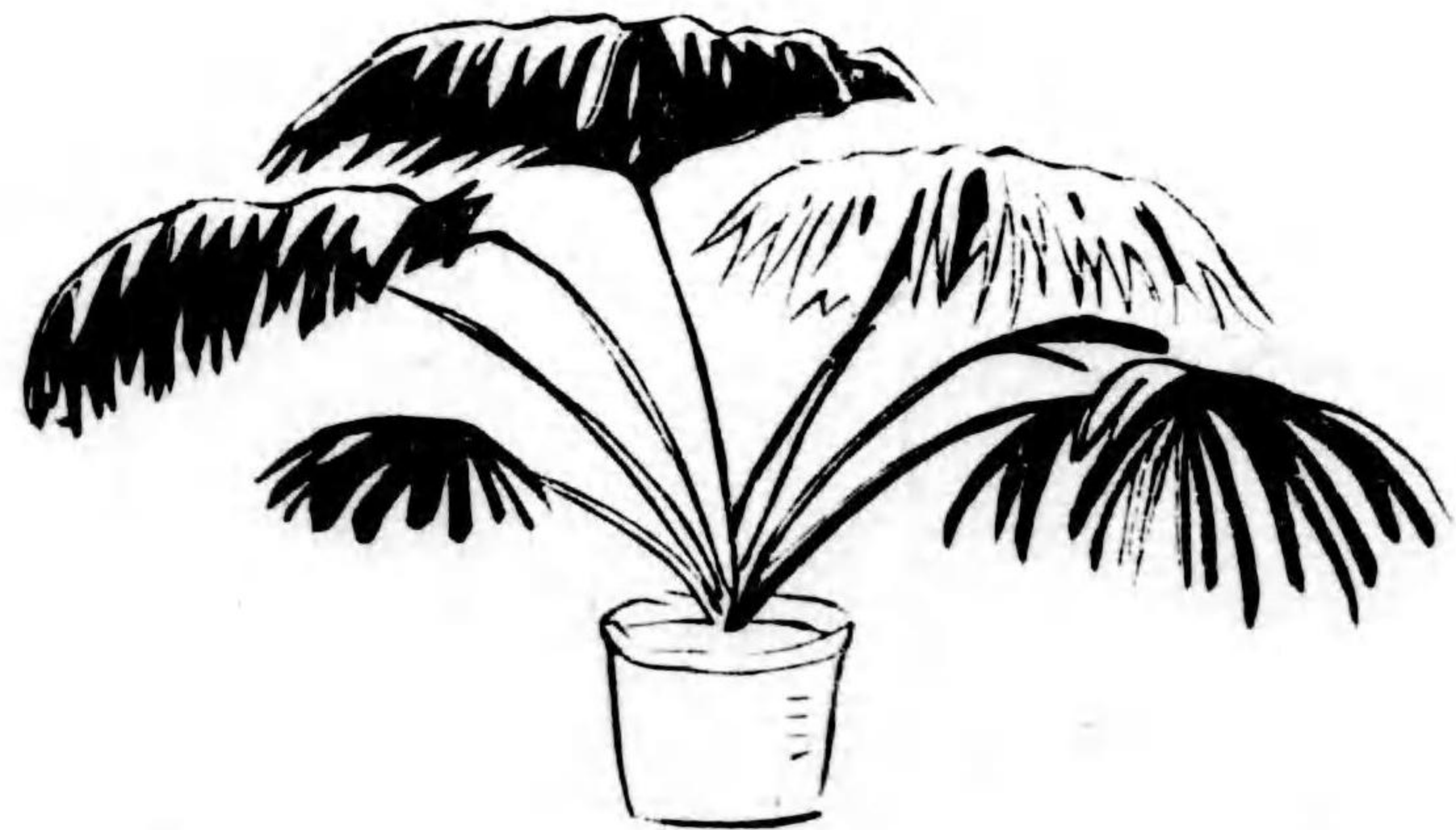


海岸

鉢植の花



棕  
櫚  
類





花瓶と花と



おほさくら(サクラ)

くらサクラ



高山の花





たぬきん  
ぽろげ

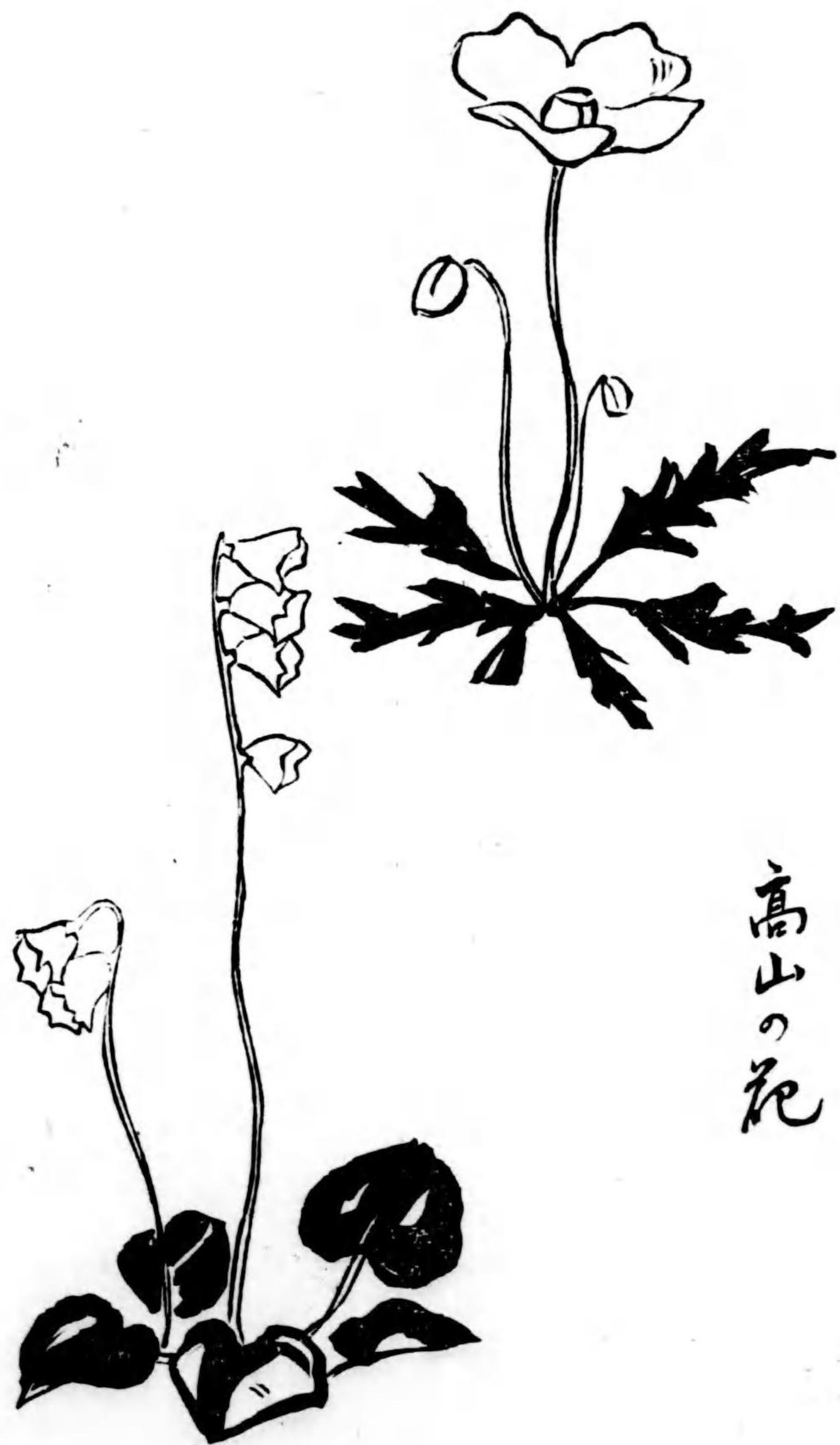
おきばら



た  
り  
ん  
だ  
い



ひ  
め  
く  
わ  
か  
た



高  
山  
の  
花



くぢなシク

ニハハ  
カシメ

コノシヤ



ぶらうじやん

オシロイバナ



ちんじろま  
 花をし果実をとりし

キノボの  
 ニキのつめ

ちんじろま



シキヤウヤウ

ミヤコウメがた

キノボのあつせり  
 ナン



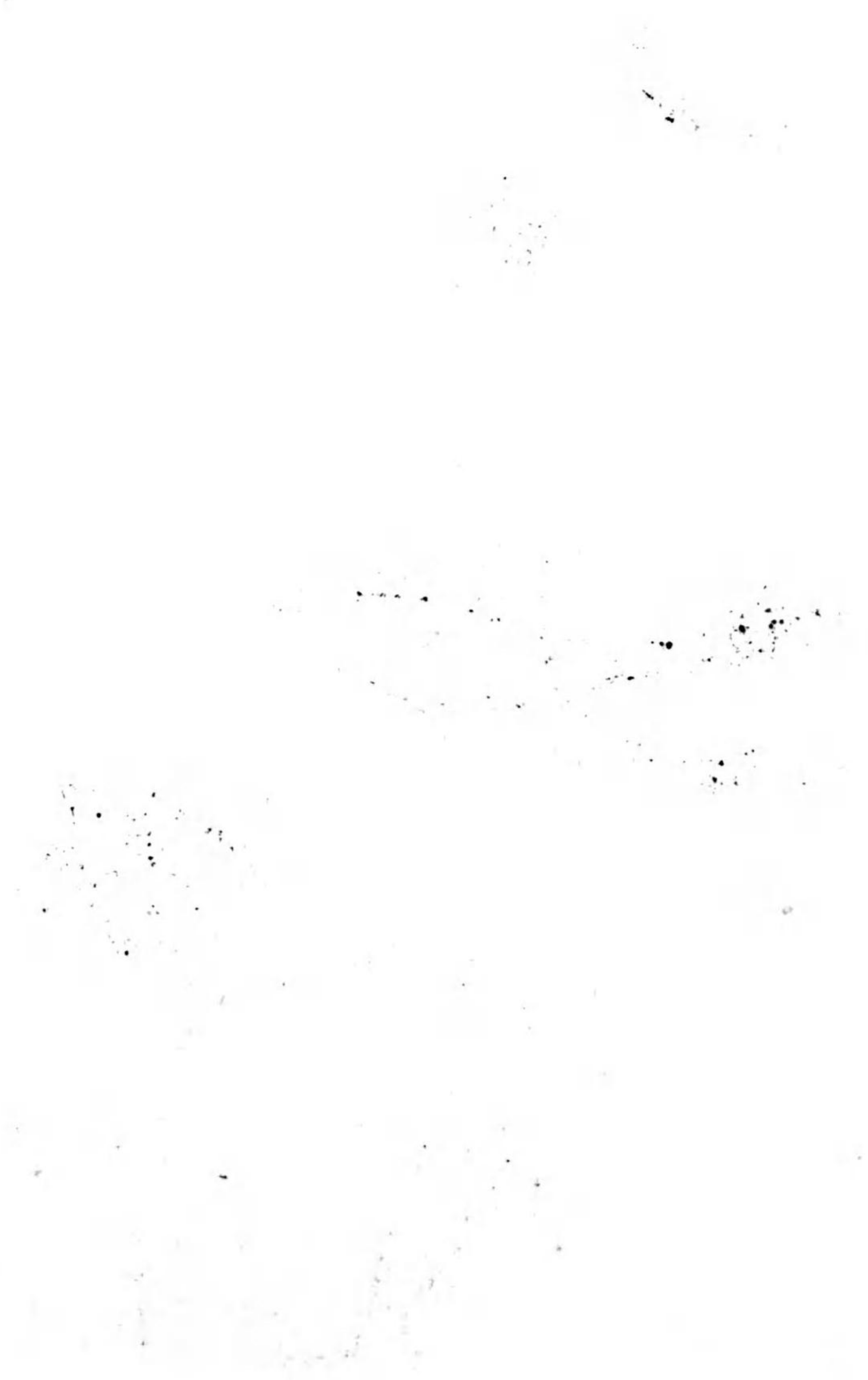
たかねすみれ



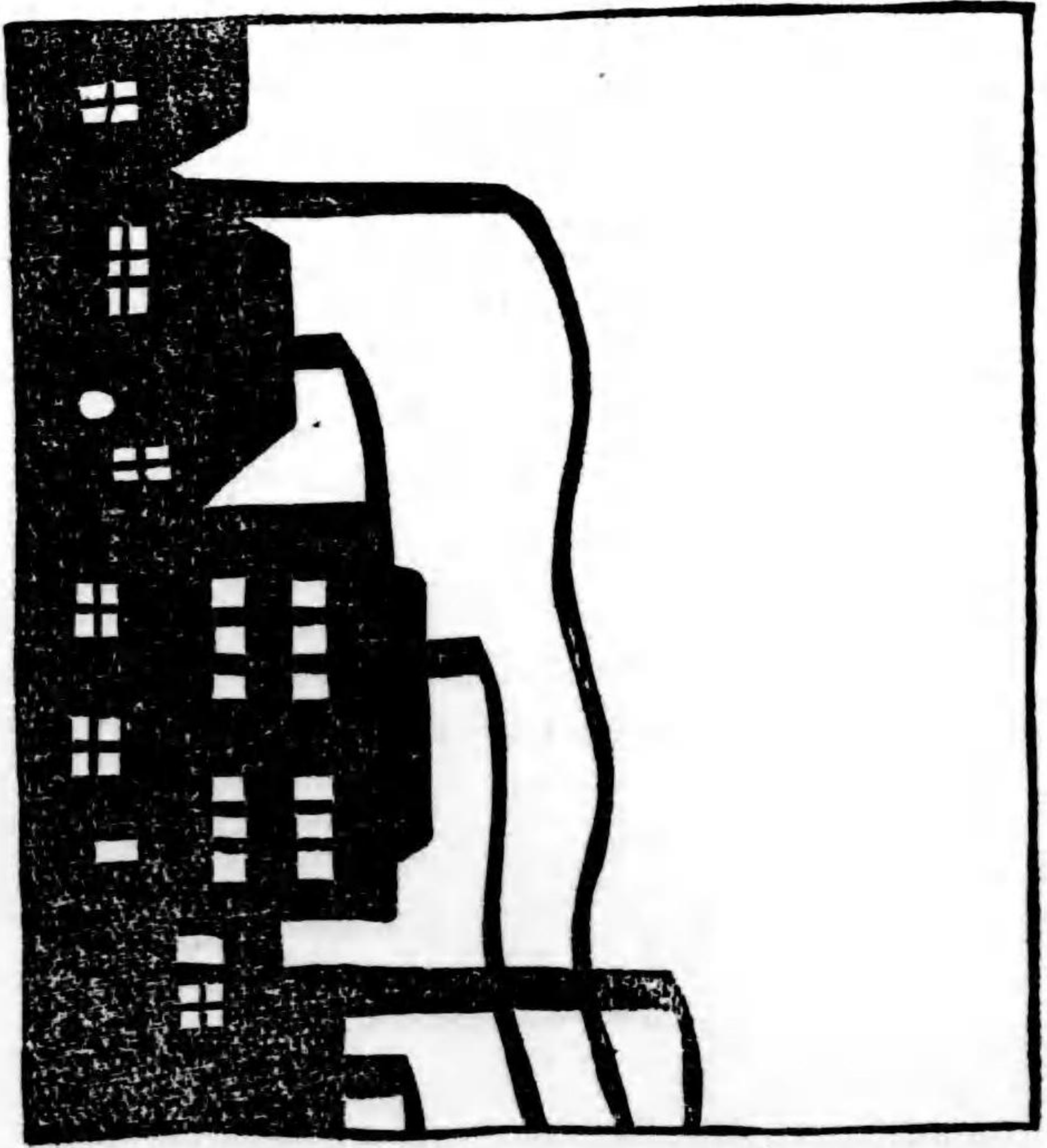
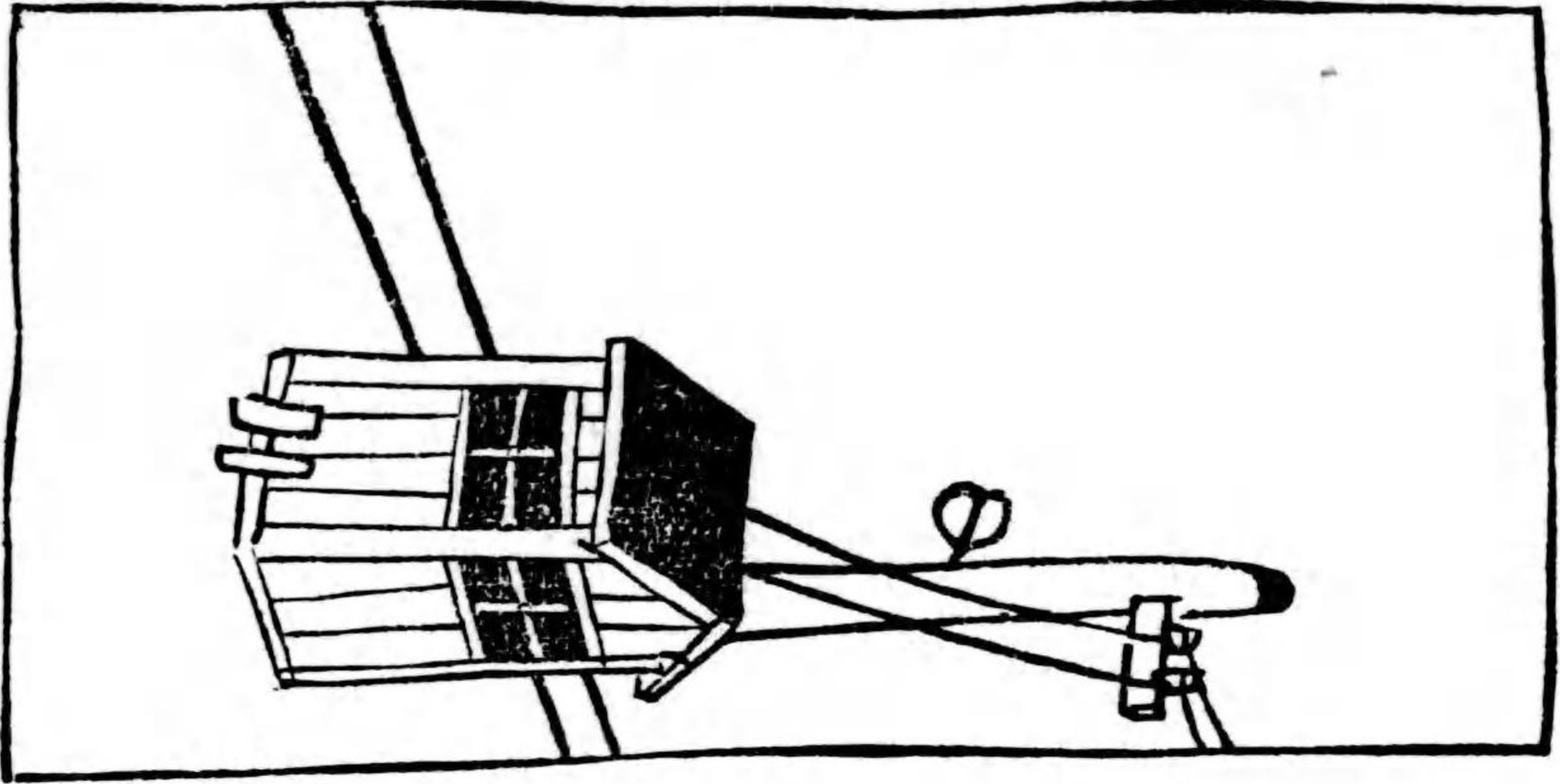
きみかげさる



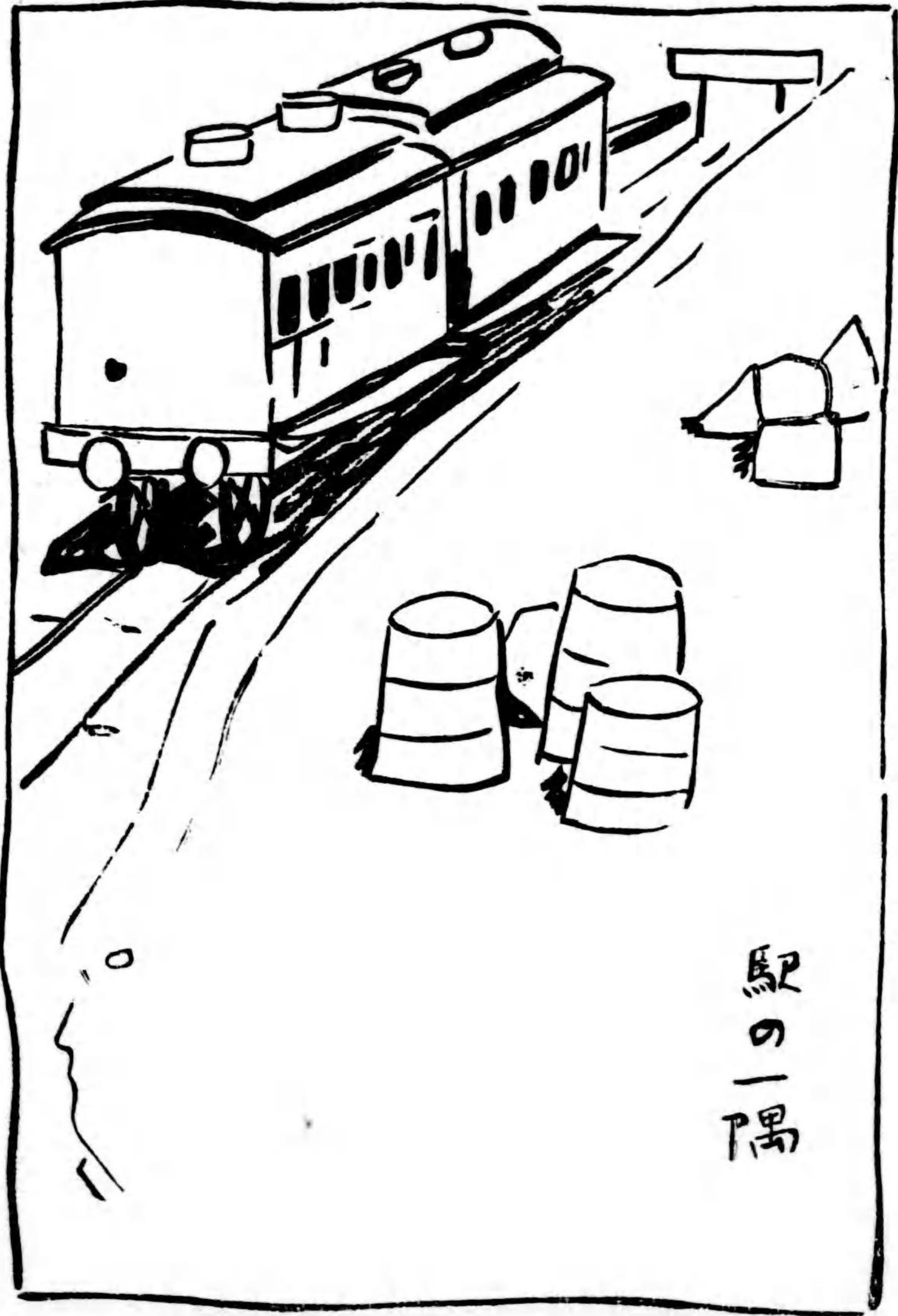
熱い國に咲く  
花



汽車路



新島工場



駅の一隅

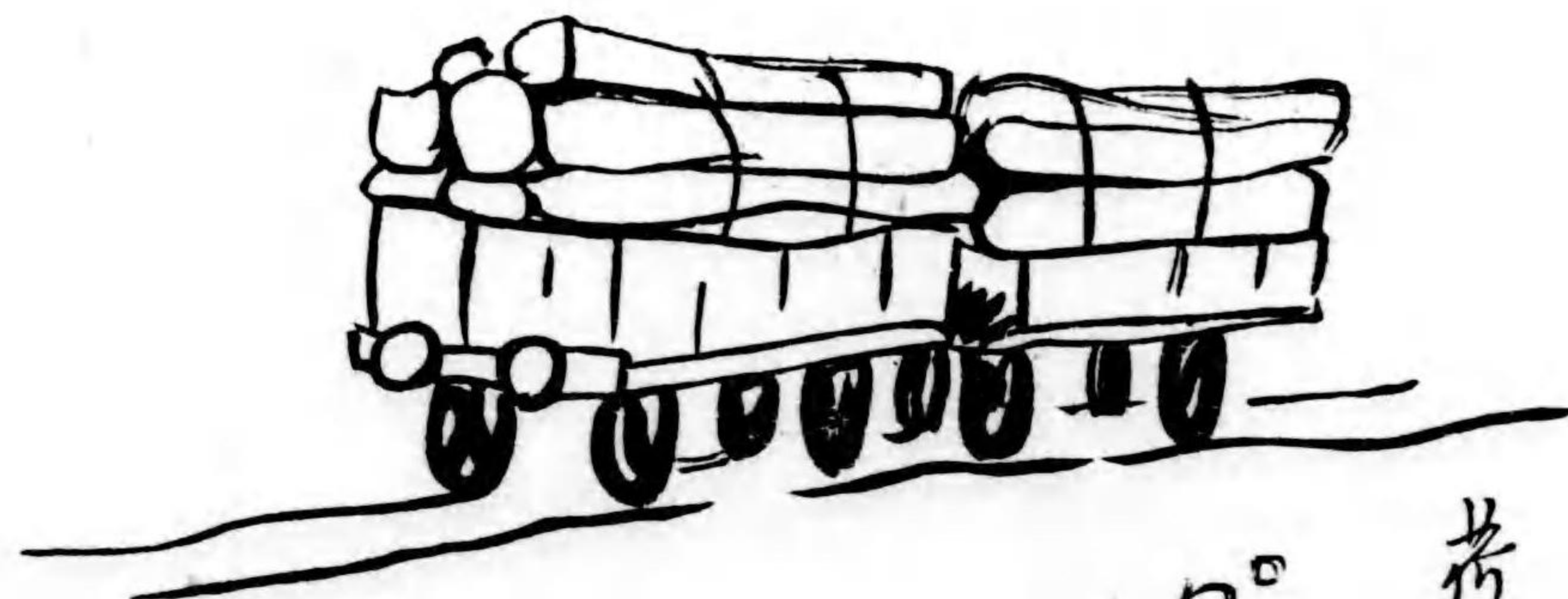
タニスイ場



路  
切

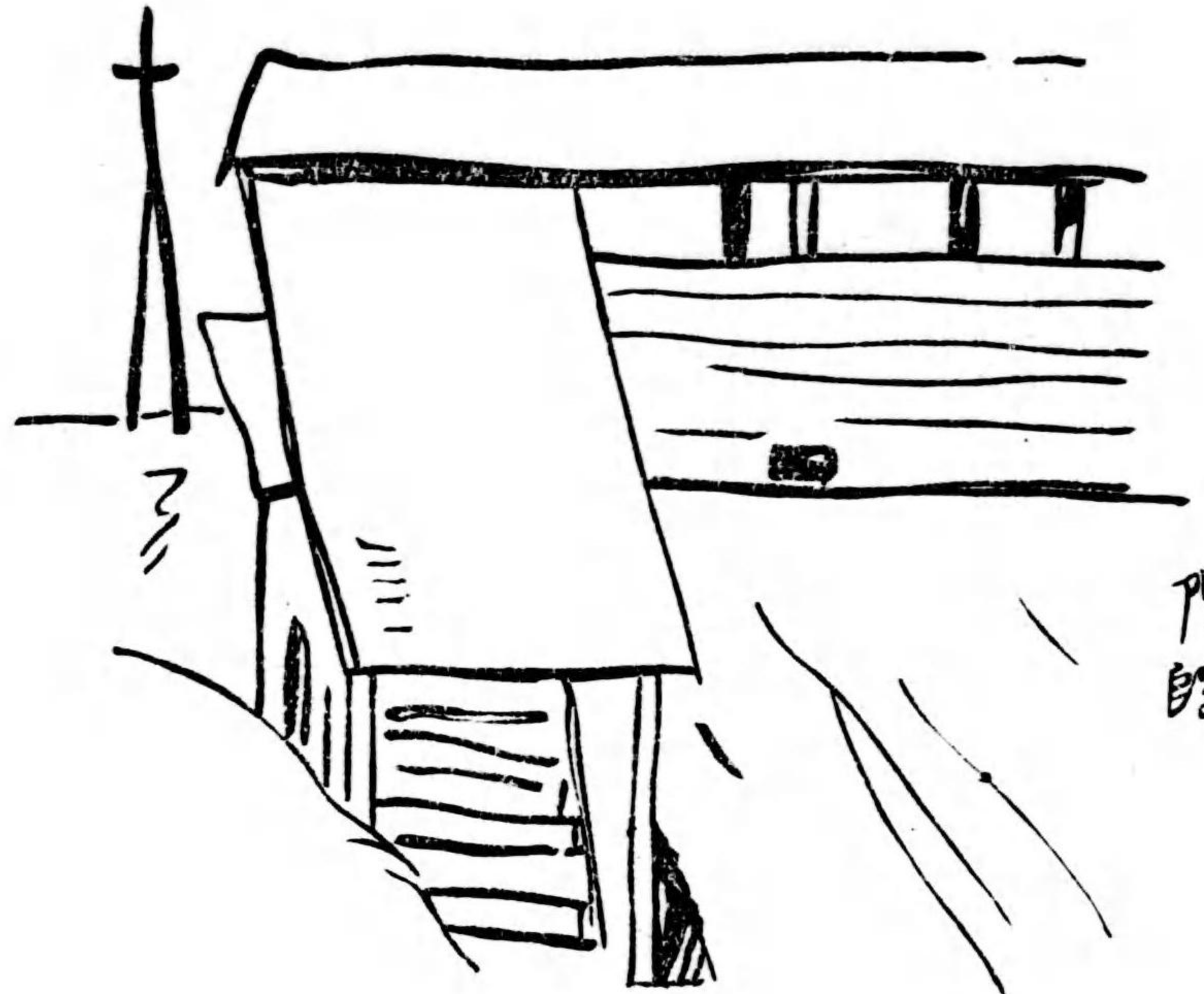


とある  
駅

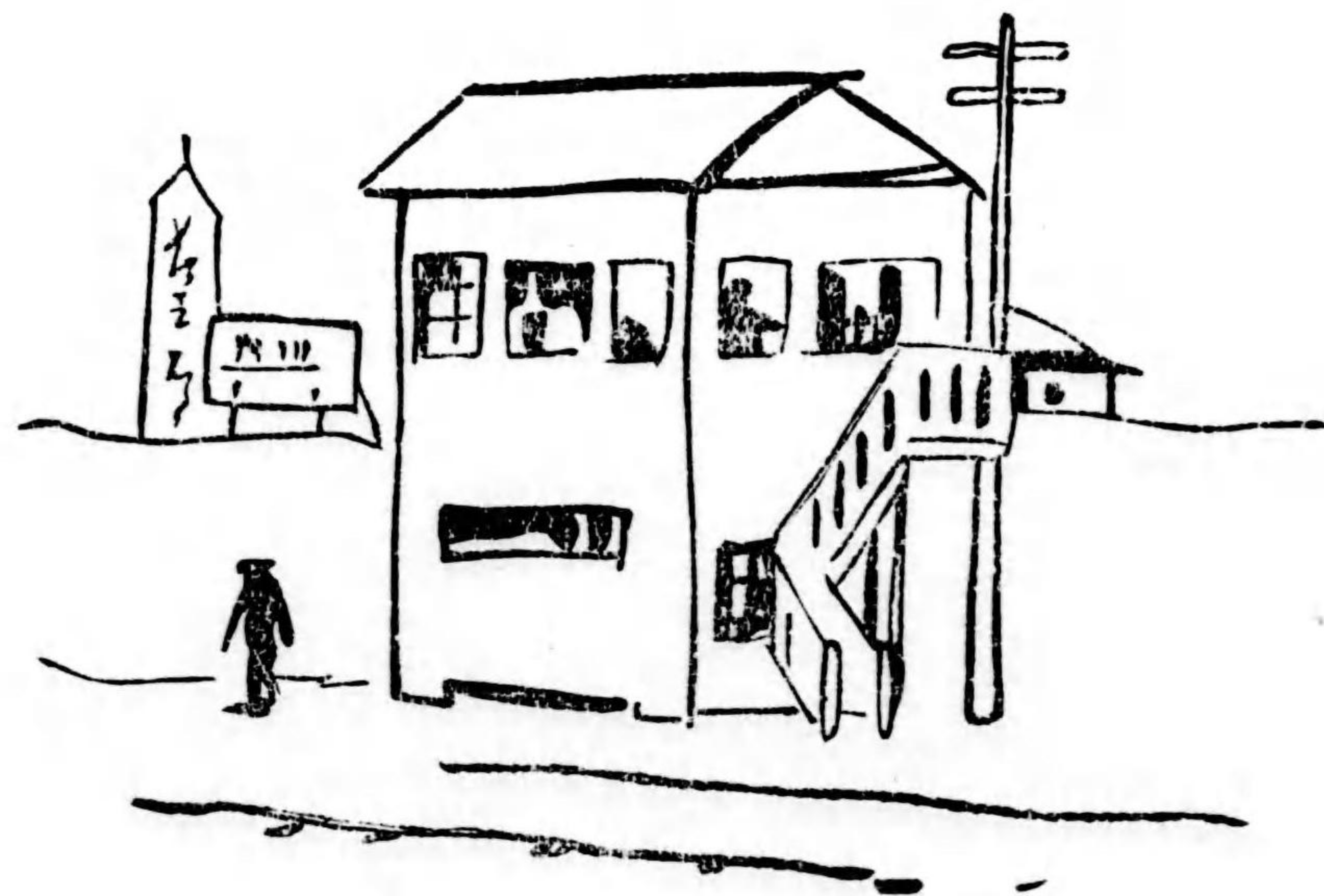


荷  
車

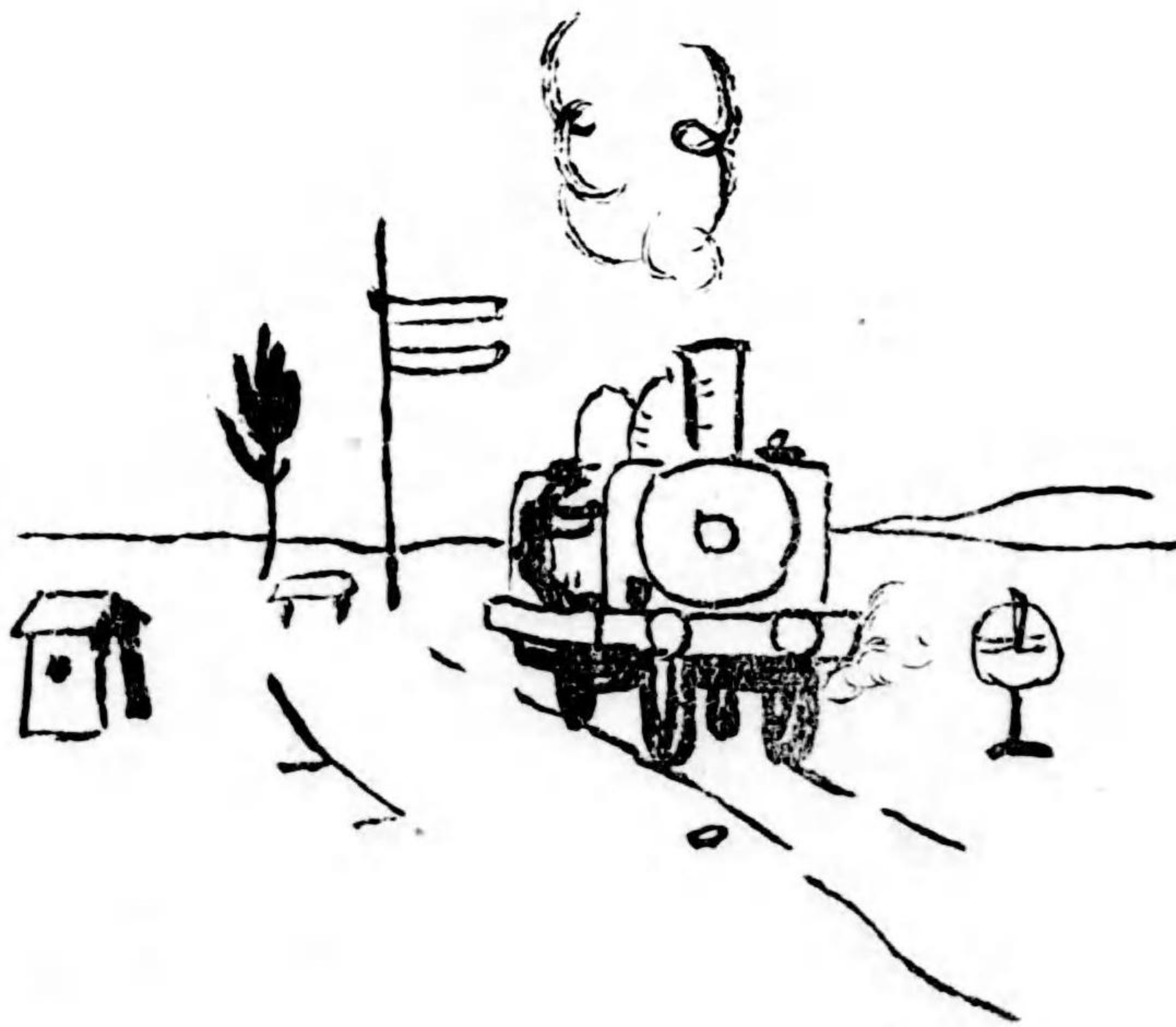


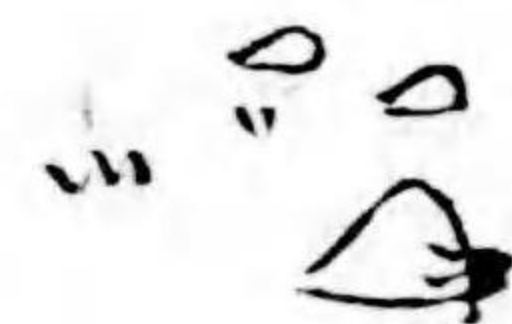
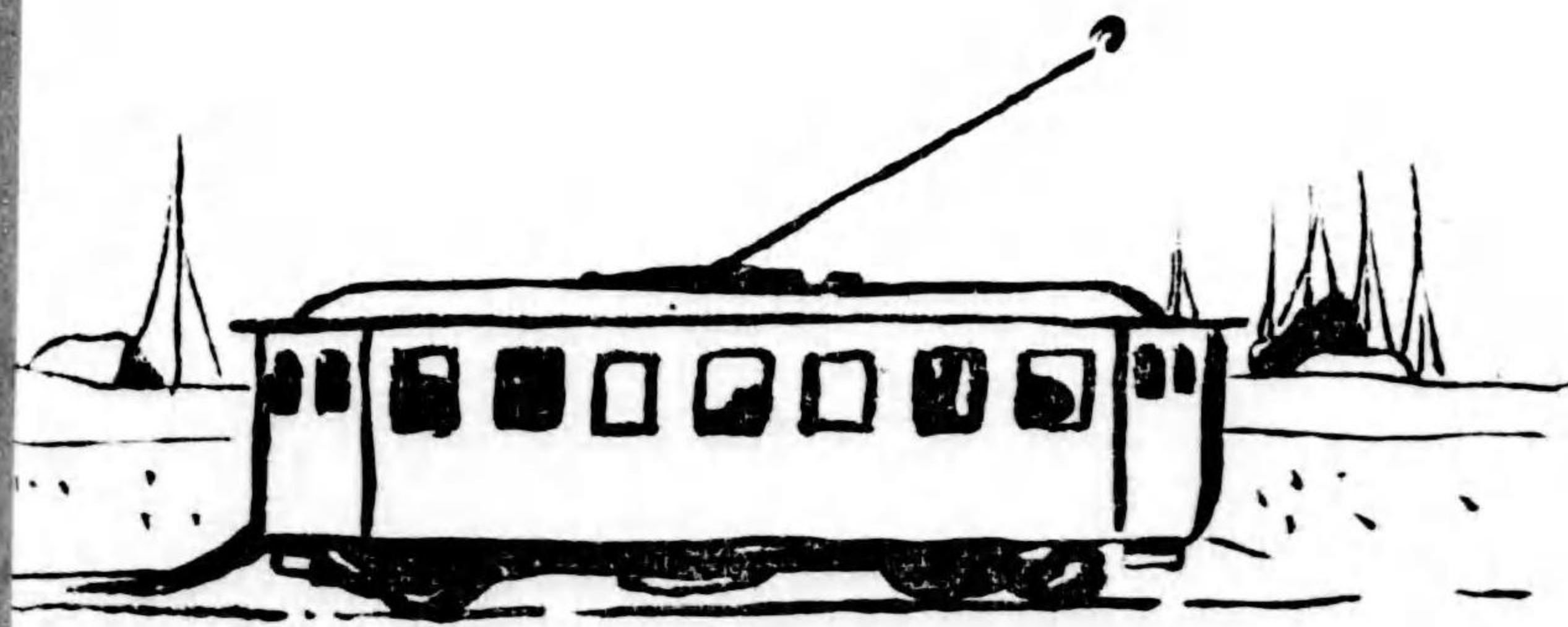
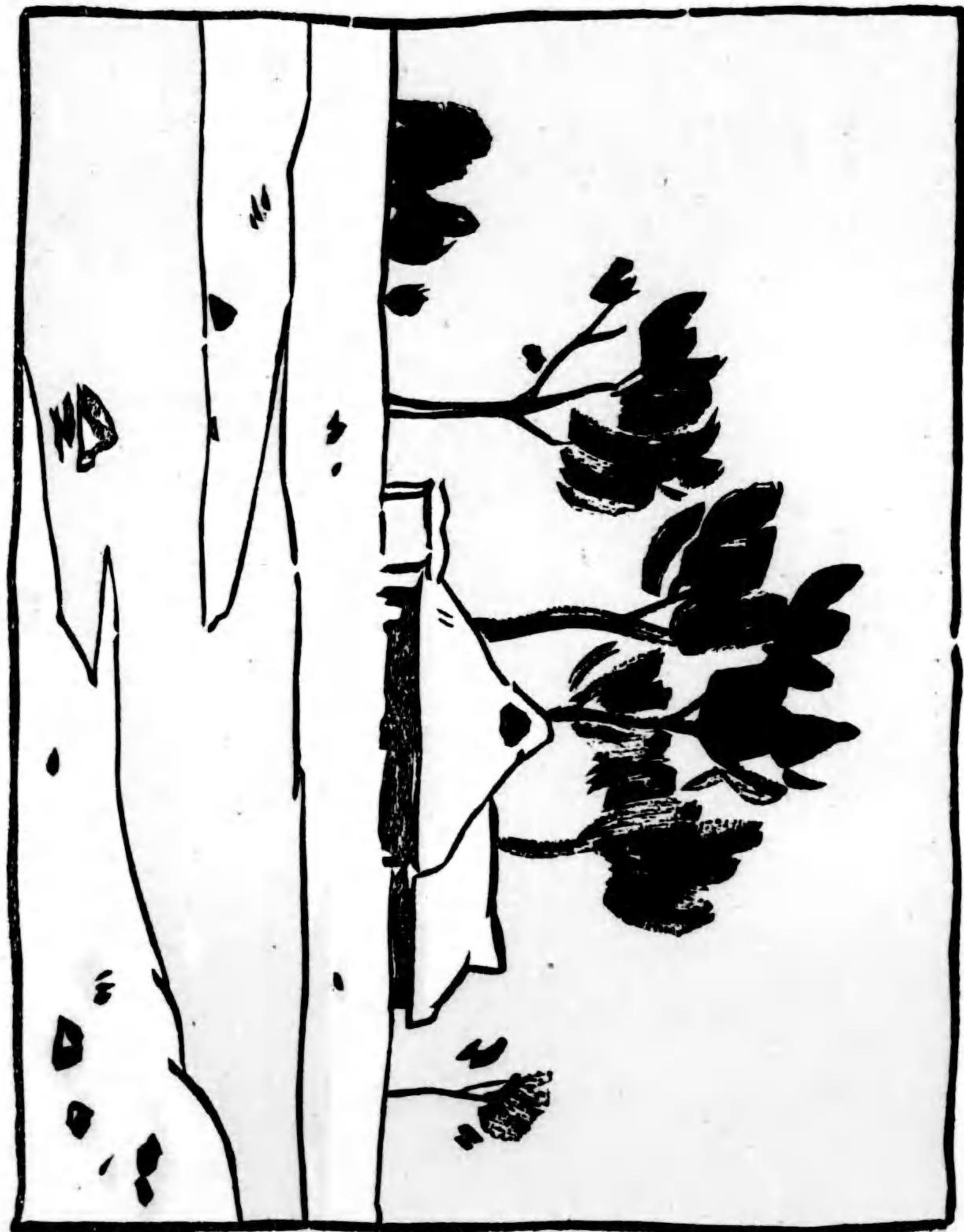


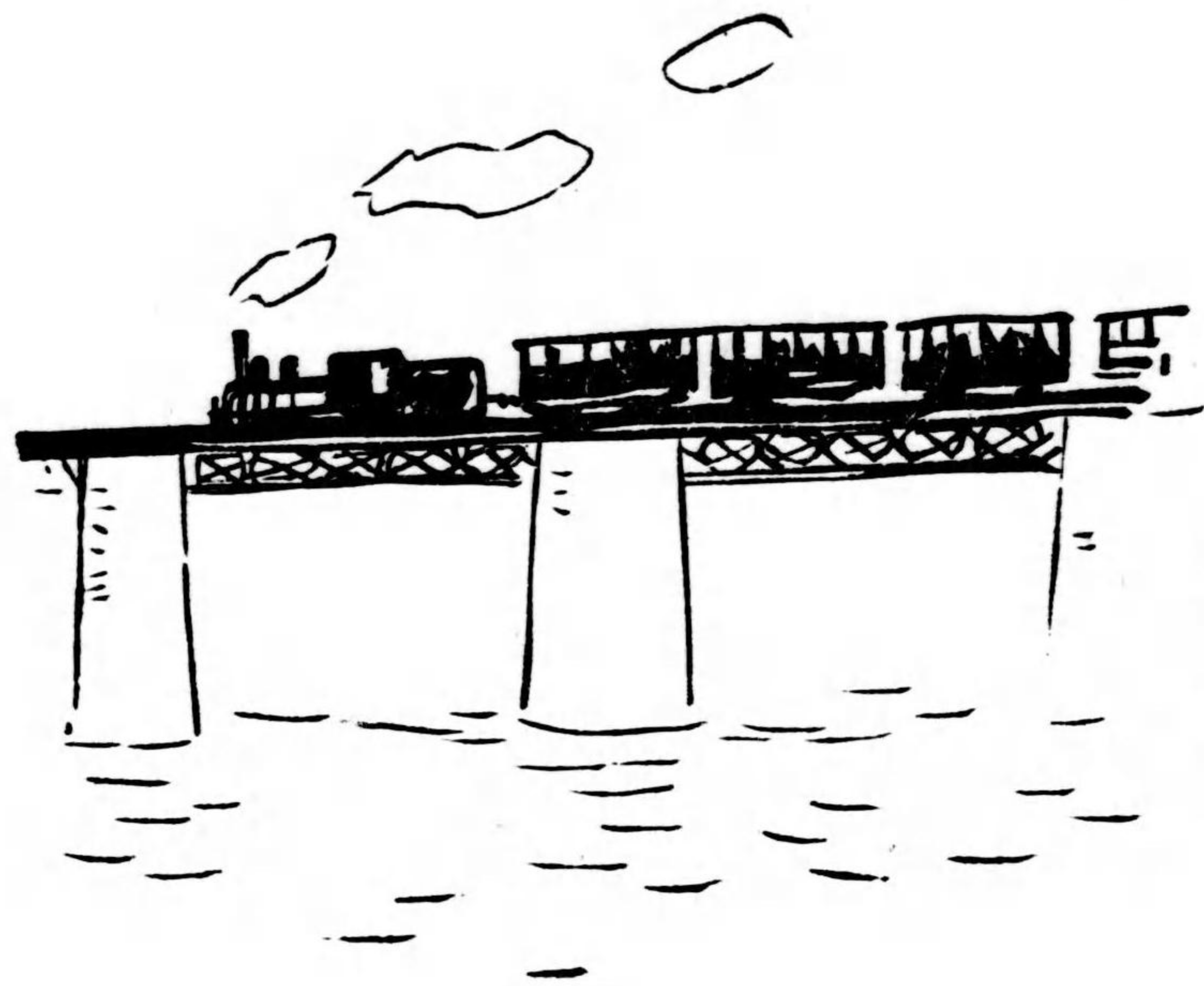
階段



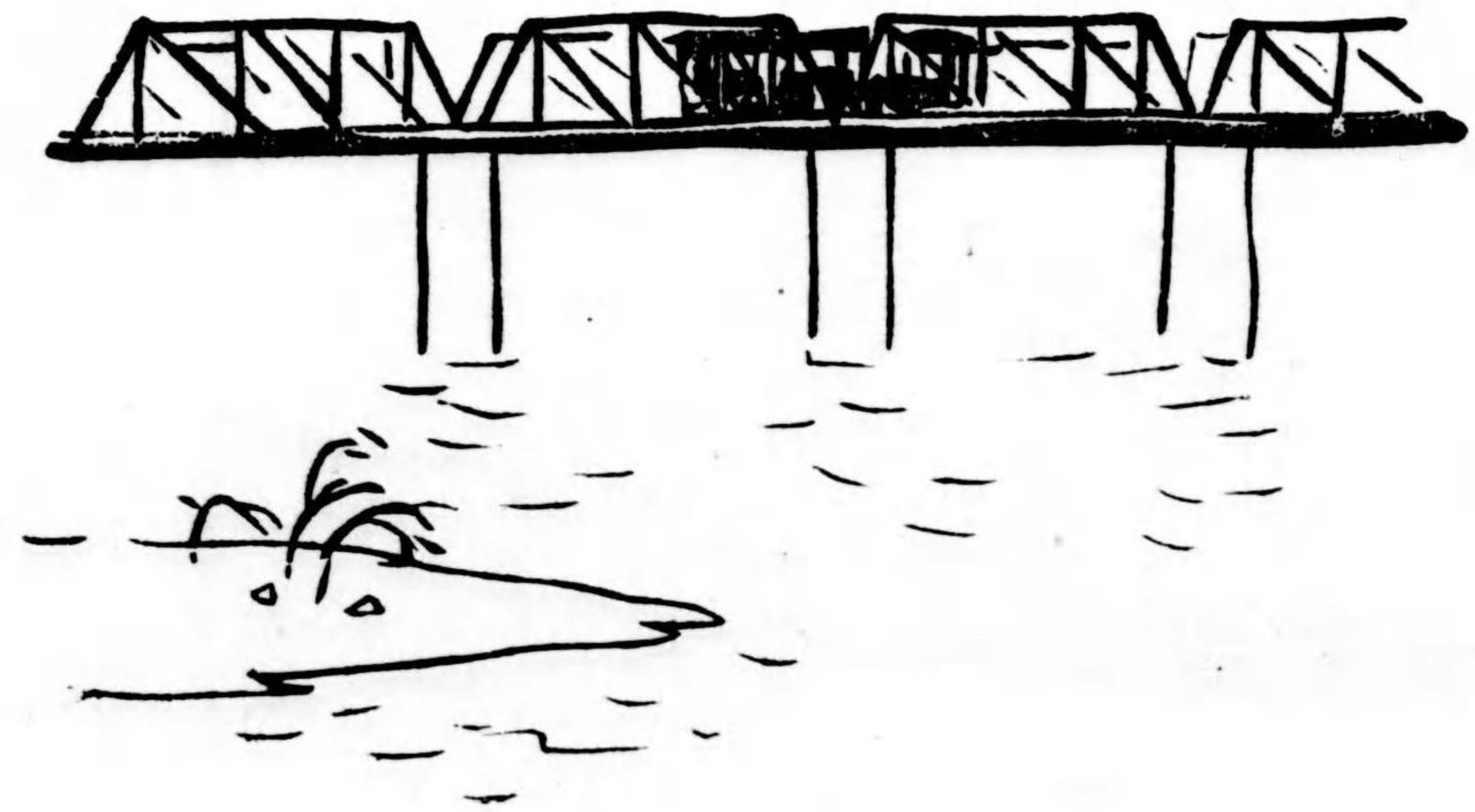
駅前





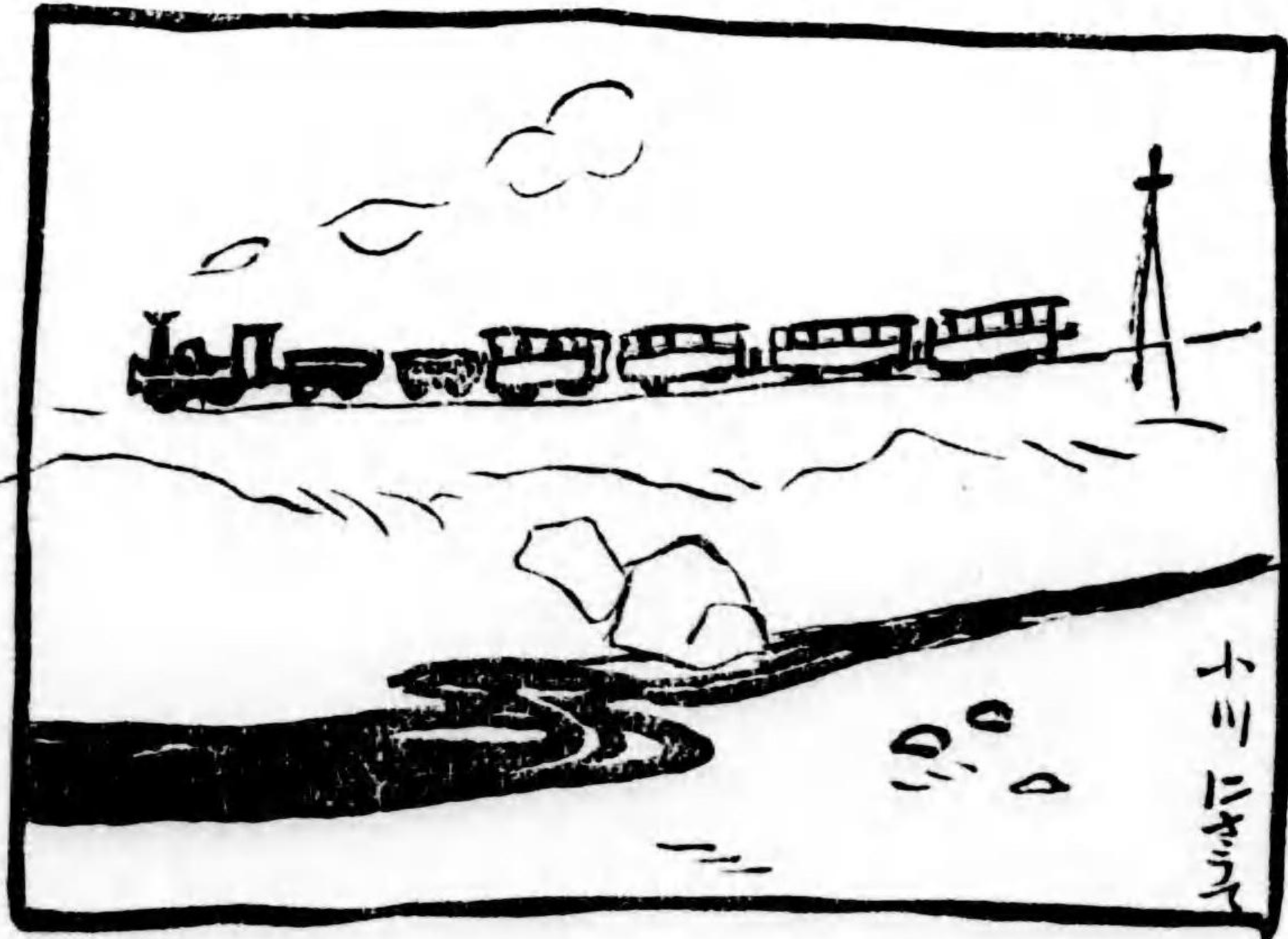
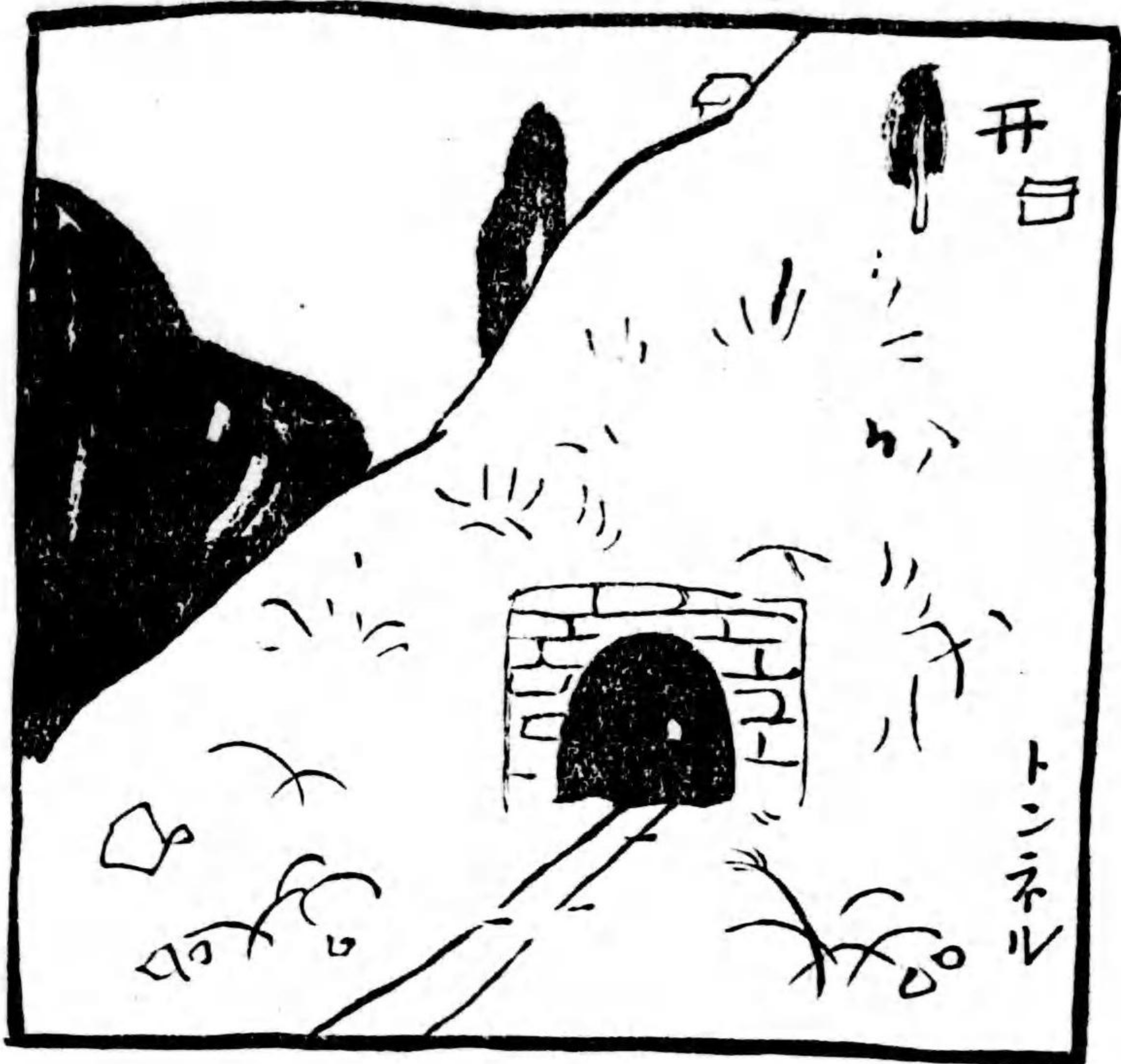


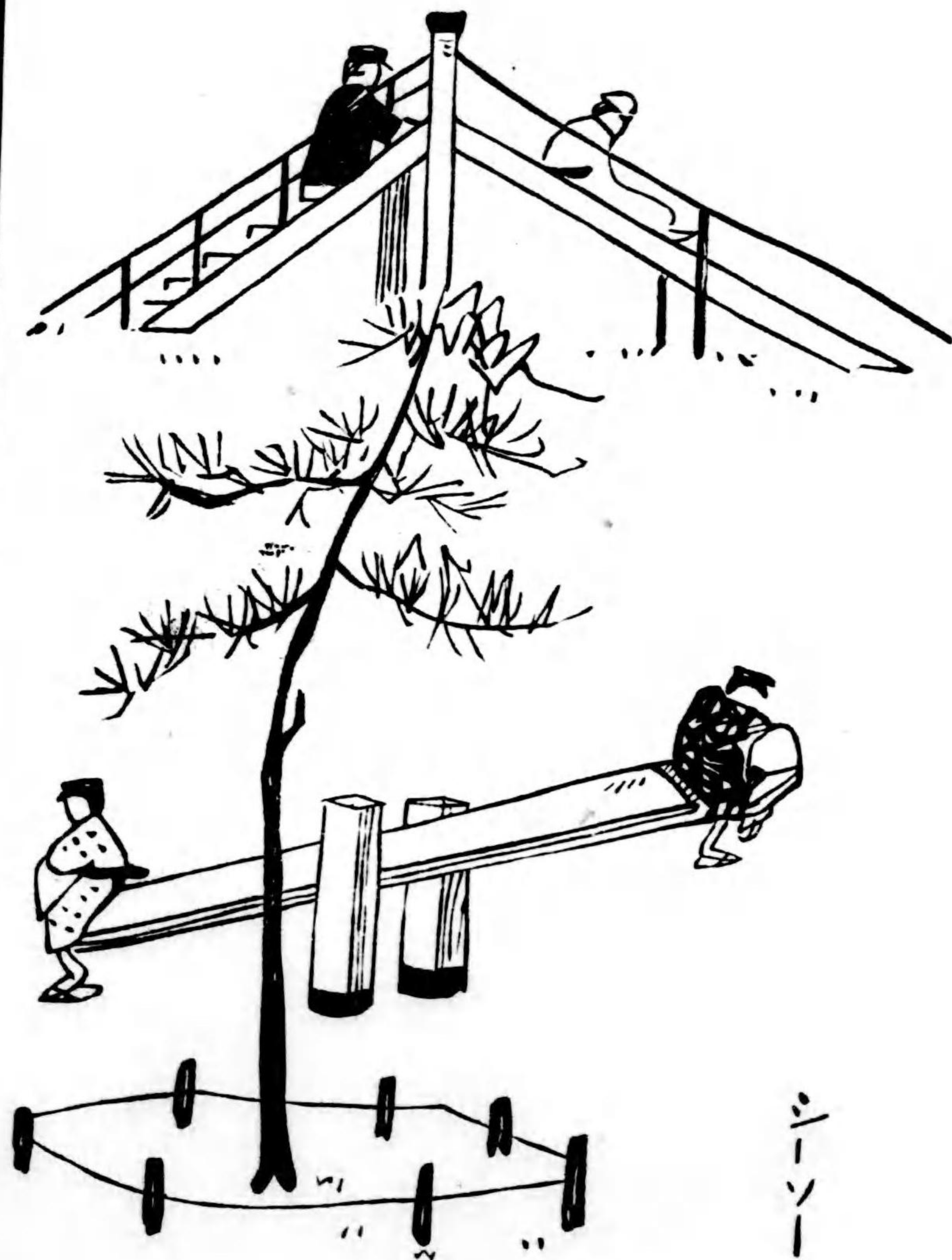
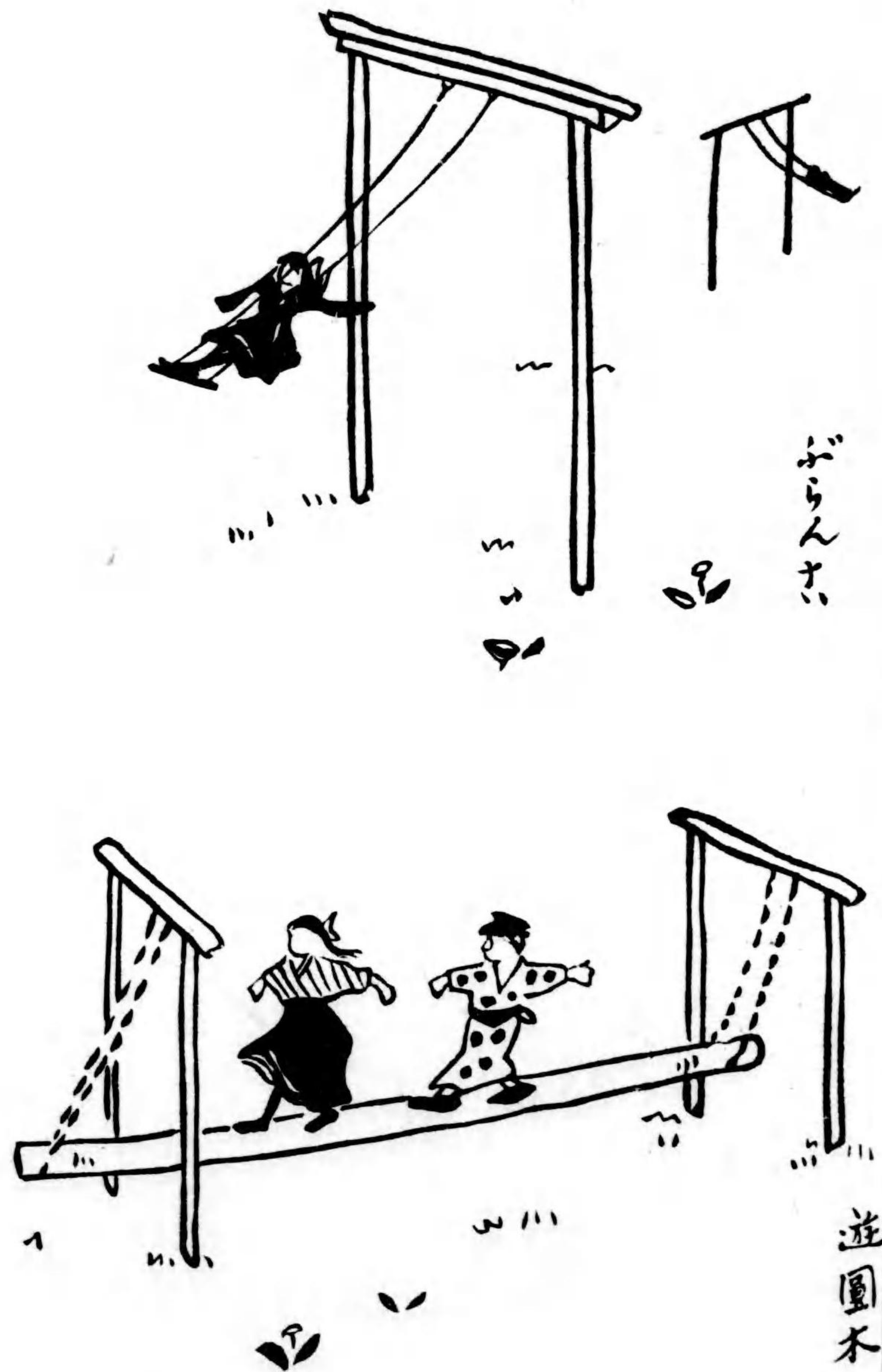
鐵橋の上





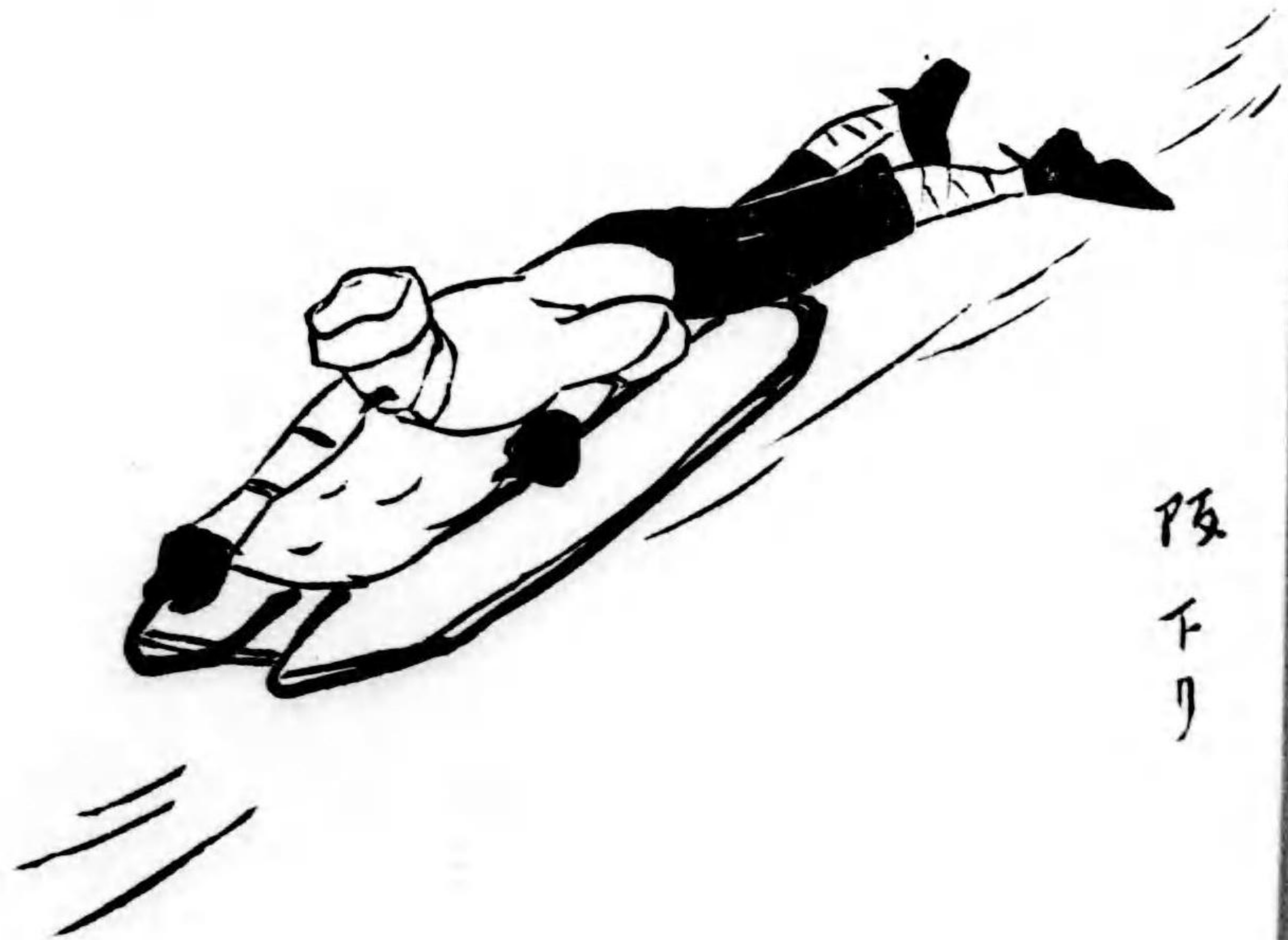
スケーティング







山  
から  
山へ



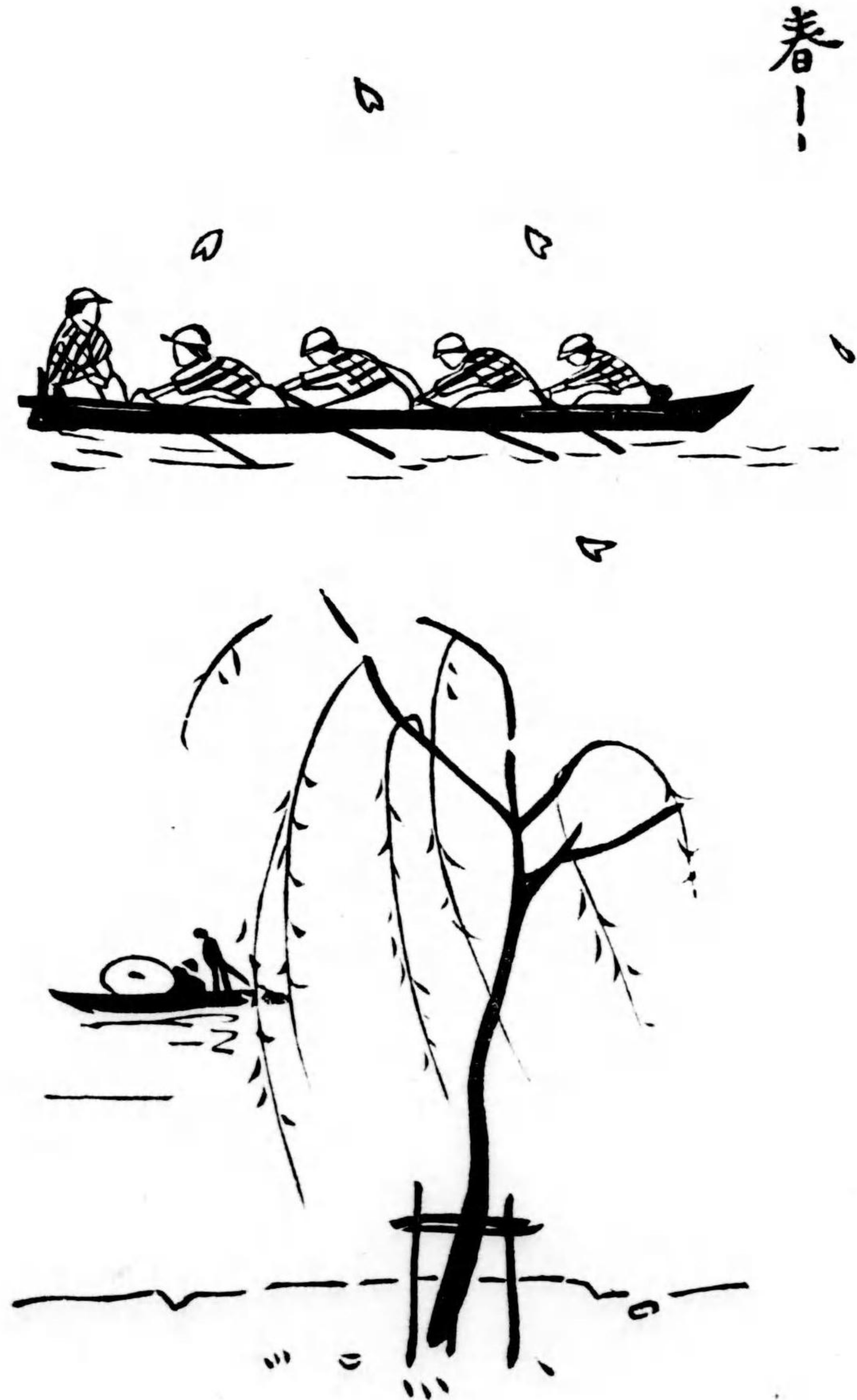
坂  
下  
り

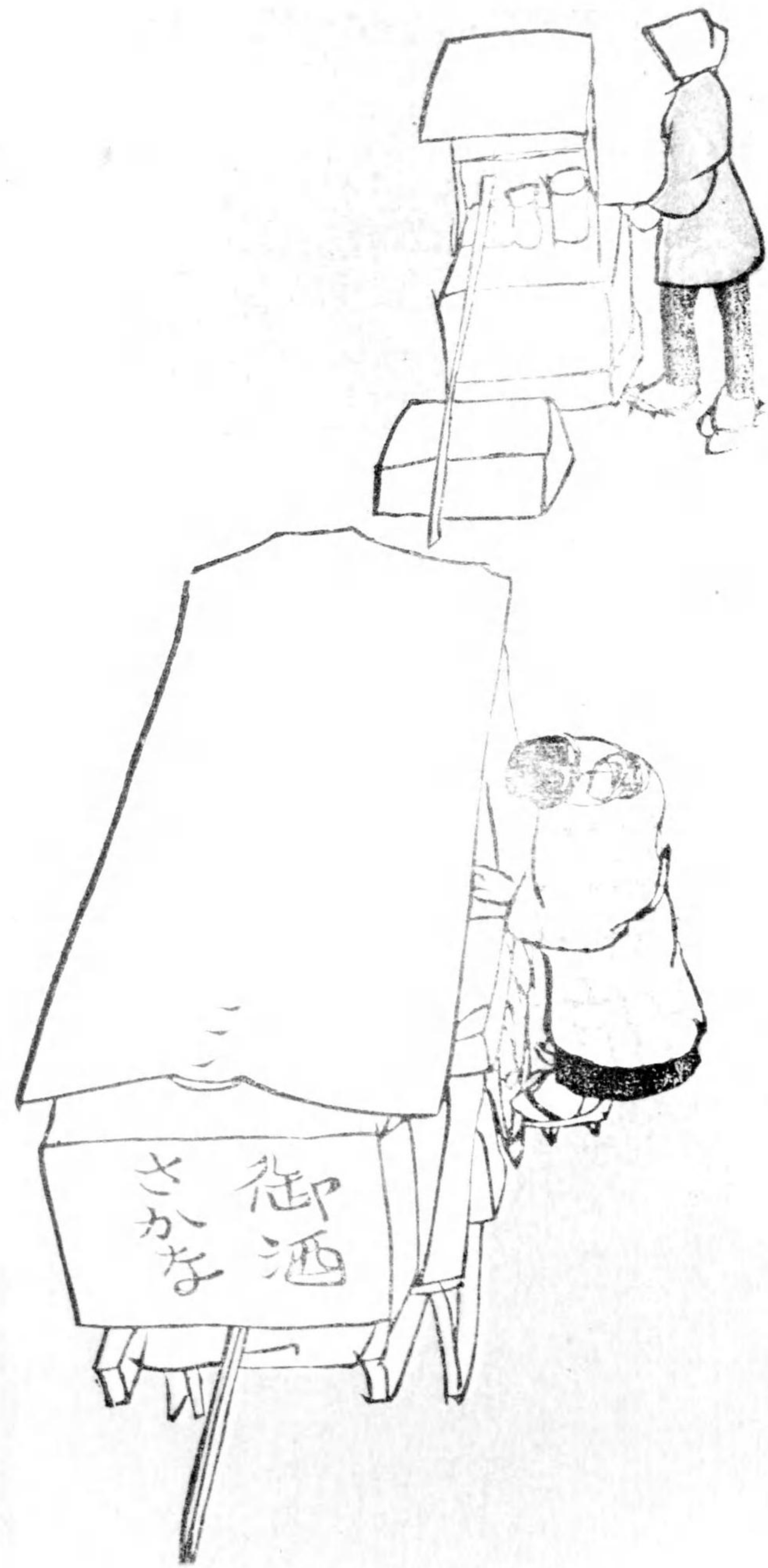


雪  
の  
上  
を

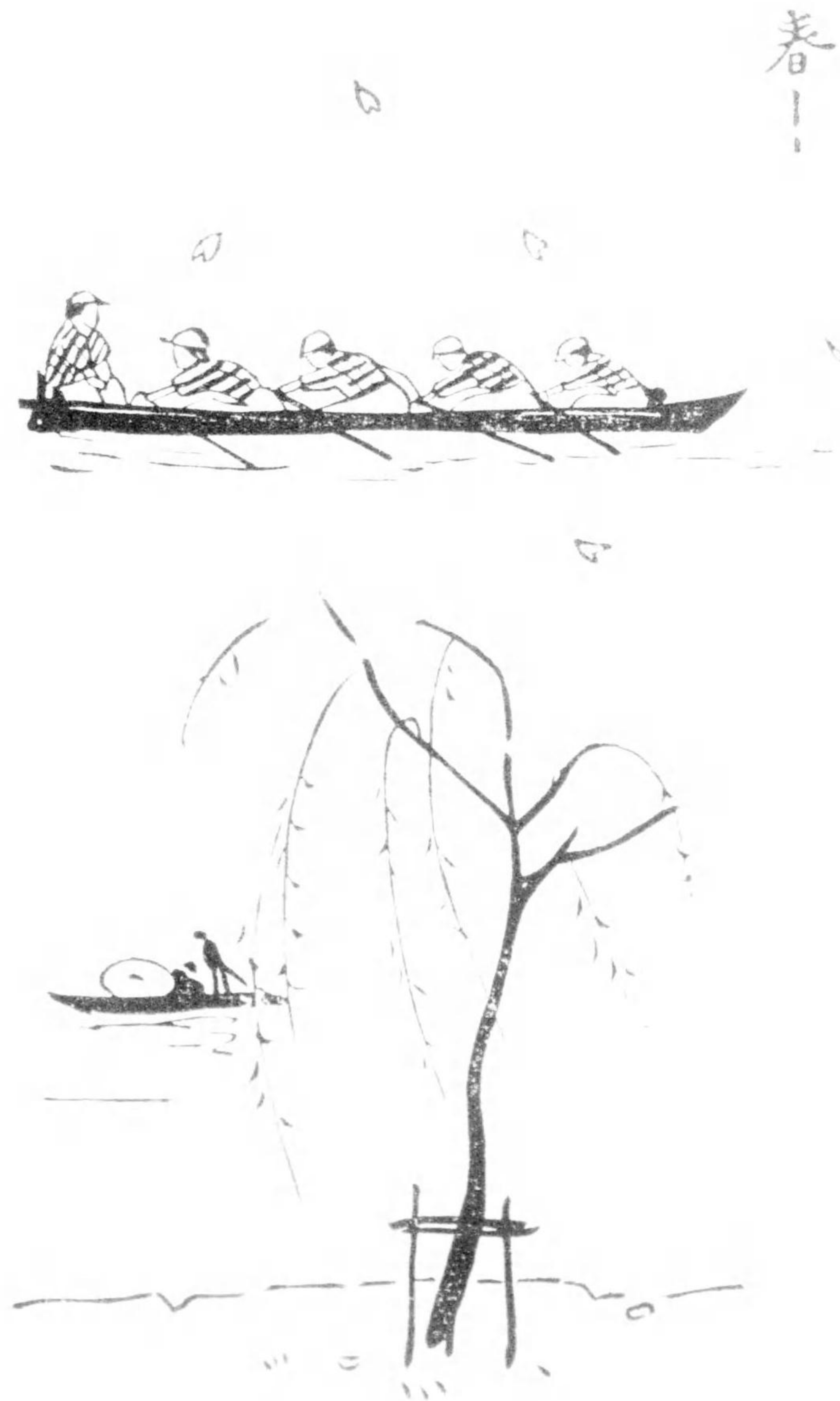


草原の土し店





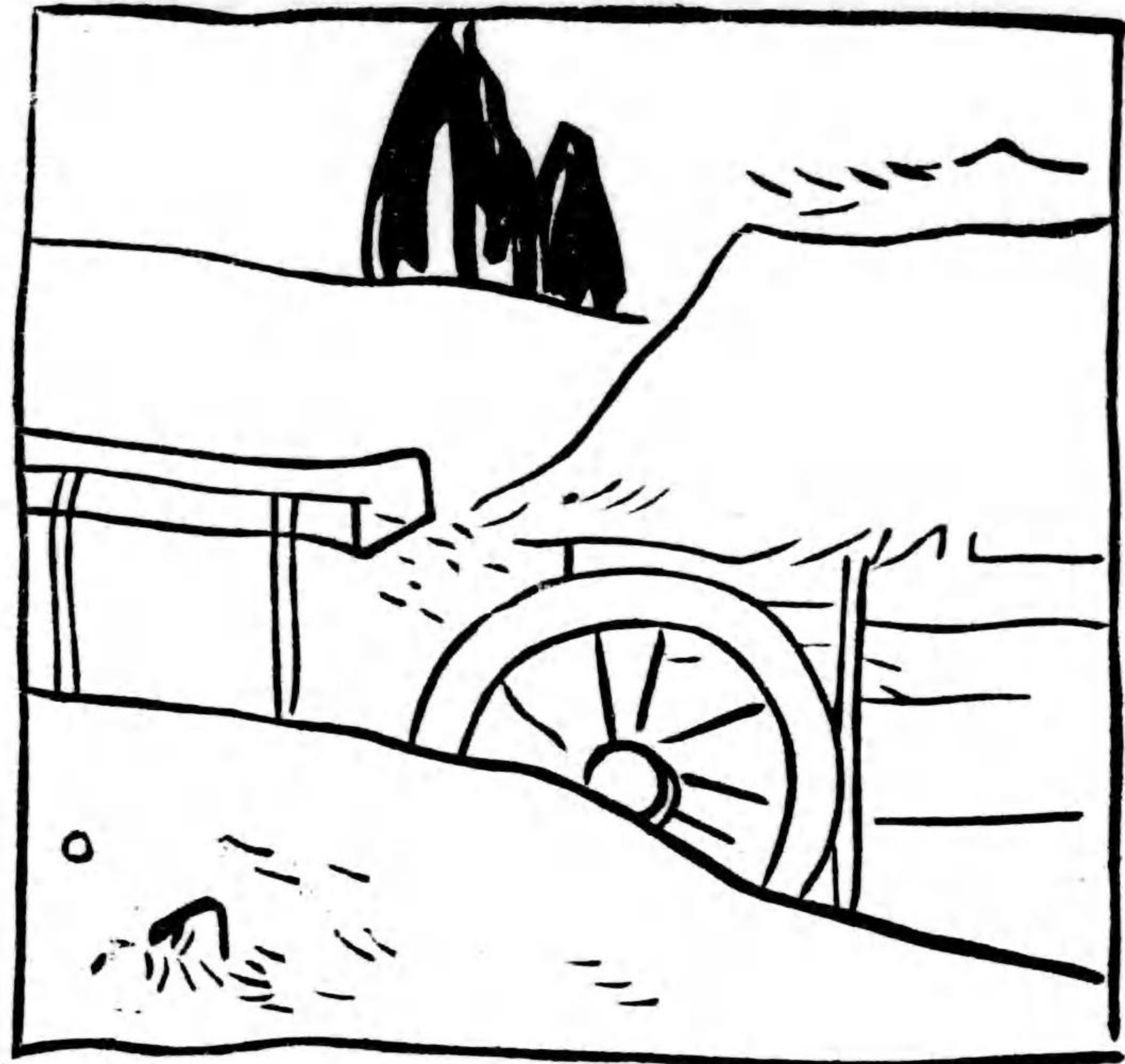
草原のせし店



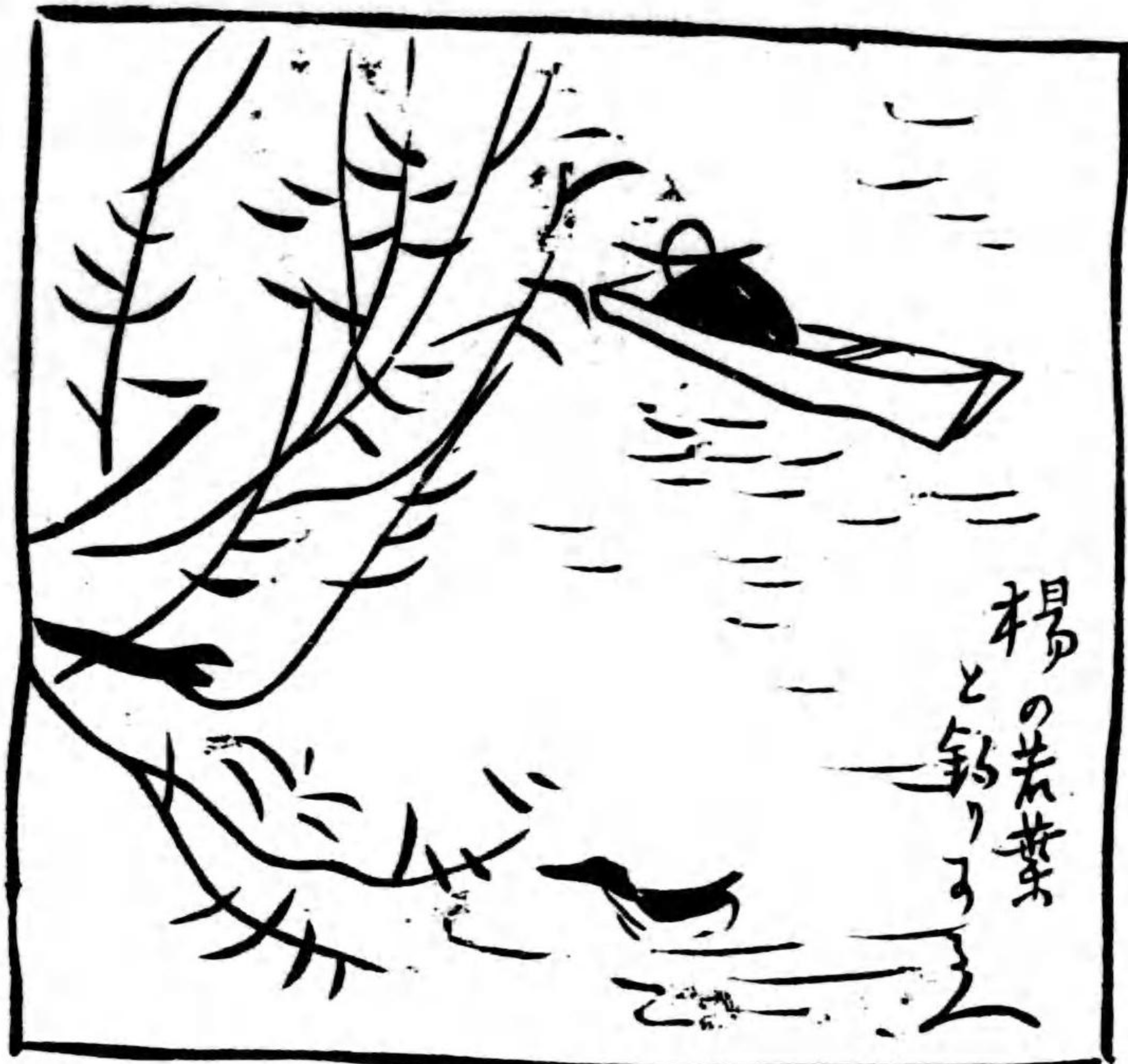




五月の田舎みち



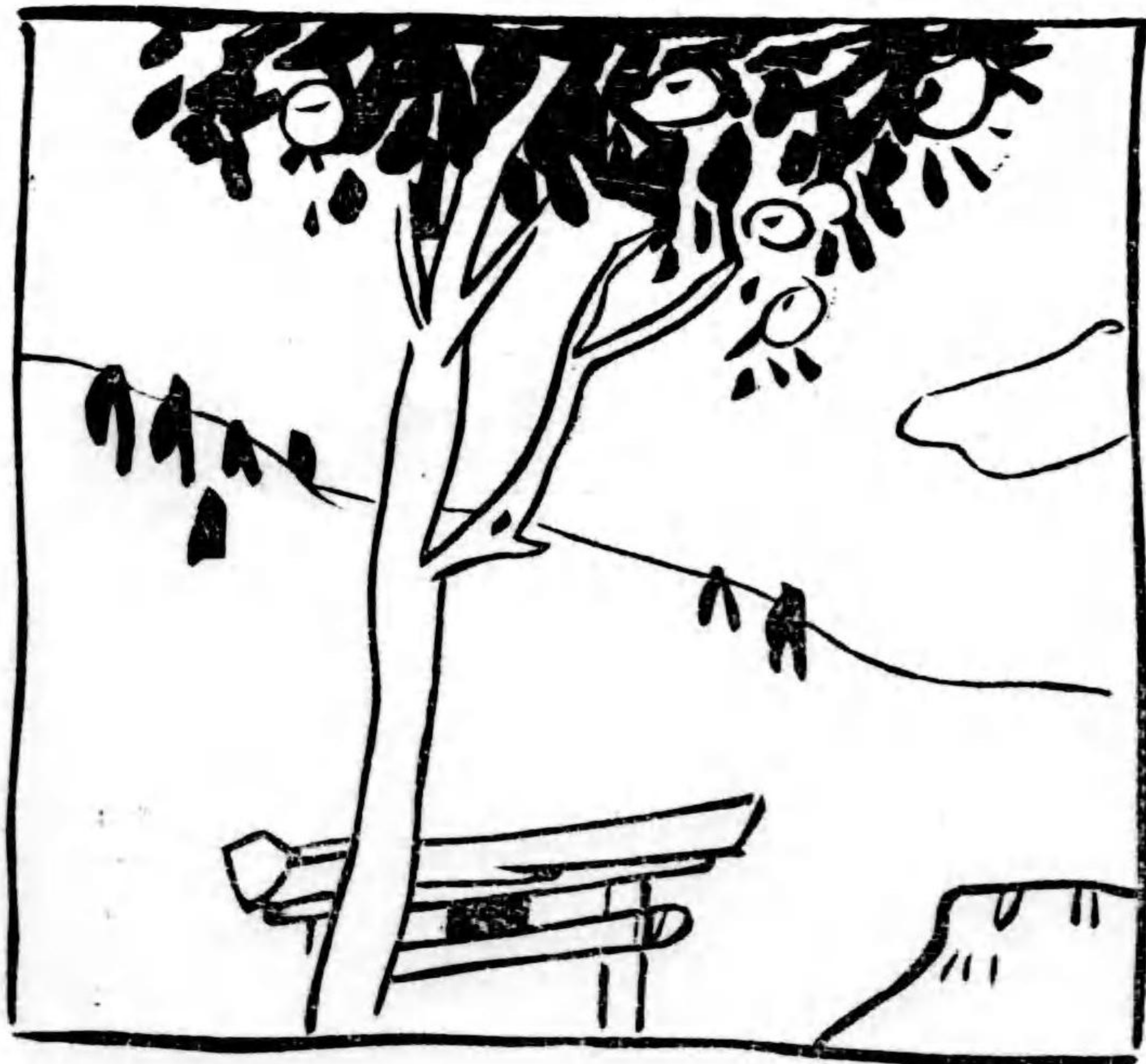
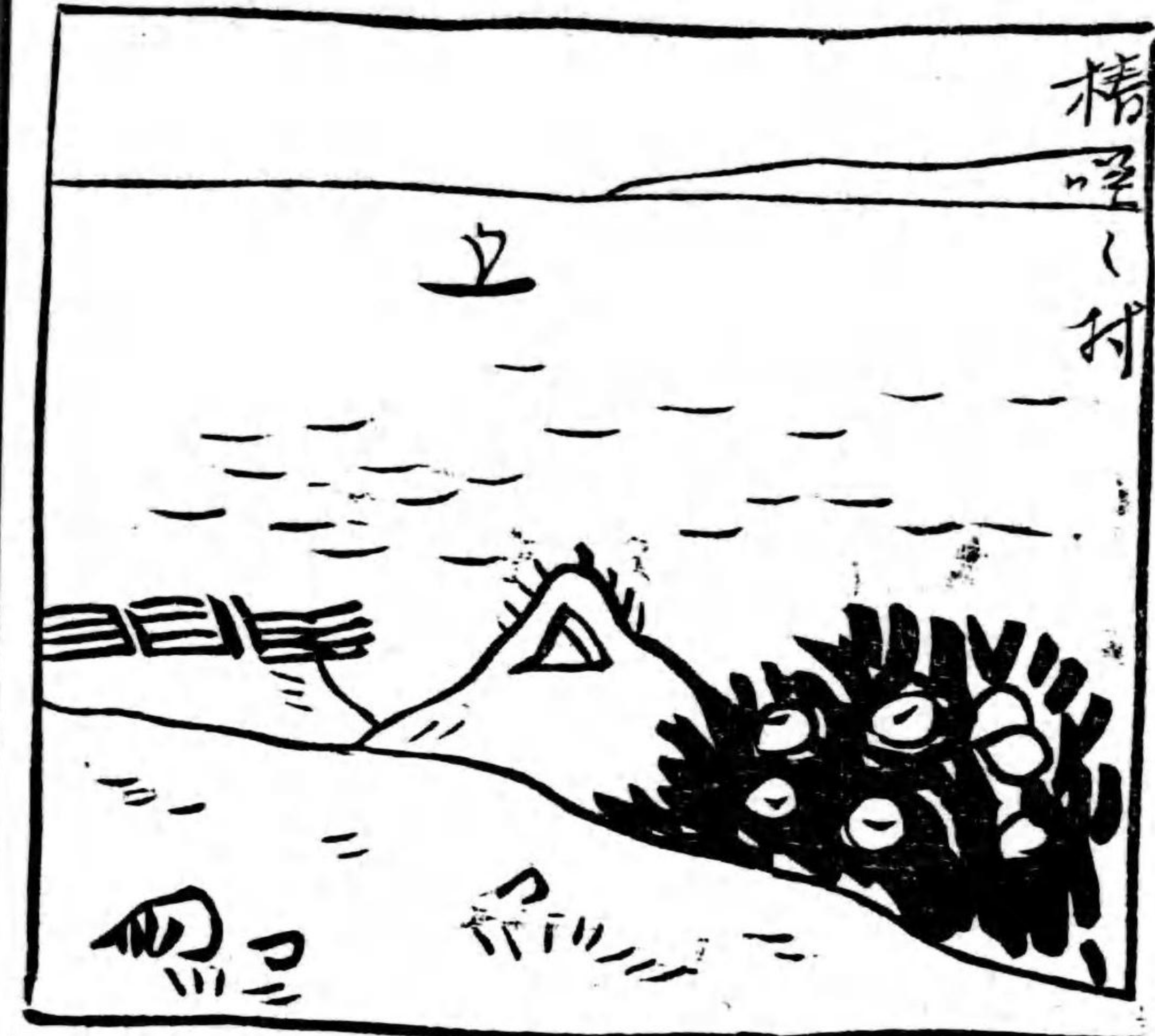
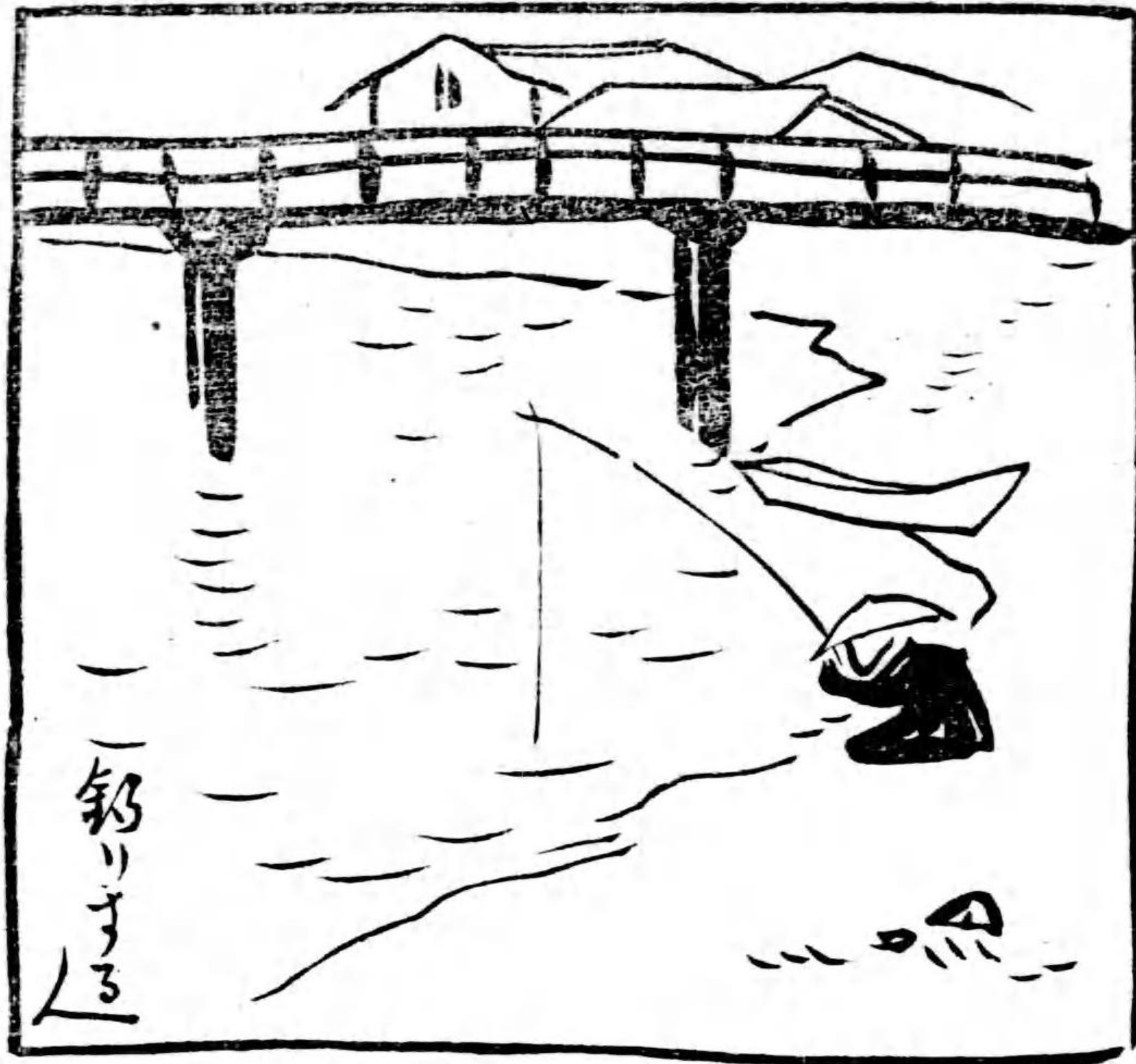
麓へ行い道

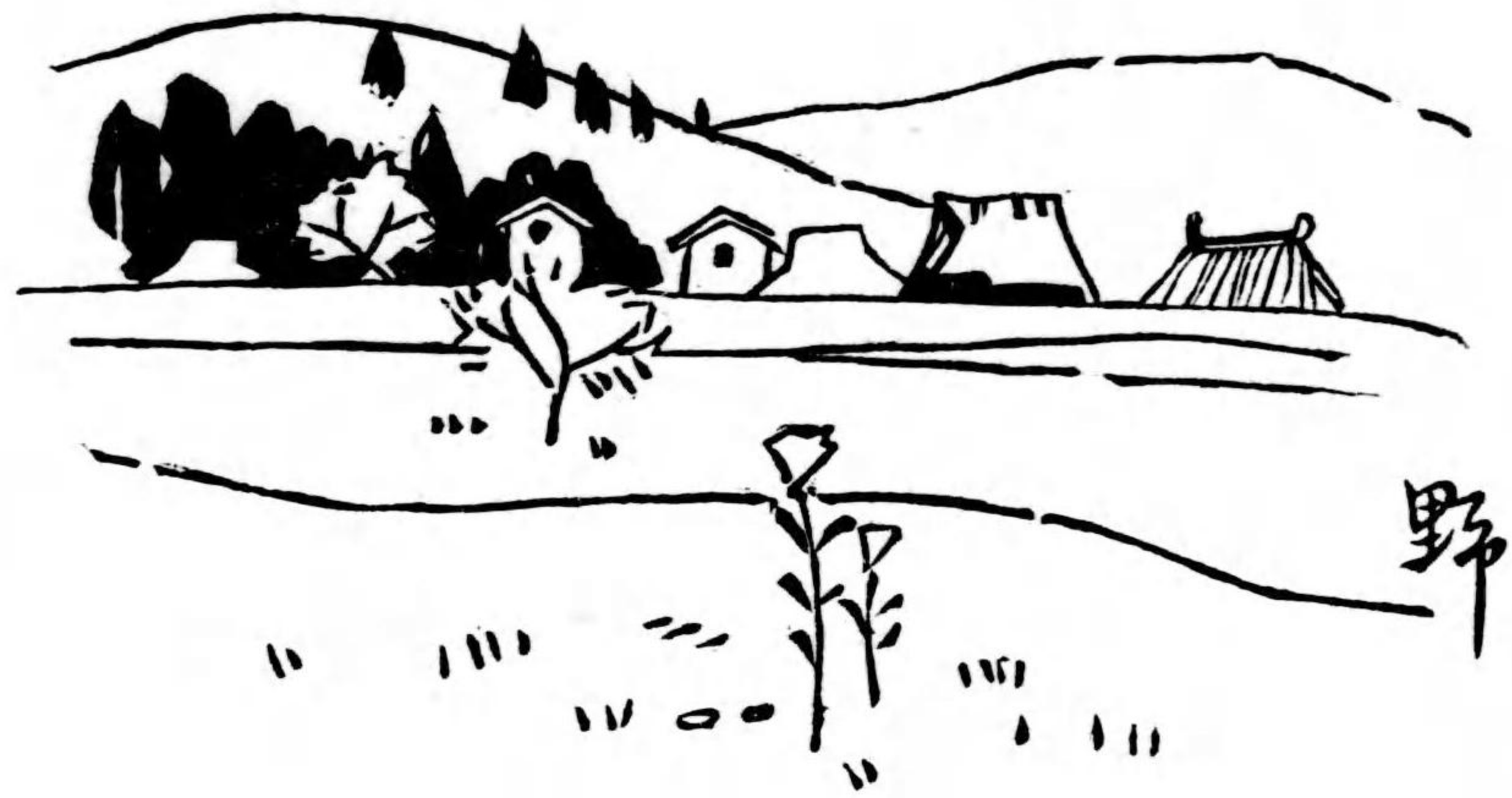


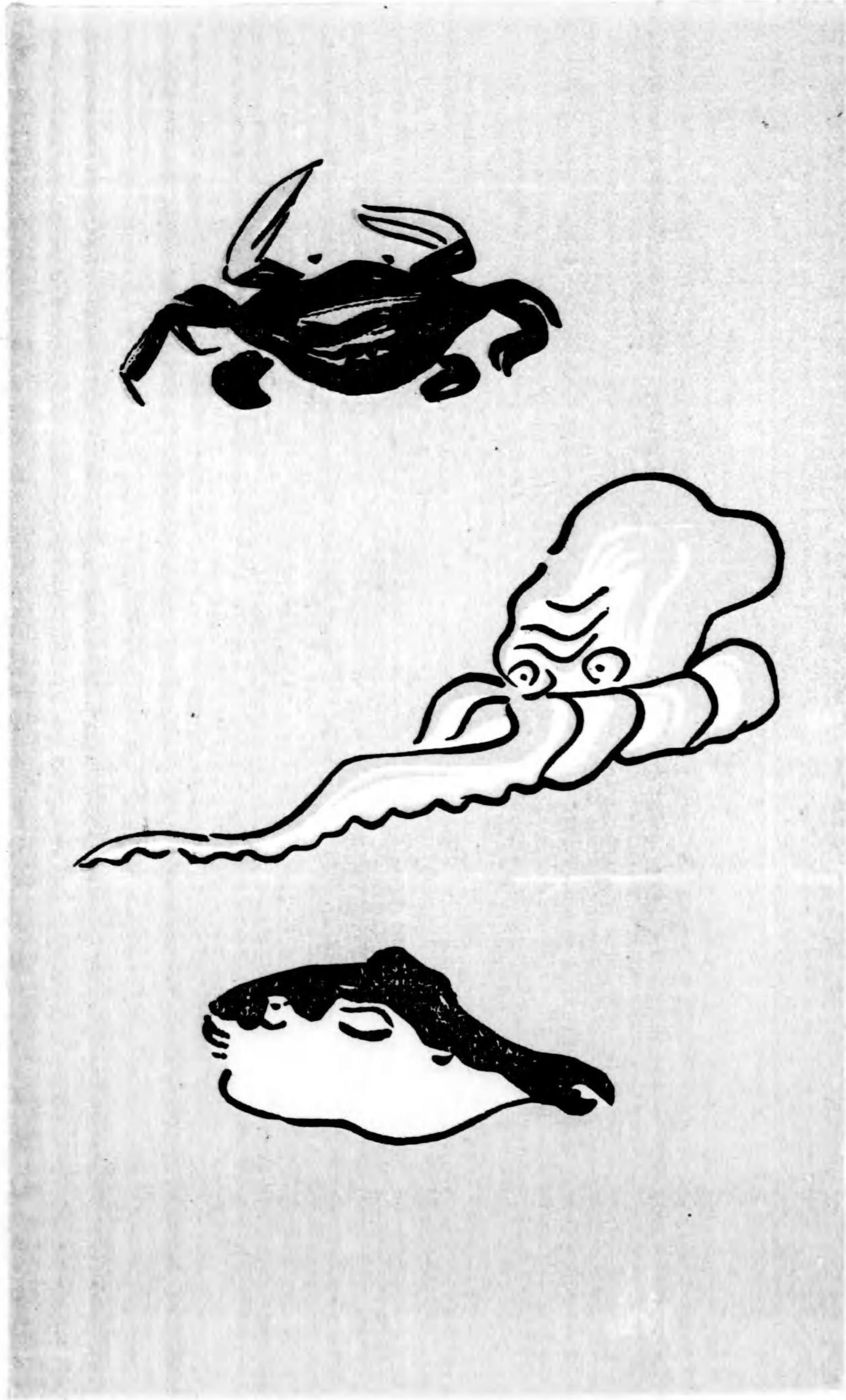
楊の若葉  
と釣るる



癒りて行  
村







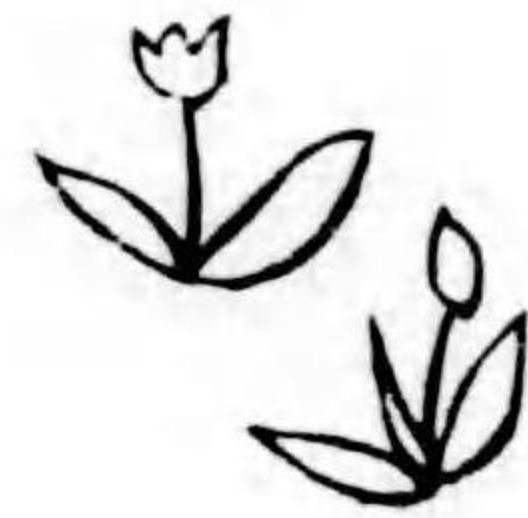
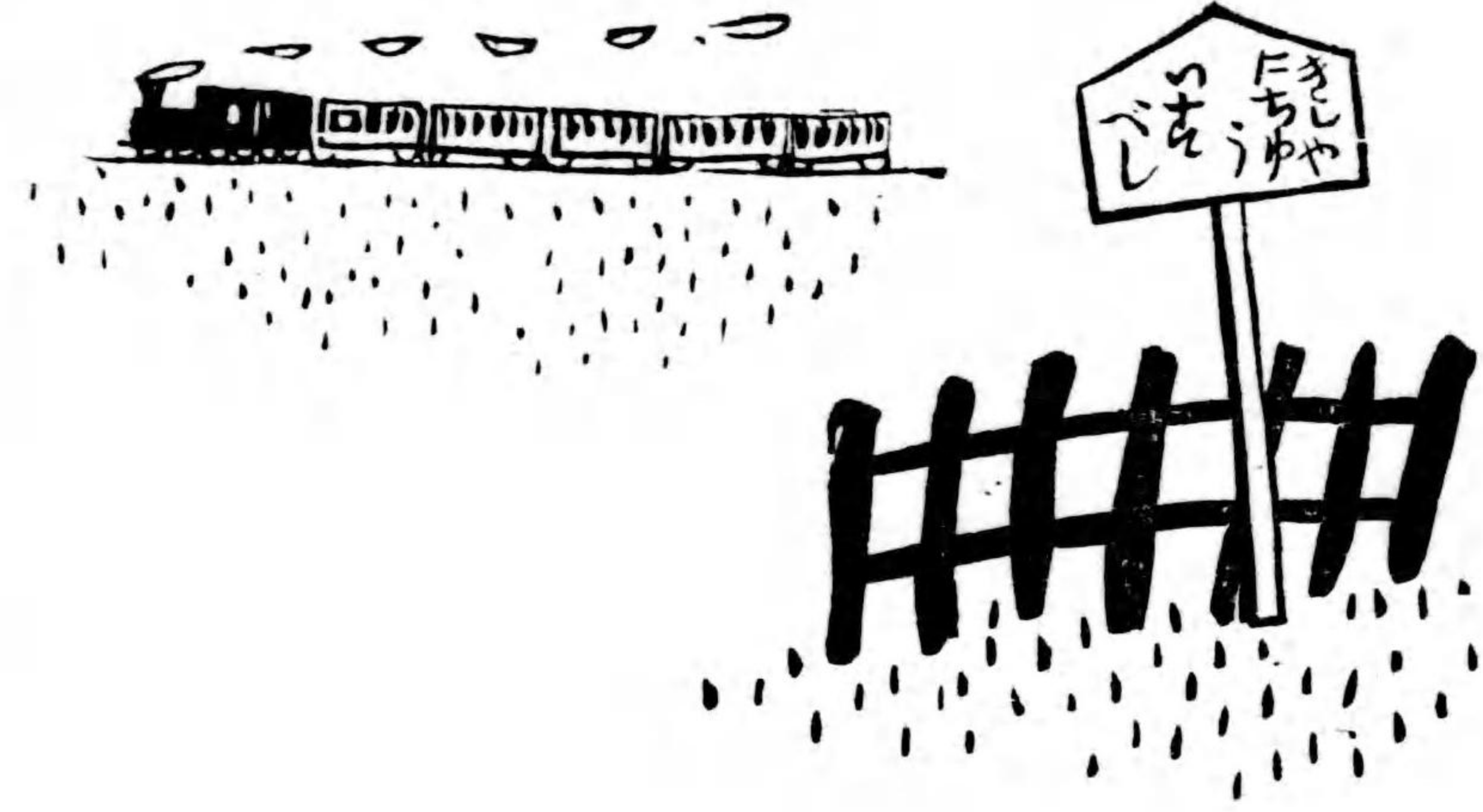
志摩の海辺

子供

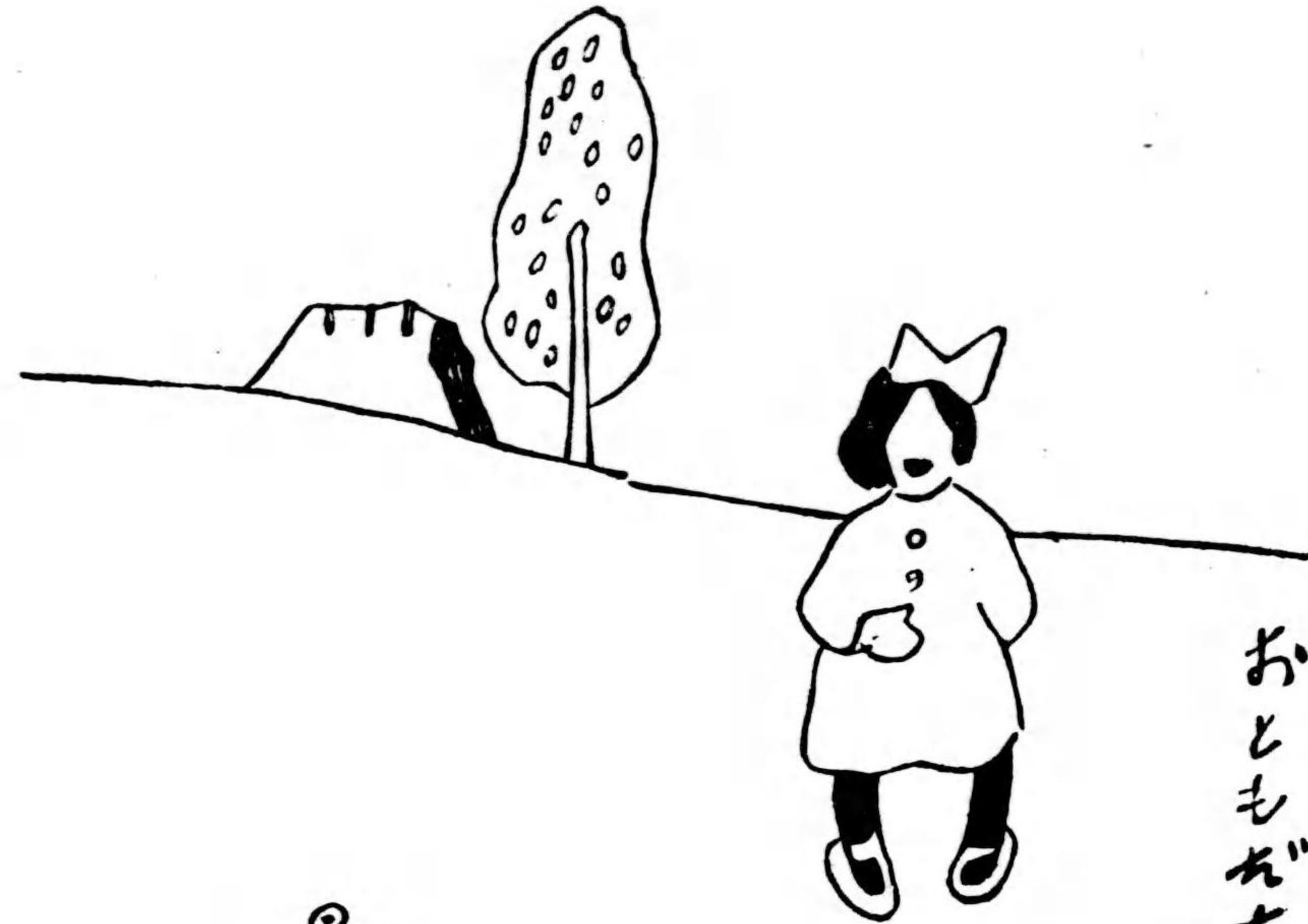




飛行機のおそび



汽車が通る  
煙を吐ってポーンと



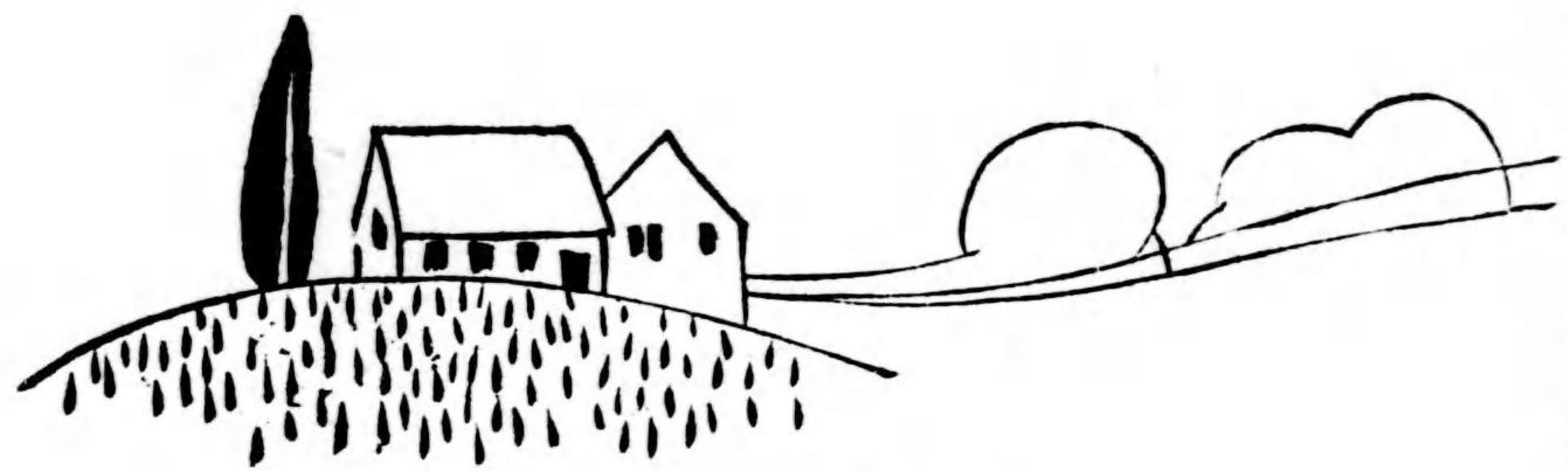
おともだち



飛行機のおえび







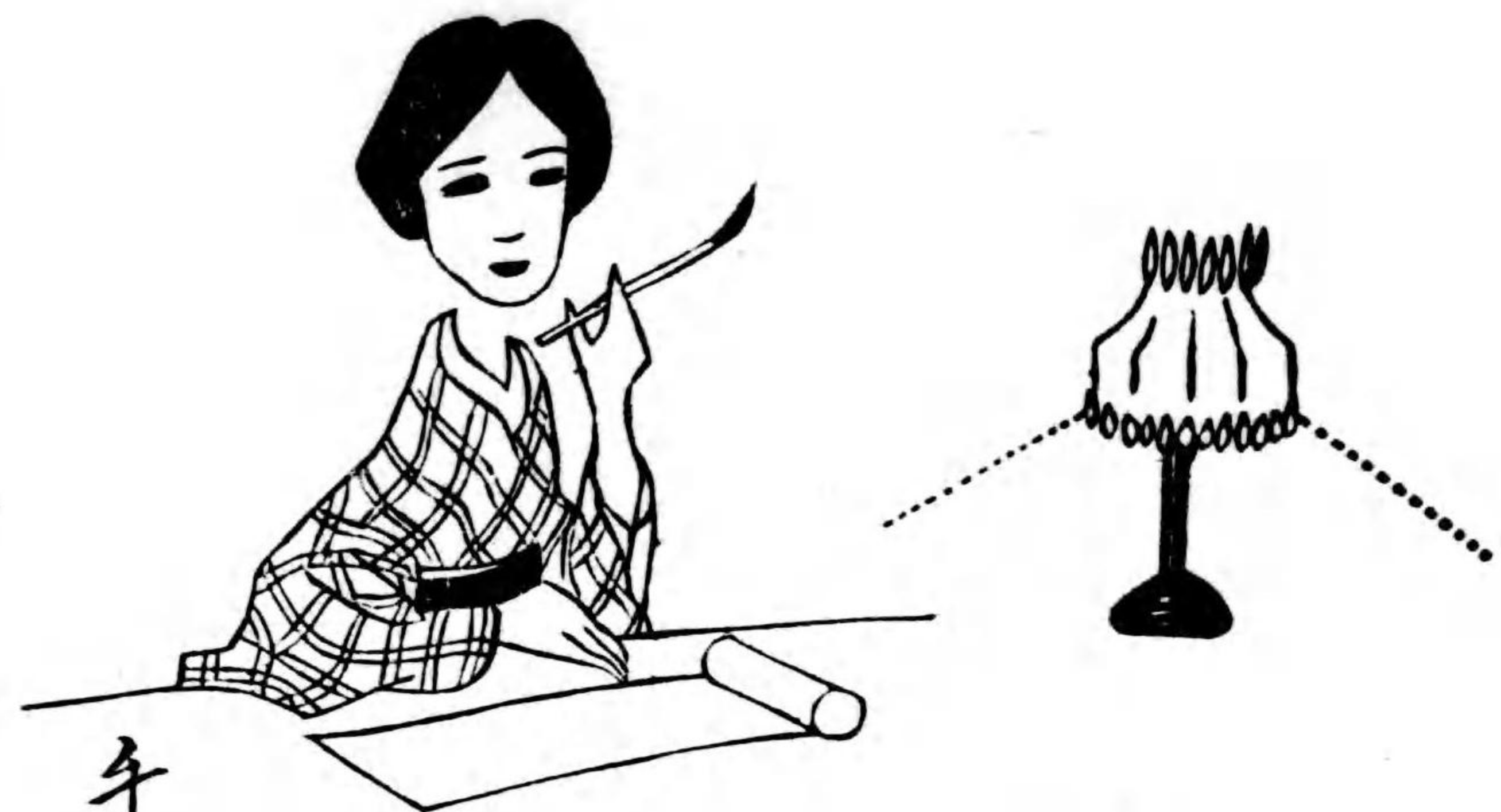
学生



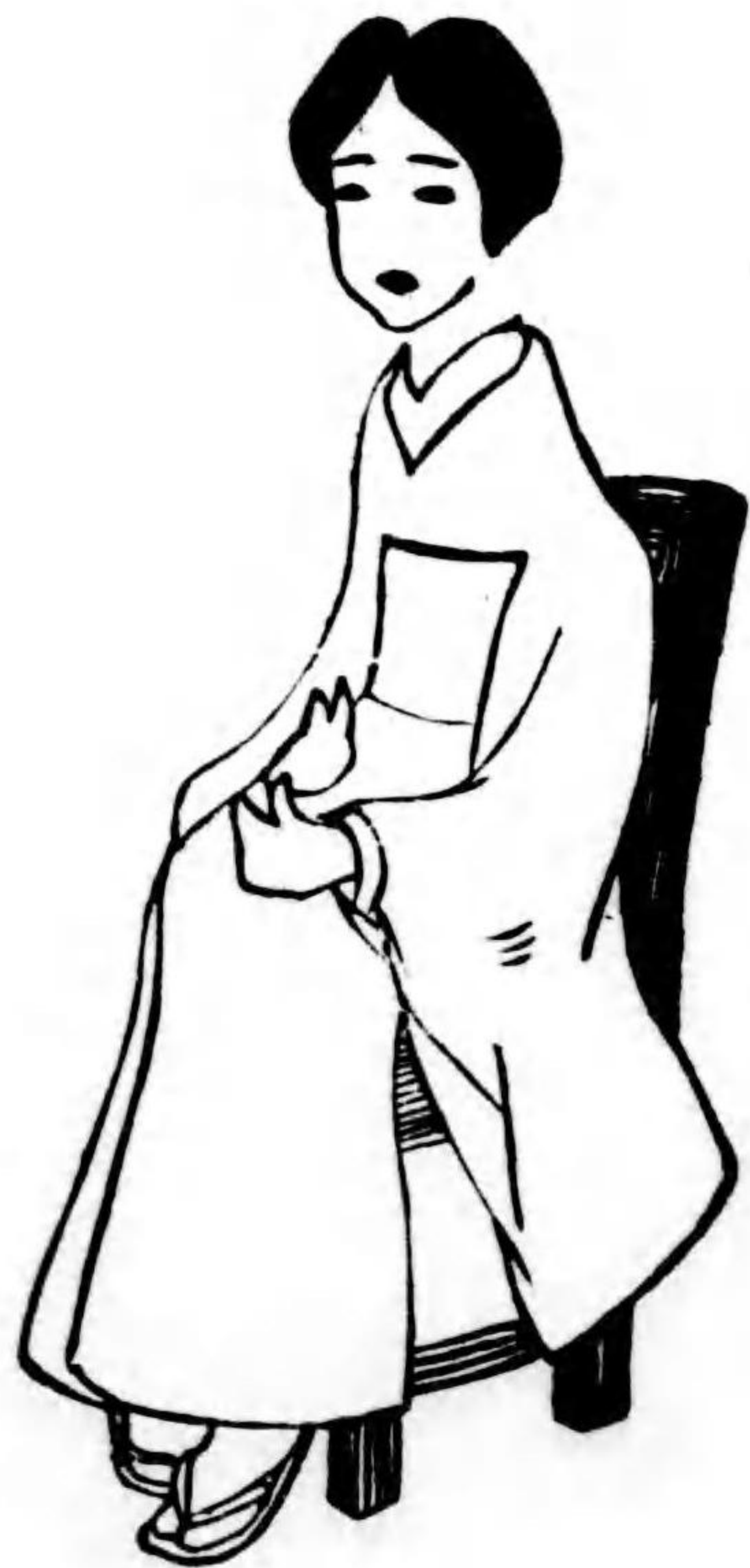
往來の人



立番所  
巡査



手紙



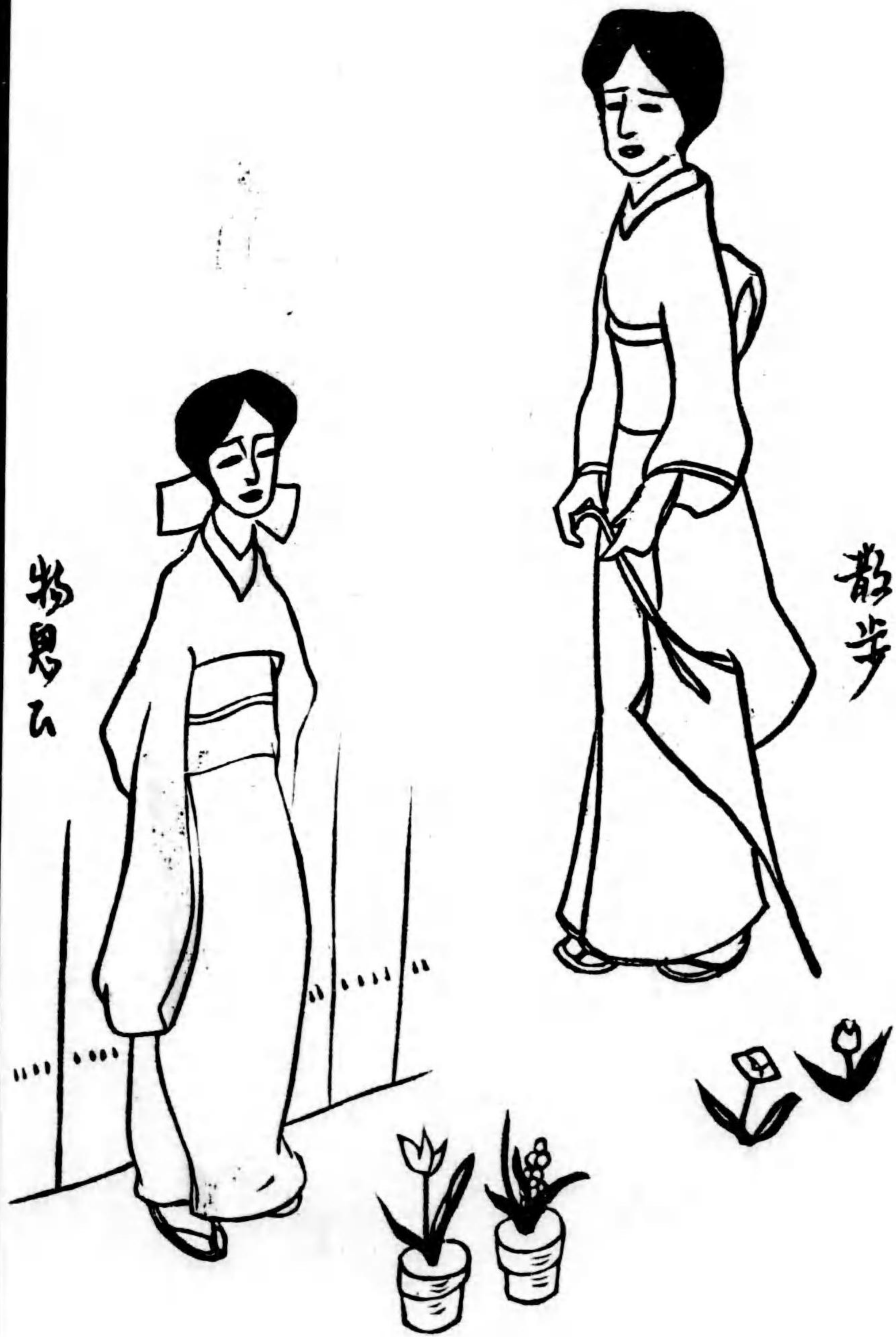
少女

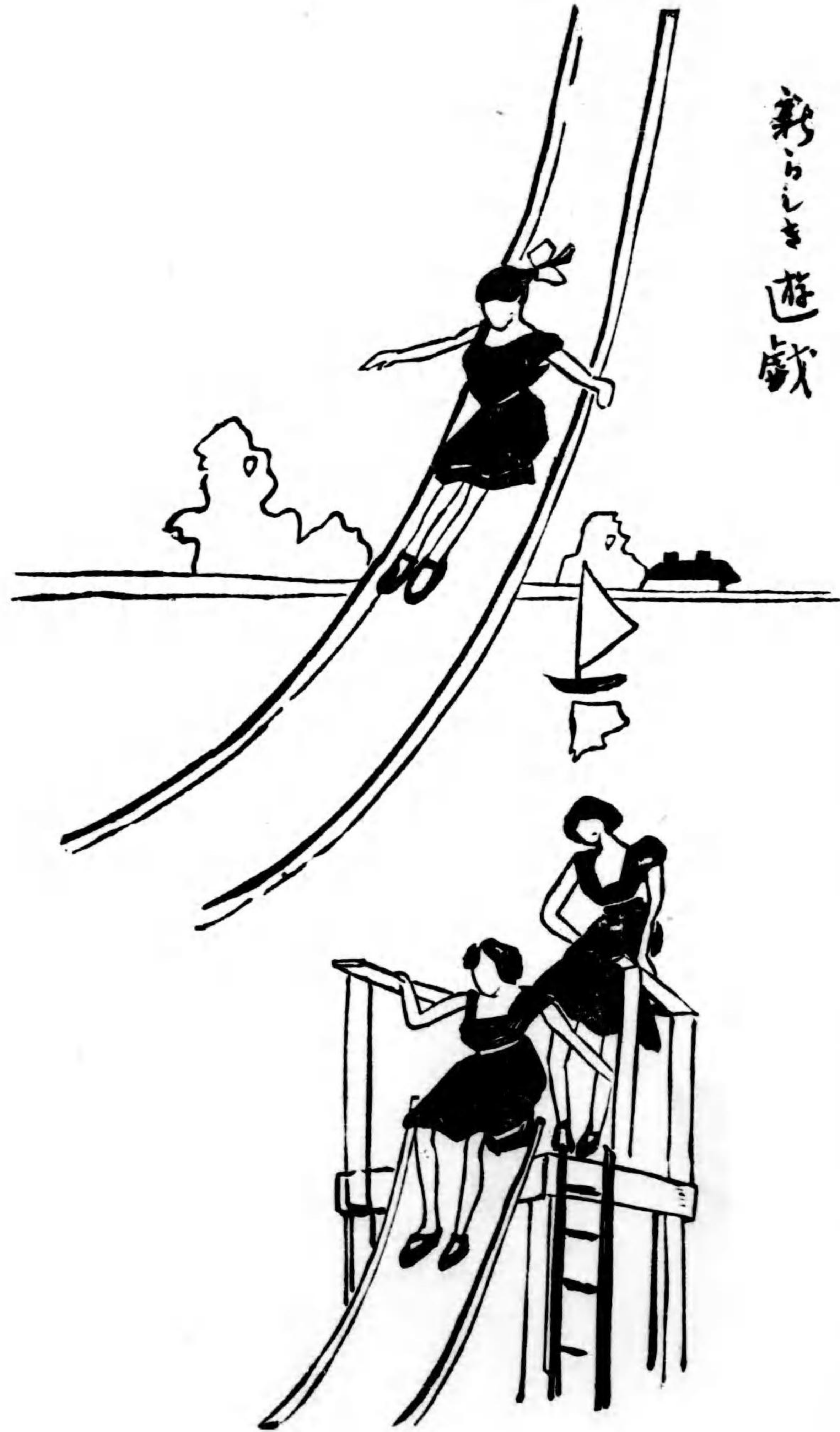


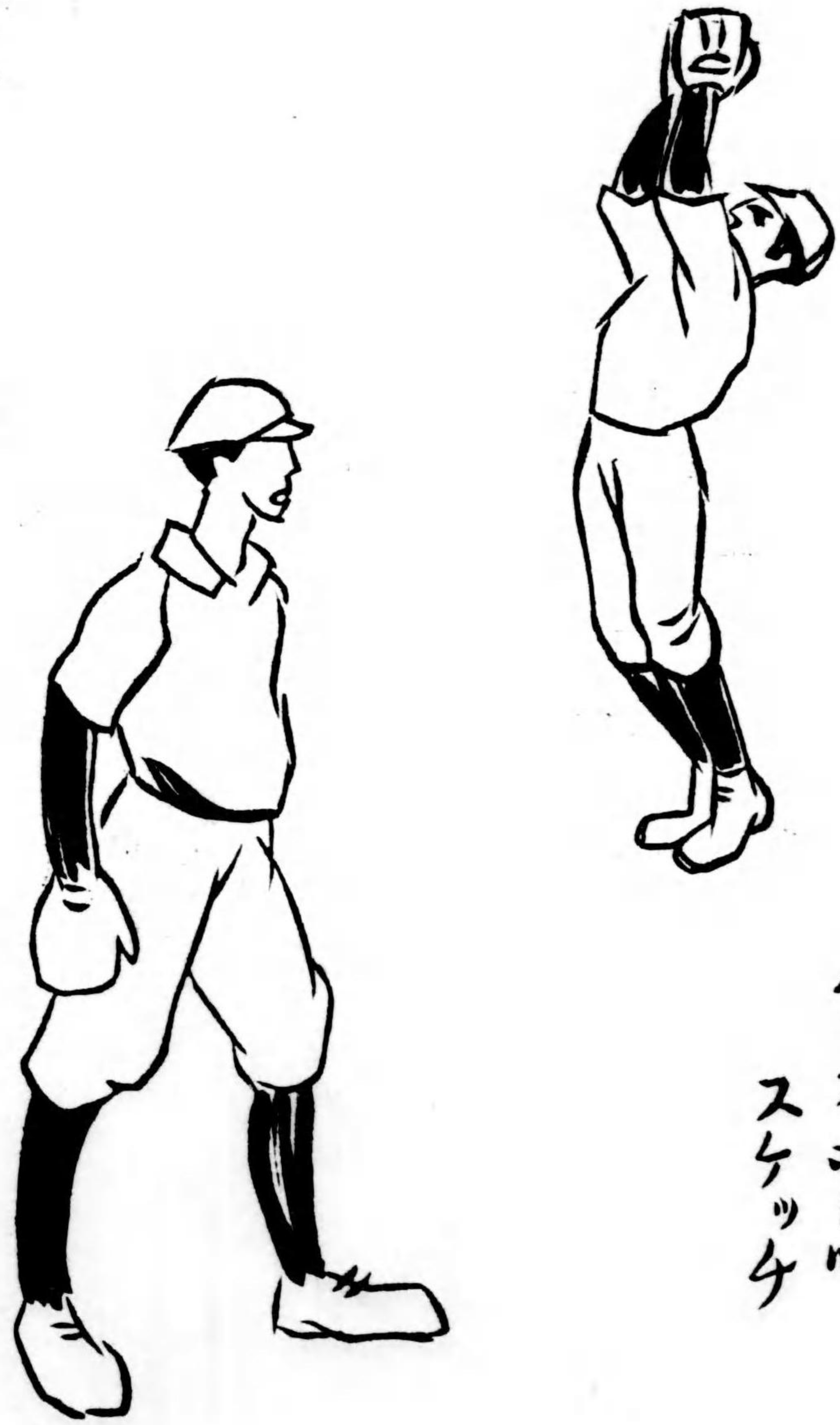
カフェーにて

團扇

ピアノを弾く少女

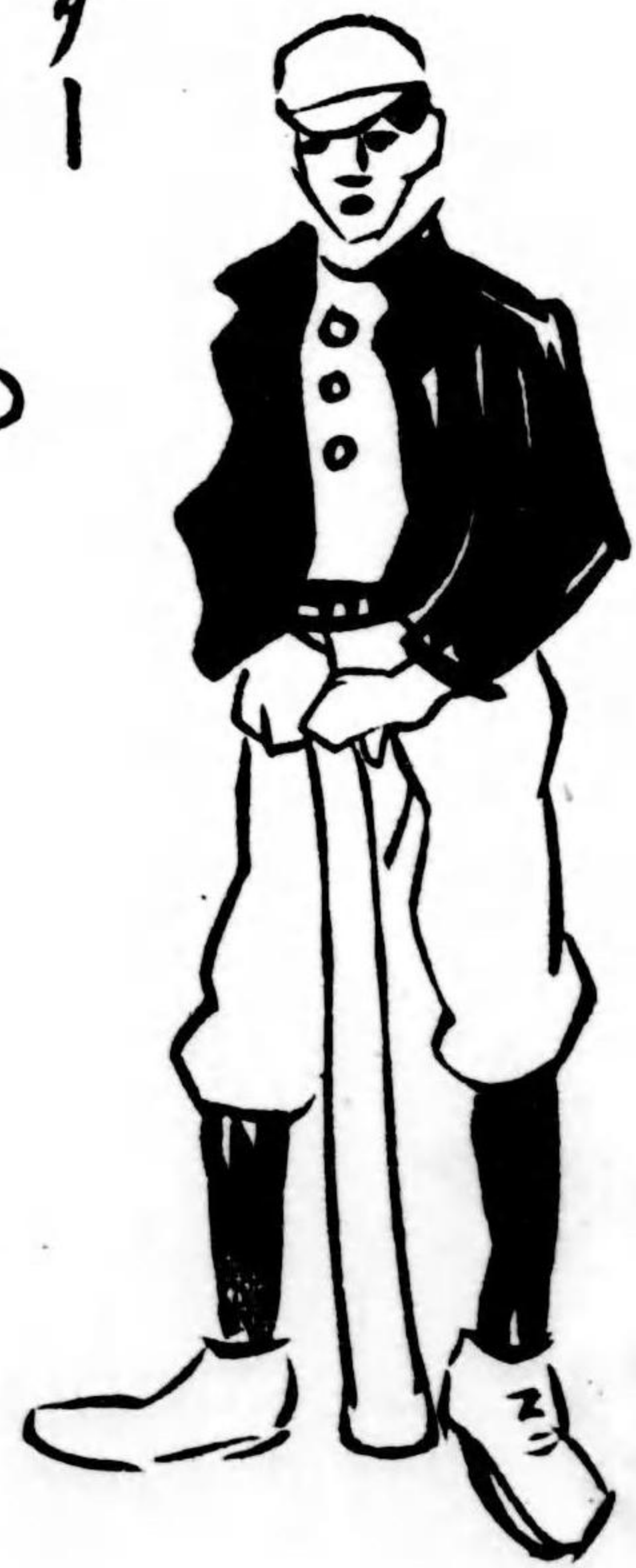




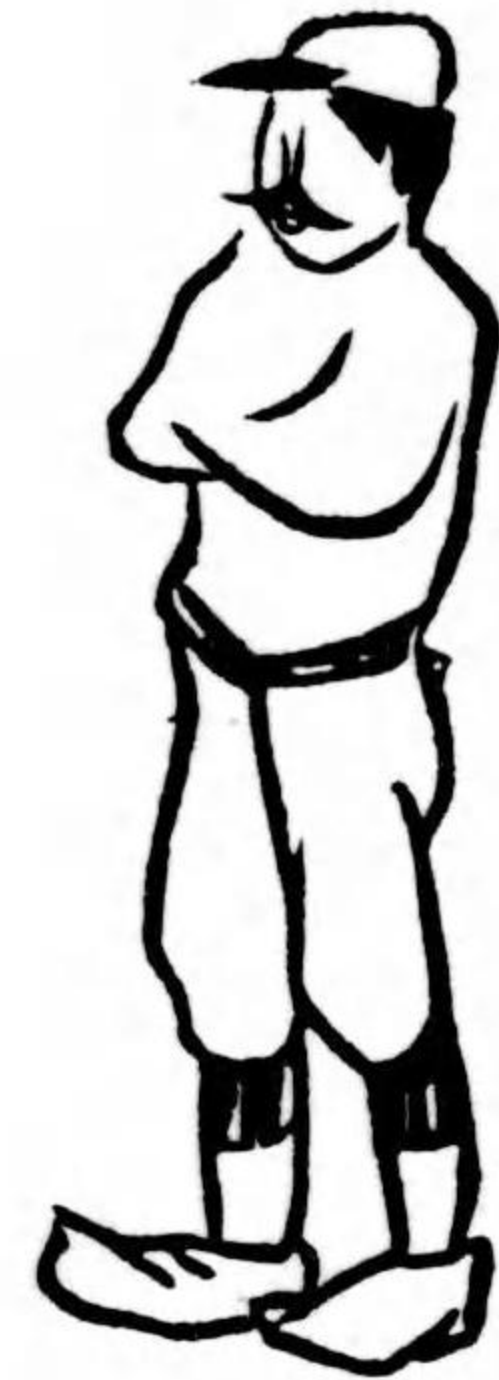




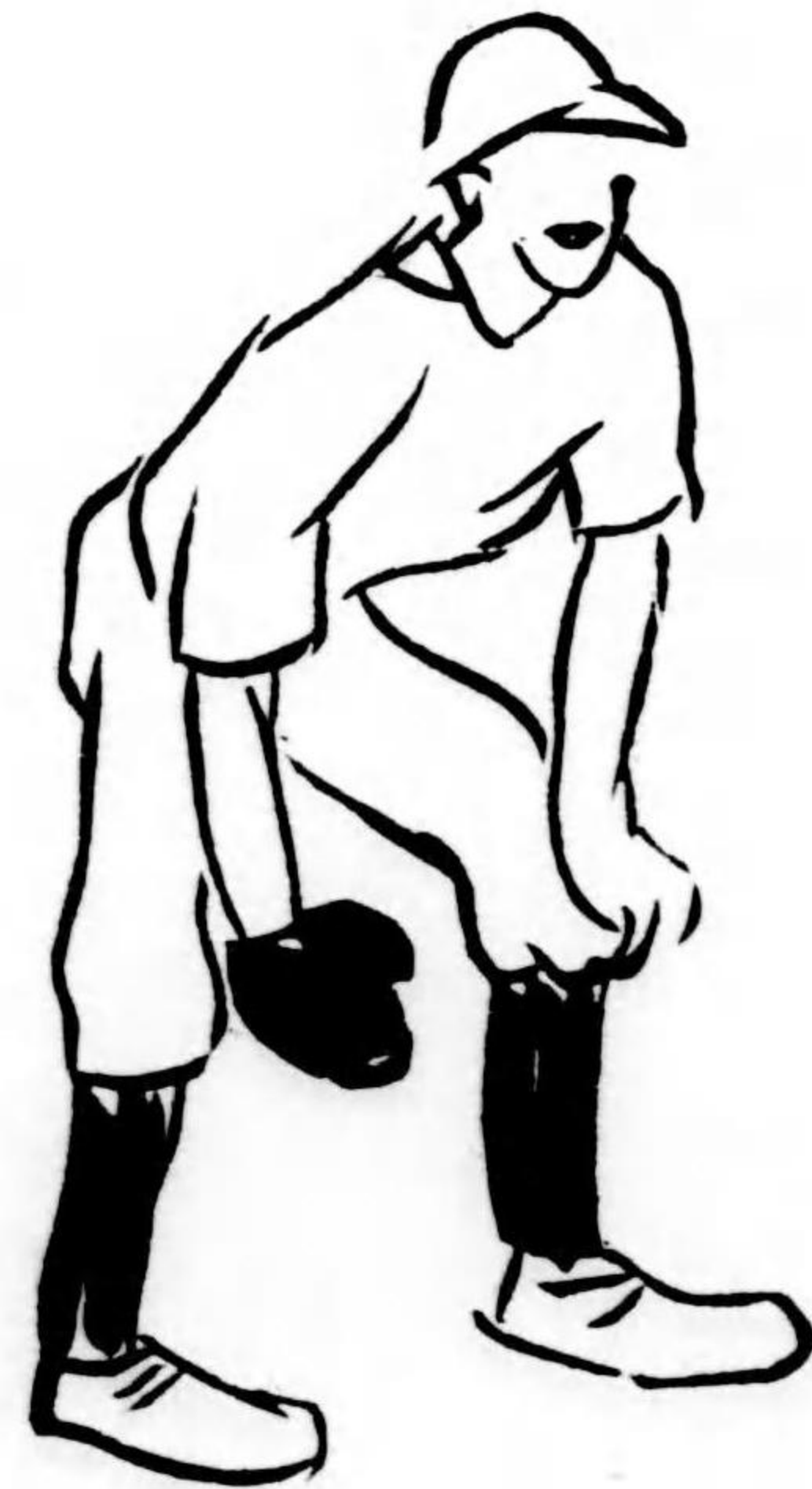
バッター

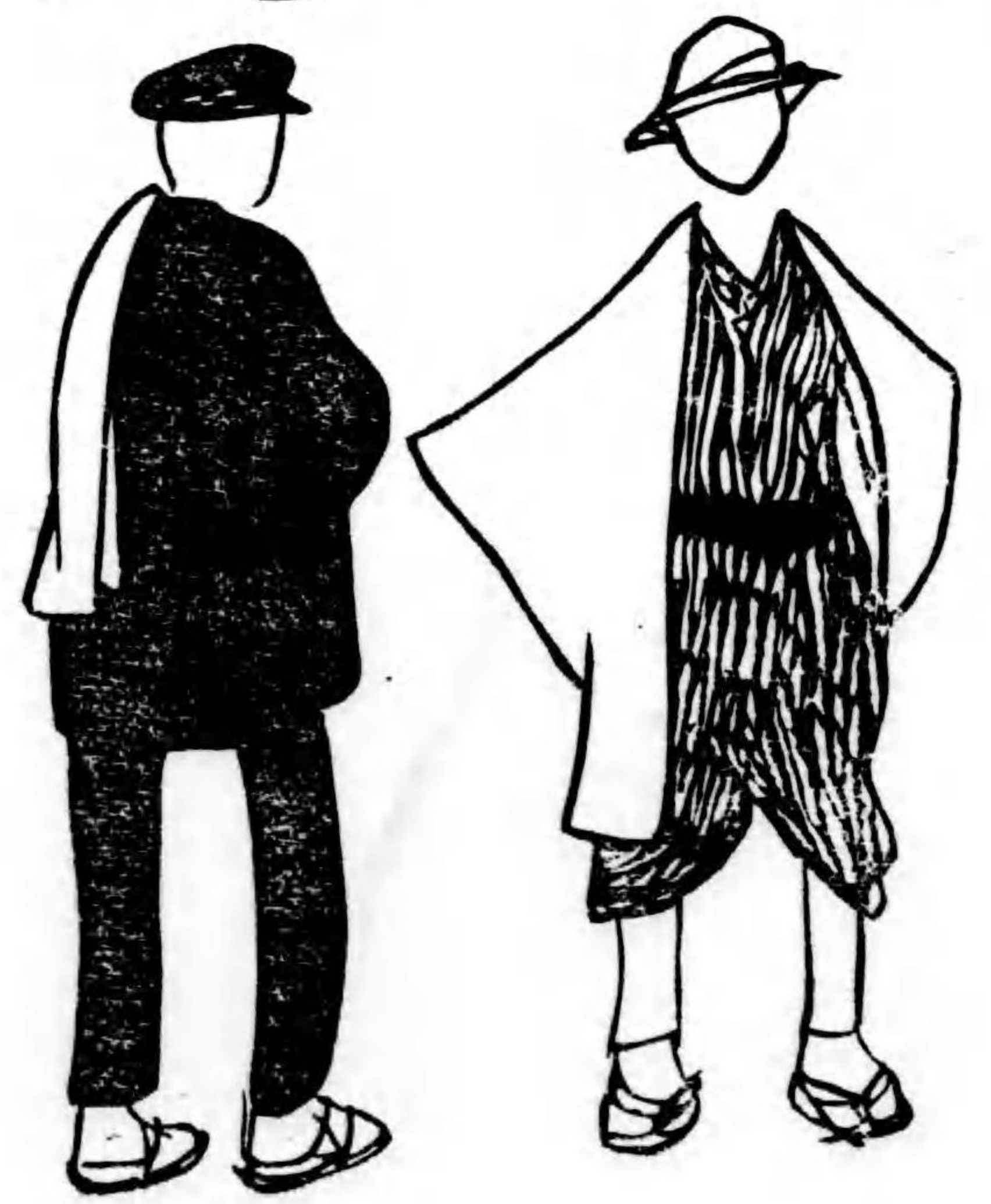


キャッチャー



キャッチャー



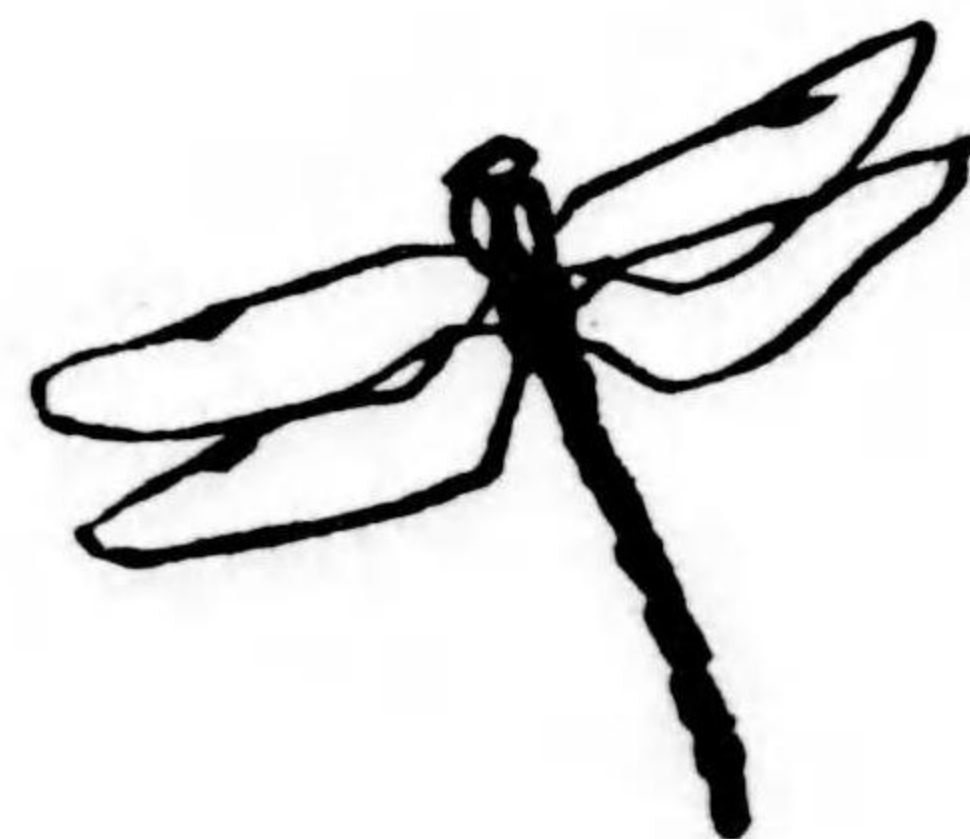
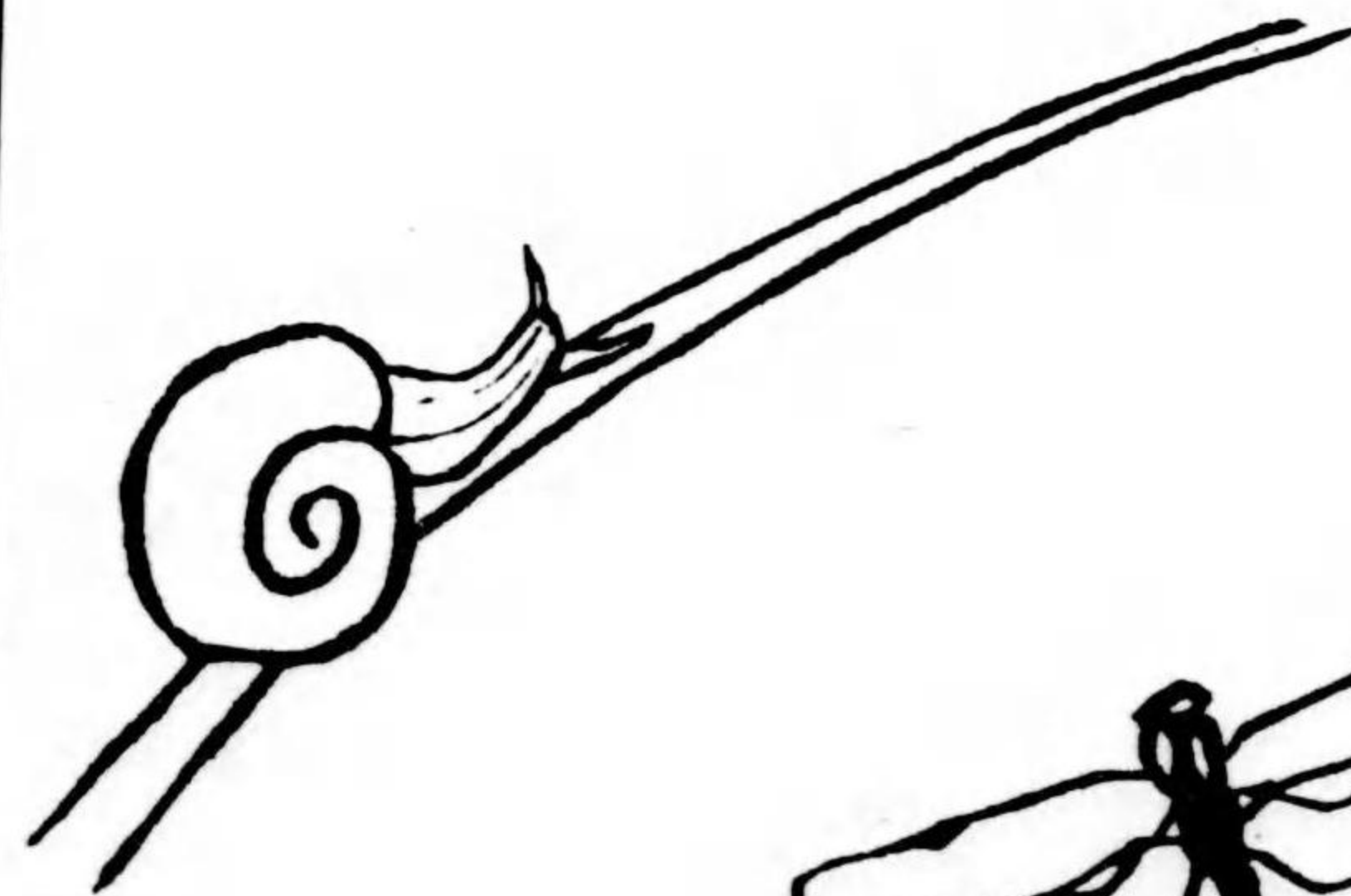
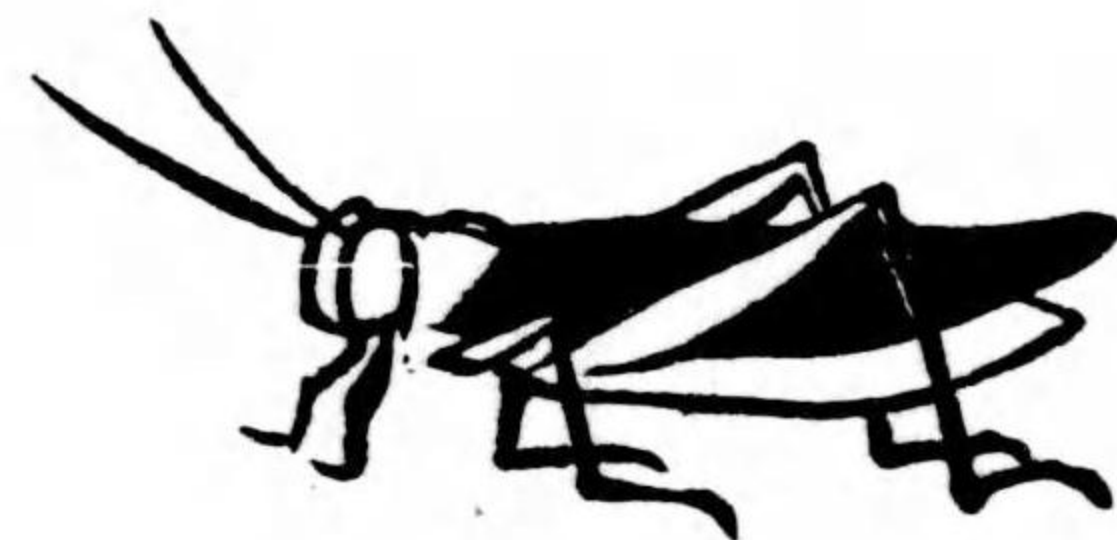
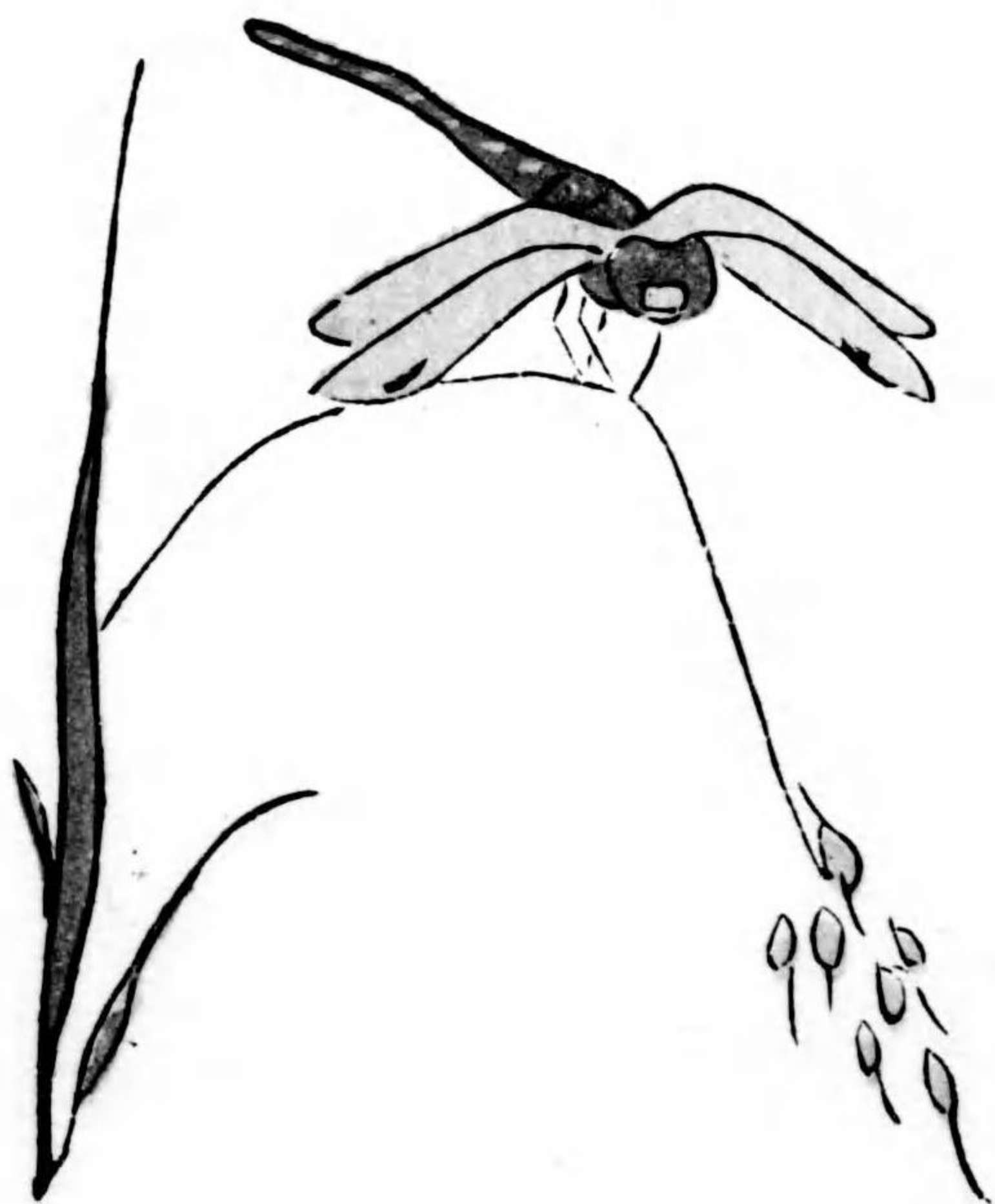
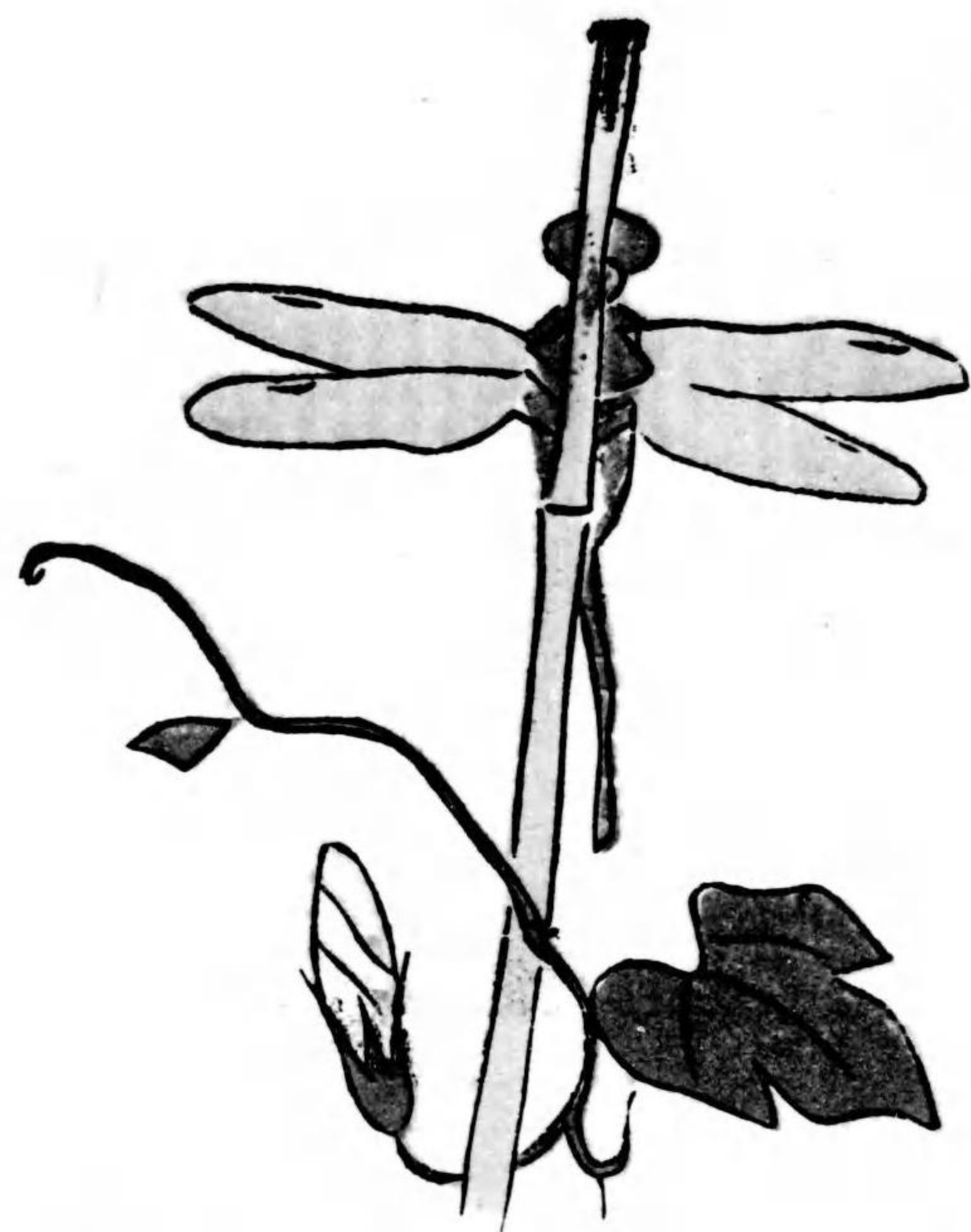


途上にて



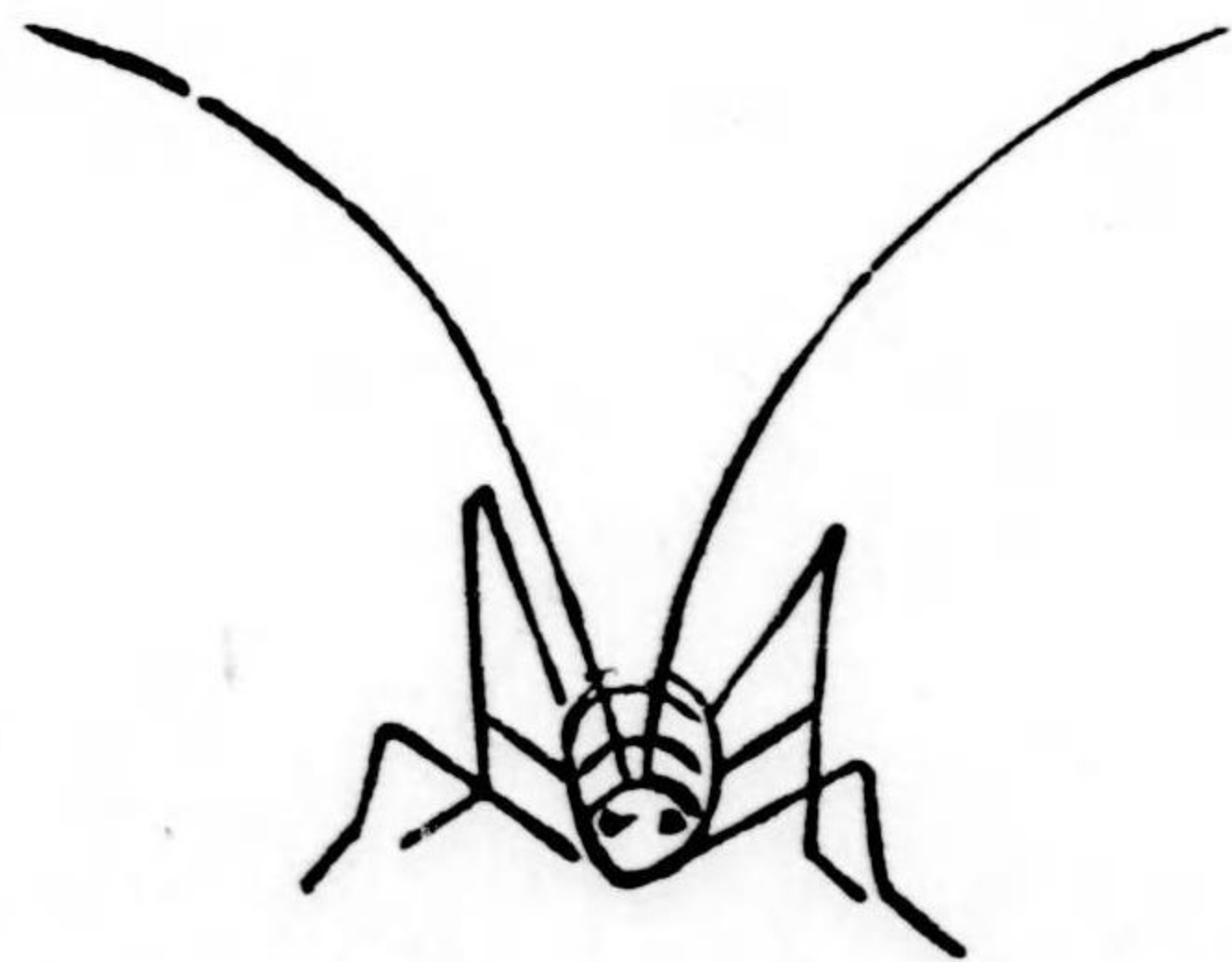
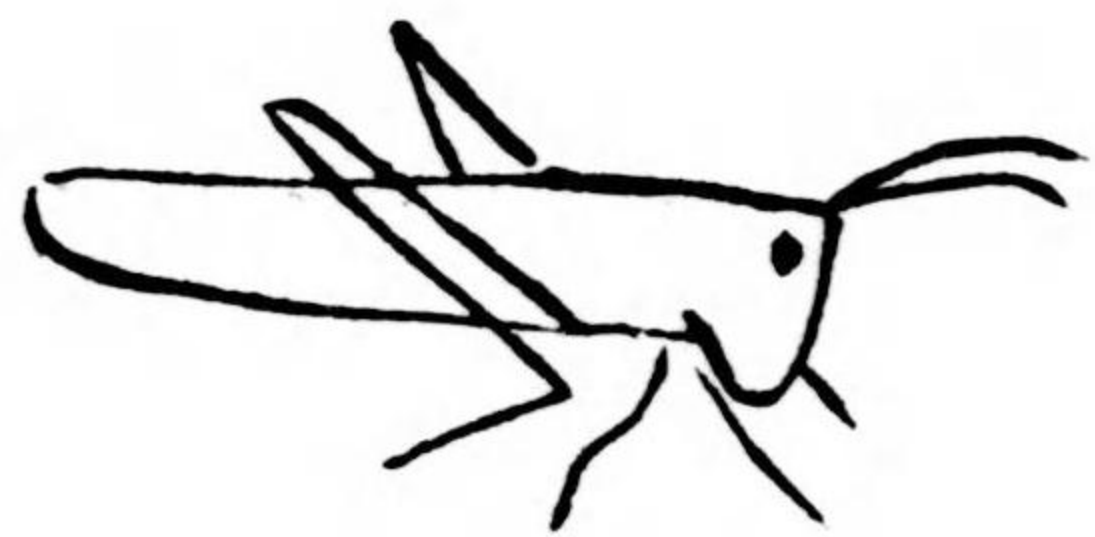
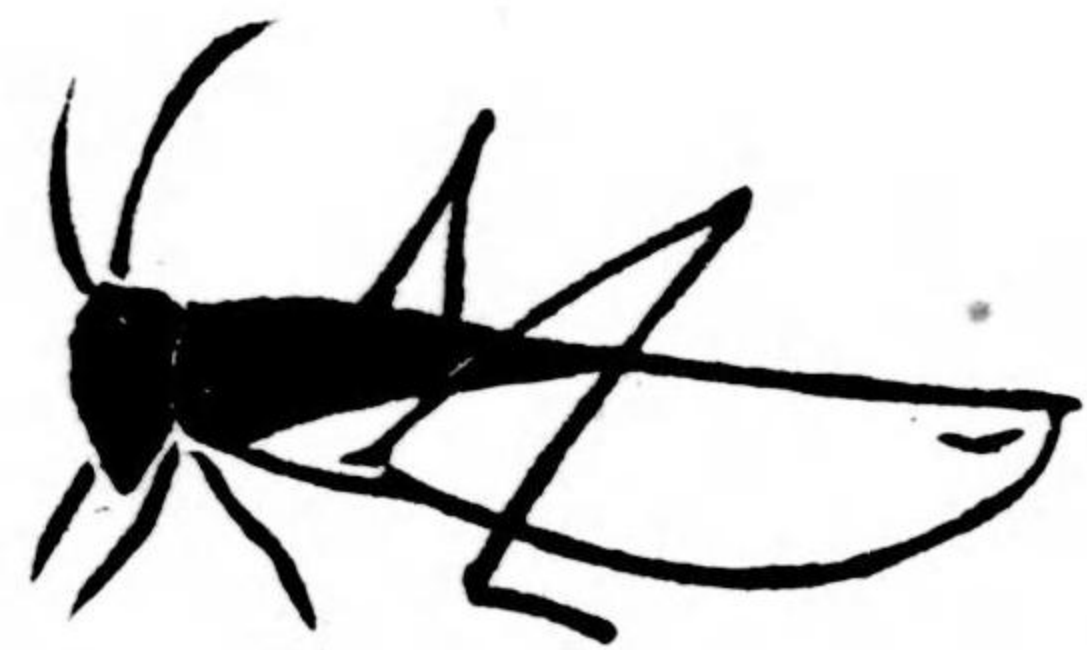
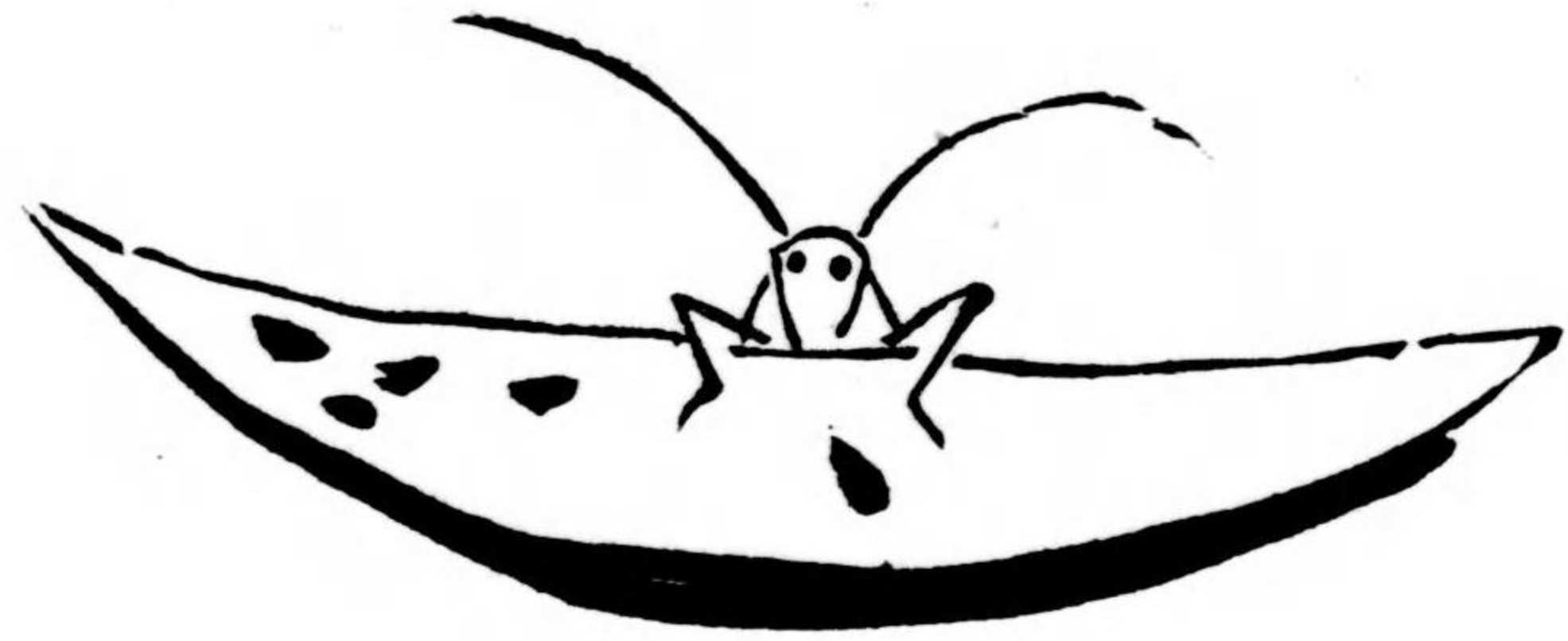
植木屋

とんぼ



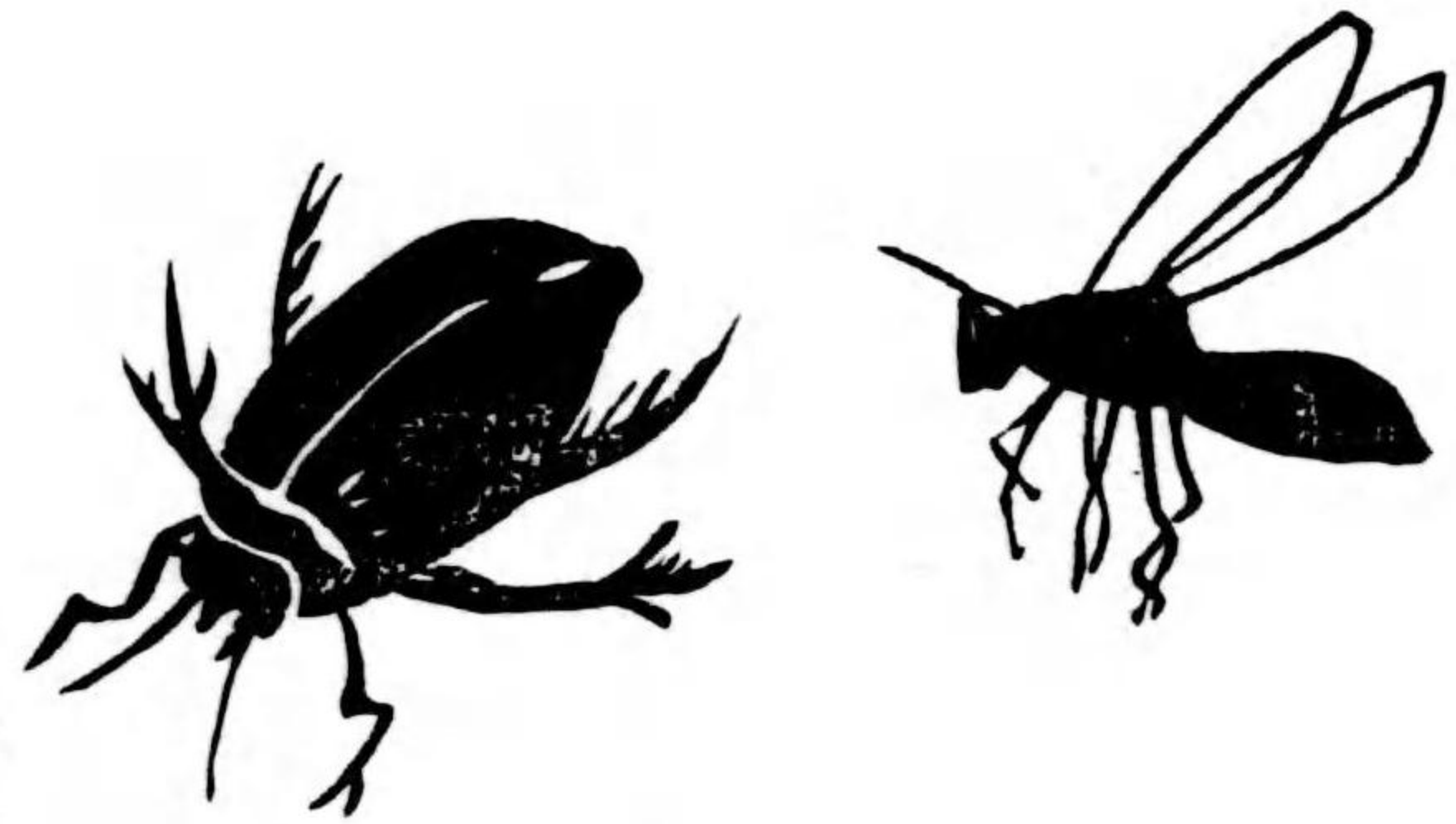
昆虫





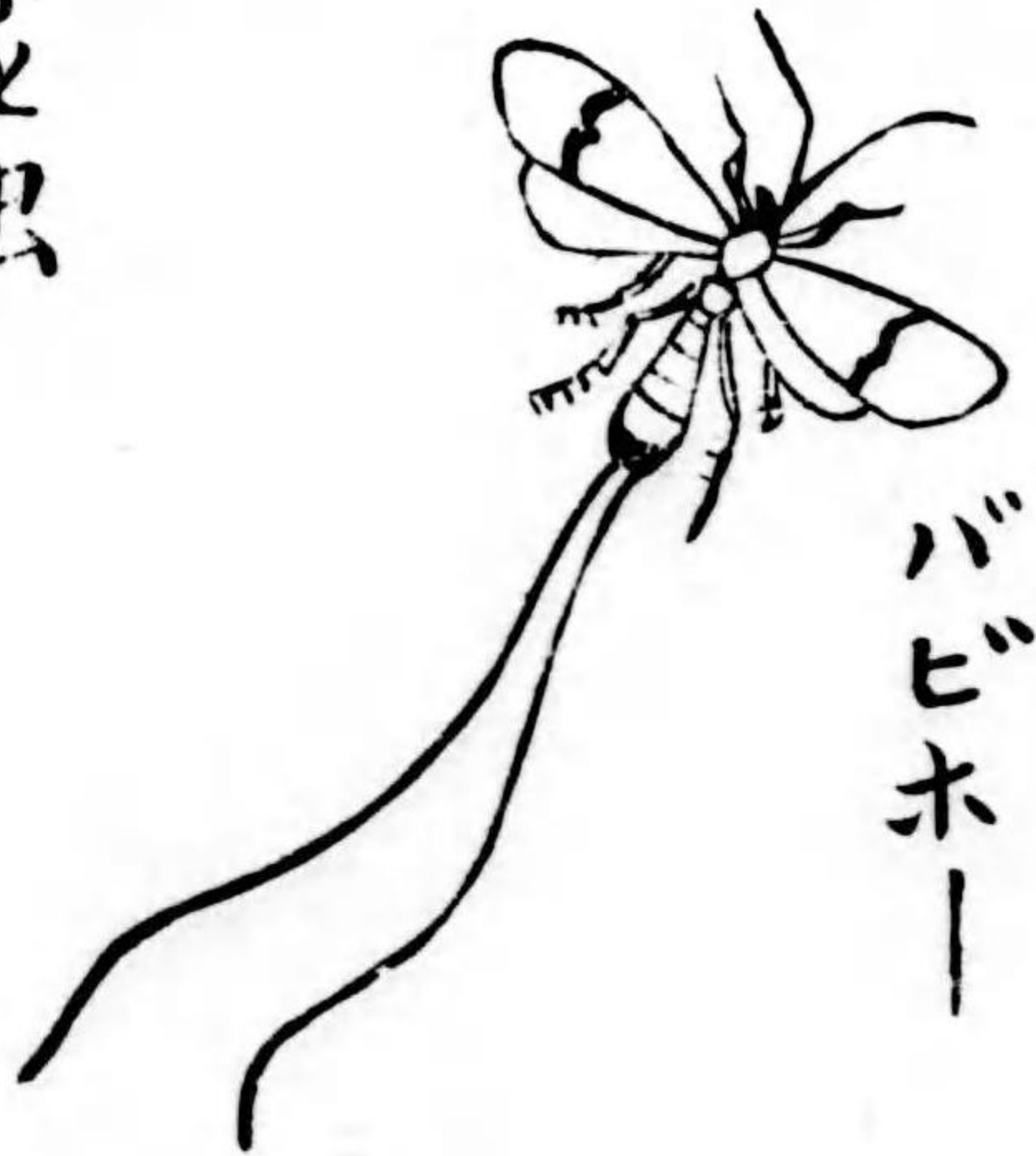


かいこ

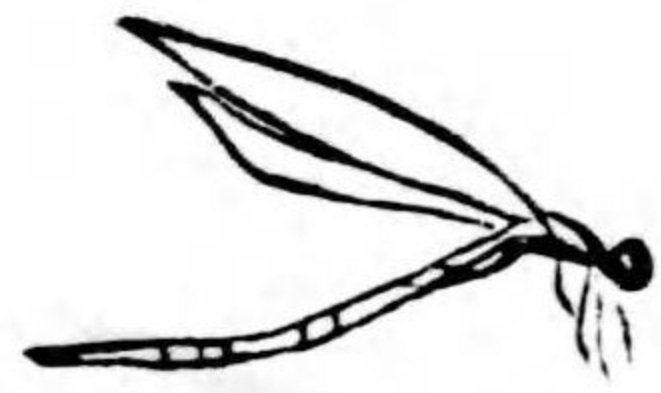


はち

かぶと虫



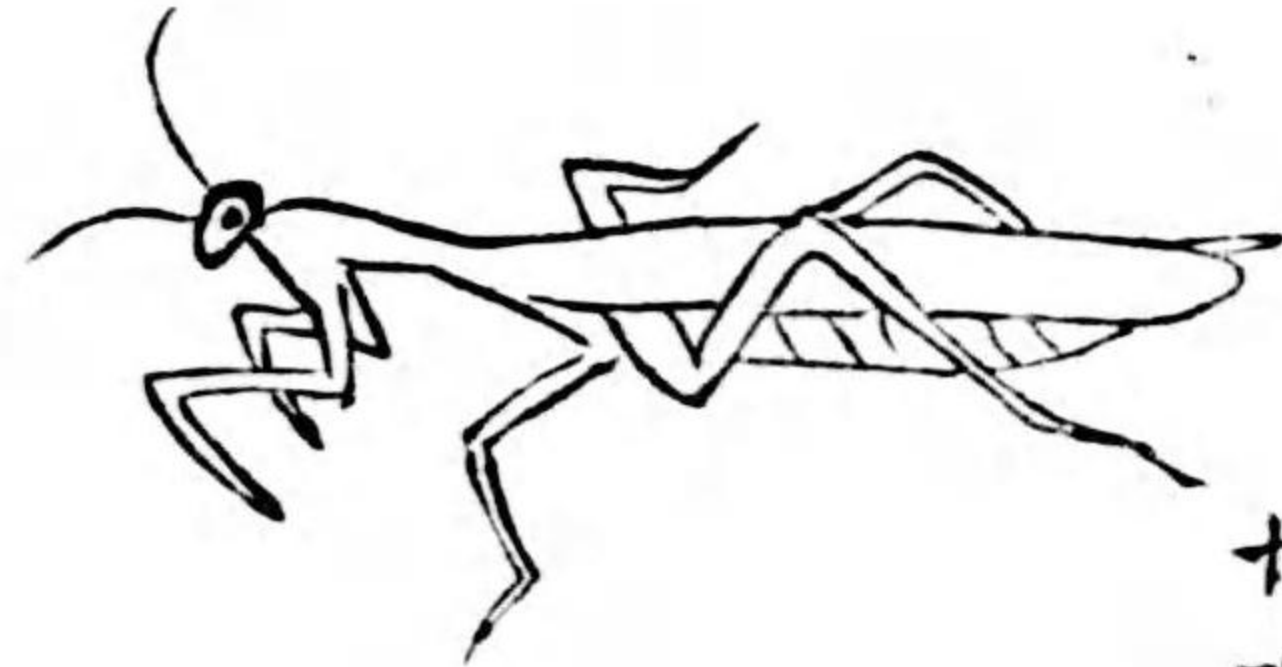
ハビホー



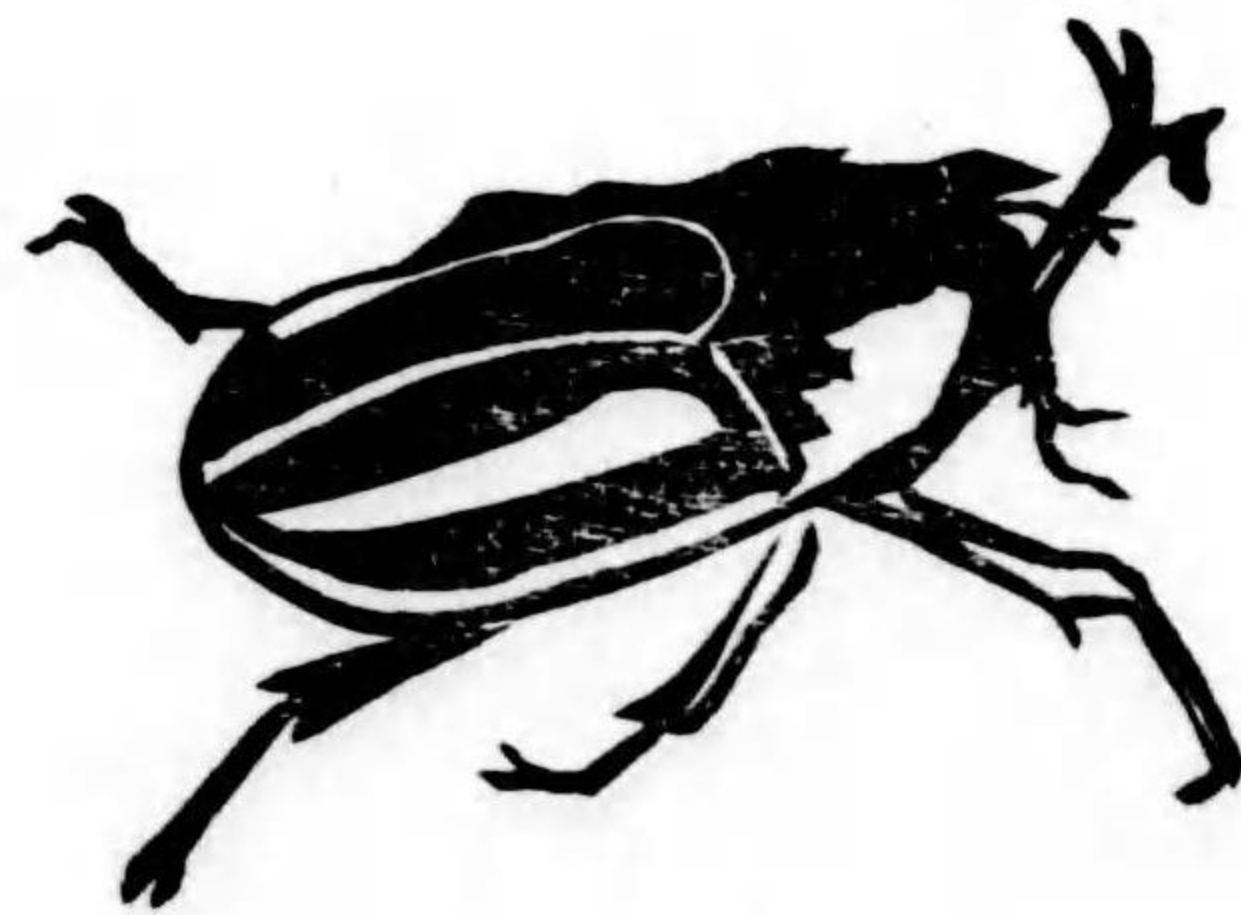
キリギ  
リギ



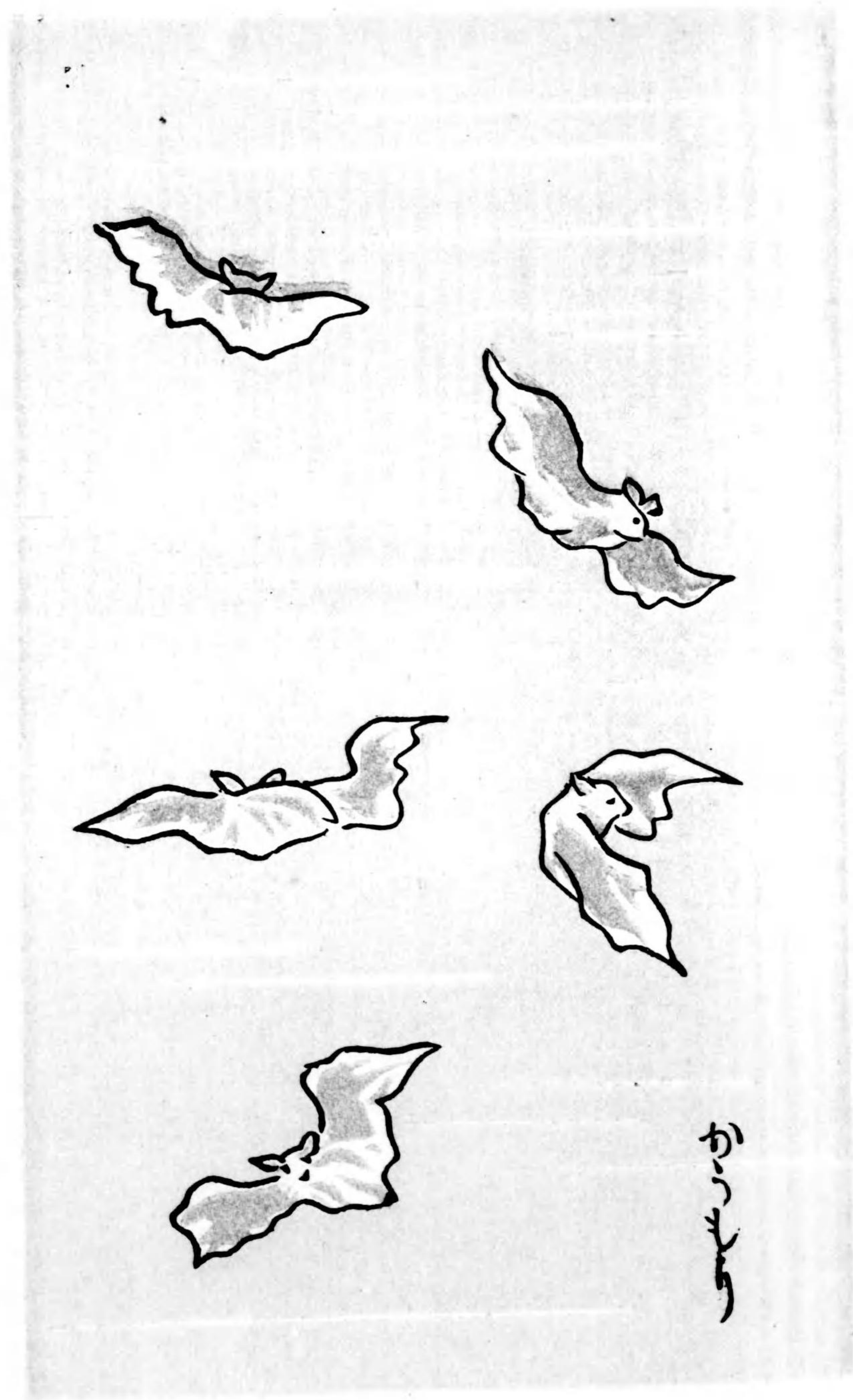
とーすみ  
らんげ



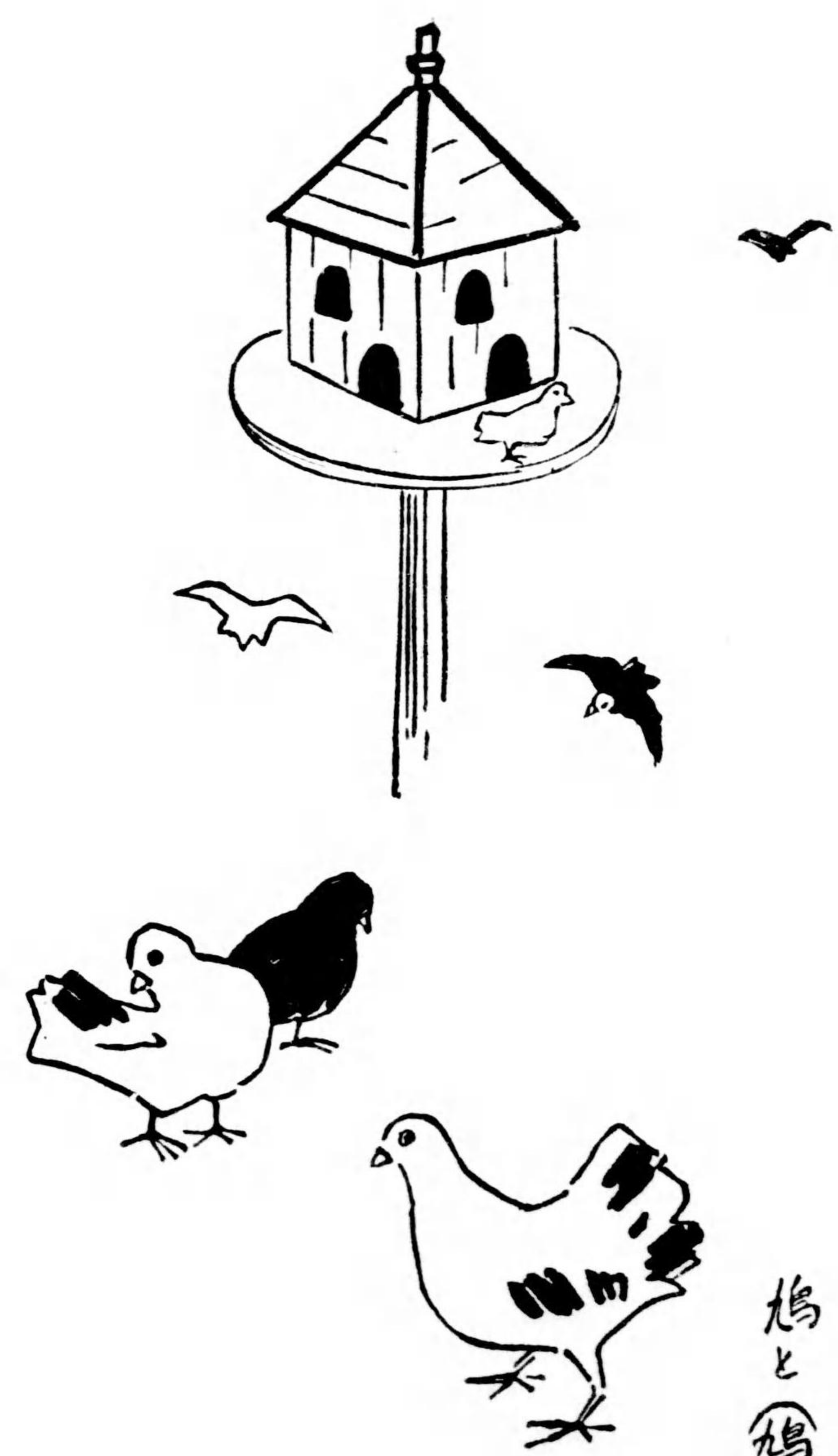
かまきり



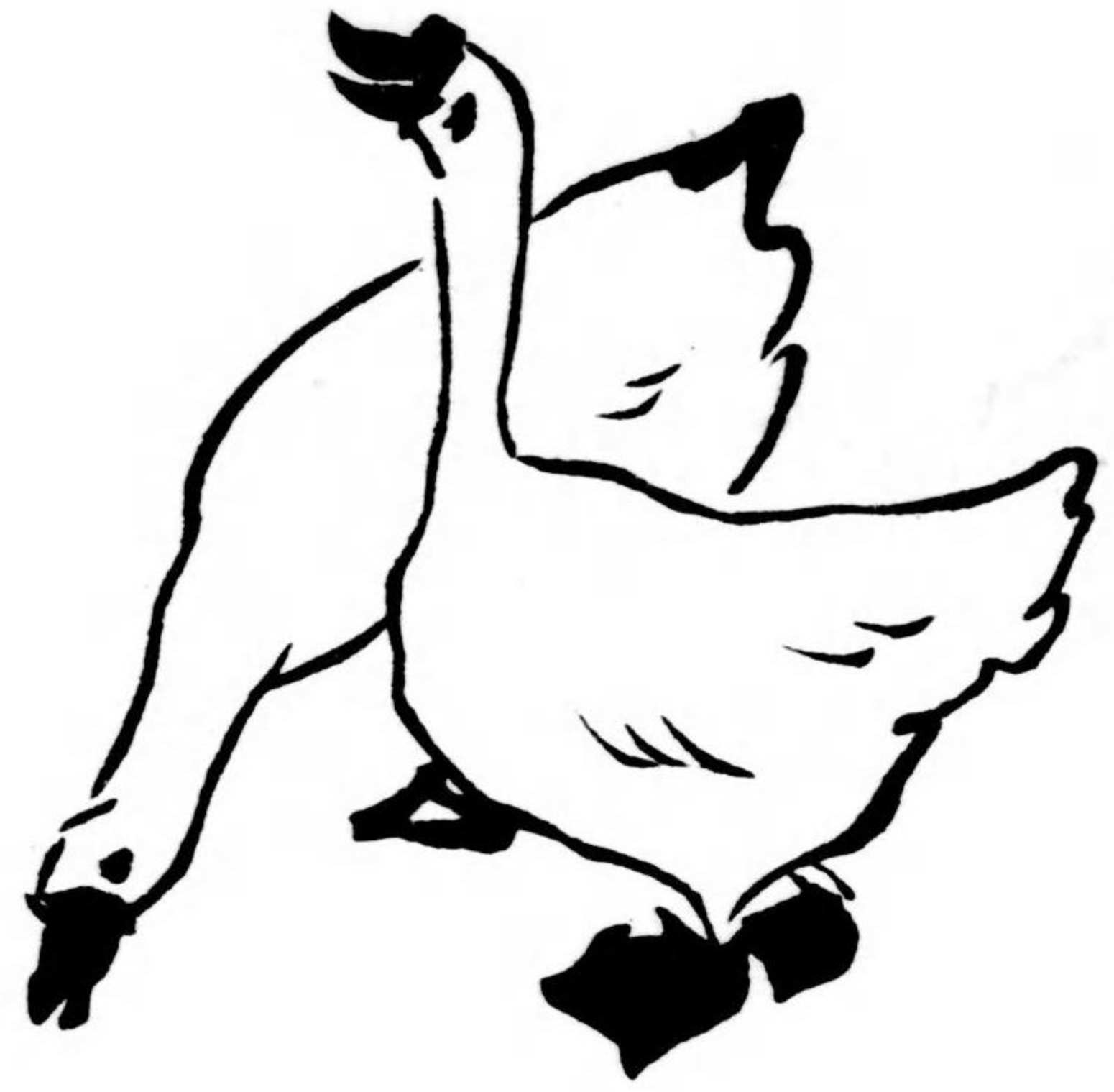
かぶとむし



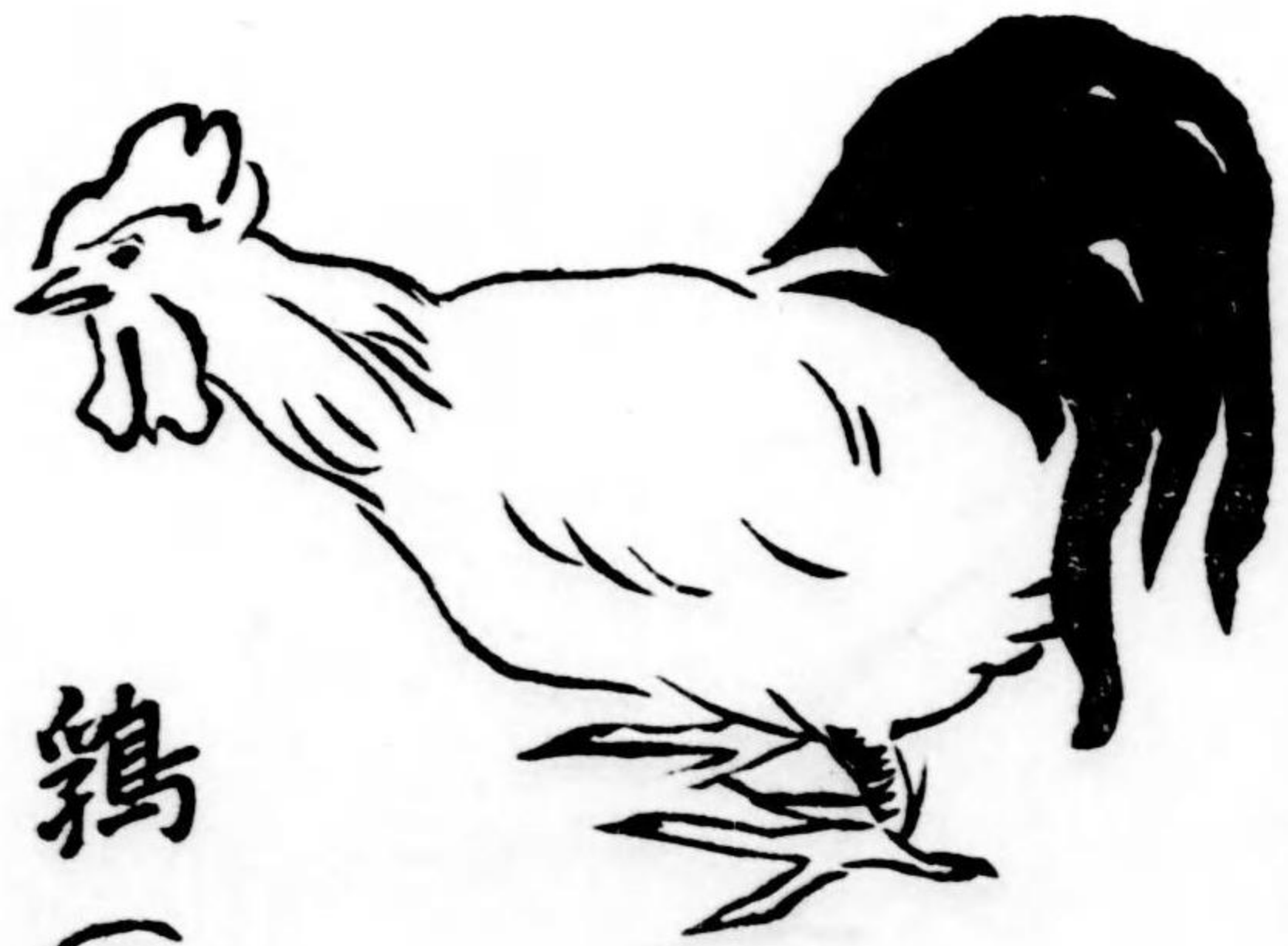
鳥の群



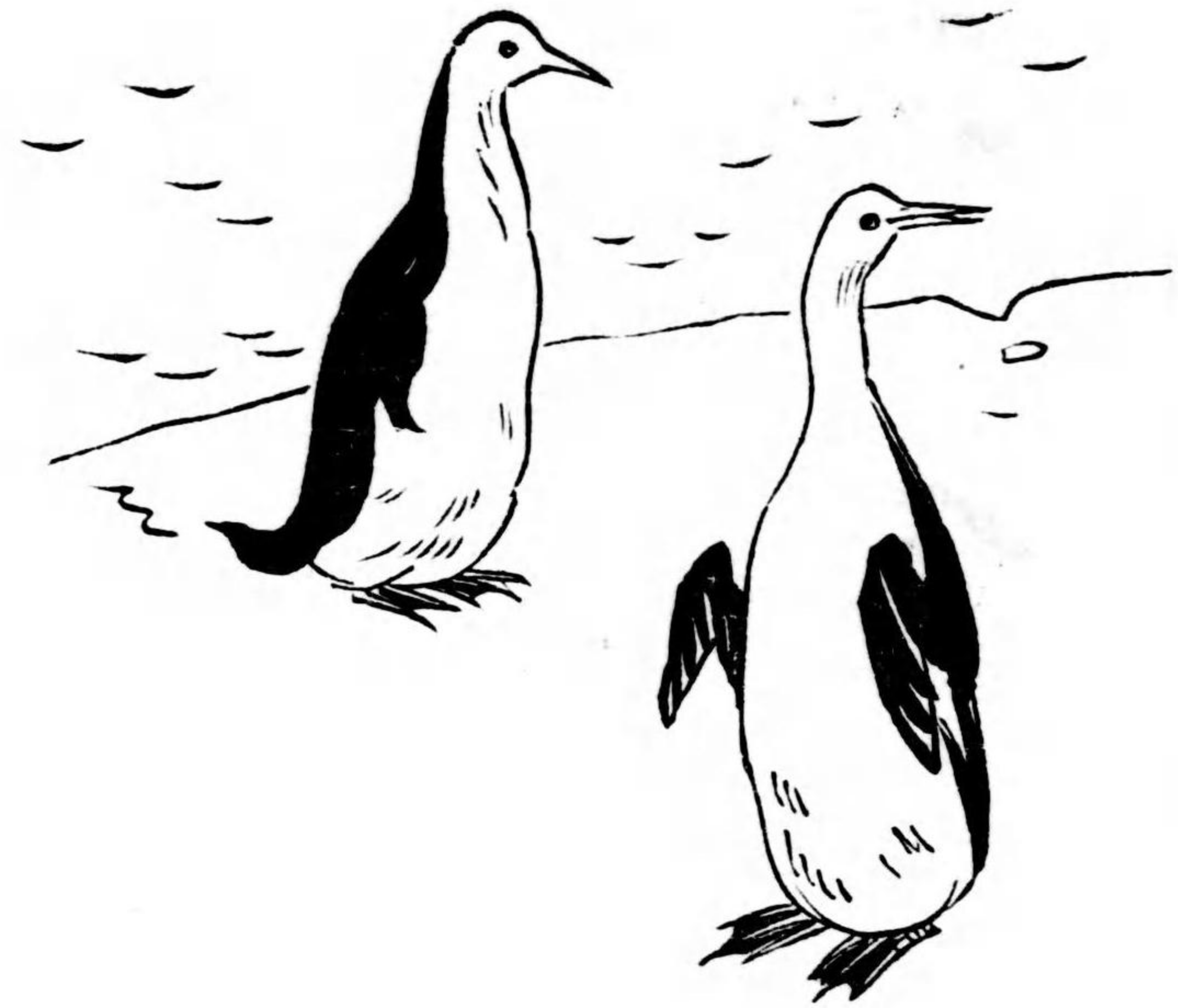
鳩と(鳩小舎)



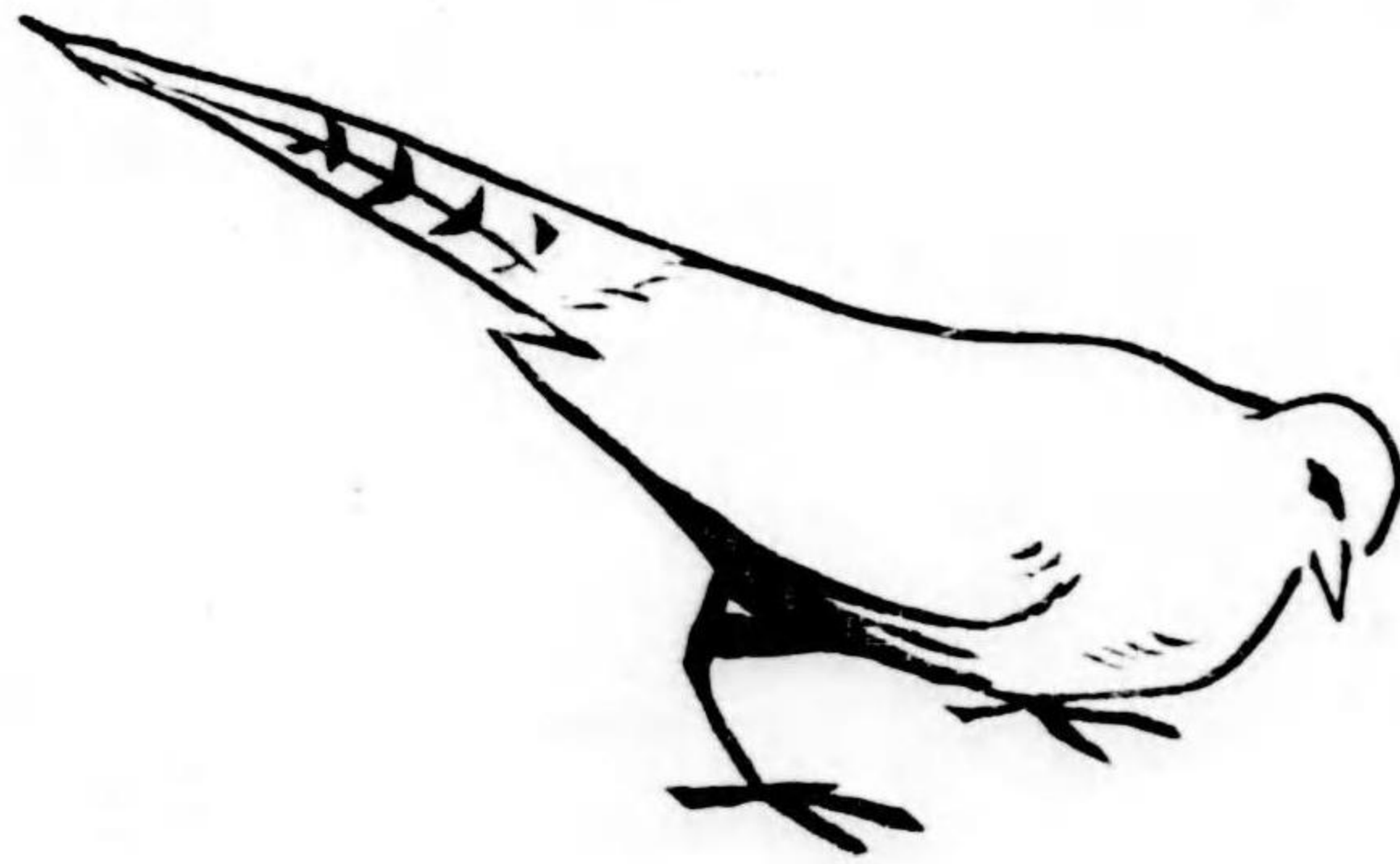
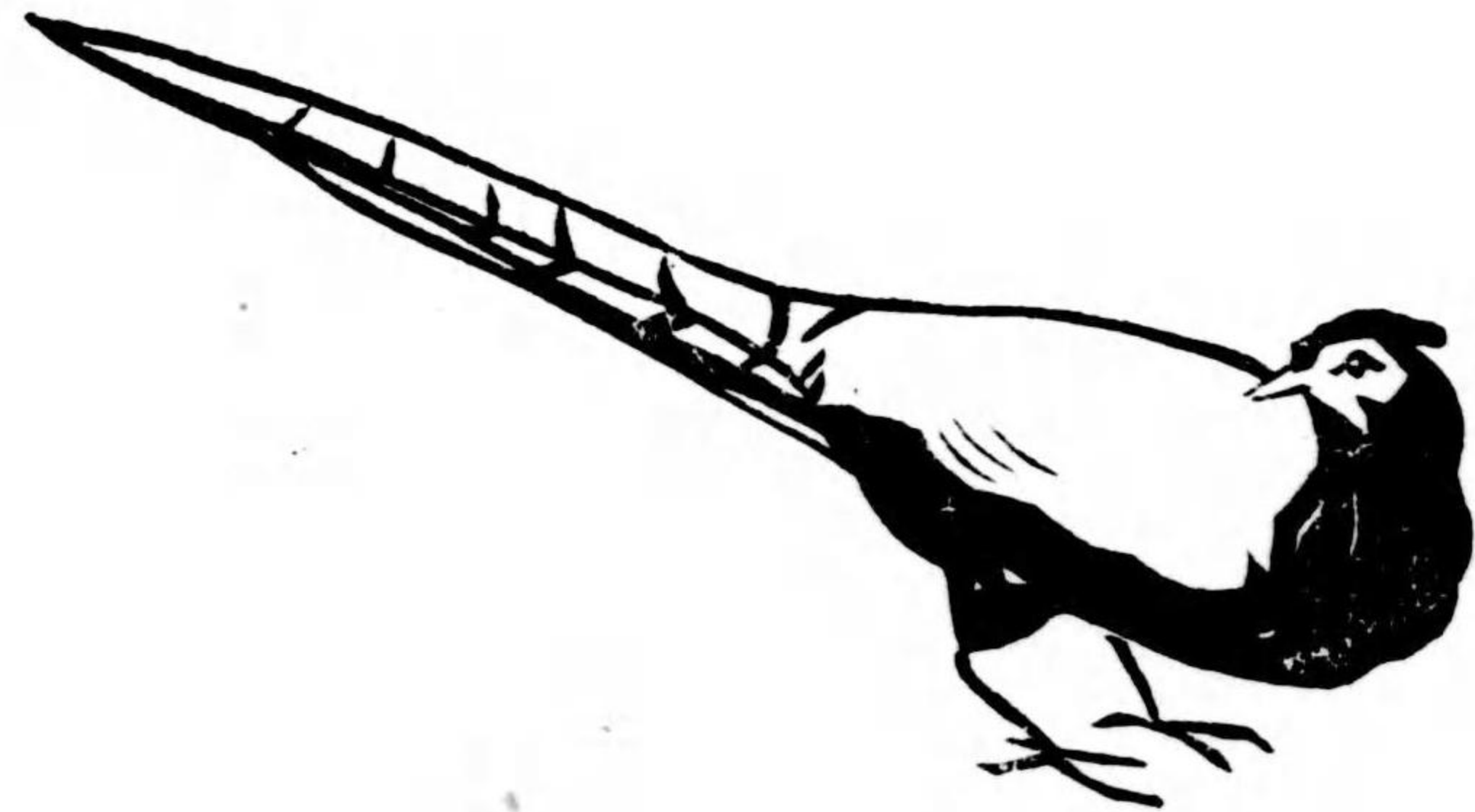
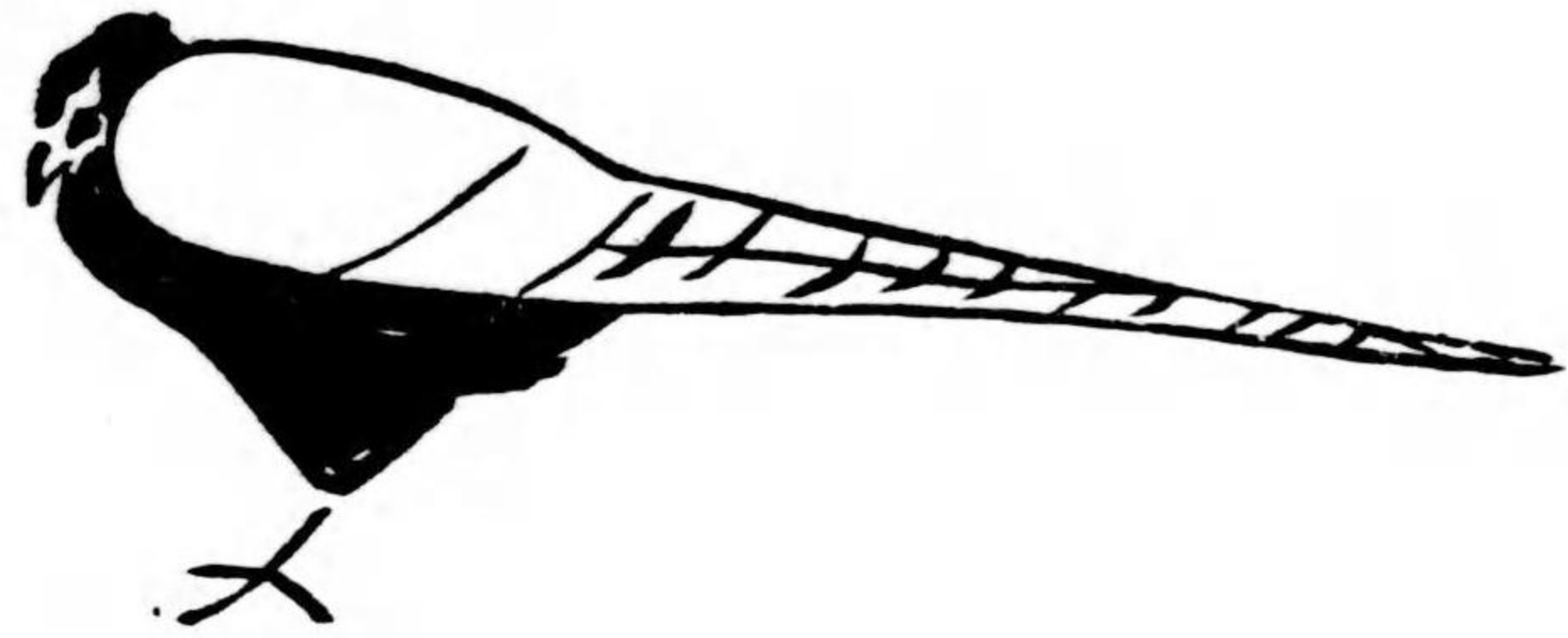
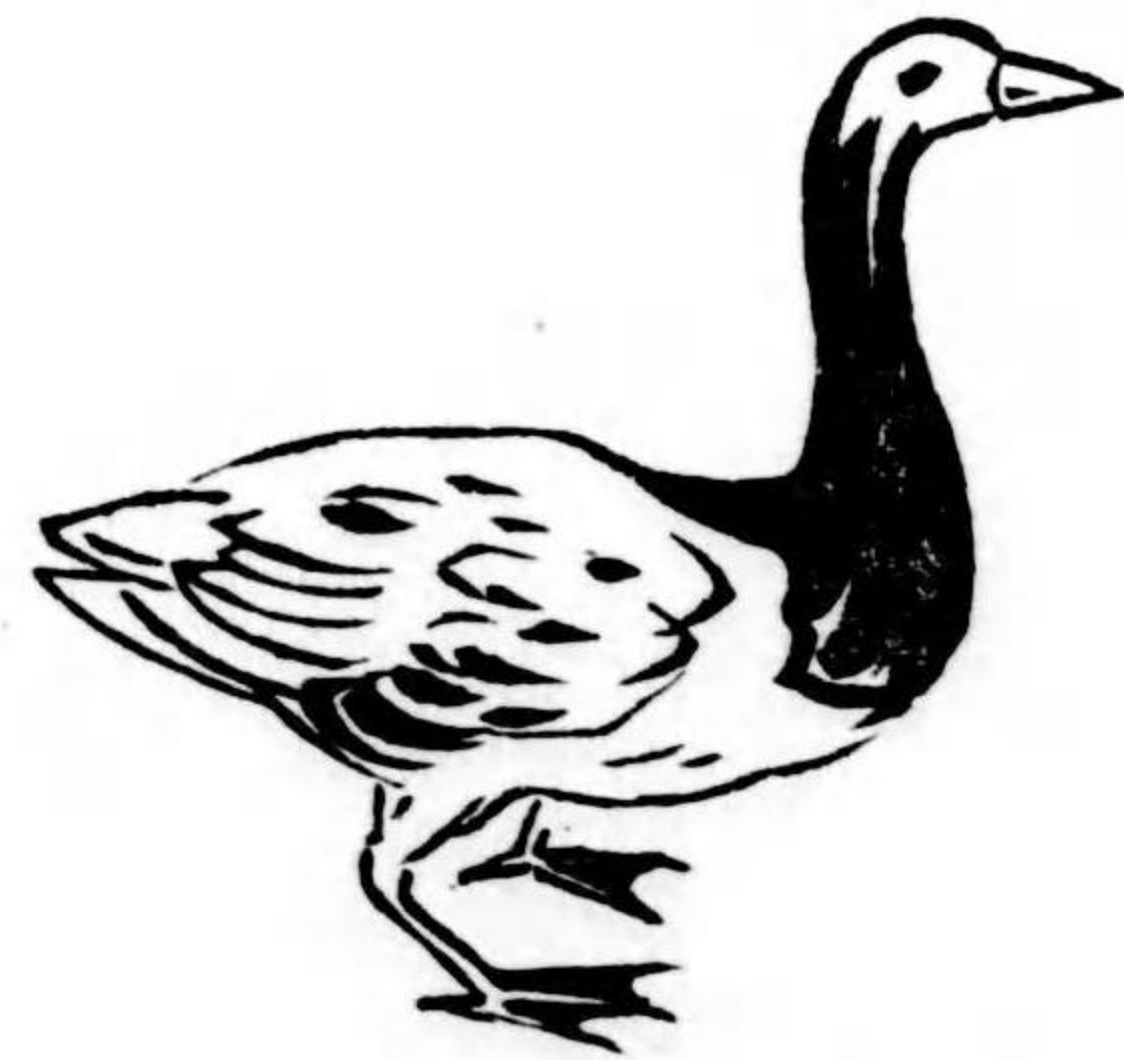
あひる



鶏  
(牡)



寒い國の鳥





あかげら



いすか



あつちく

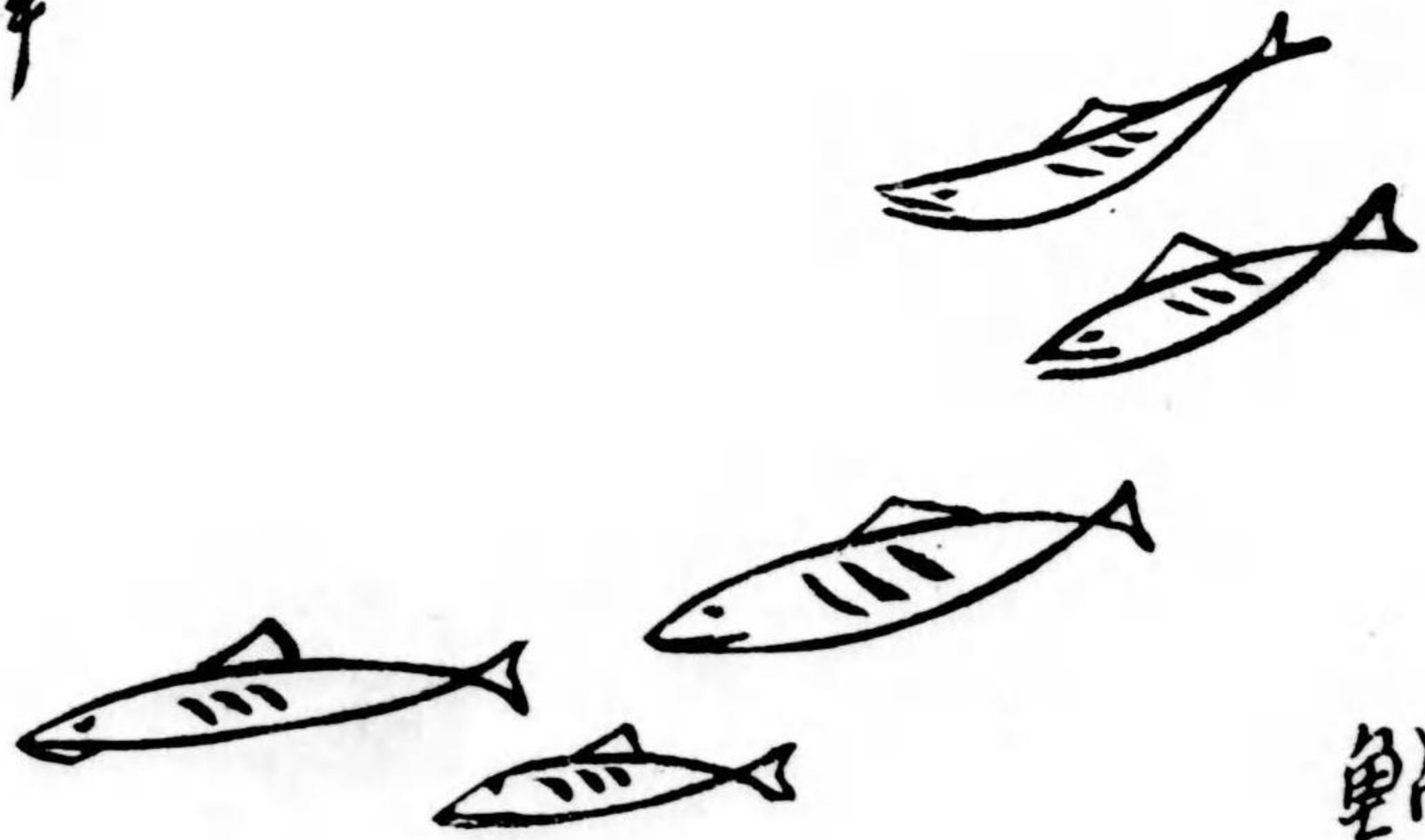
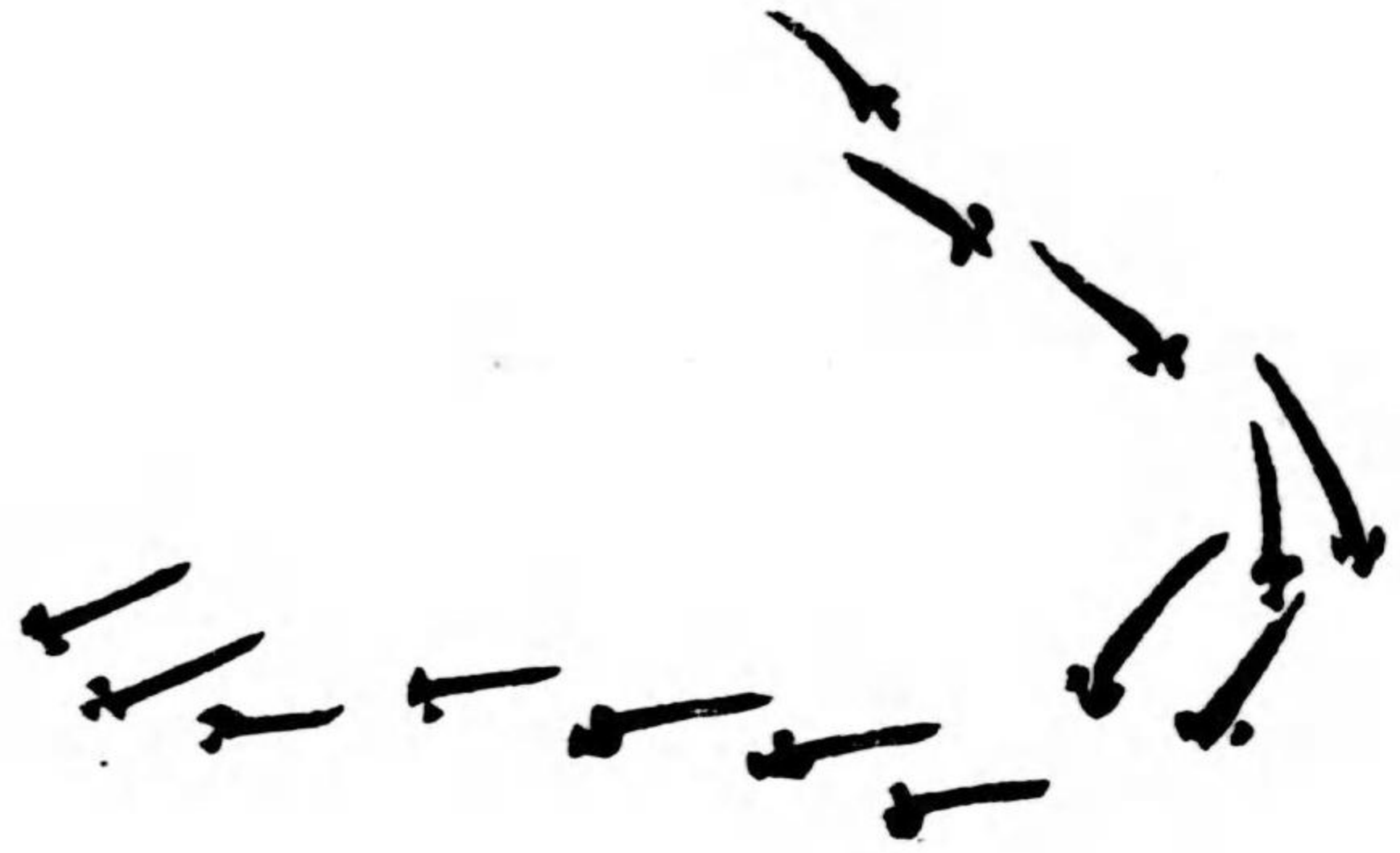


あひ



あうむ

めだかの群

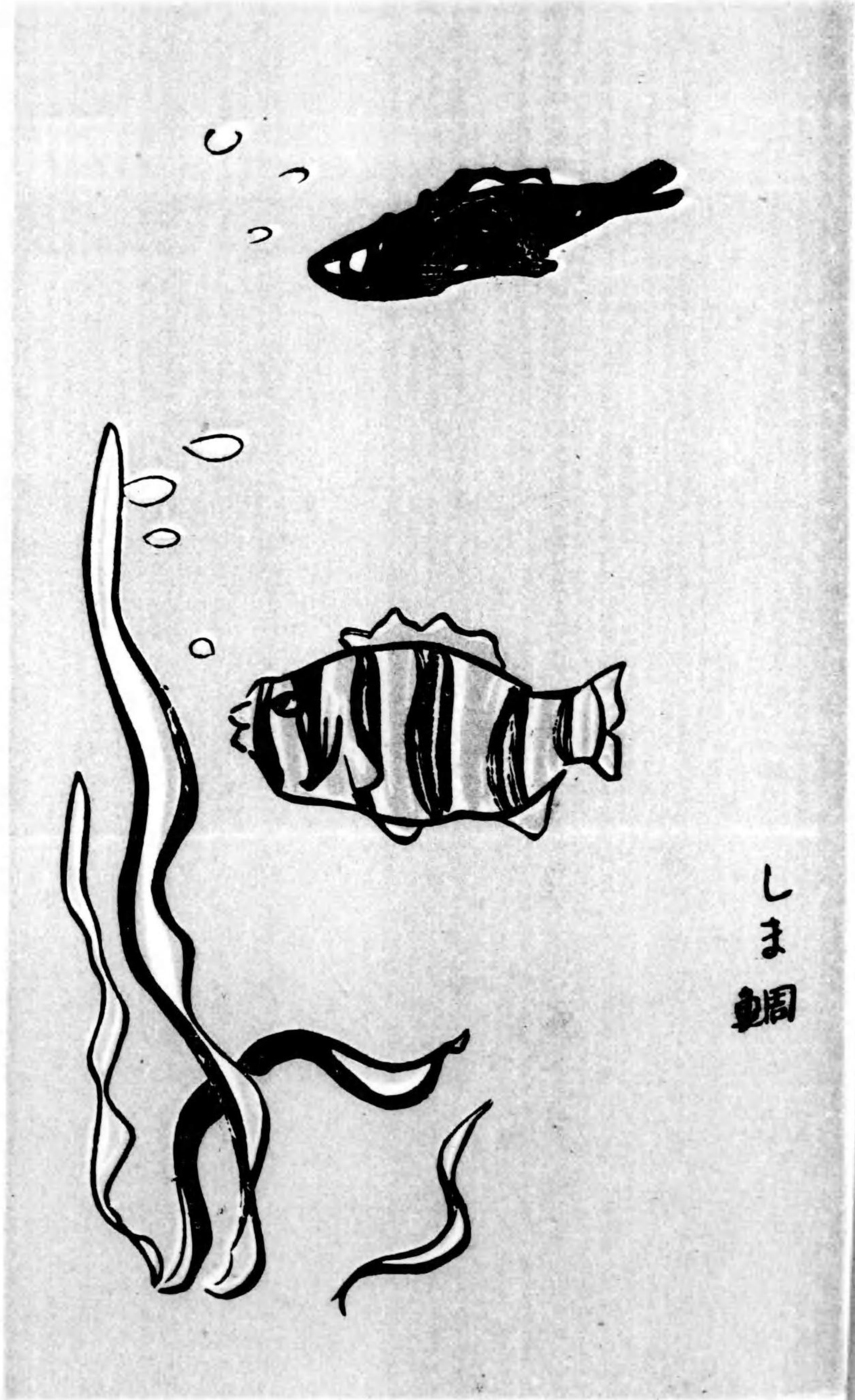


鯉の群

スズメ



えなが



しま鯛



鯨

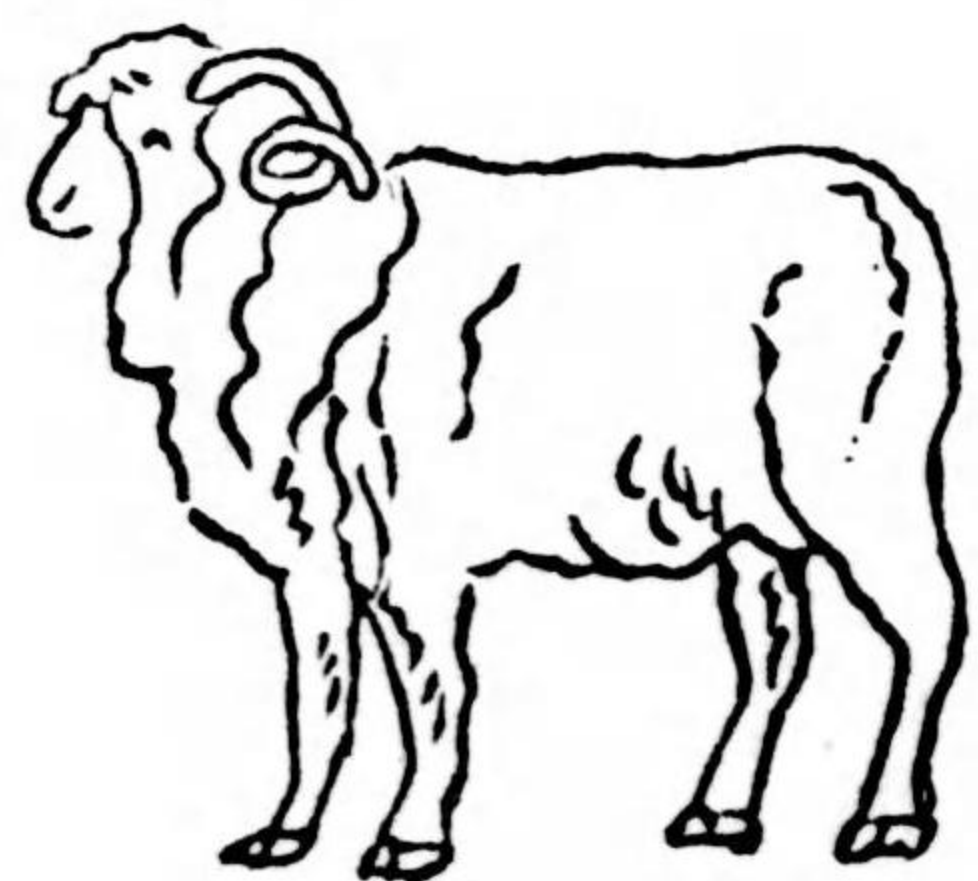


白熊

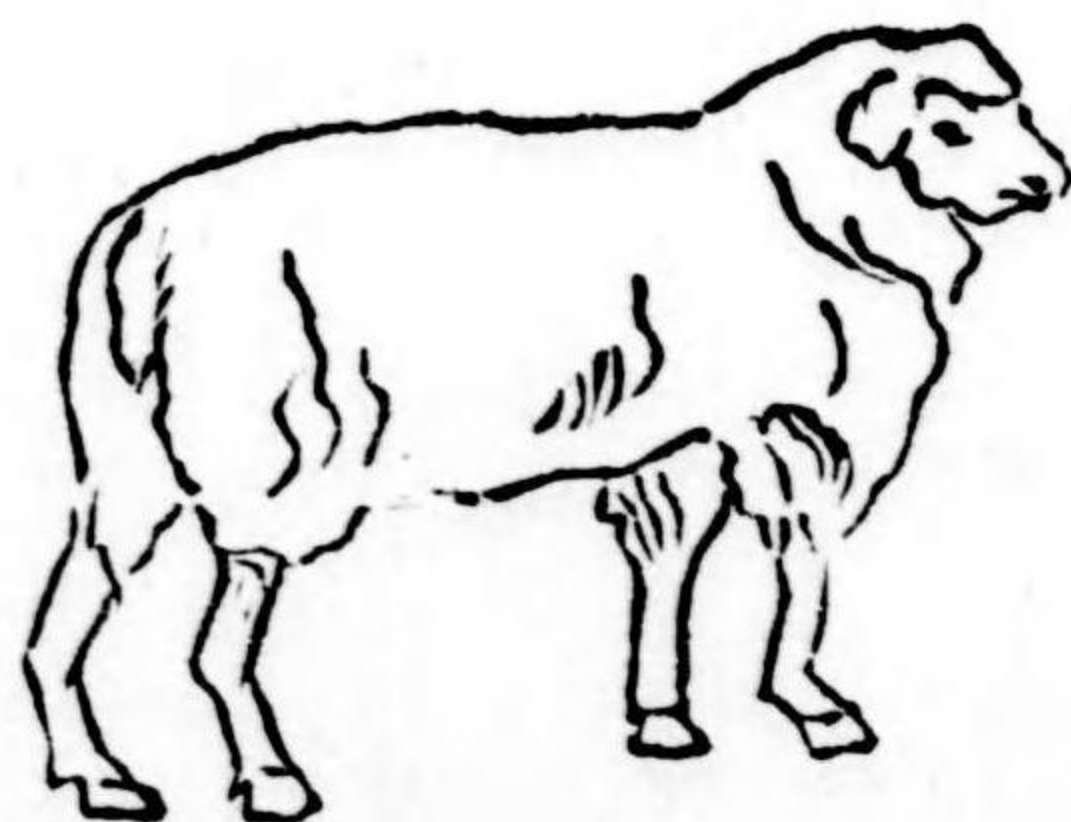




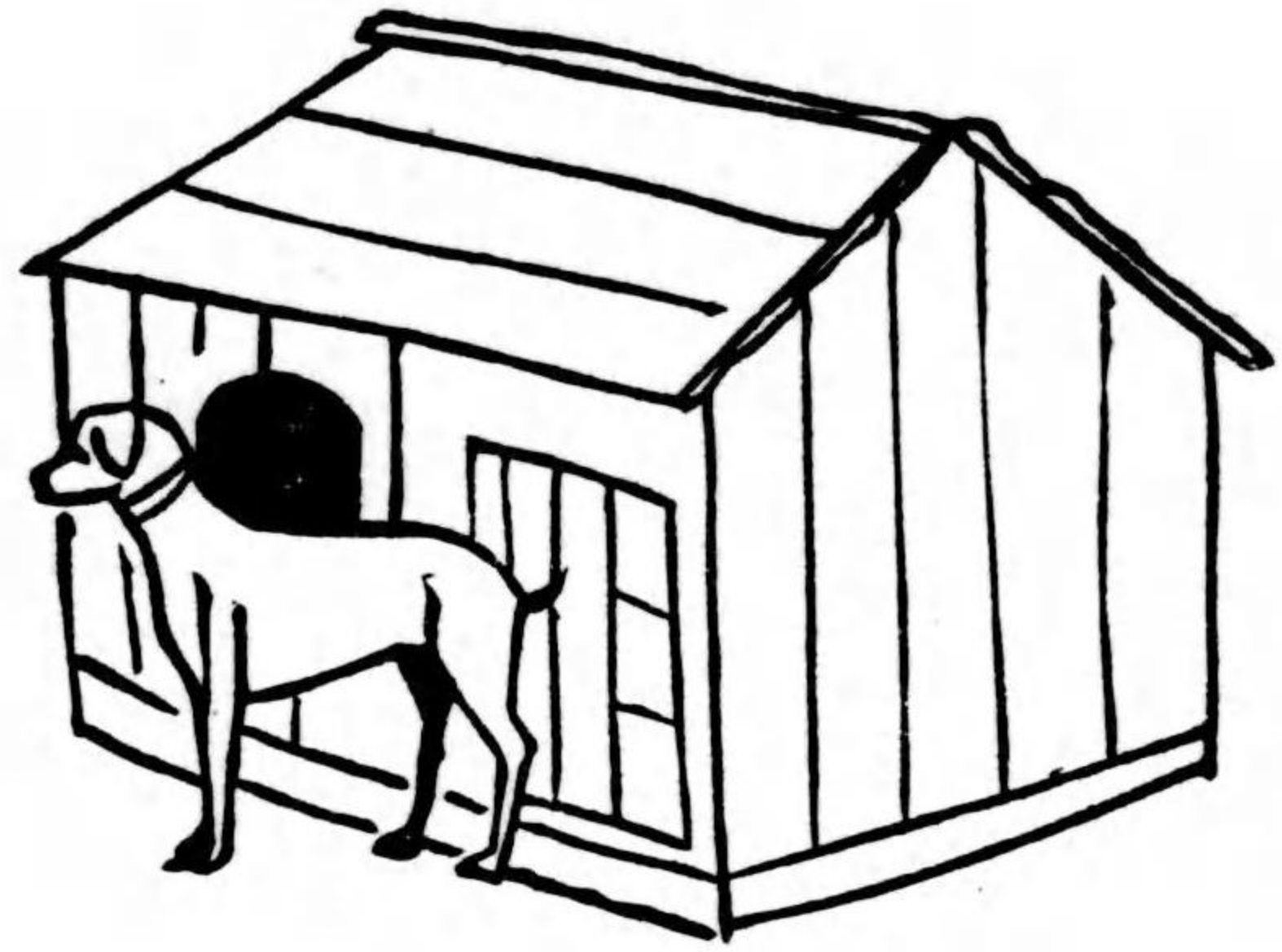
アルパカ



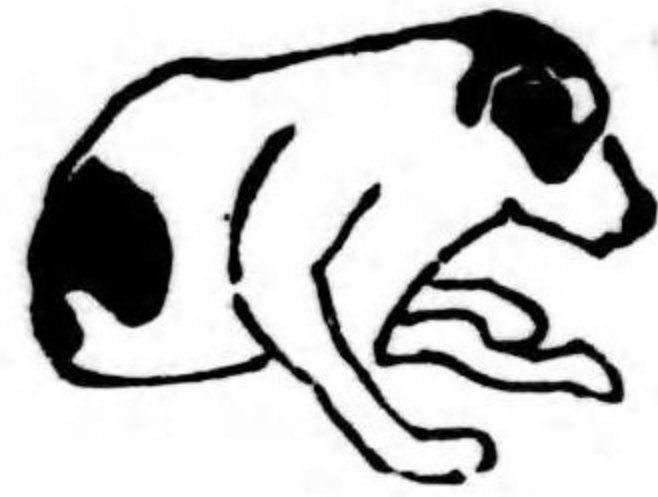
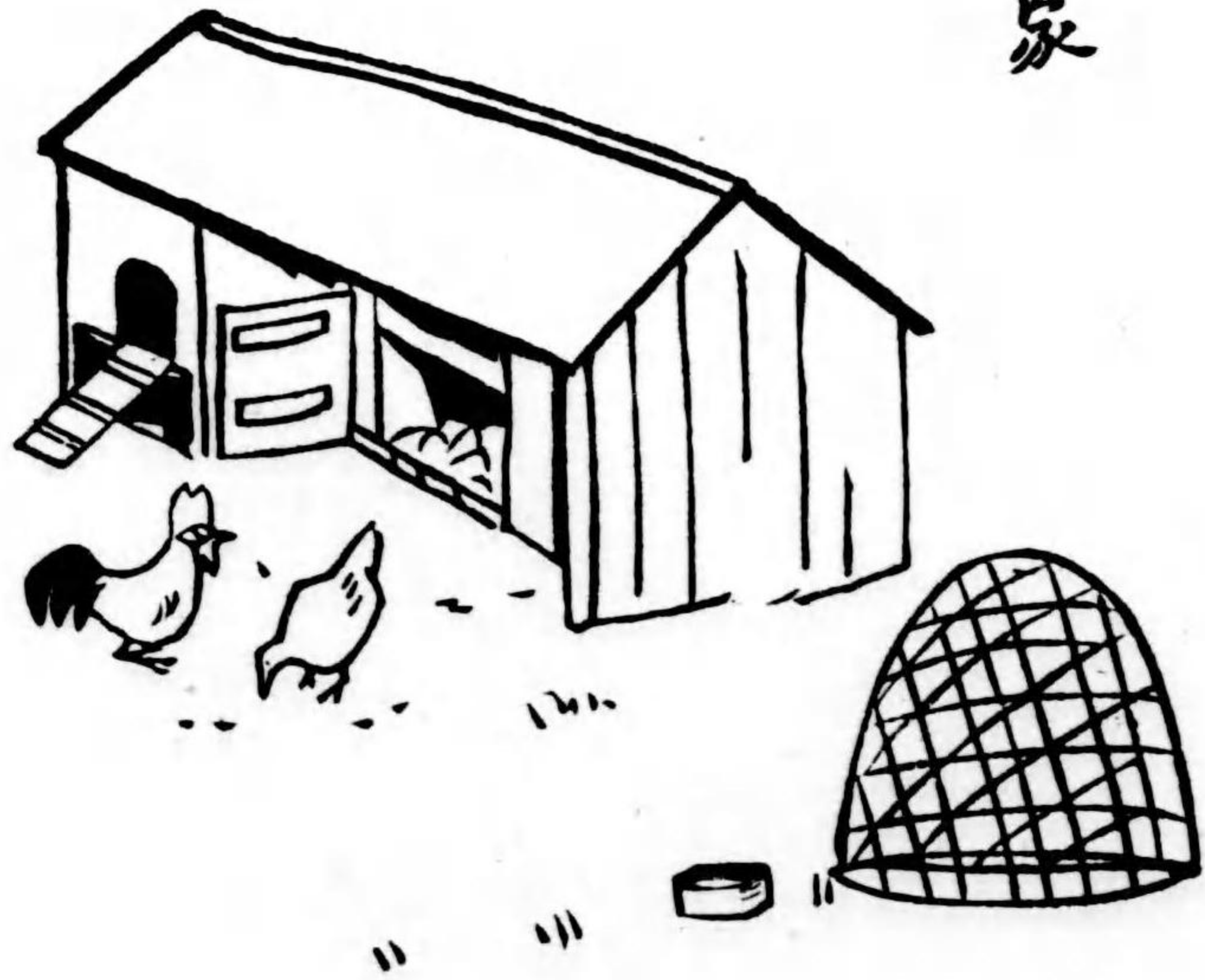
メリノウール

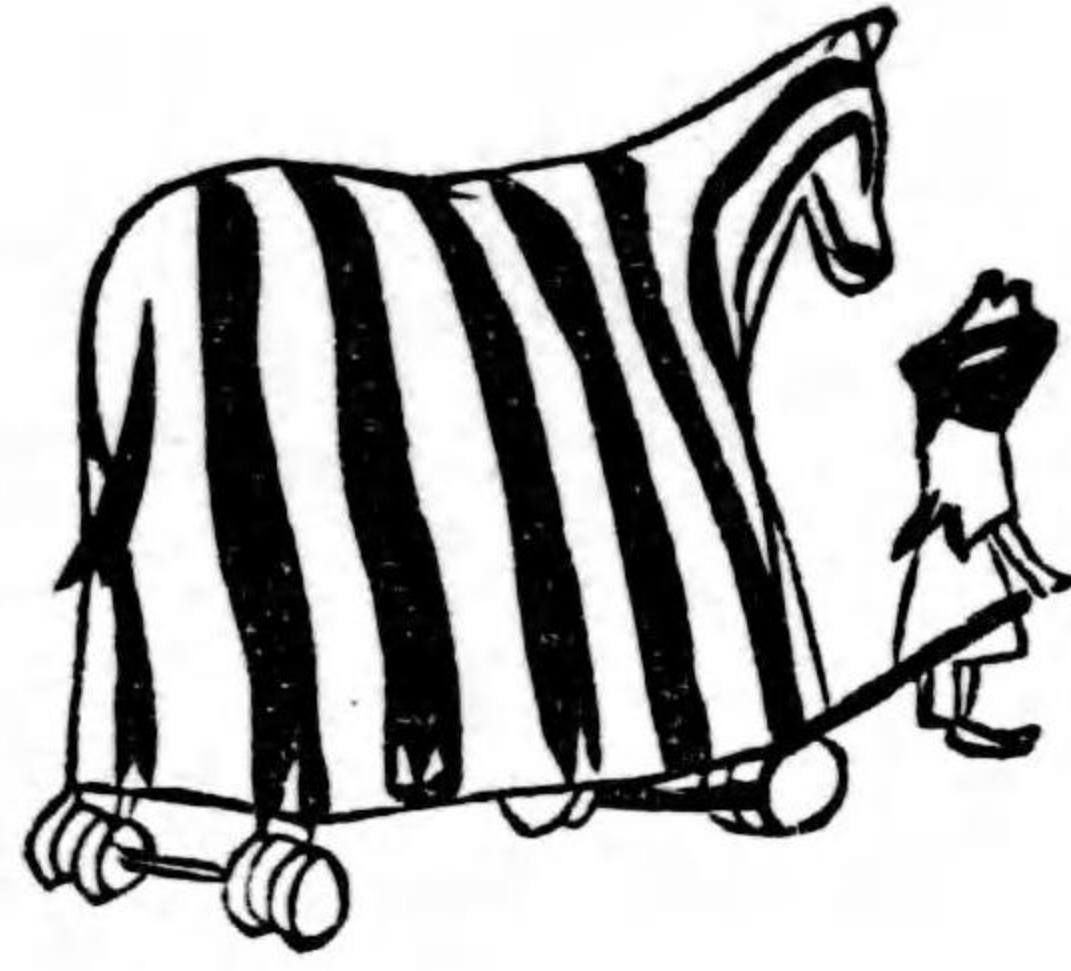


カウズガウ

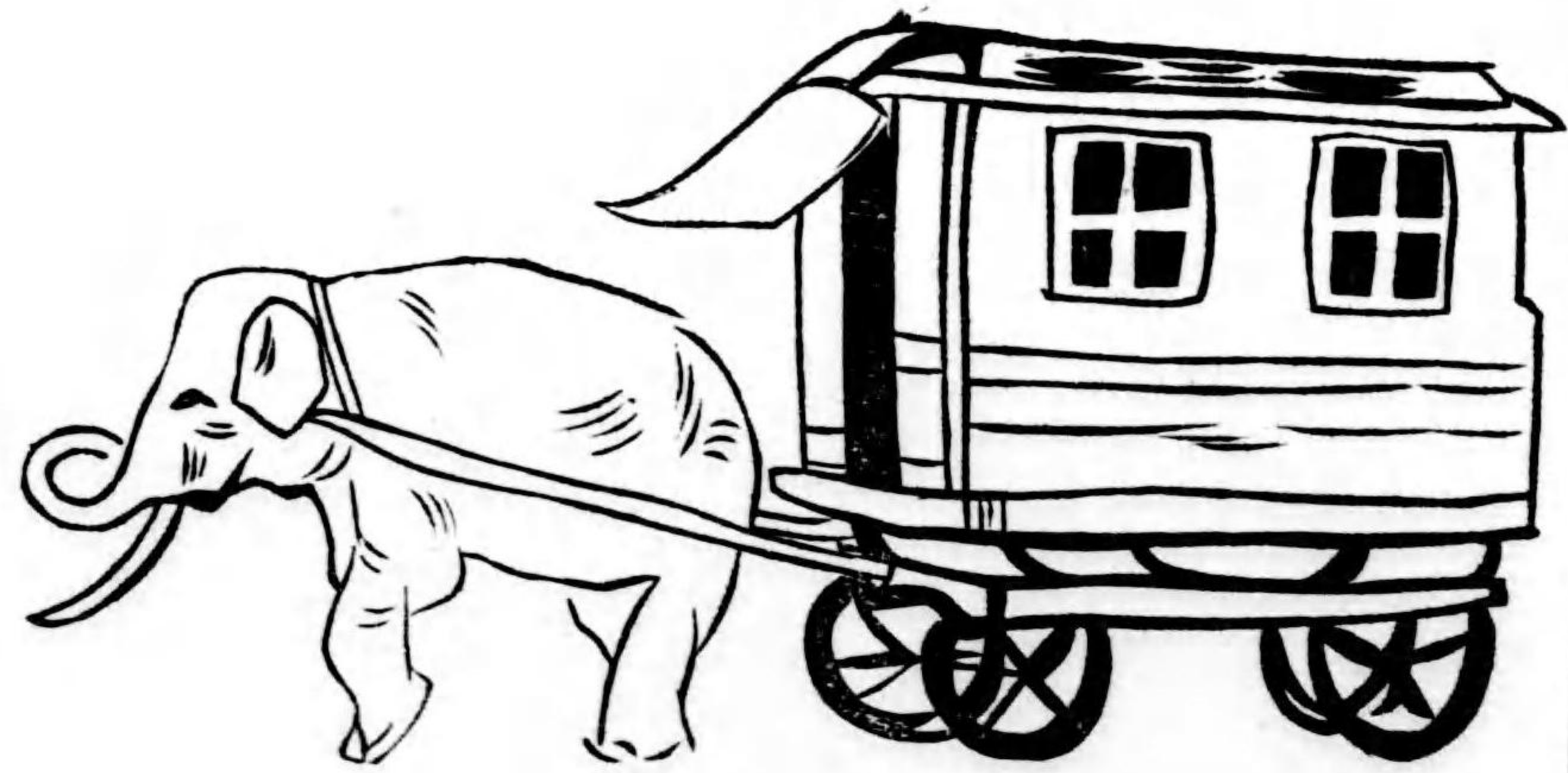


犬の家と  
鶏の家

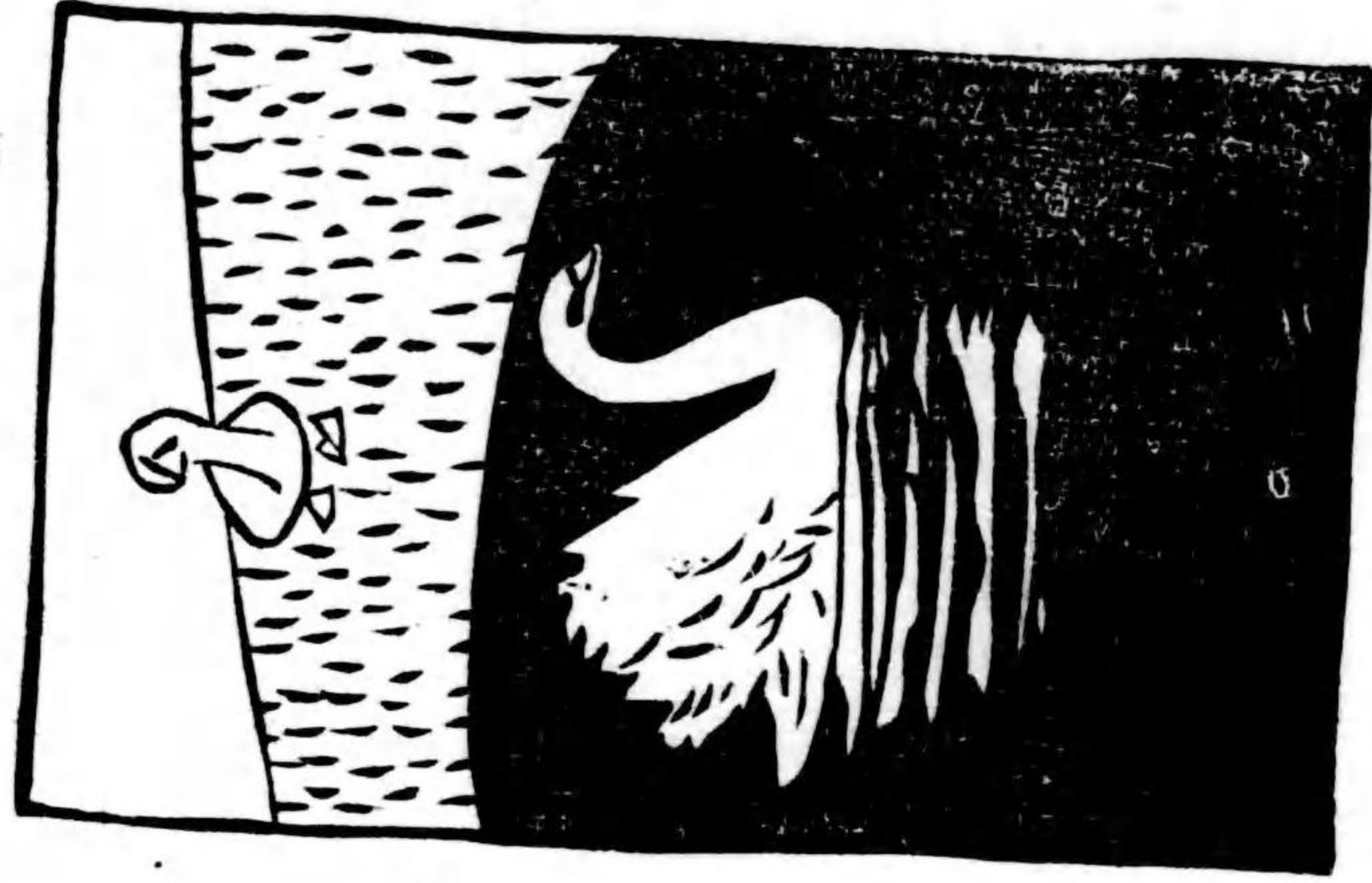




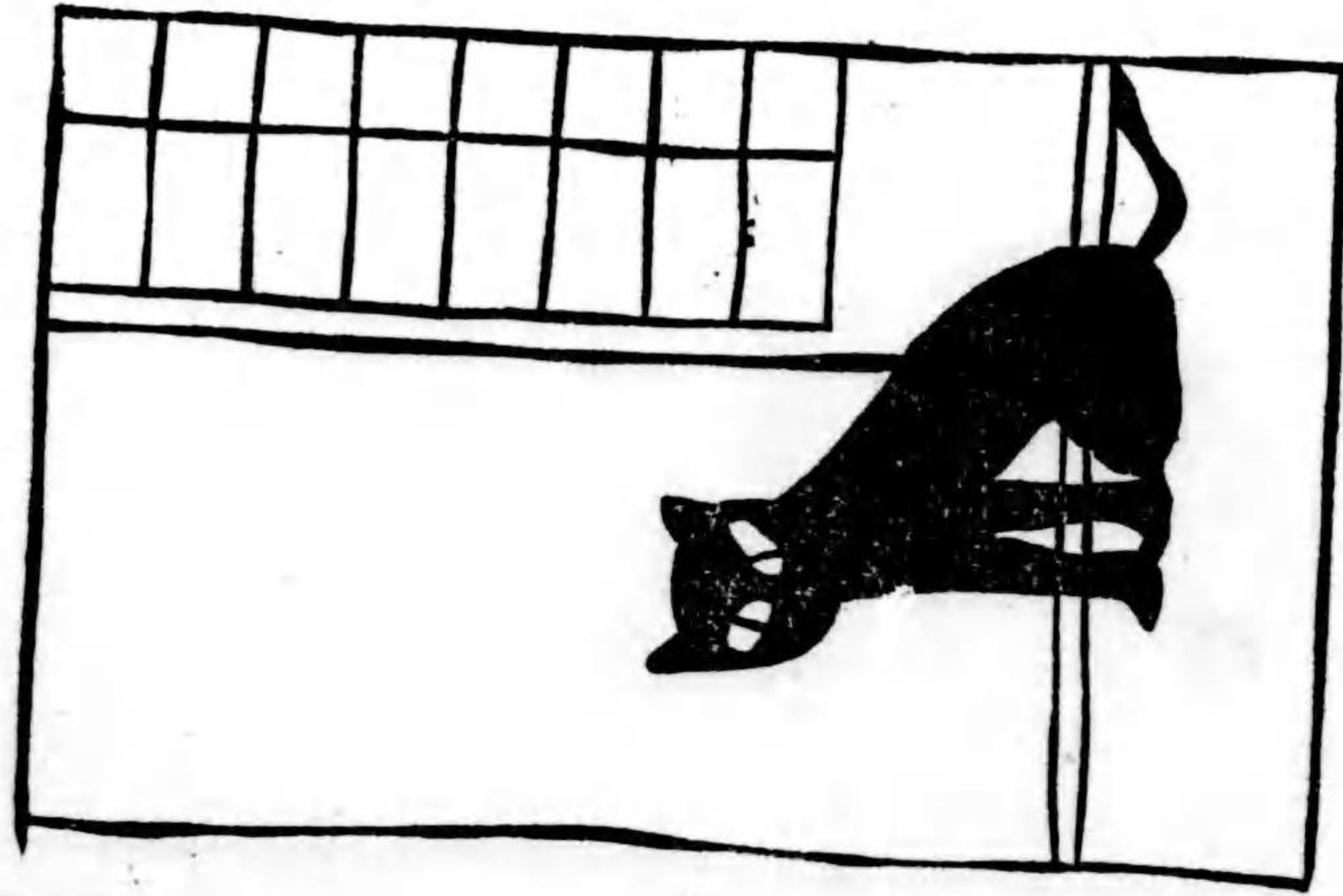
西洋のあそび車  
（ムシムシ）

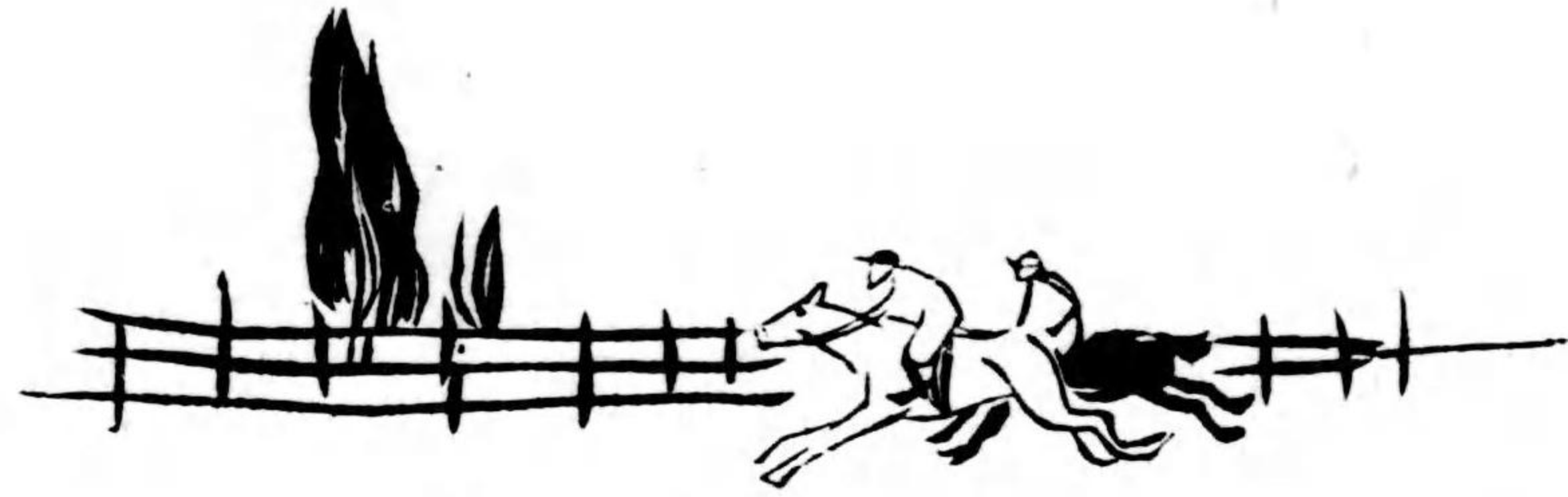


白鳥

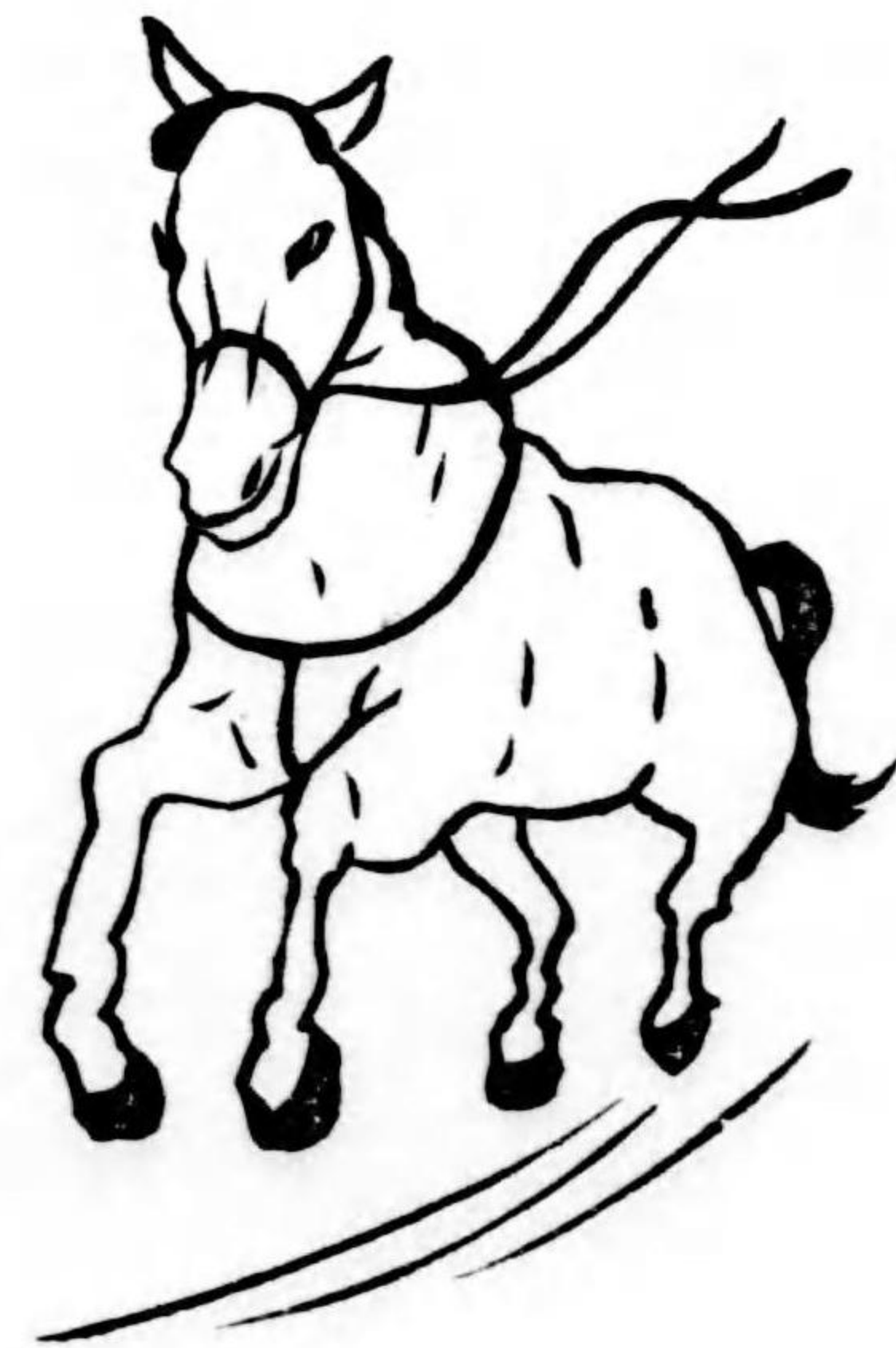
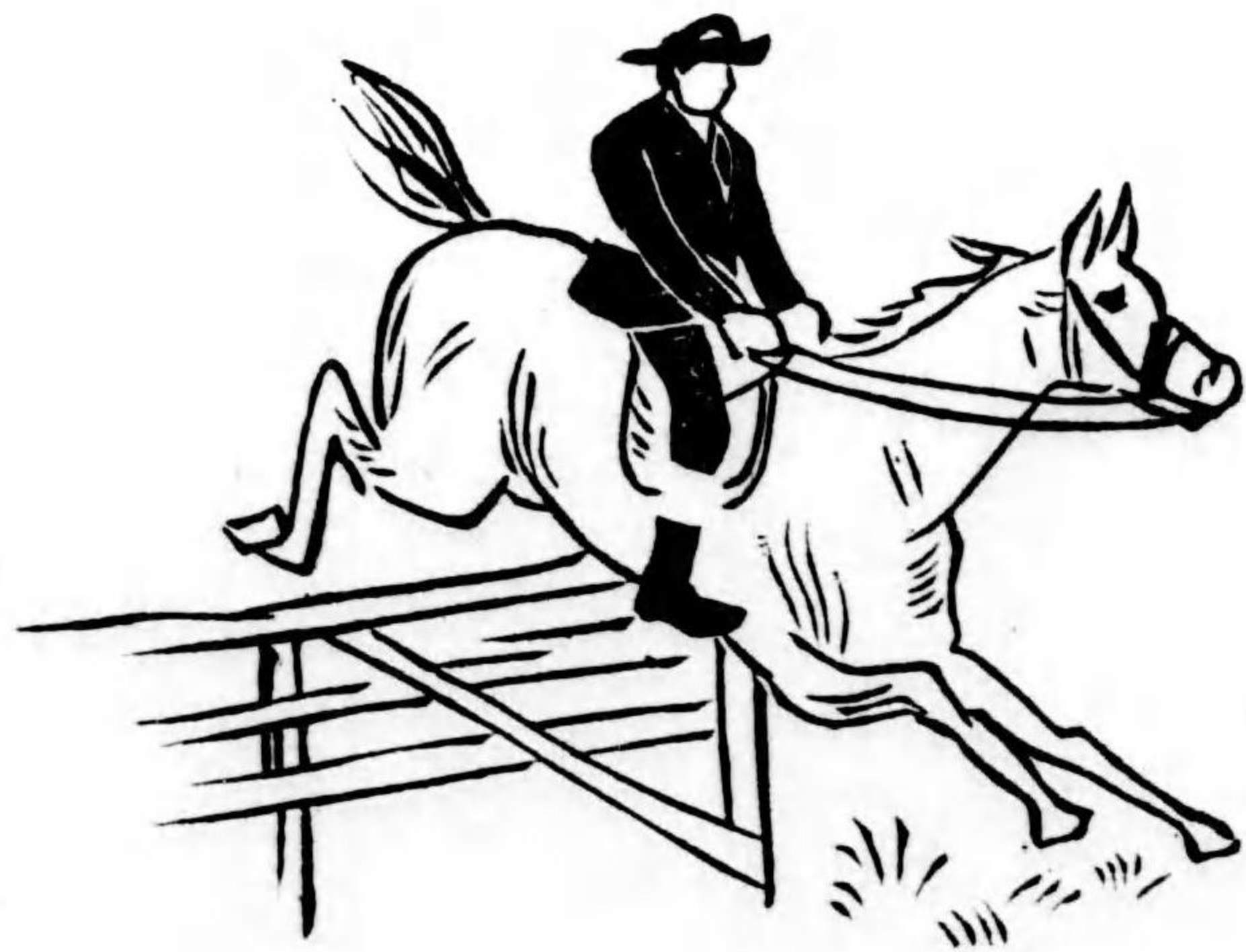


黒猫

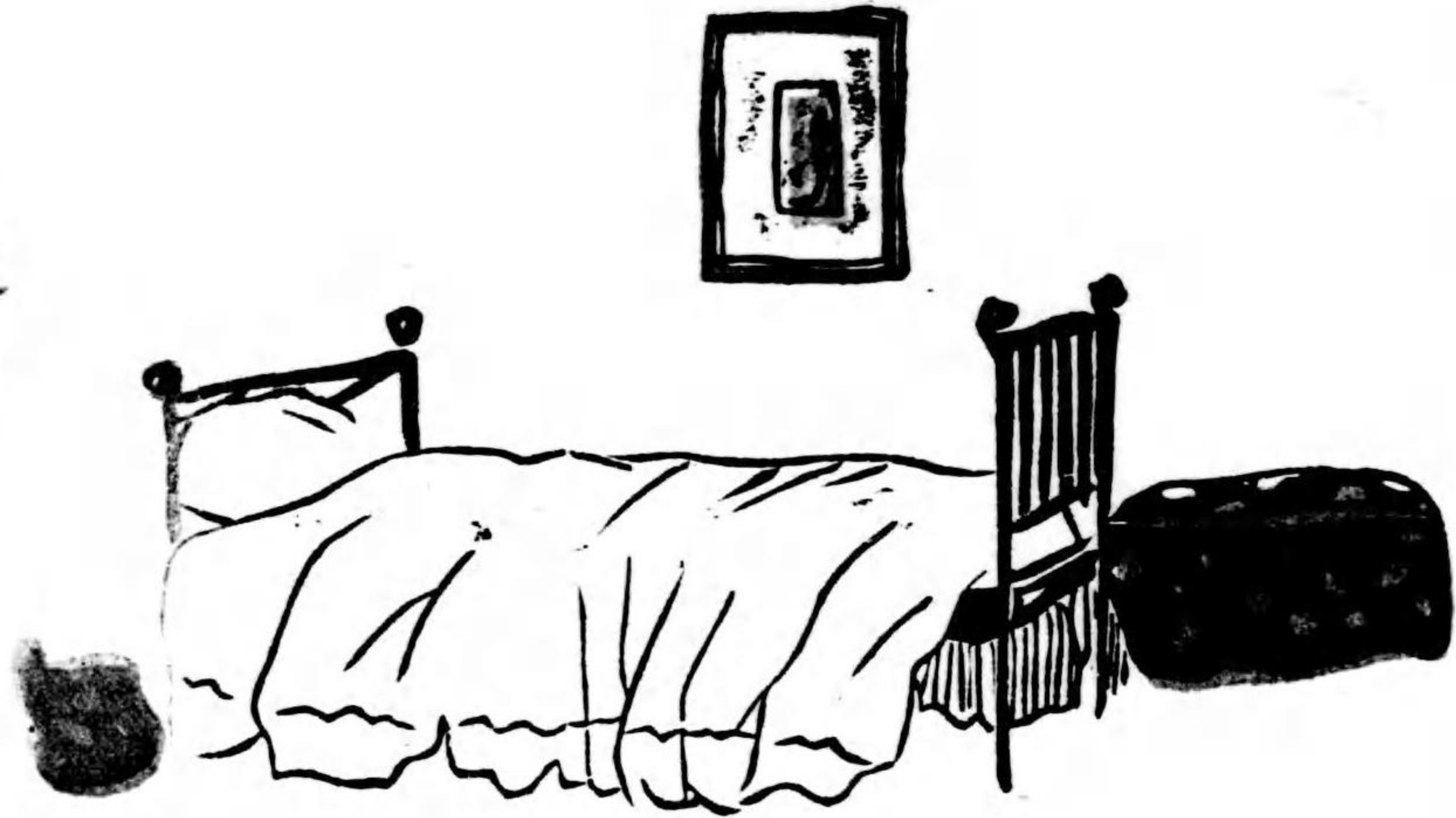




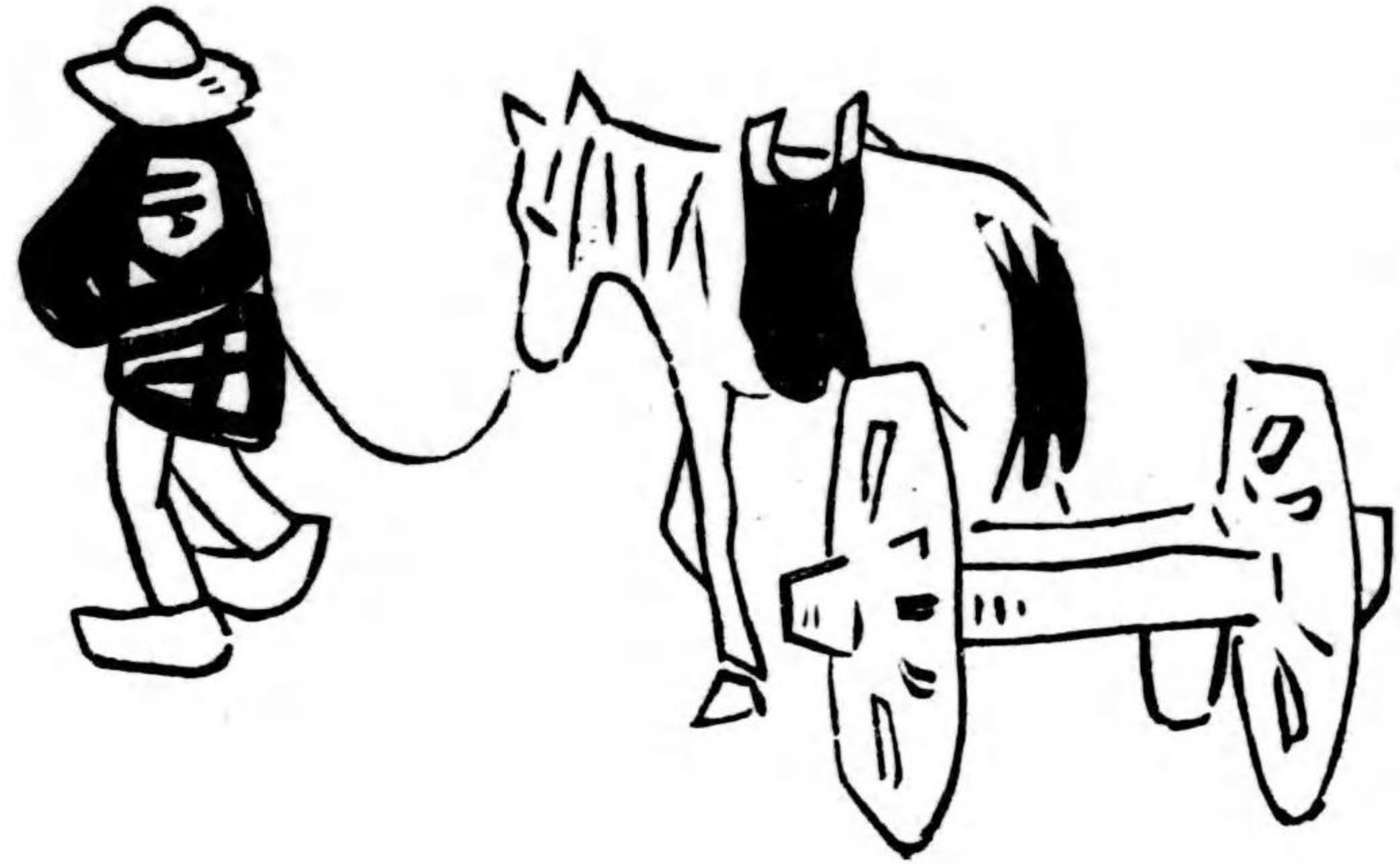
競馬



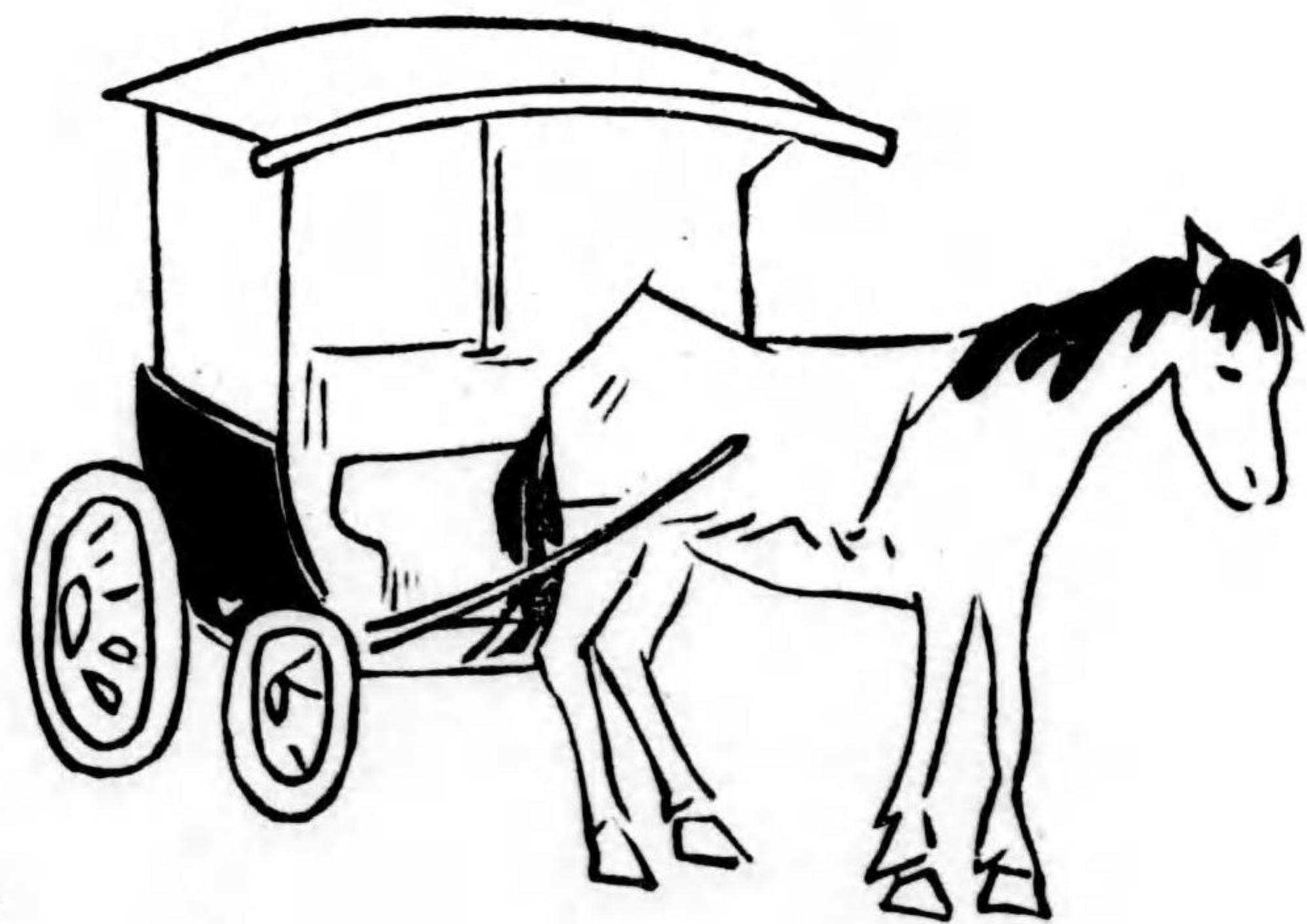
寝台



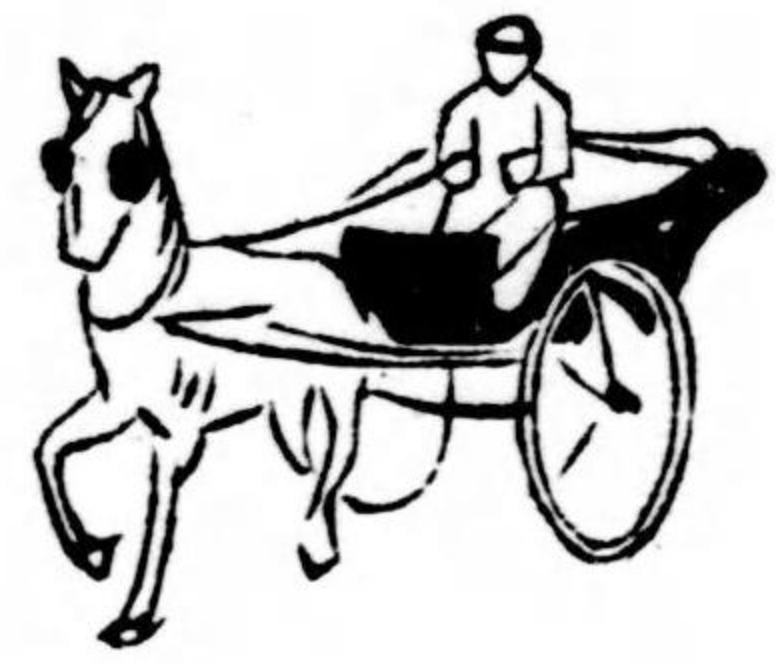
長椅子



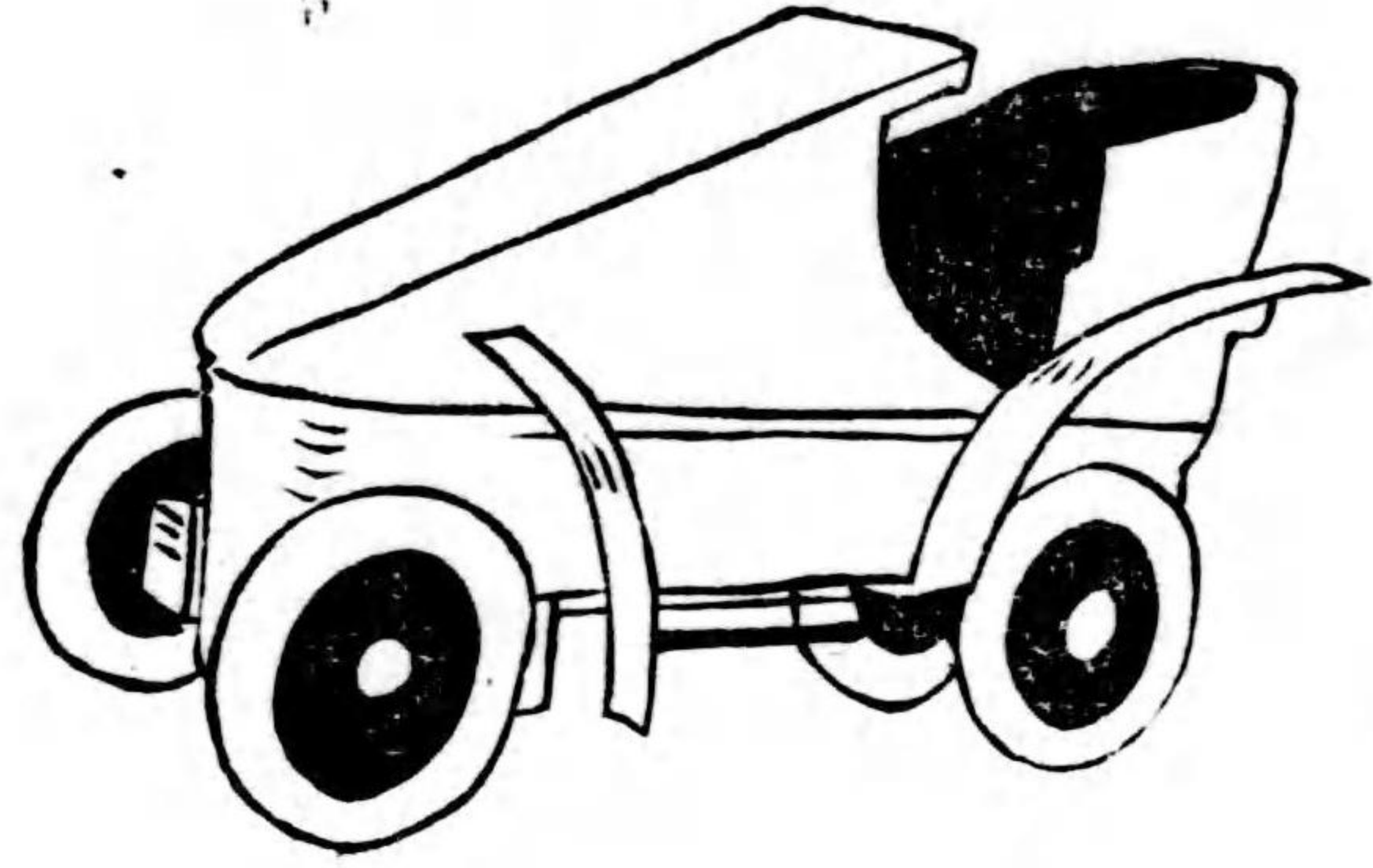
荷車



かた馬車



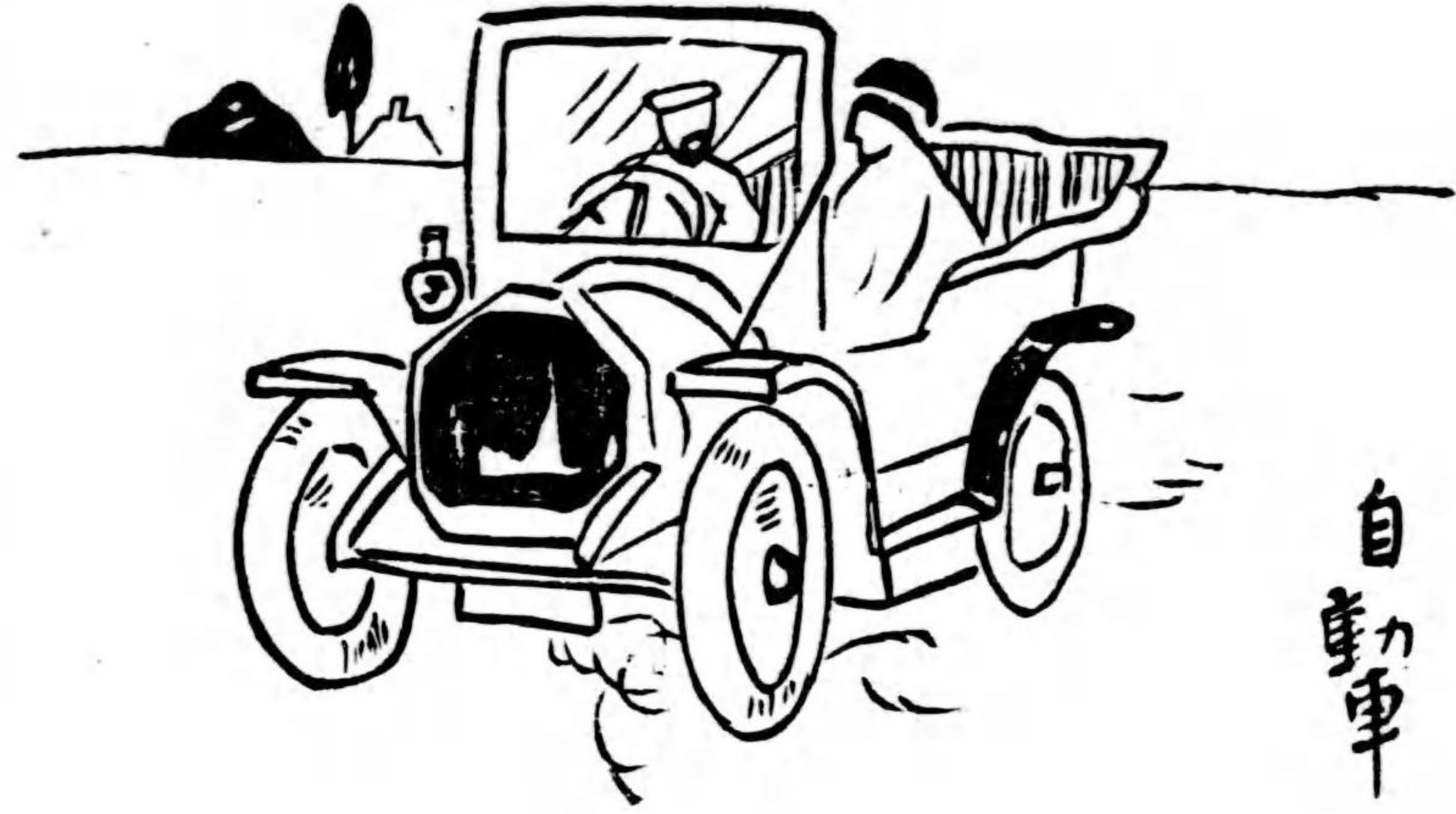
自轉車と馬車



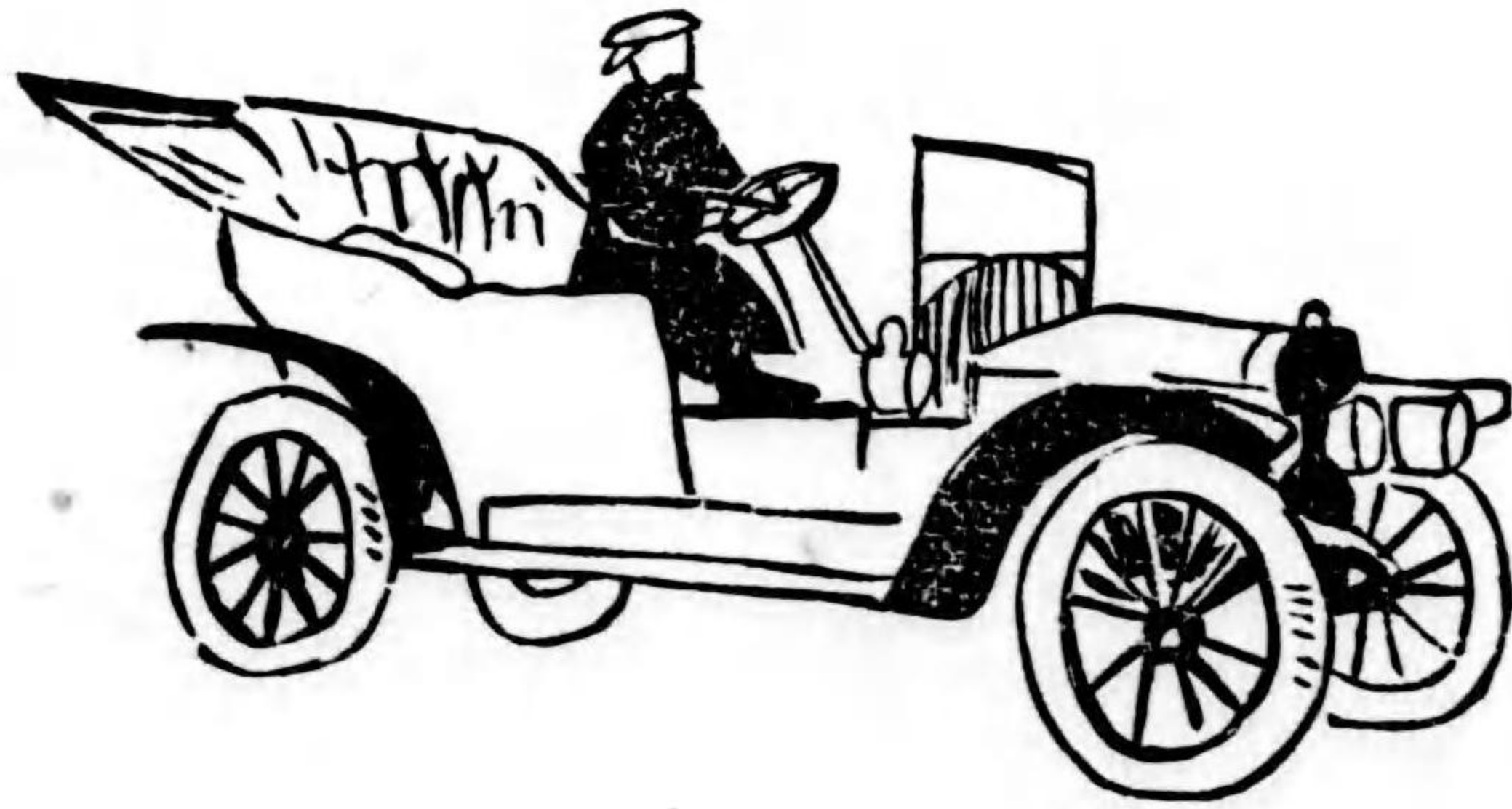
最新の  
自動車

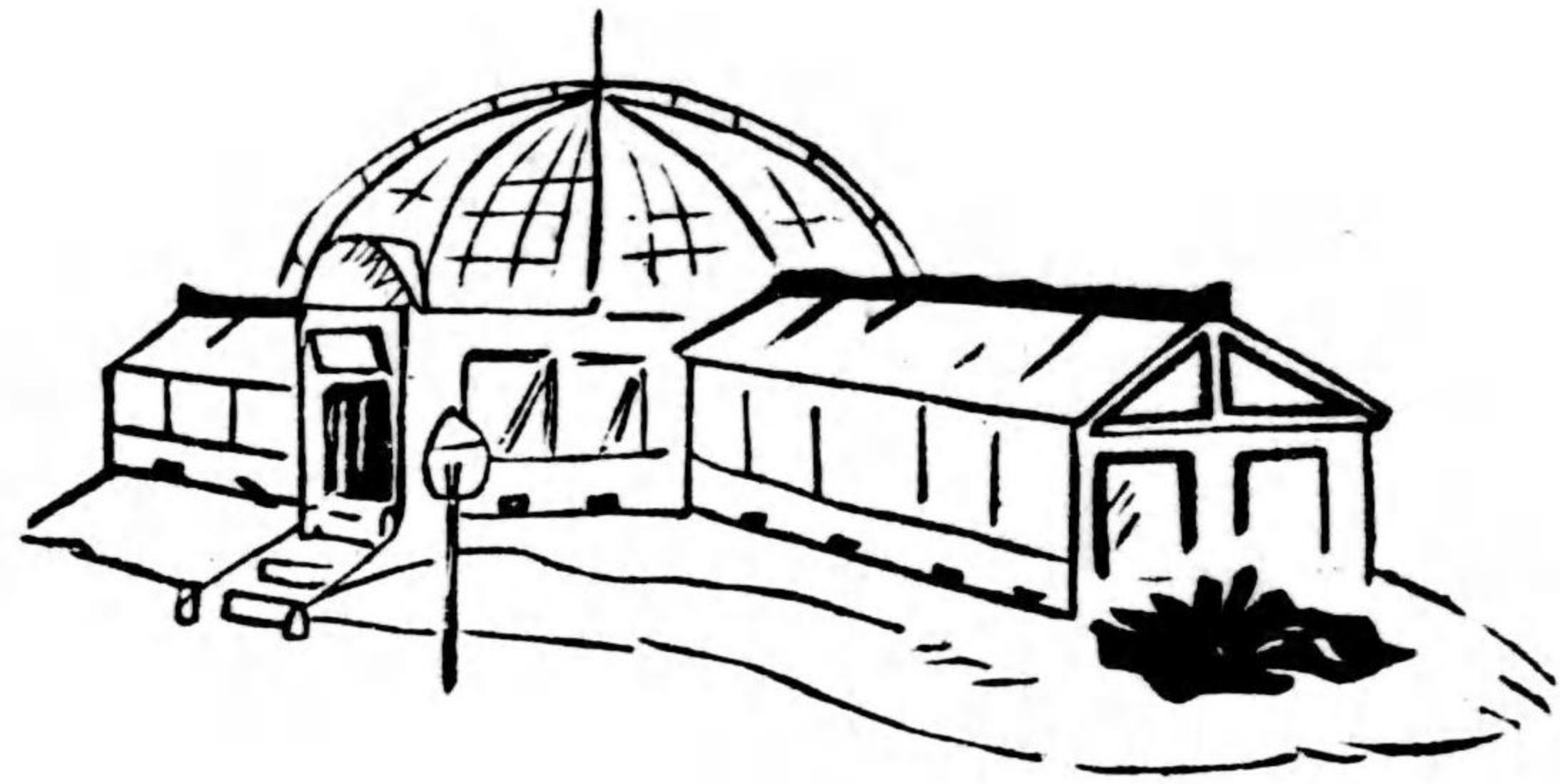


自動車  
に乗れる人

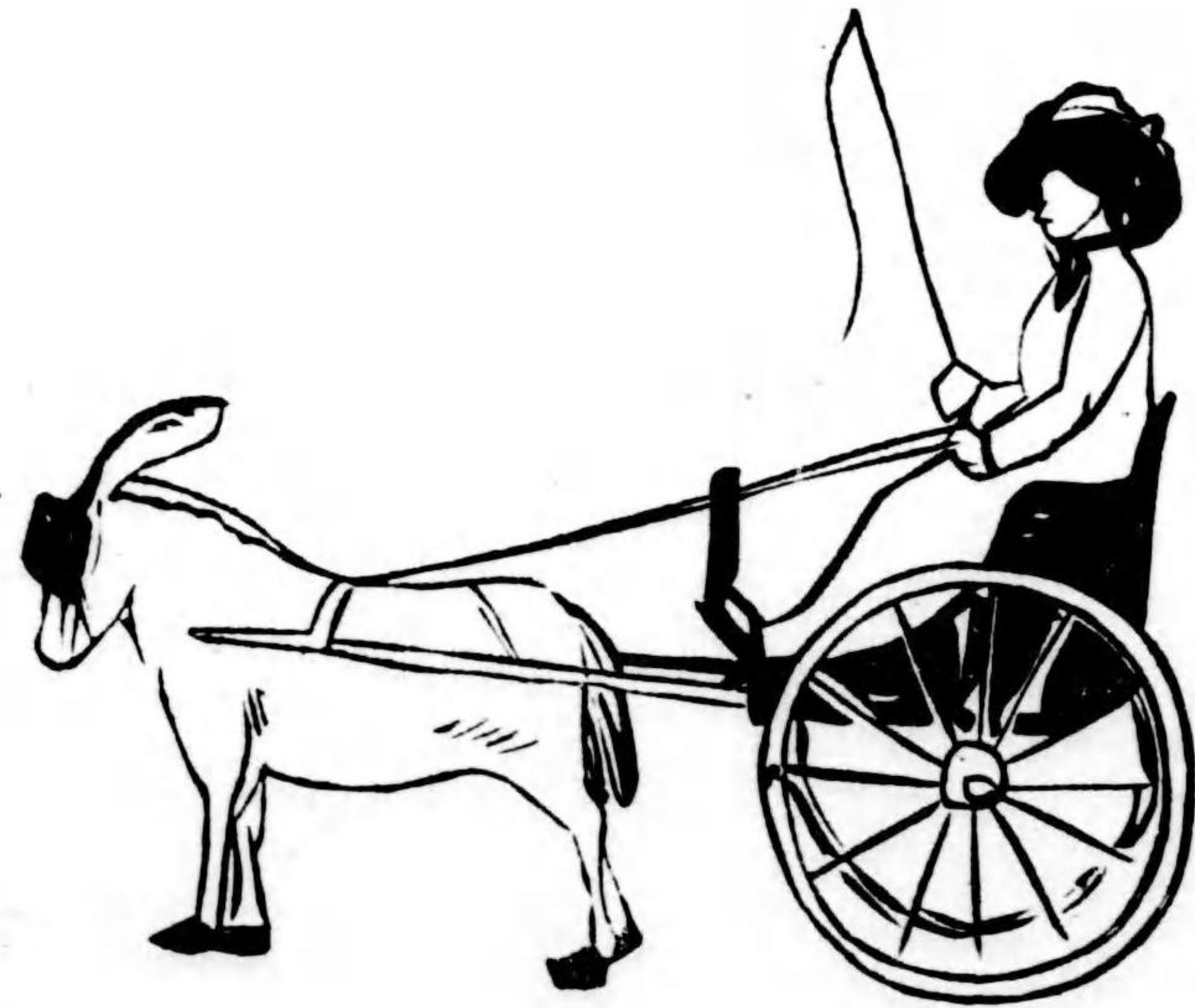
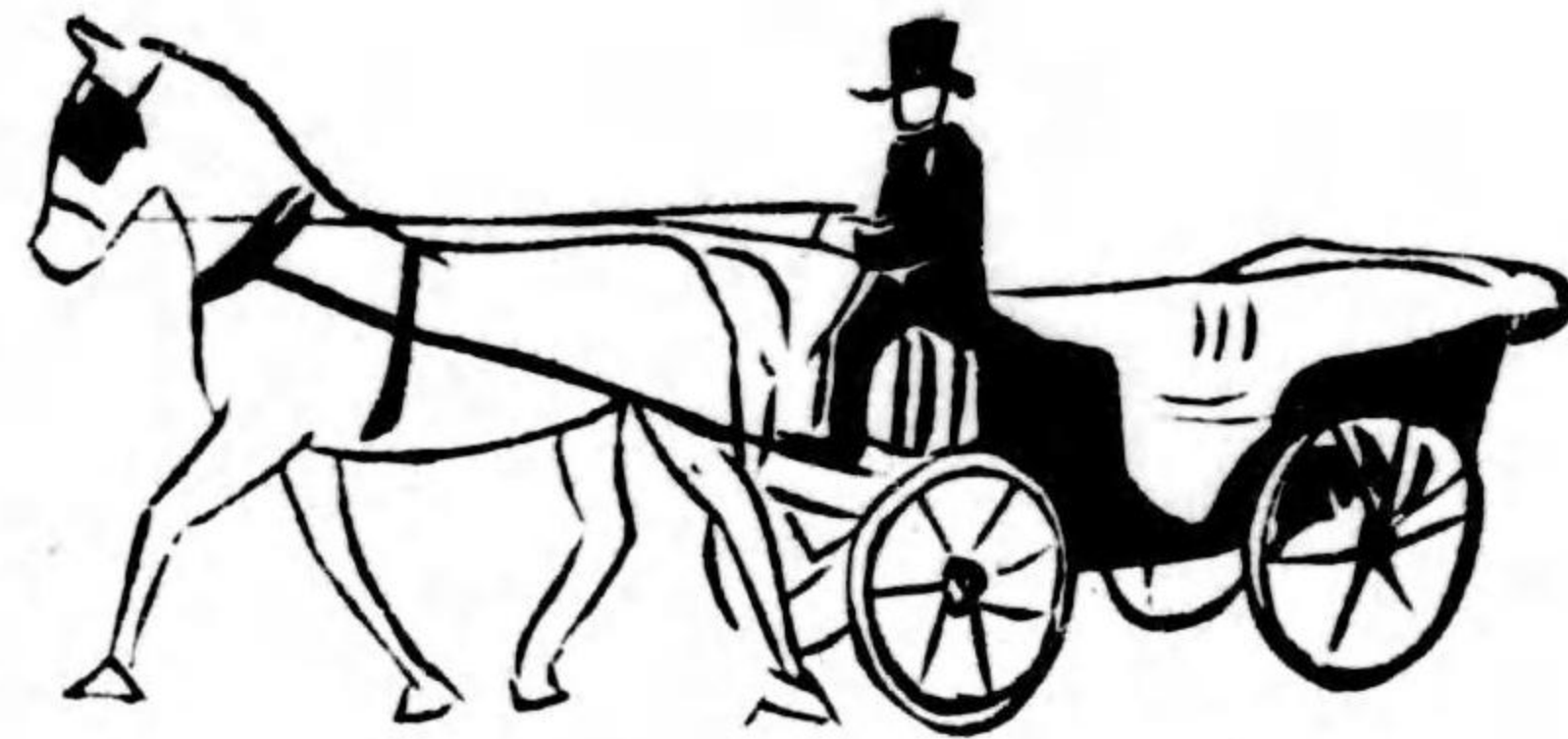


自動車





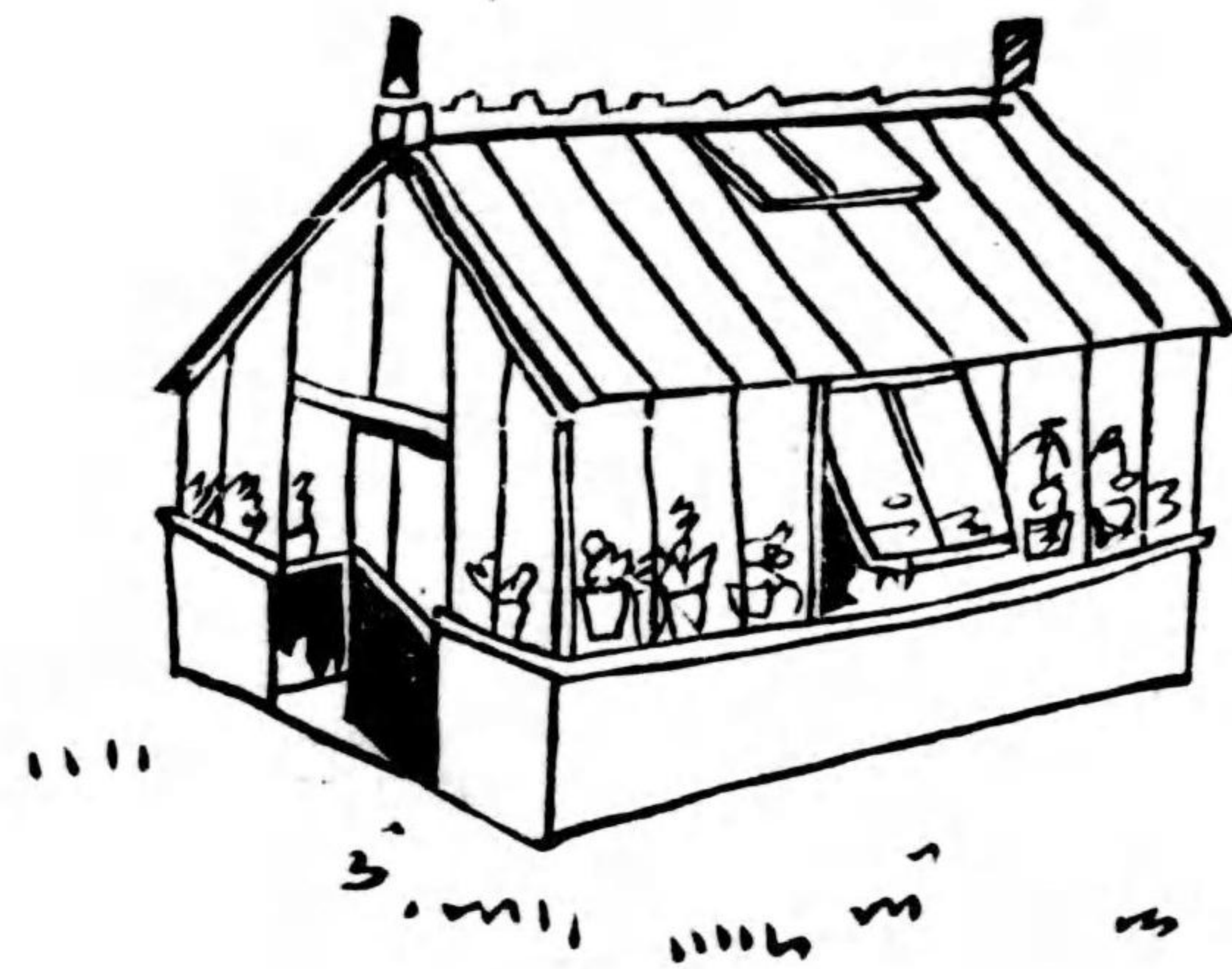
温室



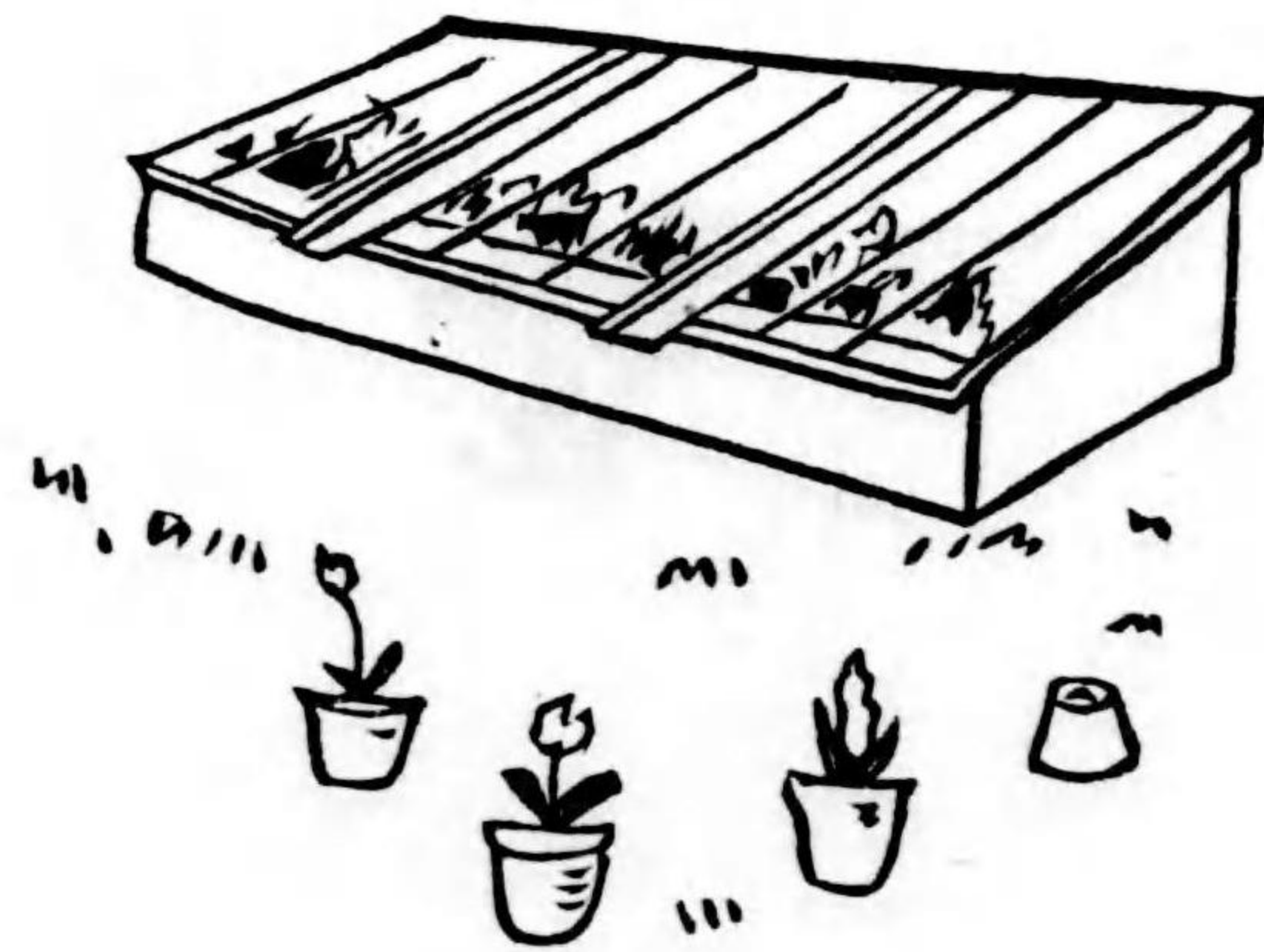
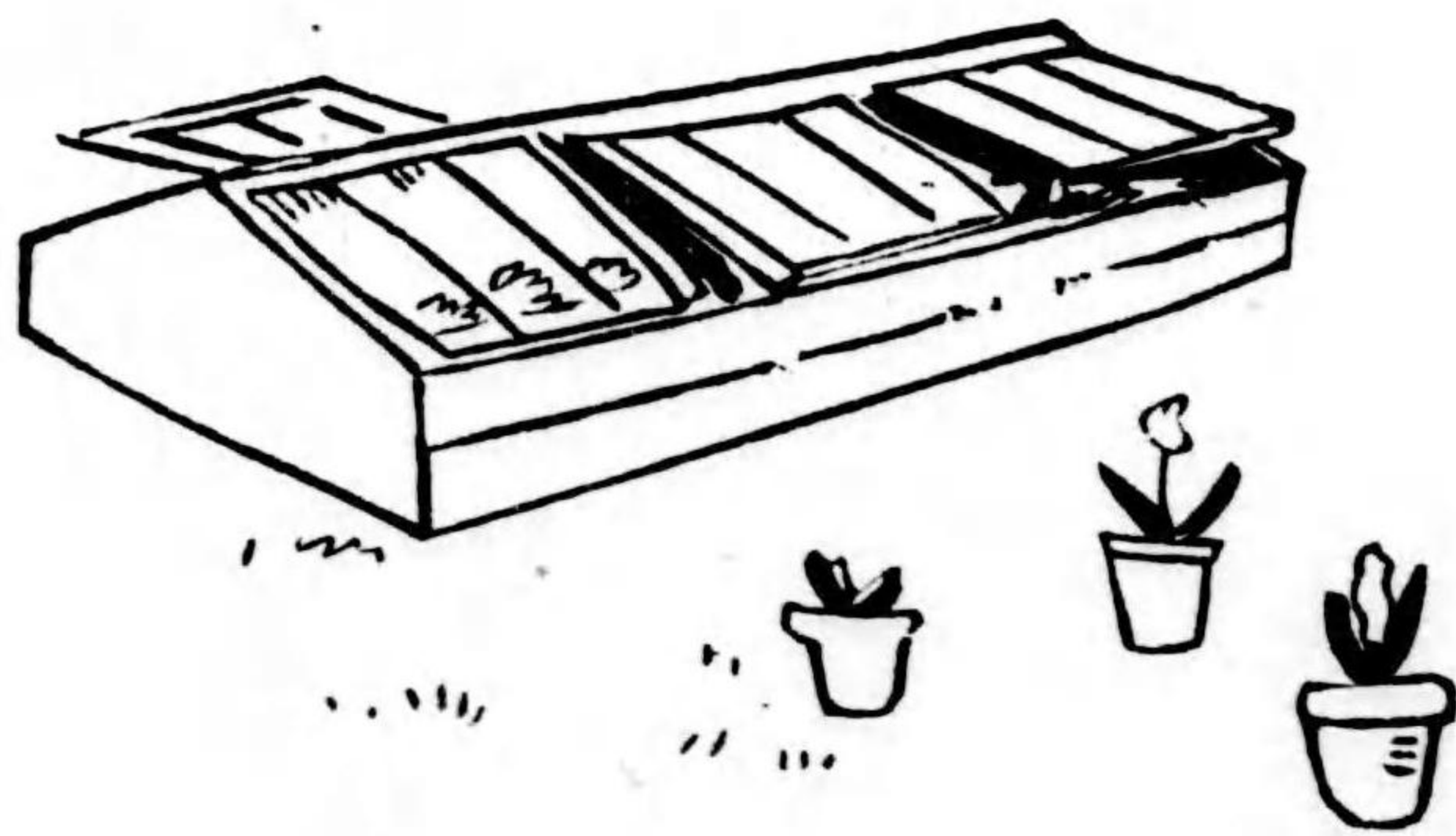




房屋



房屋



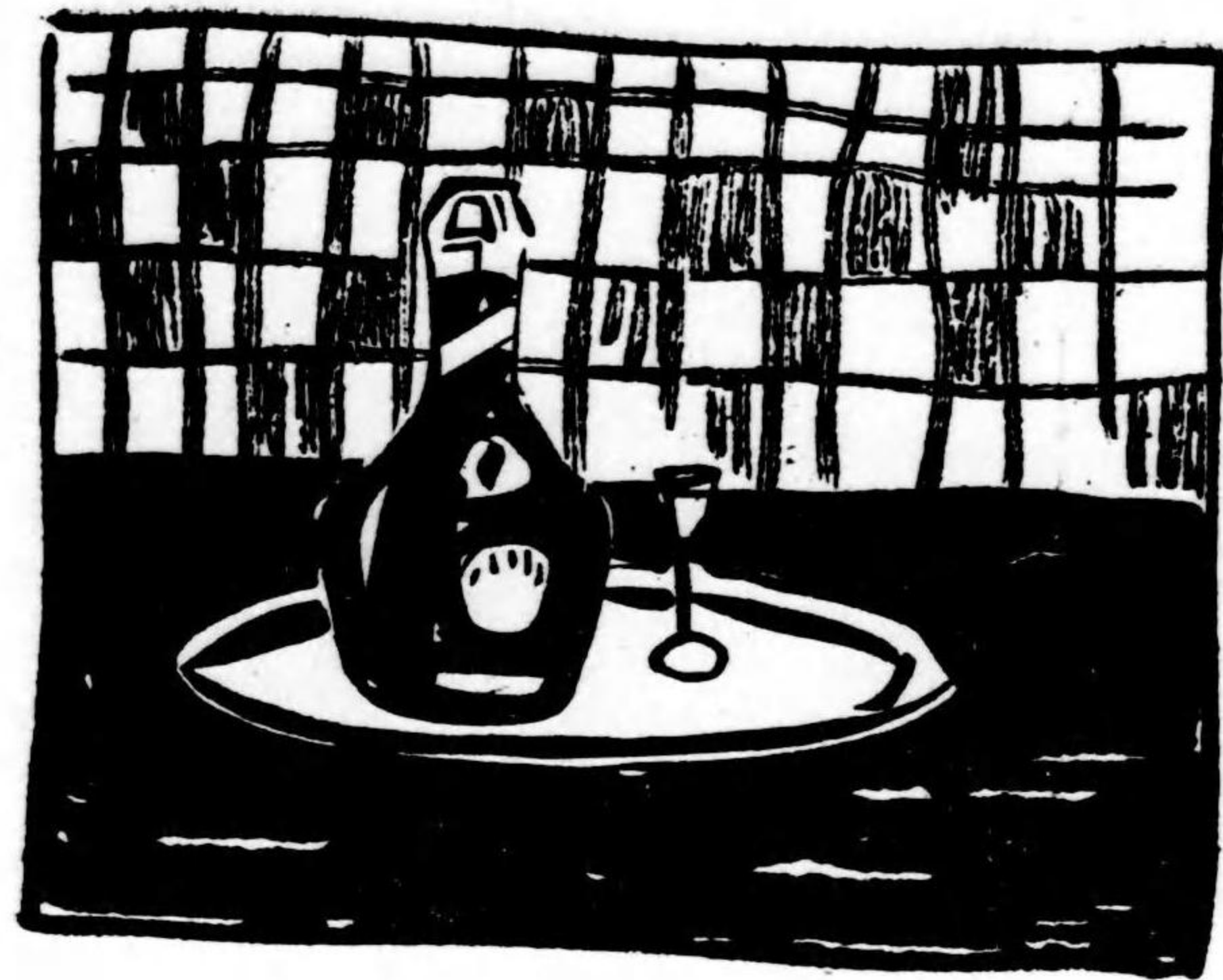


食卓



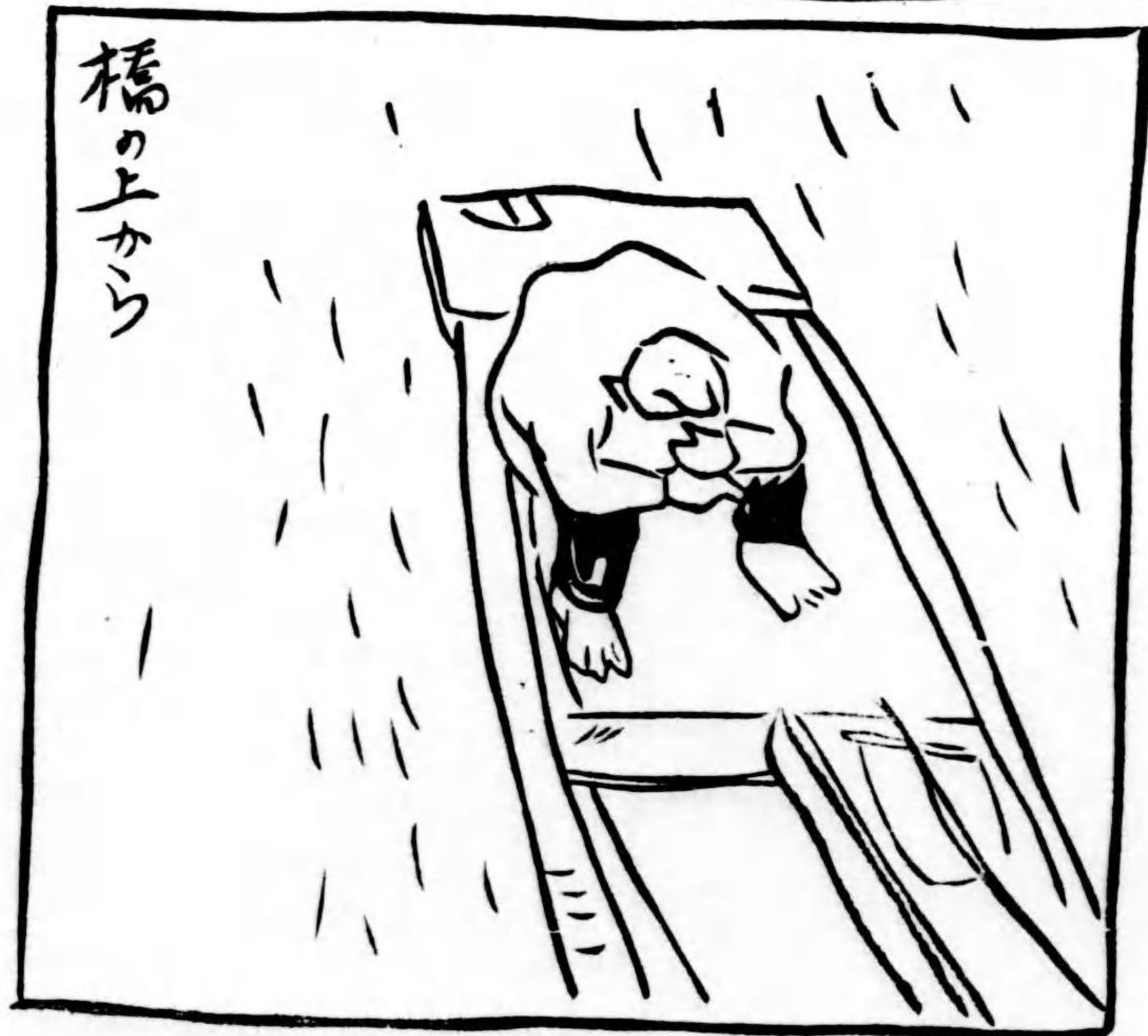
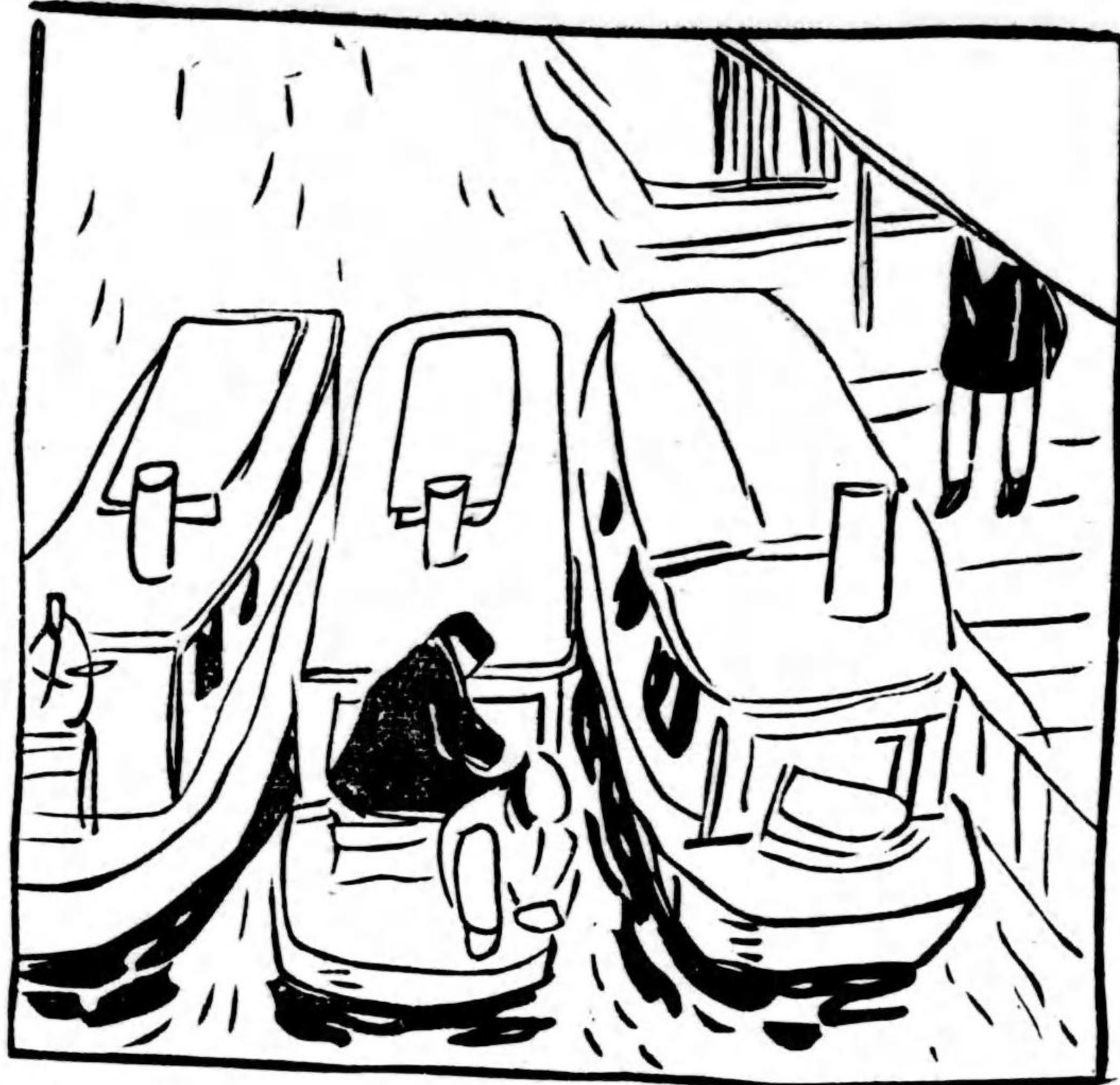
カフェー

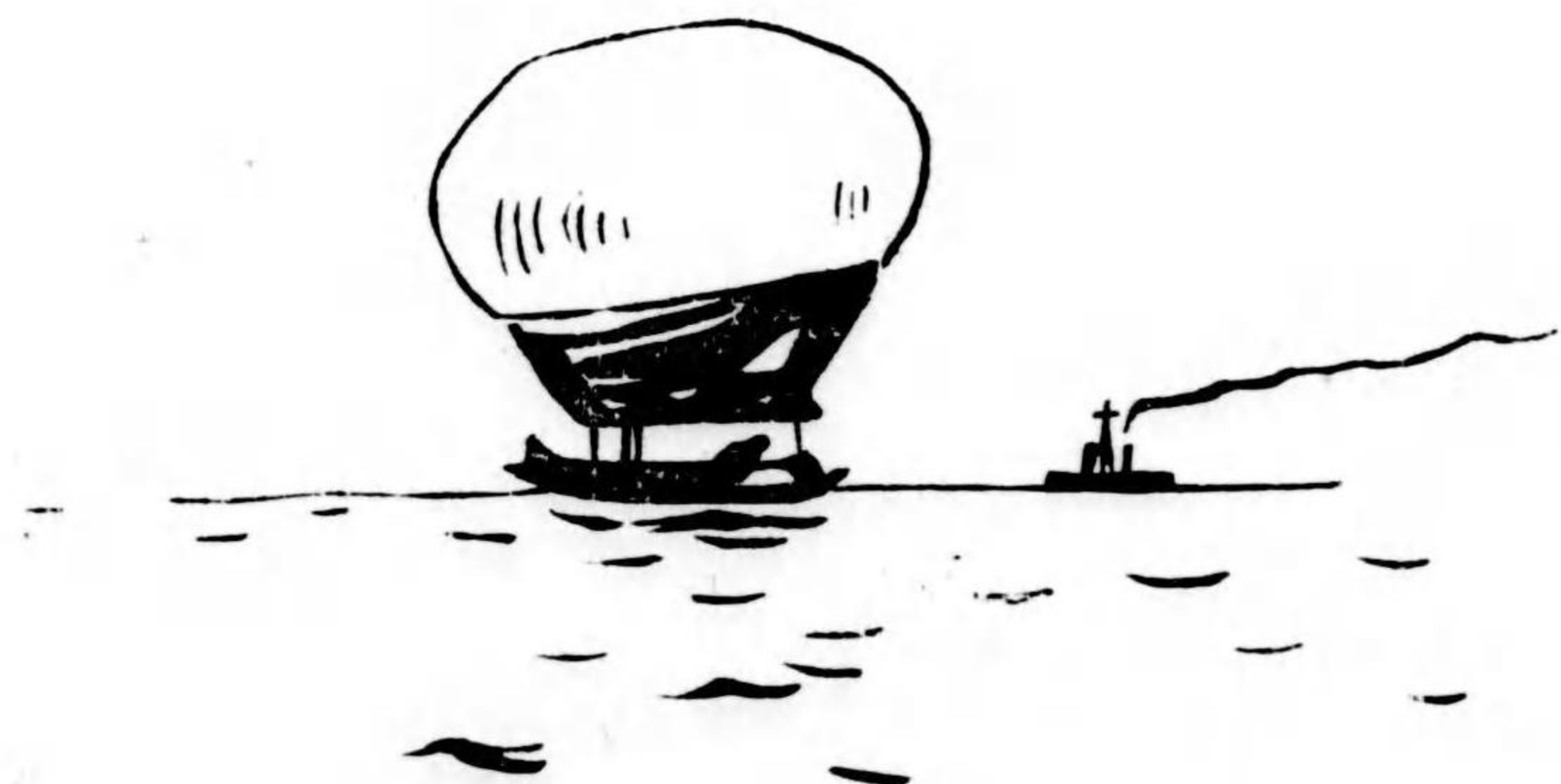
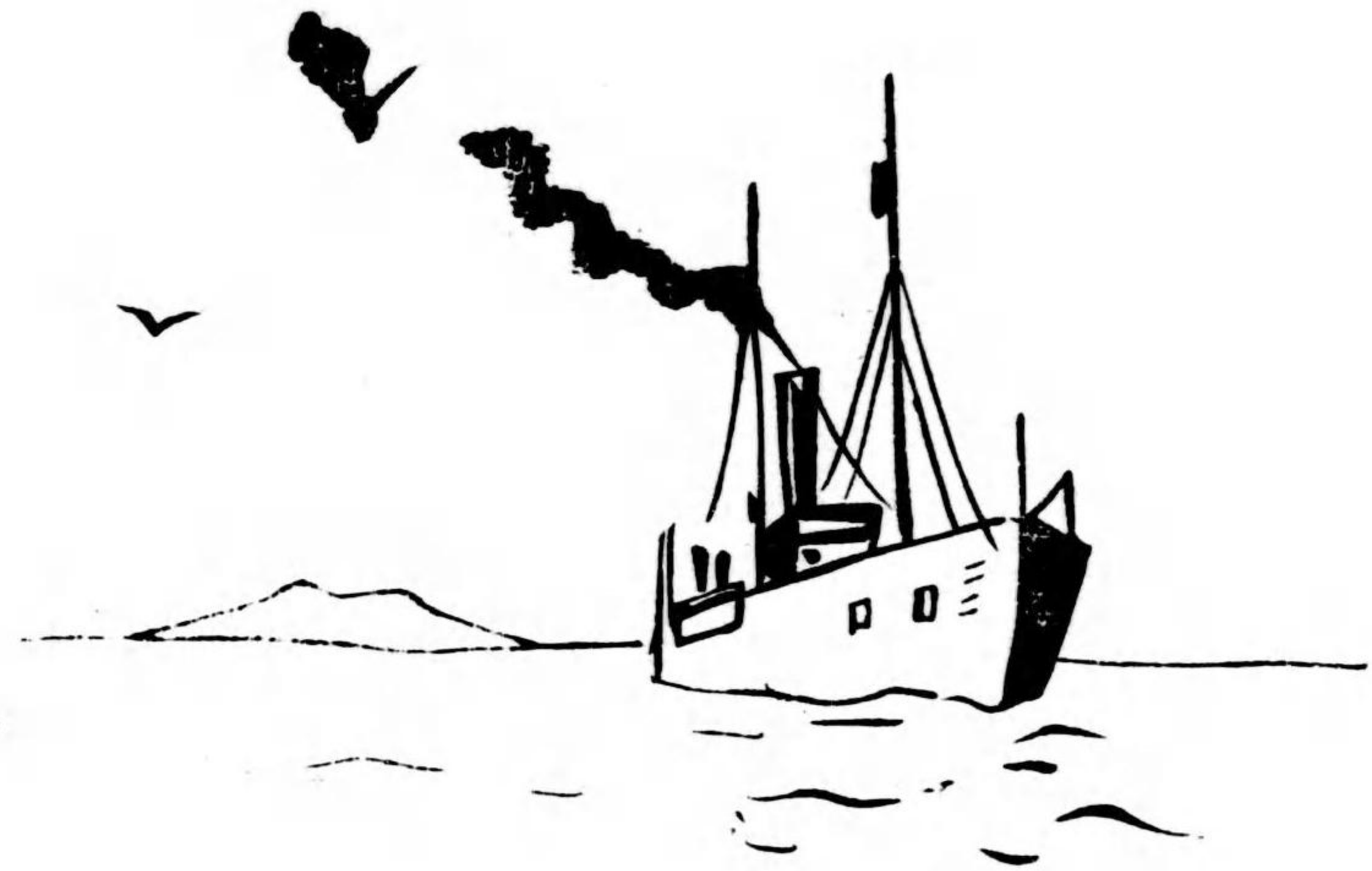
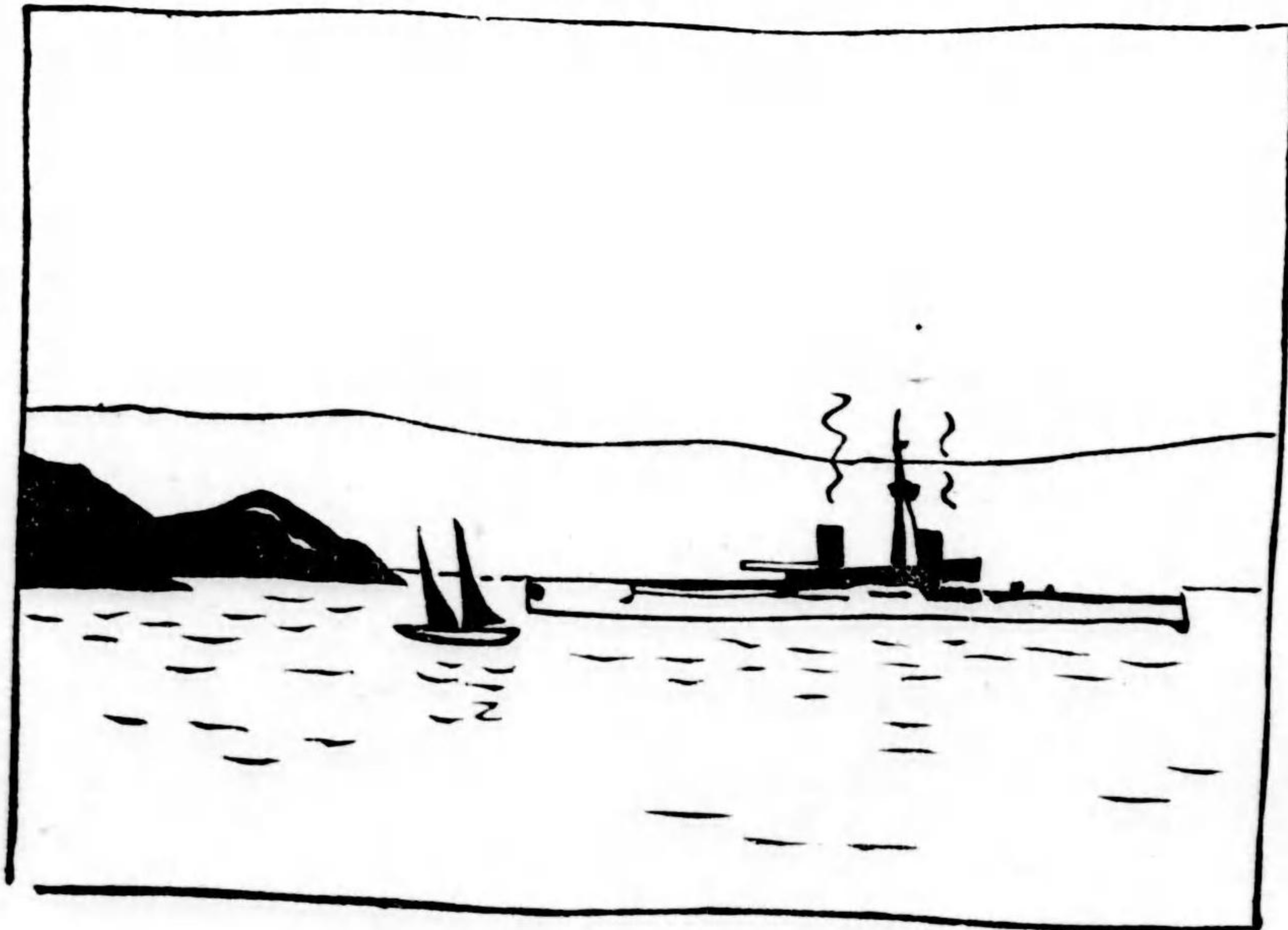
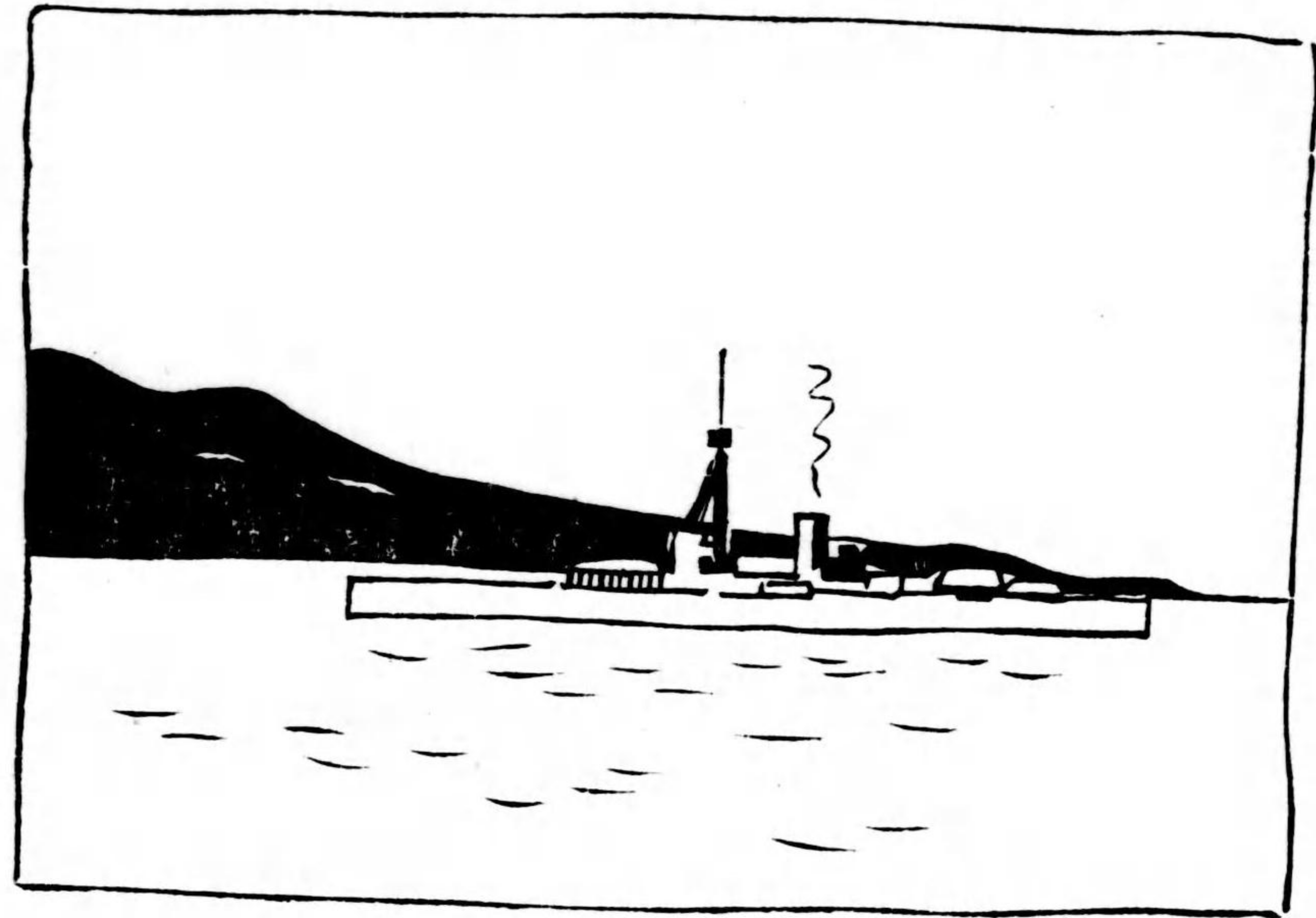




物 静

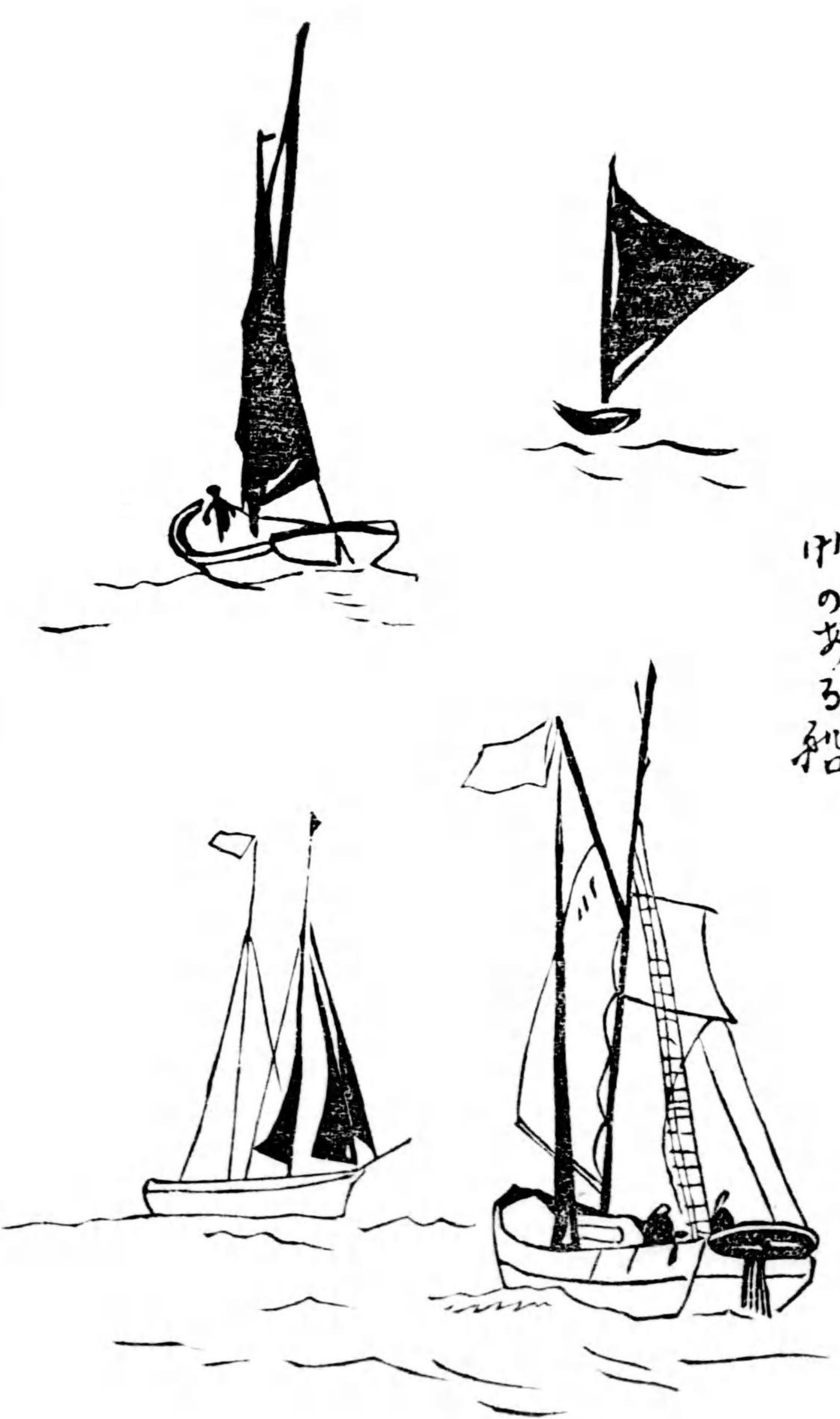




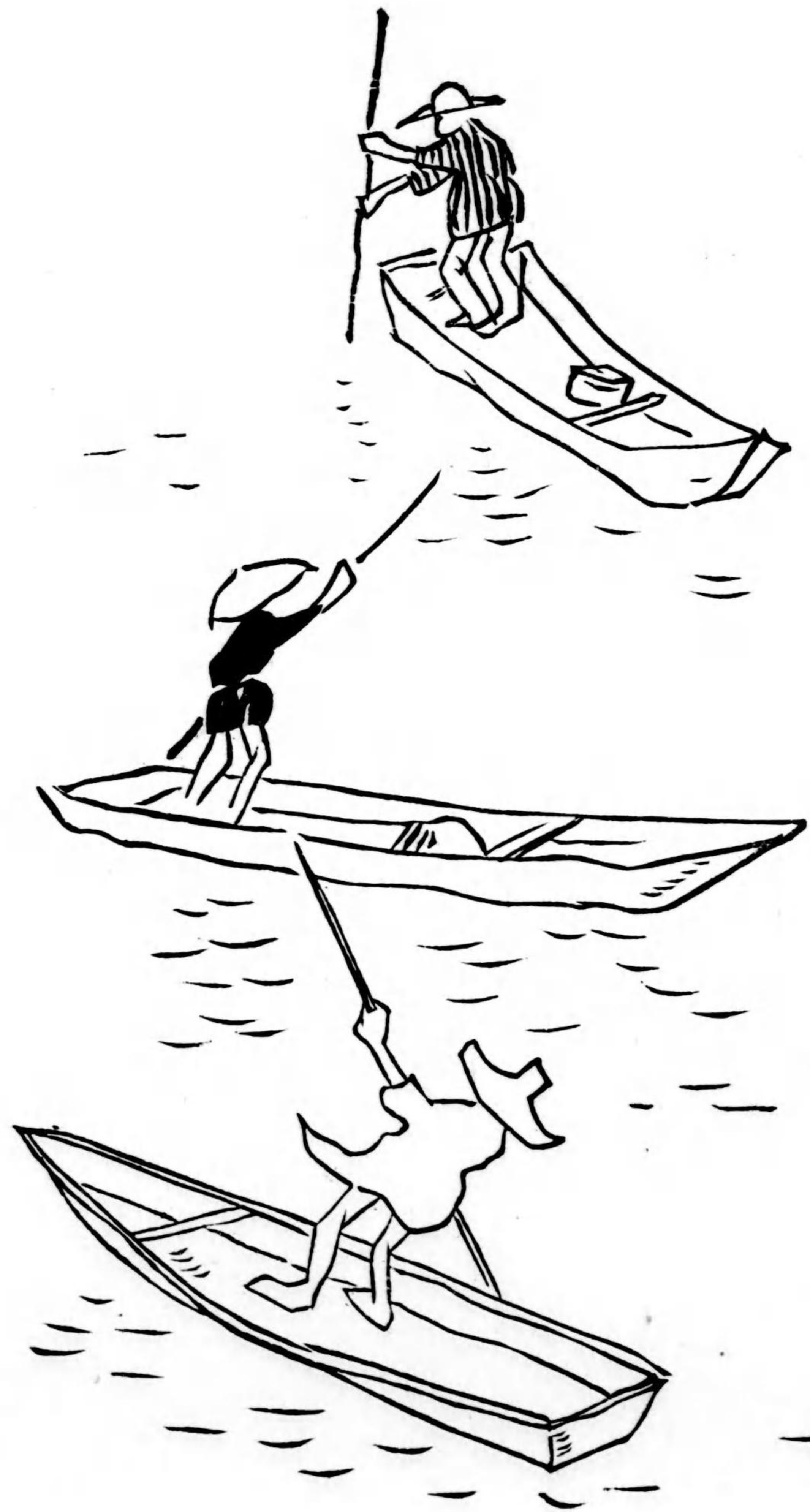




海底に沈める  
潜水者



帆のある船

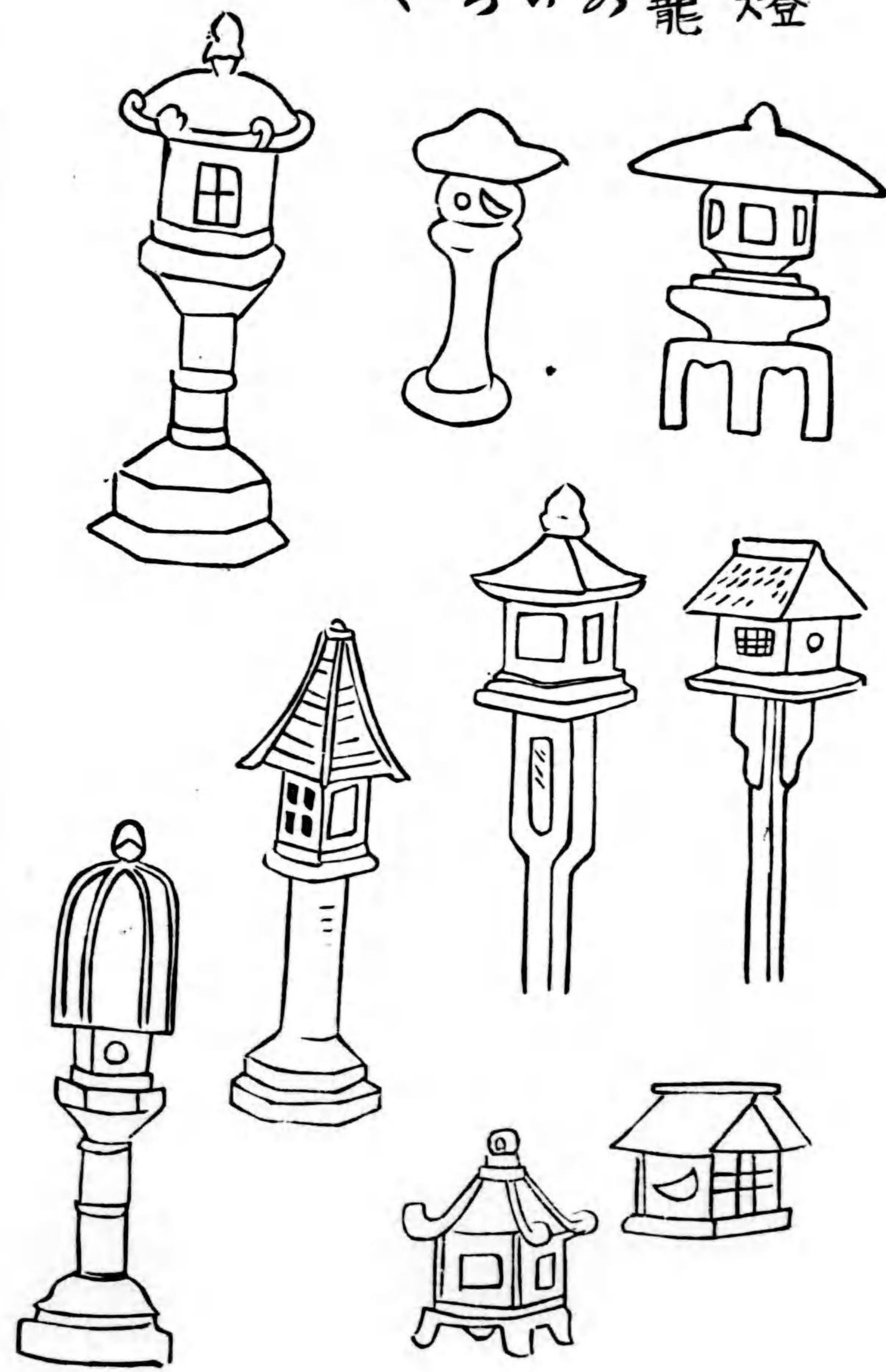


舟の人等

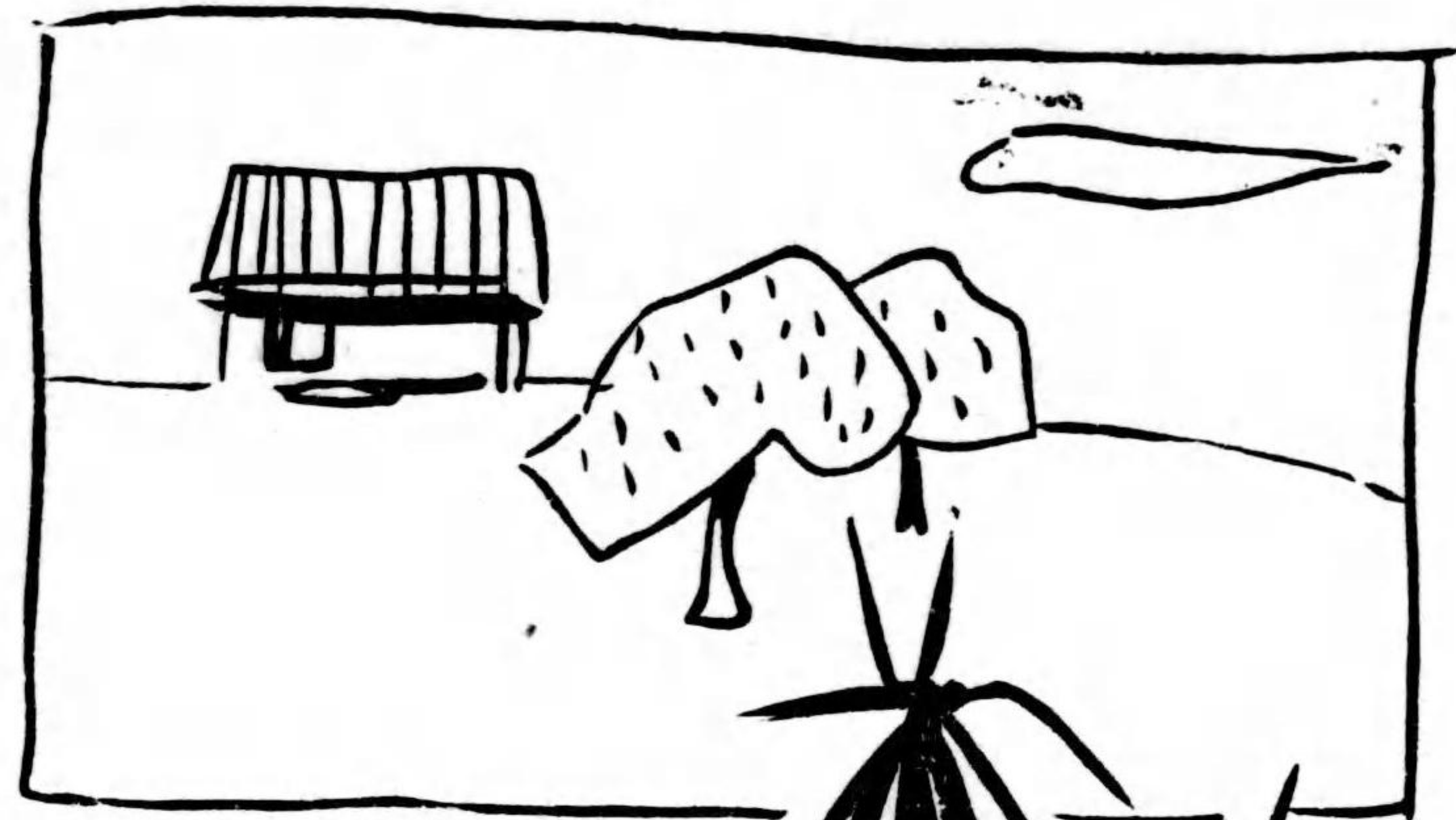
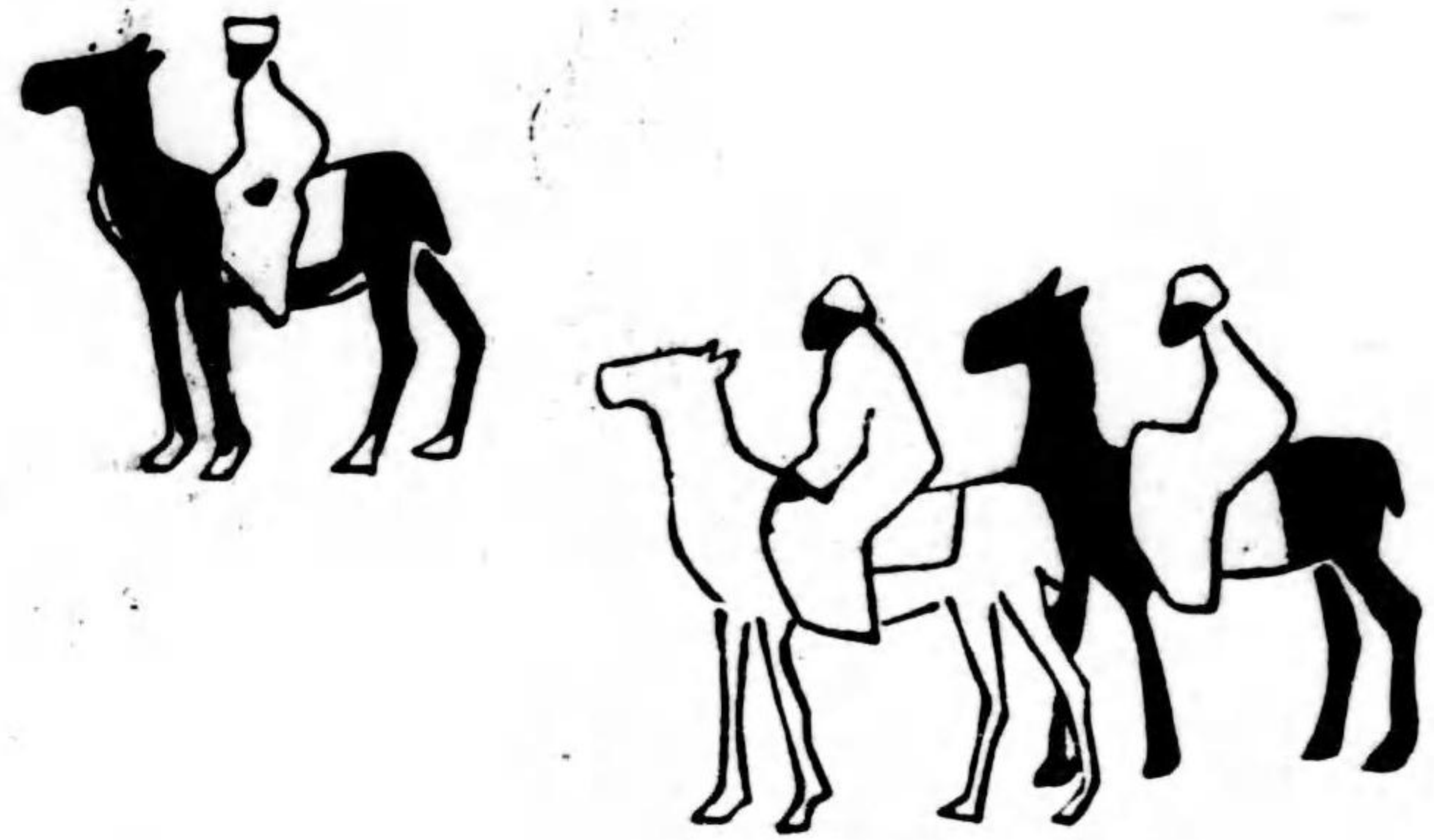
エジプトの風景



燈籠のいろいろ

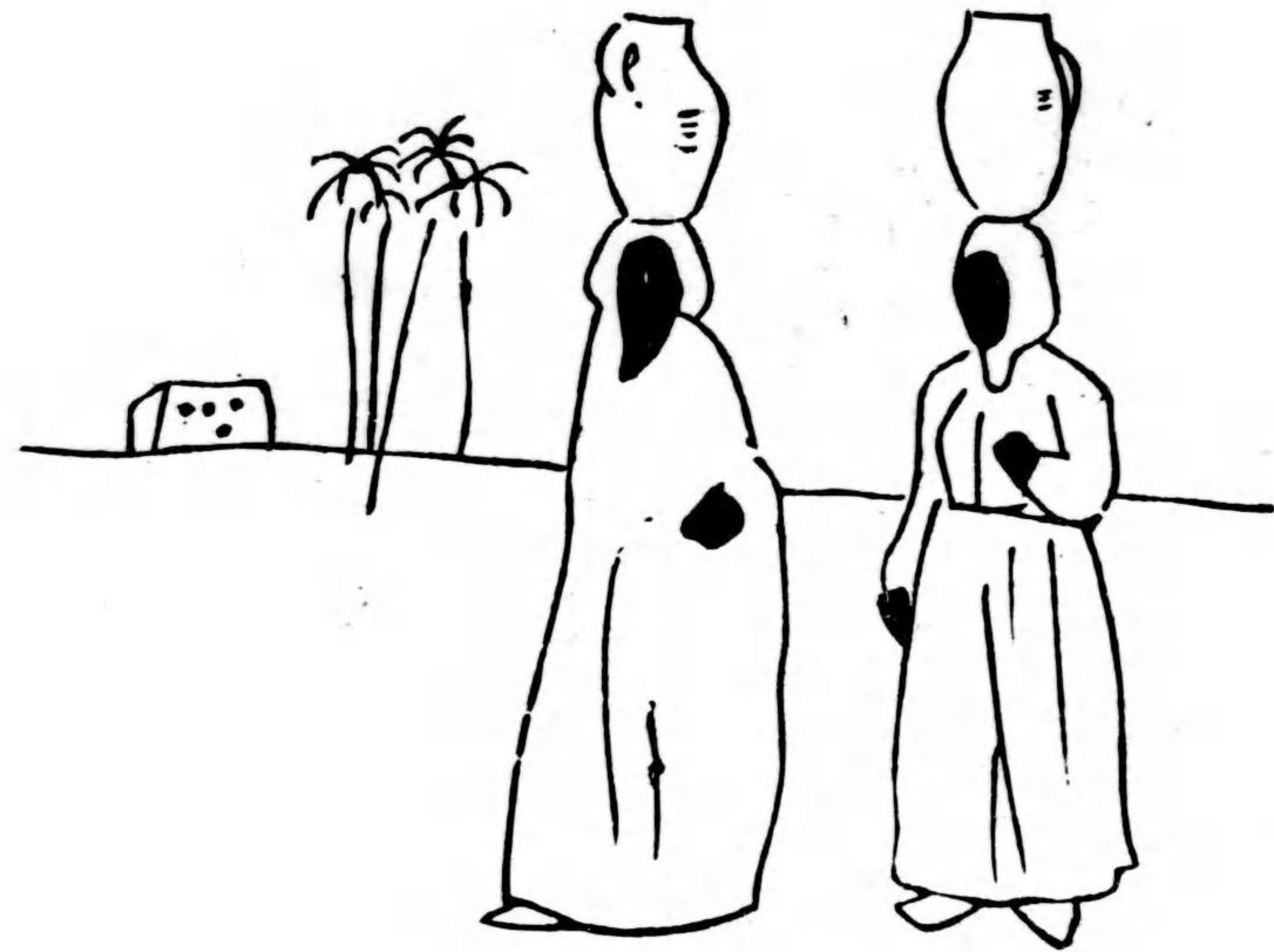
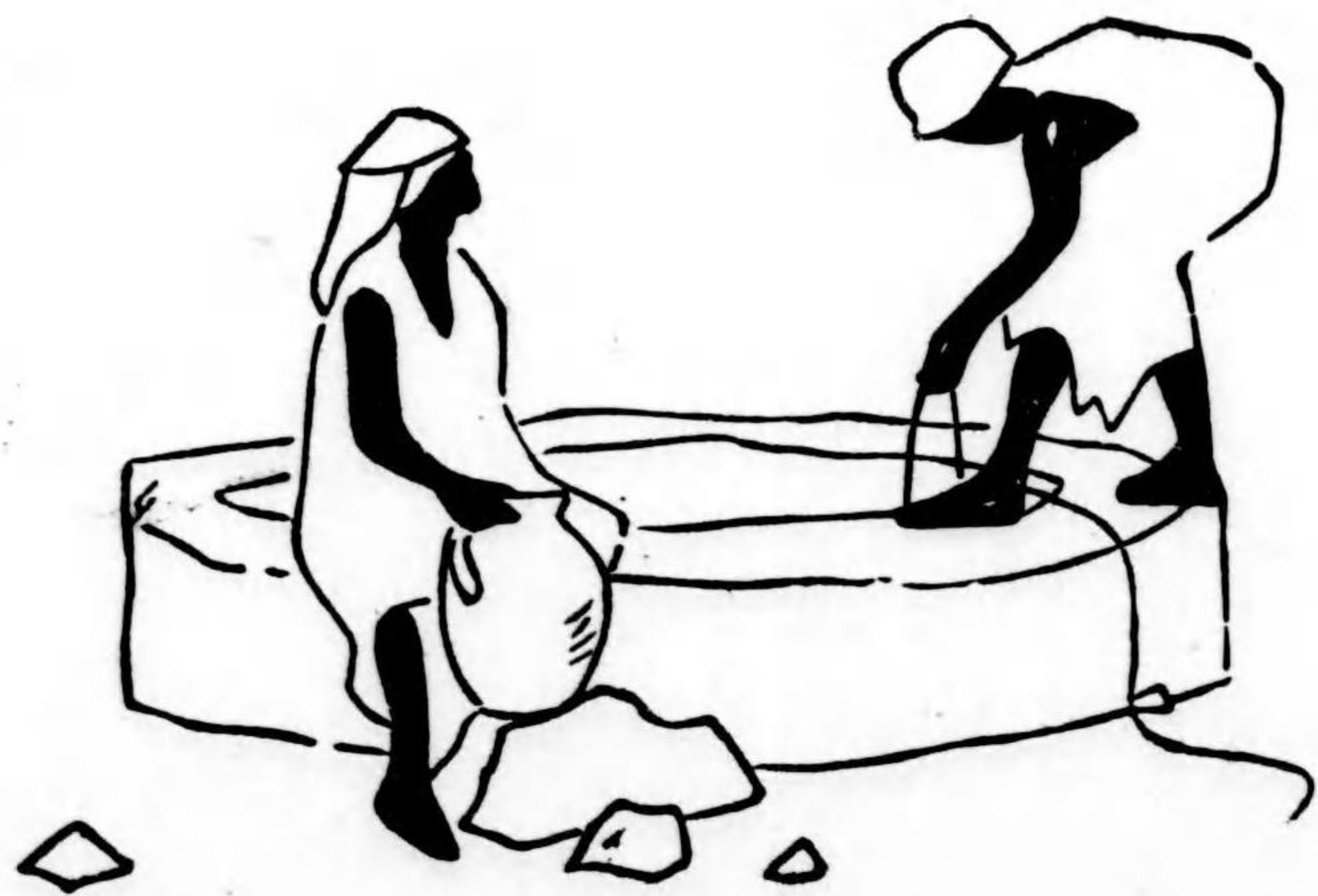
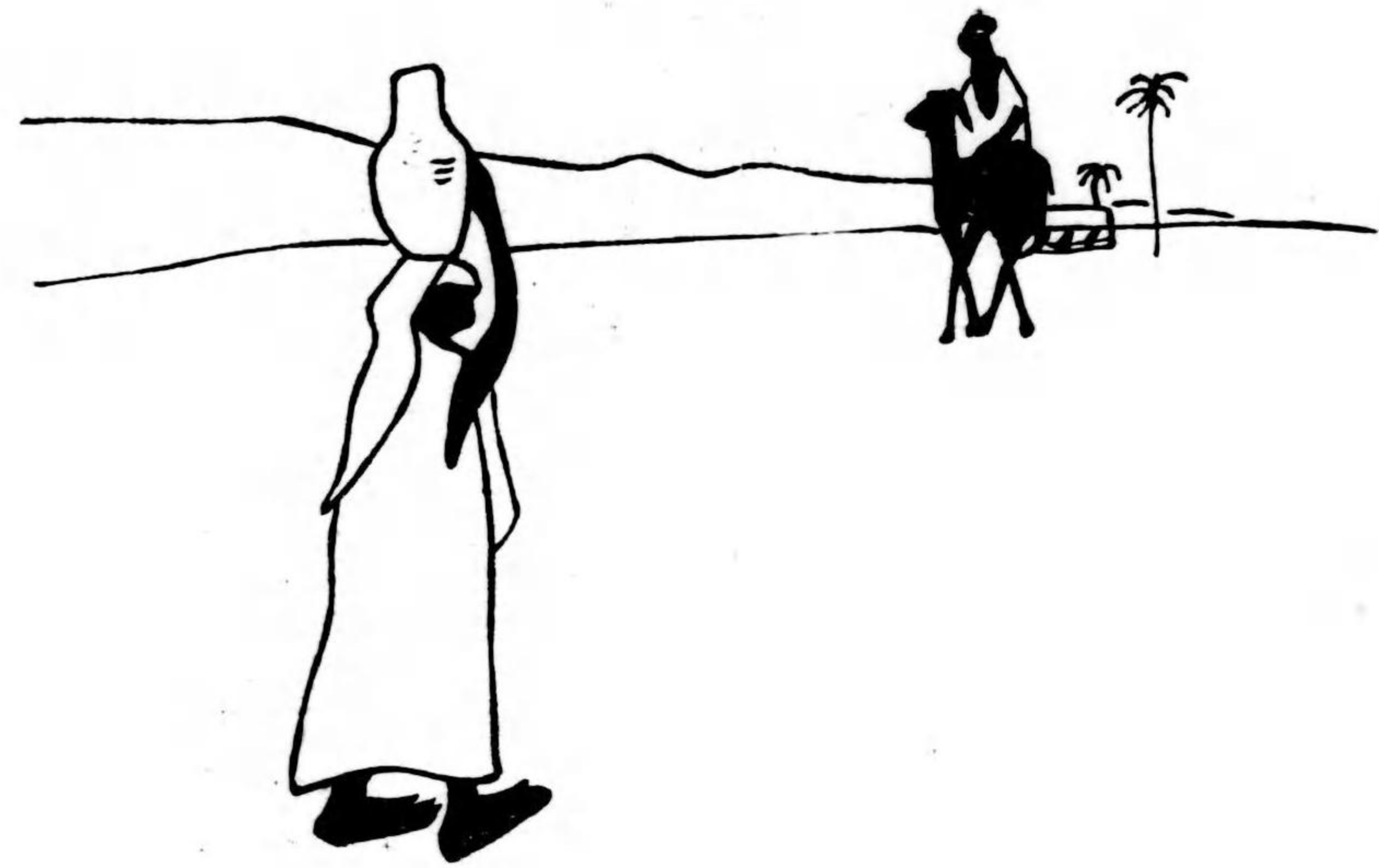






南の国







大正四年八月一日印刷  
 大正四年八月五日發行  
 定價金拾錢

著者 廣谷三ヨシ

發行者 大坂市東區系屋町二丁目 家村吉兵衛

印刷者 大坂市東區備後町一丁目 大上政藏

印刷所 大政印刷所

東京市日本橋區數寄屋町番地 明文館書店

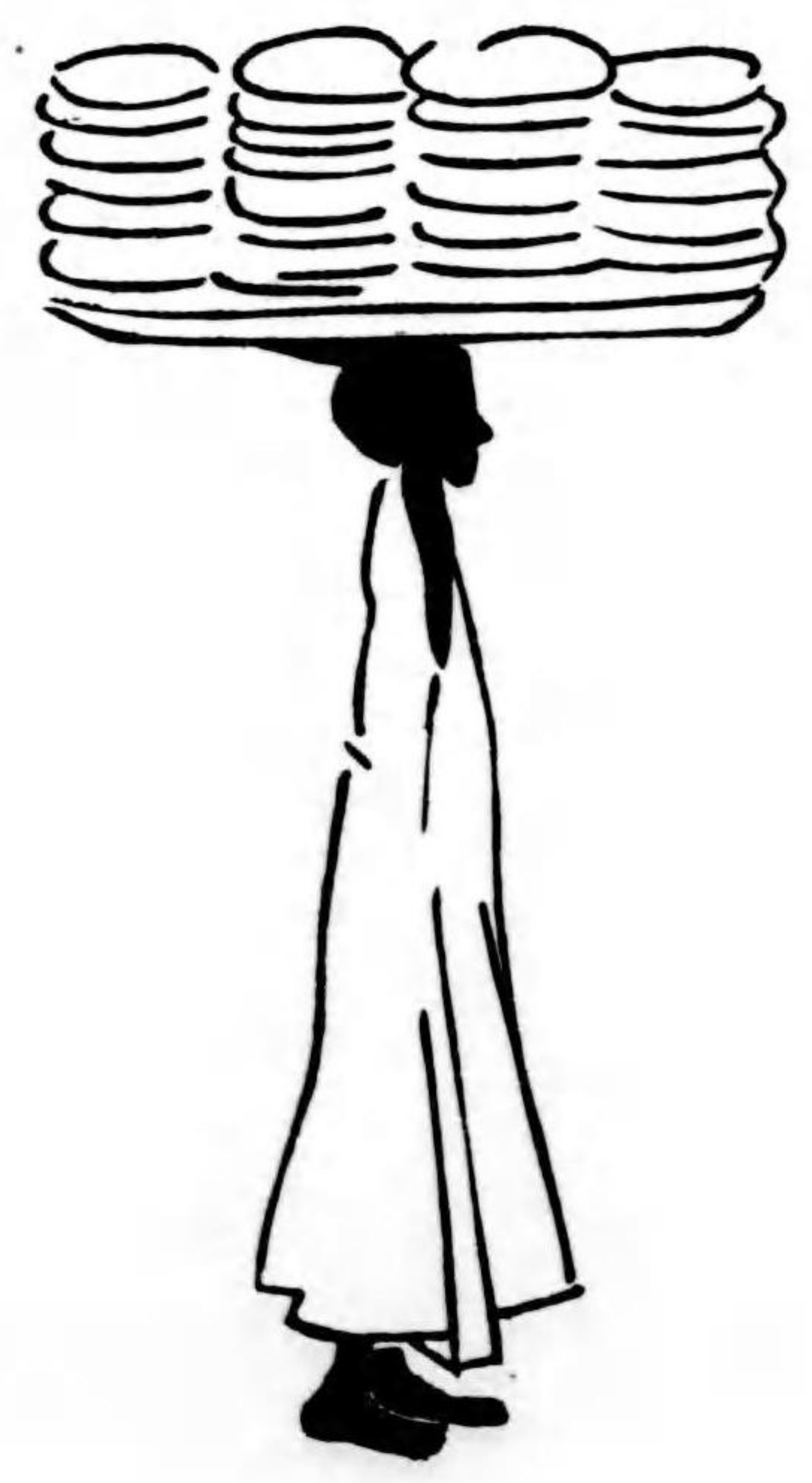
大坂市東區系屋町松屋町角 振替東京四五五四

家村文翫堂

大坂市南區戎橋筋演舞場北隣 振替大阪一七四八六

工ミヤ書店

振替大阪一六貳六〇



八木 鳩峯著 **繪畫の手引**

極彩色口繪數葉 四六形頗美裝  
 彩色摺拾數葉 正價金五拾錢  
 木版摺貳百餘頁 郵税金四錢

本書に對する二大新聞の批評

大阪朝日新聞

曰く、幼稚園から小學の初年級程度の兒童に與へるとよい教訓にあり趣味になり  
 而して繪の初步を學ばしむるに良し手引とある本で畫の選擇も當を得てゐる  
 大阪毎日新聞

曰く、繪の好きな子女のために著者が物したいくのスケッチや漫畫の類數百  
 種を收めて子女等の爲めに其手本とあり又は繪畫の資料ともあすに都合よき  
 やう仕立たるもの

第二回品評會に於て審査の結果  
 銅牌を受領す

從來我が出版界に博覽會へ出品して受賞せしものあるを聞かず本書は二大新聞の  
 批評と相俟て今回計らずも銅牌受領の名譽を荷ふに至れり其加何我が出版界に教  
 育界に將又繪畫界に一頭角を顯しつゝあるかを見よ

■新刊の繪手本■

八木鳩峯先生著 **繪畫の手引** (刊既)  
 四六判美裝 極彩色口繪數葉  
 紙數二百餘頁 定價金五拾錢  
 郵税金六錢

廣谷三ヨシ先生著 **新畫の手引** (刊既)  
 四六石版摺美裝 彩色摺十數葉  
 紙數百二十頁 定價金參拾錢  
 郵税金四錢

廣谷三ヨシ先生著 **續新畫の手引** (刊近)  
 四六石版摺美裝 彩色摺十數葉  
 紙數百二十頁 定價金參拾錢  
 郵税金四錢

洋畫大家池田先生傑作 **鉛筆畫手本** (刊既)  
 四六型石版表裝 頗美本口繪色鉛  
 筆畫八枚紙數百 餘頁內容石版刷  
 定價金卅五錢 郵税金四錢

洋畫大家橋本先生傑作 **續鉛筆畫手本** (刊近)  
 四六型石版表裝 頗美本口繪色鉛  
 筆畫八枚紙數百 餘頁內容石版刷  
 定價金卅五錢 郵税金四錢

スミカズ繪手本

四六横綴頗美裝  
 正價金貳拾錢

是れはお子供達に至極簡易に畫  
 き安き様にスミカズ氏が獨特の  
 麗筆を揮ふて下さつたものであ  
 ります價格も破格にお安すくし  
 て普く世のお子供達に歡迎され  
 る様出來たものであります

發行元

大阪市東區糸屋町松屋町角  
 家村文翫堂

大阪市南區戎橋演舞場北隣  
 エミヤ書店

電話南五〇六二番  
 振替大阪一七四八七番

スミカズ氏作  
**繪畫の手引** 四六版類優美  
定價金六拾錢

本書大好評の内に今や十版を重ね尙盛んに江湖の歡迎を受けつゝあり

スミカズ氏作  
**續繪畫の手引** 四六版裝禎端麗  
定價金六拾錢

美濃紙刷函入  
定價金壹圓

本書發行後忽にして六版を刊せしは如何に本書が習畫用として諸氏に愛求せられしかと言ふ事がおわかりでせう

スミカズ氏作  
**新繪畫の手引** 四六版製本優美  
定價金六拾錢

本書は種々の事物を例の雄麗な筆で書かれましたもので如何を畫でも練習し易く上手にある事が出來ます繪畫の手本としては最上のものと信じます

發 賣 元

毎月一回發行

■スミカズカード

六枚壹組 金拾 錢

スミカズ氏得意の筆にされるもの、茲に贅せずとも斯界に令名噴々たるもの、乞ふ一層の愛翫を賜へ

■スミカズ封筒

拾枚壹組箱入 金拾五 錢

■スミカズレタペーパー

舶來光澤紙

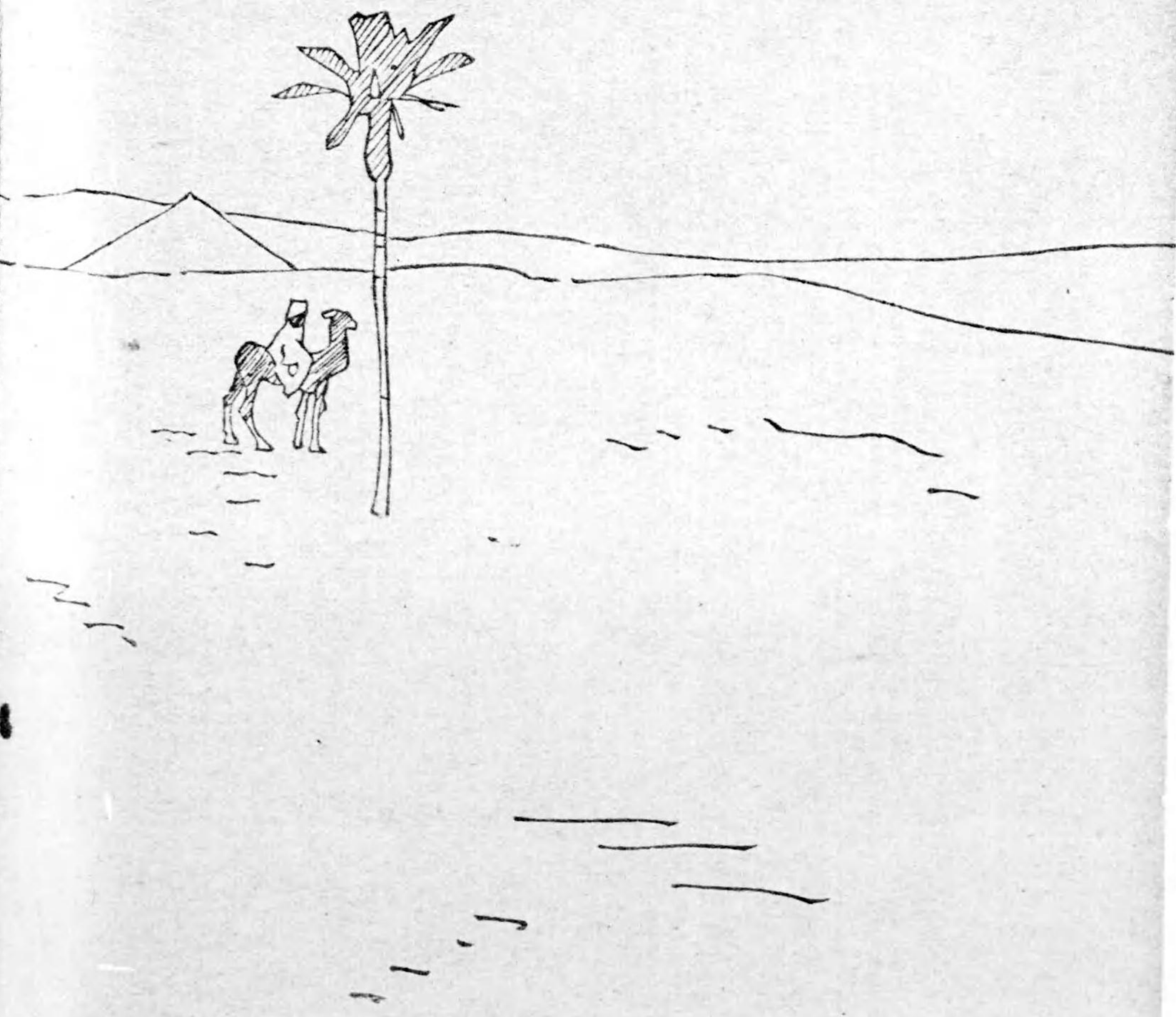
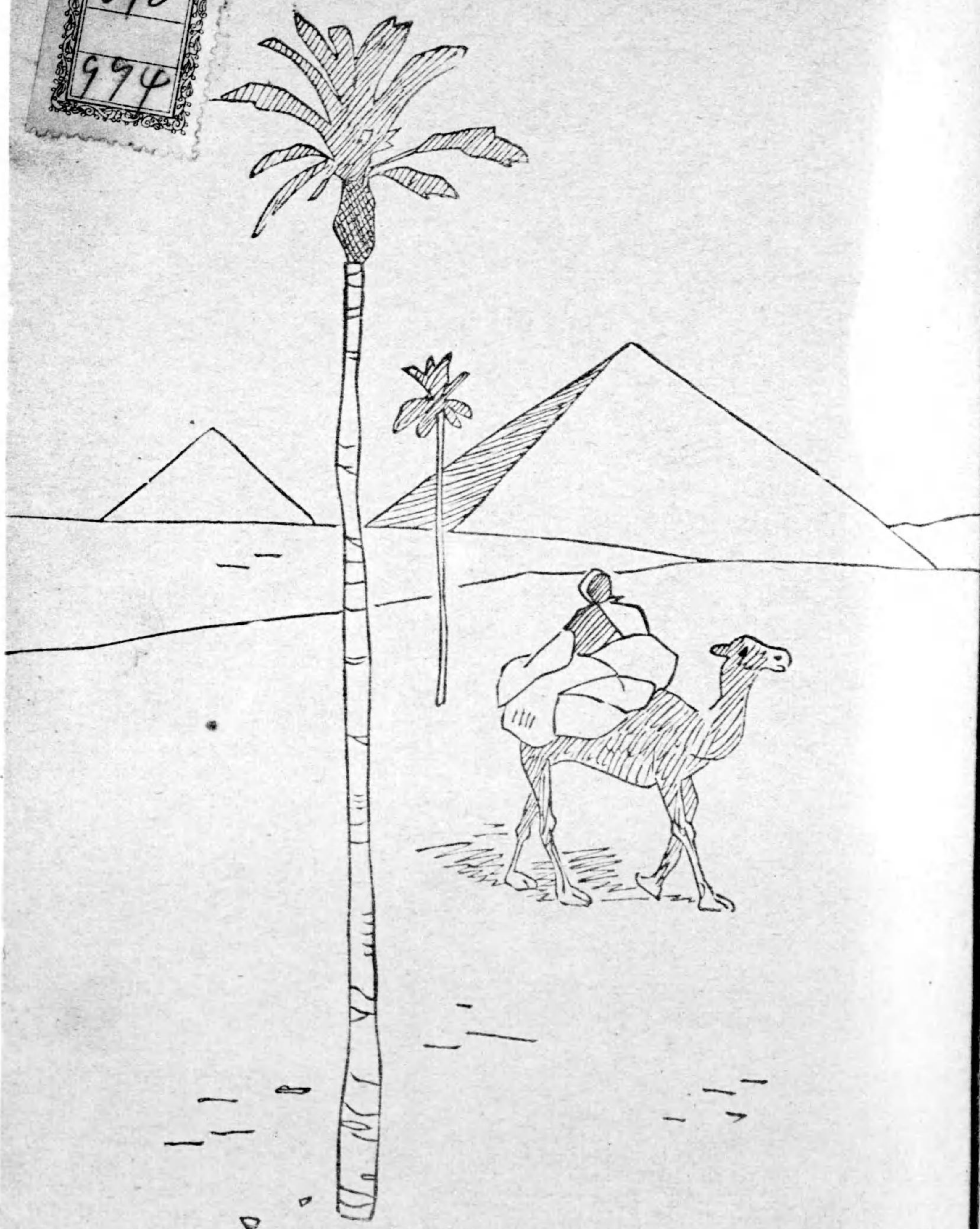
三十二枚壹組 金八 錢

同フールス浮出し 十六枚壹組 金拾五 錢

右孰れも意匠嶄新、印刷鮮麗にして優雅紳士淑女机上の備品として缺くべからざるもの、續々御用命を希ふ

エミヤ書店  
家村文翫堂

278  
994





終

